

# 主要地方道生実・本納線 埋蔵文化財調査報告書 2

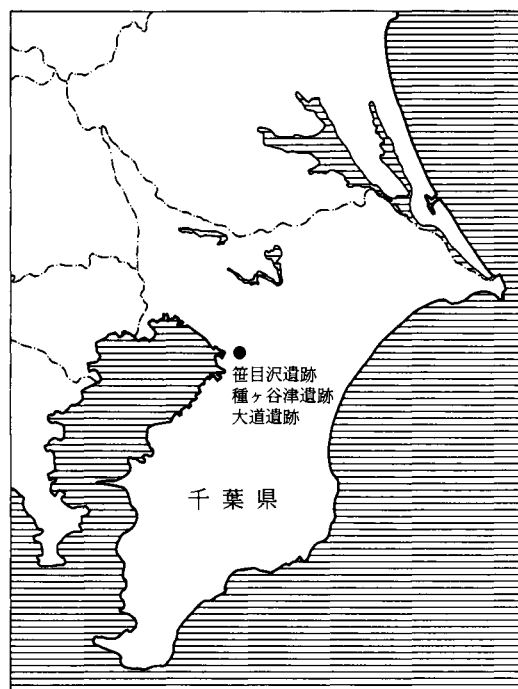
—— 笹目沢遺跡・種ヶ谷津遺跡・大道遺跡 ——

平成10年3月

千葉県道路公社  
財団法人 千葉県文化財センター

# 主要地方道生実・本納線 埋蔵文化財調査報告書 2

—— ささめざわ たねがやつ おおみち  
—— 笹目沢遺跡・種ヶ谷津遺跡・大道遺跡 ——



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第317集として、千葉県道路公社の主要地方道生実・本納線建設事業に伴って実施した千葉市（中央区生実町）笹目沢遺跡・種ヶ谷津遺跡・大道遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺構や遺物が発見され、中でも奈良時代では、銅製品や多彩釉陶器に伴って、多量な土器が検出されるなど、この地域の古代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が、学術資料として、また埋蔵文化財の保護と理解のための資料として広く活用されることを願っております。

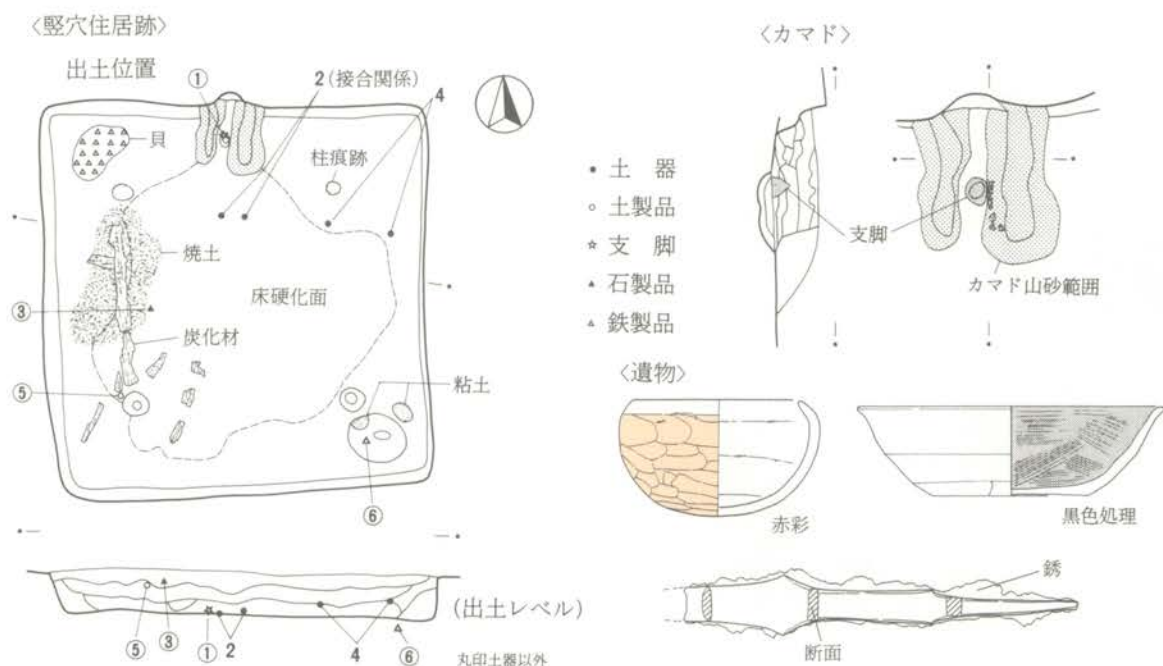
終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年3月31日

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 中村 好成

# 凡 例

- 1 本書は、千葉県道路公社による主要地方道生実・本納線道路建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘報告書である。
- 2 本書は、下記に所在する遺跡を収録したものである。  
 笹目沢遺跡 千葉県千葉市中央区生実町2657-1ほか (201-108)  
 種ヶ谷津遺跡 千葉県千葉市中央区生実町2657-1ほか (201-108)  
 大道遺跡 千葉県千葉市中央区生実町2393ほか (201-107)
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県道路公社の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、技師 立和名明美が行った。
- 6 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県道路公社、千葉市土木部道路建設課、千葉市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。  
 第1図 国土地理院発行1/25,000地形図「蘇我」(N1-54-19-15-2)  
 第2図～第5図 千葉市都市計画課発行1/2,000地形図(J-5・J-6)
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和45年撮影のものを使用した。
- 9 遺物観察表中の色調の記載は、基本的には「新版標準土色帖」を用いて表記したが、三彩については、土色にない色のため、修正マンセル方式(JIS)に基づいて表記した。
- 10 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 11 挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は、次のとおりである。





# 本文目次

第1章	はじめに	
第1節	調査の概要	1
第2節	遺跡の位置と周辺の環境	3
第2章	笹目沢遺跡	
第1節	調査の概要	11
第2節	旧石器・縄文時代の遺物	11
第3節	古墳時代	14
第3章	種ヶ谷津遺跡	
第1節	調査の概要	47
第2節	古墳時代	47
第3節	奈良・平安時代	56
第4章	大道遺跡	
第1節	調査の概要	104
第2節	古墳時代	104
第3節	平安時代	117
第5章	まとめ	125

# 挿図目次

- 第1図 グリッド分割図  
第2図 基本層序  
第3図 遺跡位置図・周辺の遺跡  
第4図 遺跡周辺地形図  
第5図 笹目沢遺跡遺構配置図  
第6図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図（第1・第2地点）  
第7図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図（第3地点）  
第8図 大道遺跡遺構配置図
- 笹目沢遺跡**
- 第9図 旧石器・縄文時代石器  
第10図 縄文土器  
第11図 1・2号竪穴住居跡  
第12図 3・4号竪穴住居跡  
第13図 5・6号竪穴住居跡  
第14図 7・8号竪穴住居跡・1号土坑  
第15図 9・10・11号竪穴住居跡  
第16図 12・13号竪穴住居跡  
第17図 14号竪穴住居跡  
第18図 1・2号竪穴住居跡出土遺物  
第19図 3・4号竪穴住居跡出土遺物  
第20図 5・6号竪穴住居跡出土遺物  
第21図 6・7号竪穴住居跡出土遺物  
第22図 7・8号竪穴住居跡・1号土坑出土遺物  
第23図 9・10・11号竪穴住居跡出土遺物  
第24図 12・13・14号竪穴住居跡・遺構外出土遺物  
第25図 竪穴住居跡出土鉄製品  
第26図 竪穴住居跡出土土製品・石製品  
第27図 竪穴住居跡出土支脚  
第28図 貝類計測値分布
- 種ヶ谷津遺跡**
- 第29図 101・102・103号竪穴住居跡  
第30図 104・105号竪穴住居跡  
第31図 101・102・103・104号竪穴住居跡出土遺物  
第32図 104・105号竪穴住居跡出土遺物  
第33図 竪穴住居跡出土鉄製品  
第34図 SX01周辺ピット配置図・断面図  
第35図 奈良時代遺物集中地点周辺遺物分布図  
第36図 遺物分布図 多彩釉陶器・金属製品  
第37図 遺物分布図 須恵器  
第38図 遺物分布図 土師器杯類  
第39図 遺物分布図 土師器鉢  
第40図 遺物分布図 土師器台付甕
- 第41図 遺物分布図 土師器小型甕  
第42図 遺物分布図 土師器甕 I A〔在地型〕  
第43図 遺物分布図 土師器甕 I B〔在地型〕  
第44図 遺物分布図 土師器甕 II A〔武蔵型〕  
第45図 遺物分布図 土師器甕 II B〔常総型〕  
第46図 高杯実測図  
第47図 墨書土器ほか実測図  
第48図 多彩釉陶器・金属製品実測図  
第49図 SX出土遺物 須恵器  
第50図 SX出土遺物 土師器杯類(1)  
第51図 SX出土遺物 土師器杯類(2)  
第52図 SX出土遺物 土師器・須恵器  
第53図 SX出土遺物 土師器鉢類  
第54図 SX出土遺物 土師器台付甕  
第55図 SX出土遺物 土師器小型甕(1)  
第56図 SX出土遺物 土師器小型甕(2)  
第57図 SX出土遺物 土師器甕 II A〔武蔵型〕  
第58図 SX出土遺物 土師器甕 I A〔在地型〕(1)  
第59図 SX出土遺物 土師器甕 I A〔在地型〕(2)  
第60図 SX出土遺物 土師器甕 I B〔在地型〕  
第61図 SX出土遺物 土師器甕 II B〔常総型〕(1)  
第62図 SX出土遺物 土師器甕 II B〔常総型〕(2)  
第63図 SX出土遺物 土師器甕 II B〔常総型〕(3)  
第64図 常総型甕底部拓影図
- 大道遺跡**
- 第65図 1・2・3・4・5号竪穴住居跡  
第66図 6・7号竪穴住居跡  
第67図 8・9・10号竪穴住居跡・1号土坑  
第68図 1・2・3・4・5号竪穴住居跡出土遺物  
第69図 6・7・8・9・10号竪穴住居跡出土遺物  
第70図 1号土坑・遺構外出土遺物  
第71図 竪穴住居跡ほか出土鉄製品・土製品・石製品  
第72図 11・12・13・14号竪穴住居跡  
第73図 11号竪穴住居跡出土遺物  
第74図 12・13号竪穴住居跡出土遺物  
第75図 竪穴住居跡出土鉄製品  
第76図 竪穴住居跡出土土製品  
第77図 種ヶ谷津遺跡奈良時代杯類分類図 須恵器  
第78図 種ヶ谷津遺跡奈良時代杯類分類図 土師器(1)  
第79図 種ヶ谷津遺跡奈良時代杯類分類図 土師器(2)

## 表目次

第1表	新旧遺構番号対照表	3
第2表	貝種名一覧表	37
第3表	生実・本納線貝サンプル一覧	37
第4表	生息環境別にみた貝種組成表	39
第5表	種ヶ谷津・笹目沢遺跡貝種同定表	40
第6表	笹目沢遺跡出土土器観察表	41
第7表	笹目沢遺跡出土鉄製品観察表	44
第8表	笹目沢遺跡出土土製品・石製品観察表	45
第9表	笹目沢遺跡出土支脚観察表	46
第10表	笹目沢遺跡出土遺物総破片数	46
第11表	種ヶ谷津遺跡出土土器観察表（古墳時代）	54
第12表	種ヶ谷津遺跡出土鉄製品観察表（古墳時代）	55
第13表	種ヶ谷津遺跡出土遺物総破片数（古墳時代）	55
第14表	種ヶ谷津遺跡出土土器観察表（奈良・平安時代）	89
第15表	種ヶ谷津遺跡出土金属製品観察表（奈良時代）	102
第16表	種ヶ谷津遺跡出土土製品観察表（奈良時代）	102
第17表	種ヶ谷津遺跡出土遺物総破片数（奈良・平安時代）	103
第18表	大道遺跡出土土器観察表（古墳時代）	115
第19表	大道遺跡出土鉄製品・土製品・石製品観察表（古墳時代）	116
第20表	大道遺跡出土土器観察表（平安時代）	123
第21表	大道遺跡出土土製品・鉄製品観察表（平安時代）	124
第22表	大道遺跡出土遺物総破片数	124
第23表	須恵器種類別分類表	130
第24表	土師器杯類分類表	130

## 図版目次

- |      |              |      |              |
|------|--------------|------|--------------|
| 図版 1 | 遺跡周辺航空写真     | 図版19 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 4 |
| 図版 2 | 笹目沢遺跡遺構 1    | 図版20 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 5 |
| 図版 3 | 笹目沢遺跡遺構 2    | 図版21 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 6 |
| 図版 4 | 笹目沢遺跡遺構 3    | 図版22 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 7 |
| 図版 5 | 笹目沢遺跡遺構 4    | 図版23 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 8 |
| 図版 6 | 笹目沢遺跡出土遺物 1  | 図版24 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 9 |
| 図版 7 | 笹目沢遺跡出土遺物 2  | 図版25 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物10 |
| 図版 8 | 笹目沢遺跡出土遺物 3  | 図版26 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物11 |
| 図版 9 | 笹目沢遺跡出土遺物 4  | 図版27 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物12 |
| 図版10 | 笹目沢遺跡出土遺物 5  | 図版28 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物13 |
| 図版11 | 種ヶ谷津遺跡遺構 1   | 図版29 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物14 |
| 図版12 | 種ヶ谷津遺跡遺構 2   | 図版30 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物15 |
| 図版13 | 種ヶ谷津遺跡遺構 3   | 図版31 | 大道遺跡遺構 1     |
| 図版14 | 種ヶ谷津遺跡遺構 4   | 図版32 | 大道遺跡遺構 2     |
| 図版15 | 種ヶ谷津遺跡遺構 5   | 図版33 | 大道遺跡遺構 3     |
| 図版16 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 1 | 図版34 | 大道遺跡出土遺物 1   |
| 図版17 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 2 | 図版35 | 大道遺跡出土遺物 2   |
| 図版18 | 種ヶ谷津遺跡出土遺物 3 | 図版36 | 大道遺跡出土遺物 3   |

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1. 調査の経緯と経過

主要地方道生実・本納線は、周辺の大規模な住宅開発に伴う交通網整備の一環として、千葉県土木部により計画された。

用地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについては、千葉県教育委員会との協議の結果、記録保存の措置がとられることとなった。生実・本納線に伴う発掘調査は、財団法人千葉県文化財センターが千葉県土木部の委託を受け昭和58年度に開始し、その成果の一部はすでに発掘調査報告書として刊行されている。今回の調査はそれに引き続くもので、財団法人千葉県文化財センターが千葉県道路公社の委託を受け、発掘調査を実施した。

各年度における調査期間、業務内容及び担当者は、以下のとおりである。なお、種ヶ谷津遺跡として調査を実施した一部は、遺跡の立地及び内容等から種ヶ谷津遺跡とは分離し、笹目沢遺跡と呼称した。

平成5年度

#### 大道遺跡

調査期間	平成5年6月1日～10月29日
調査面積	調査対象面積 5,800㎡ 確認調査 上層 580㎡ 下層 232㎡ 本調査 上層 5,600㎡ 下層 0㎡
組織	調査研究部長 高木博彦 千葉調査事務所長 深沢克友
担当者	主任技師 土屋潤一郎

#### 種ヶ谷津遺跡

調査期間	平成5年10月12日～平成6年1月31日
調査面積	調査対象面積 2,100㎡ 確認調査 上層 210㎡ 下層 84㎡ 本調査 上層 1,260㎡ 下層 0㎡
担当者	技師 百瀬幸徳

平成6年度

#### 種ヶ谷津跡・笹目沢遺跡

調査期間	平成6年4月1日～9月30日
調査面積	調査対象面積 8,100㎡ 確認調査 上層 8,100㎡ 下層 162㎡ 本調査 上層 5,340㎡ 下層 0㎡
組織	調査研究部長 西山太郎 千葉調査事務所長 田坂浩
担当者	技師 小笠原永隆

大道遺跡・種ヶ谷津遺跡・笹目沢遺跡

整理期間 平成6年10月1日～10月31日・平成7年1月1日～2月28日

作業内容 水洗・注記の一部から図面写真の一部まで

担当者 主任技師 山田貴久 技師 百瀬幸徳

平成7年度

大道遺跡・種ヶ谷津遺跡・笹目沢遺跡

整理期間 平成7年4月1日～9月30日

作業内容 図面写真の一部から実測まで

組織 調査研究部長 西山太郎 千葉調査事務所長 矢戸三男

担当者 技師 百瀬幸徳

平成8年度

大道遺跡・種ヶ谷津遺跡・笹目沢遺跡

整理期間 平成8年4月1日～12月28日

作業内容 水洗・注記の一部から原稿執筆まで

ただし、遺物の実測・トレースについては資料部整理課で実施

組織 調査部長 西山太郎 資料部長 築比地正治 中央調査事務所長 藤崎芳樹

担当者 技師 立和名明美

平成9年度

組織 調査部長 西山太郎 中央調査事務所長 藤崎芳樹

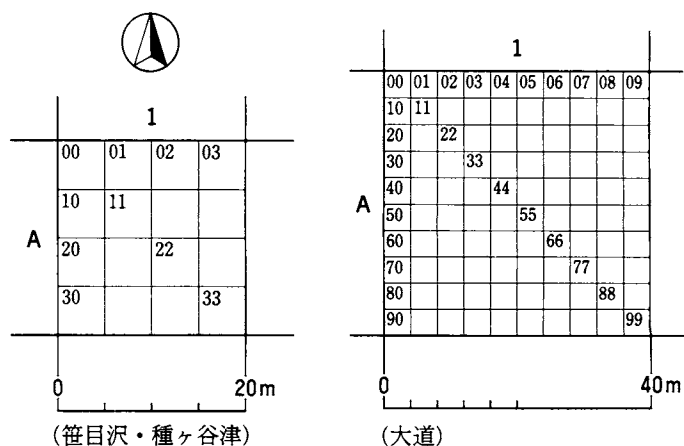
報告書刊行のみ

2. 調査の方法

種ヶ谷津遺跡、笹目沢遺跡の発掘区は、大グリッドを20m×20mの方眼とし、北西コーナーを起点に20m単位に西から東へ1・2・3…、北から南にA・B・C…と言うように呼称することとし、これらを組み合わせて各地区の名称とした。さらに大グリッドの中は5m×5mの小グリッドに分け、01から33までのグリッドを設定した(第1図)。また、大道遺跡については、大グリッドを40m方眼で設定し、さらに4m四方の小グリッドを00から99まで分割・呼称した(第1図)。

上層確認調査は、これらのグリッドを基に対象面積の10%についてトレンチ調査を行い、本調査範囲を決定した。平成6年度の種ヶ谷津遺跡・笹目沢遺跡の確認調査は、過去の調査成果から広範囲の本調査が見込まれたことから、調査の迅速化を図るため、対象面積全体の表土除去を行った上で、検出遺構の周辺を本調査範囲として実施した。

また、上層本調査終了後、対象面積の4%について2m四方のグリッドを設定して下

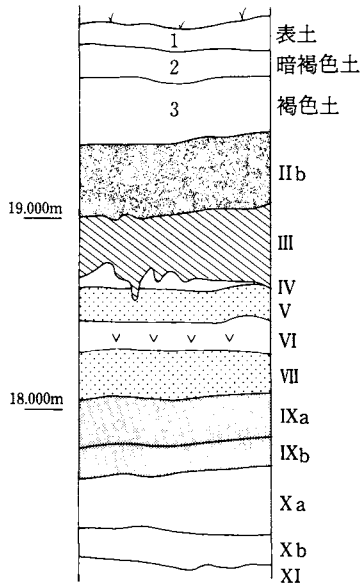


第1図 グリッド分割図

層確認調査を行ったが、本調査を実施するには至らなかった。

遺跡の基本層序について簡単に記しておく。それぞれの遺跡によって若干の違いはあるが、約20cmの表土層があり、その下に暗褐色土、褐色土層が10cm～40cm程堆積し、ソフトローム層が続いている。調査区全体が北向きの斜面のため、場所によって堆積土の厚さに差異が見られるが、検出された遺構はすべて褐色層から掘り込まれたものである（第2図）。

なお、本報告書作成にあたり、発掘調査時に付した遺構番号は第1表のように変更してあるが、図面、写真等の記録類及び遺物の注記番号は調査時のままである。



第2図 基本層序

第1表 新旧遺構番号対照表

笹目沢遺跡		種ヶ谷津遺跡		大道遺跡	
調査時	報告時	調査時	報告時	調査時	報告時
SB201	1号住居跡	SB101	101号住居跡	SB103	1号住居跡
SB203	2号住居跡	SB102	102号住居跡	SB104	2号住居跡
SB202	3号住居跡	SB103	103号住居跡	SB107	3号住居跡
SB204	4号住居跡	SB211	104号住居跡	SB112	4号住居跡
SB213	5号住居跡	SB212	105号住居跡	SB114	5号住居跡
SB214	6号住居跡	P109	101号ピット	SB109	6号住居跡
SB205	7号住居跡	P110	102号ピット	SB111	7号住居跡
SB207	8号住居跡	P114	103号ピット	SB115	8号住居跡
SB206A	9号住居跡	P113	104号ピット	SB116	9号住居跡
SB206B	10号住居跡	P107	105号ピット	SB117	10号住居跡
SB208	11号住居跡	P104	106号ピット	SB106	11号住居跡
SB209A	12号住居跡	P102	107号ピット	SB108	12号住居跡
SB209B	13号住居跡	P105	108号ピット	SB101	13号住居跡
SB210	14号住居跡	P106	109号ピット	SB113	14号住居跡
SK101	1号土坑	遺物包含層	SX01～SX03	SK125	1号土坑

## 第2節 遺跡の位置と周辺的环境

### 1. 遺跡の立地

千葉市域は主に成田層を基盤とする標高20m～50m程の比較的平坦な洪積台地が占め、西側では東京湾に開口する沖積平野が広がり、台地はそこへ向かって流れ込む中小の河川によって樹枝状に開析されている。主要な支谷を形成する主な河川は、千葉市の中心部を流れる都川と主に市原市との境を画する村田川である。この二つの河川はそれに伴う小支谷も数多く発達しており、台地は樹枝状の複雑な景観を呈している。

大道遺跡、種ヶ谷津遺跡、笹目沢遺跡の所在する台地は、東京湾に開口する生実谷の支谷である赤井谷津に北面し、遺跡付近での支谷の幅は約60mを測る。生実・本納線の路線はこの赤井谷津に沿った南側の台地縁辺部を横切るように計画されているため、発掘調査の対象となった地点は、小支谷で画されているもののそれぞれが北側に向かって張り出した舌状台地の先端部にあっている。台地は、標高20m～30mを測り、南側から北側に傾斜しながら緩やかに水田面に下っている。なお、種ヶ谷津遺跡は、東西幅約400mを測るが、北から入り込む溺れ谷が数条認められ、台地が波打ったような複雑な形状を呈している。



## 2. 歴史的環境

千葉市は、ここ数年の間に首都圏のベッドタウンとして人口が急激に増加し、平成4年には政令市に指定されている。市街地南部の開発は十数年前から進んでおり、昭和50年代からは本遺跡に近接する地域を住宅・都市整備公団がおゆみ野・ちはら台地区住宅宅地開発を計画し、当センターが遺跡の発掘調査を大規模に実施しているところである。

東京湾に開口する赤井谷津、赤塚支谷などに面する台地上には旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡が密集しており、周知の主な遺跡は第3図に示したとおりである。

近隣における古墳時代から奈良・平安時代の主要な遺跡は、赤井谷津をはさんで北側に位置する榎作遺跡<sup>(1)</sup>や赤塚支谷に面する高沢遺跡<sup>(2)</sup>、有吉遺跡<sup>(3)</sup>などが挙げられる。

大道遺跡<sup>(4)</sup>からは昭和56年の調査により古墳時代から平安時代にかけての住居跡70軒が検出され、集落の主たる時期が奈良・平安時代であることが確認されている。また、台地裾部からは整形された平坦面から住居跡も検出されている。種ヶ谷津遺跡<sup>(5)</sup>は過去の二度にわたる調査で古墳時代前期から後期の住居跡26軒のほかに三彩小壺を含む奈良時代の遺物が多量に出土している。生実・本納線、千葉急行線に伴う調査により二本の大規模なトレンチ調査を実施したことになるが、奈良時代の土器集中箇所は確認されたものの、当該期の住居跡等は検出されなかったことになる。あるいは、本遺跡内に集落等何らかの関連遺構が存在している可能性も考えられる。榎作遺跡は、昭和60～62年に千葉急行線の建設に伴う発掘調査が実施され、主に古墳時代後期を中心とした住居跡236軒が検出されている。当遺跡は、調査箇所以外にも遺物が広範囲に散布していることから、当該期の大規模な集落が形成されていたことが確実である。

一方、大道遺跡や種ヶ谷津遺跡の南側に位置する千葉東南部ニュータウン内には多くの遺跡が所在している。高沢遺跡、有吉遺跡などは古墳時代から平安時代へと続く集落跡で、その全容が明らかになっている。高沢遺跡では古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡348軒、掘立柱建物跡15棟などが検出されている。当遺跡は周辺の遺跡を含め8世紀から10世紀前半にかけての最もまとまった集落跡で、台地上に展開する集落の終焉である10世紀まで存続している。調査の結果、刀子、鎌などの鉄製品の出土量から、古墳時代に比べて奈良時代、さらに平安時代の方が鉄製品の保有率の高かったことが指摘されている。なお、特筆すべき遺物として9世紀中葉の竪穴住居跡から銅製の匙が出土している。有吉遺跡からはこれまでに4回にわたる調査で同様の住居跡約200軒が検出されている。また、これらの集落遺跡に隣接して6世紀から7世紀にかけての椎名崎古墳群や高沢古墳群などが所在している。

- 注1 小林 清隆 1992『千葉市榎作遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書V－』財団法人千葉県文化財センター
- 2 関口 達彦ほか 1990『千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－』財団法人千葉県文化財センター
- 3 栗本 佳弘ほか 1975『千葉東南部ニュータウン3－有吉遺跡(第1次)－』財団法人千葉県都市公社  
栗本 佳弘ほか 1978『千葉東南部ニュータウン5－有吉遺跡(第2次)－』財団法人千葉県文化財センター
- 栗田 則久 1983『千葉東南部ニュータウン14－バクチ穴遺跡・有吉遺跡(第3次)・有吉南遺跡－』財団法人千葉県文化財センター
- 4 榎原 弘二ほか 1983『千葉市大道遺跡・生実城跡発掘調査報告書』財団法人千葉県文化財センター
- 5 白井久美子ほか 1985『千葉市種ヶ谷津遺跡－県道生実本納線道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』財団法人千葉県文化財センター
- 相京 邦彦ほか 1989『千葉市種ヶ谷津遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書III－』財団法人千葉県文化財センター



- |            |             |            |            |            |
|------------|-------------|------------|------------|------------|
| 1. 笹目沢遺跡   | 2. 種ヶ谷津遺跡   | 3. 大道遺跡    | 4. 谷津遺跡    | 5. 仁戸名遺跡   |
| 6. 榎作遺跡    | 7. 鎌取場台遺跡   | 8. 南二重堀遺跡  | 9. 高沢遺跡    | 10. 有吉遺跡   |
| 11. 上赤塚1号墳 | 12. 有吉南遺跡   | 13. 有古城跡   | 14. 有吉北貝塚  | 15. 鎌取遺跡   |
| 16. 馬ノ口遺跡  | 17. 木戸作遺跡   | 18. 城ノ台遺跡  | 19. 椎名崎遺跡  | 20. 伯父名台遺跡 |
| 21. 今台遺跡   | 22. 小金沢古墳群  | 23. 六通遺跡   | 24. 六通貝塚   | 25. 六通金山遺跡 |
| 26. 御塚台遺跡  | 27. ムコアラク遺跡 | 28. 太田法師遺跡 | 29. 神明社裏遺跡 |            |

第3図 遺跡位置図・周辺の遺跡





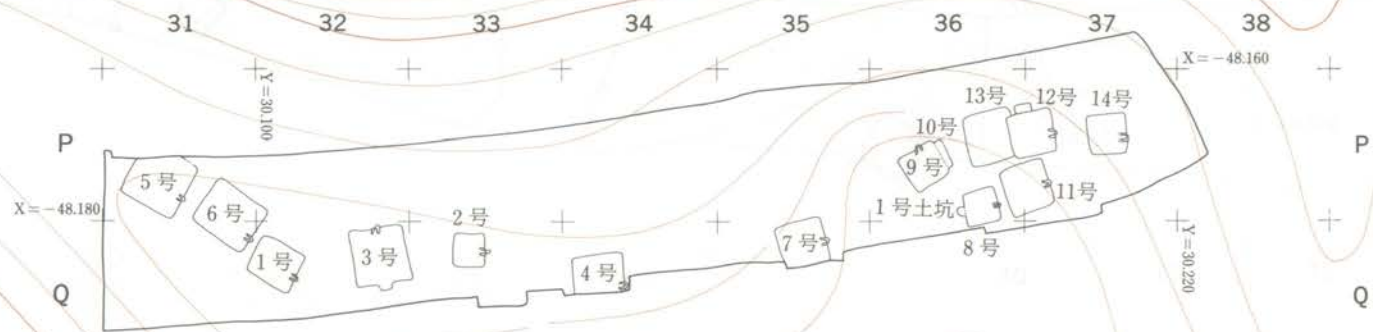
大道遺跡

種ヶ谷津遺跡

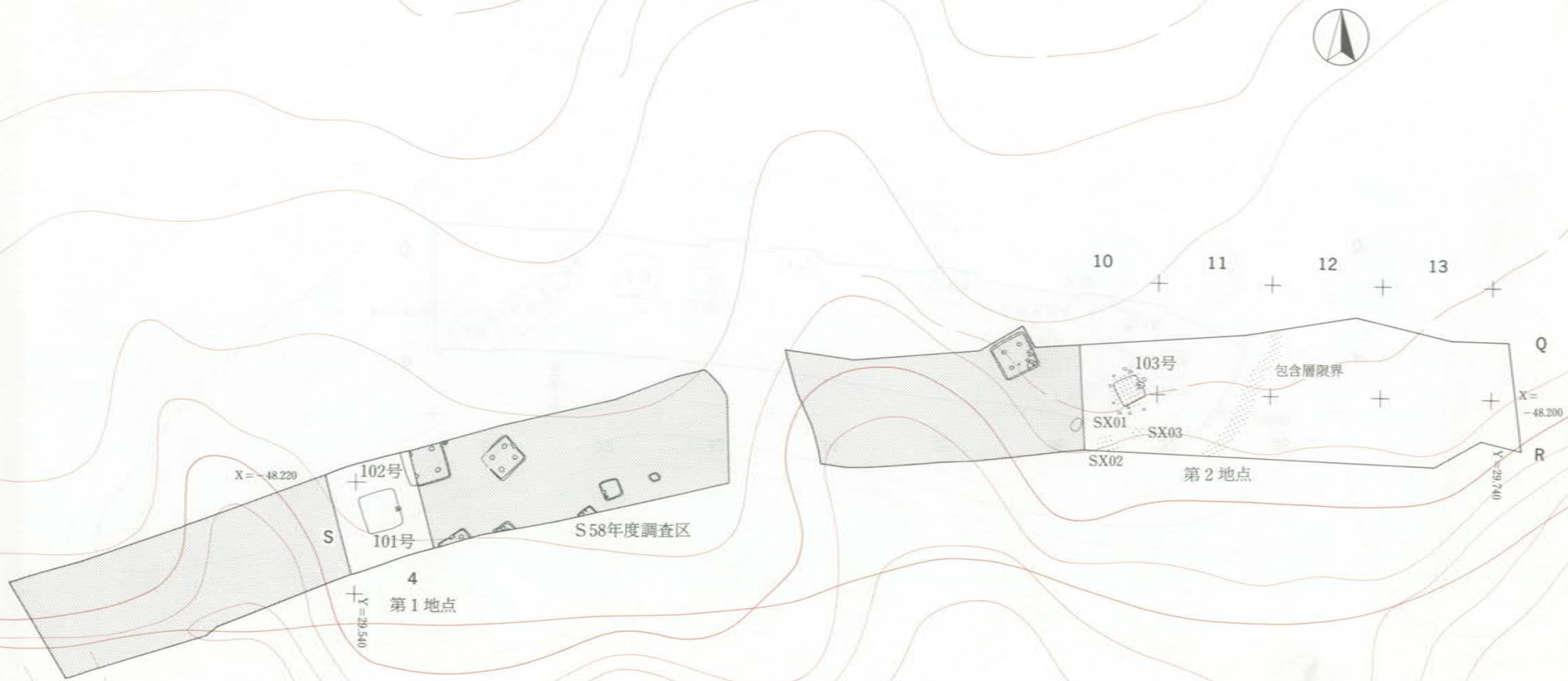
笹目沢遺跡

第4図 遺跡周辺地形図 (1:4000)





第5图 箕目沢遺跡遺構配置図 (1:1000)



第6図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図(第1・第2地点) (1:1000)

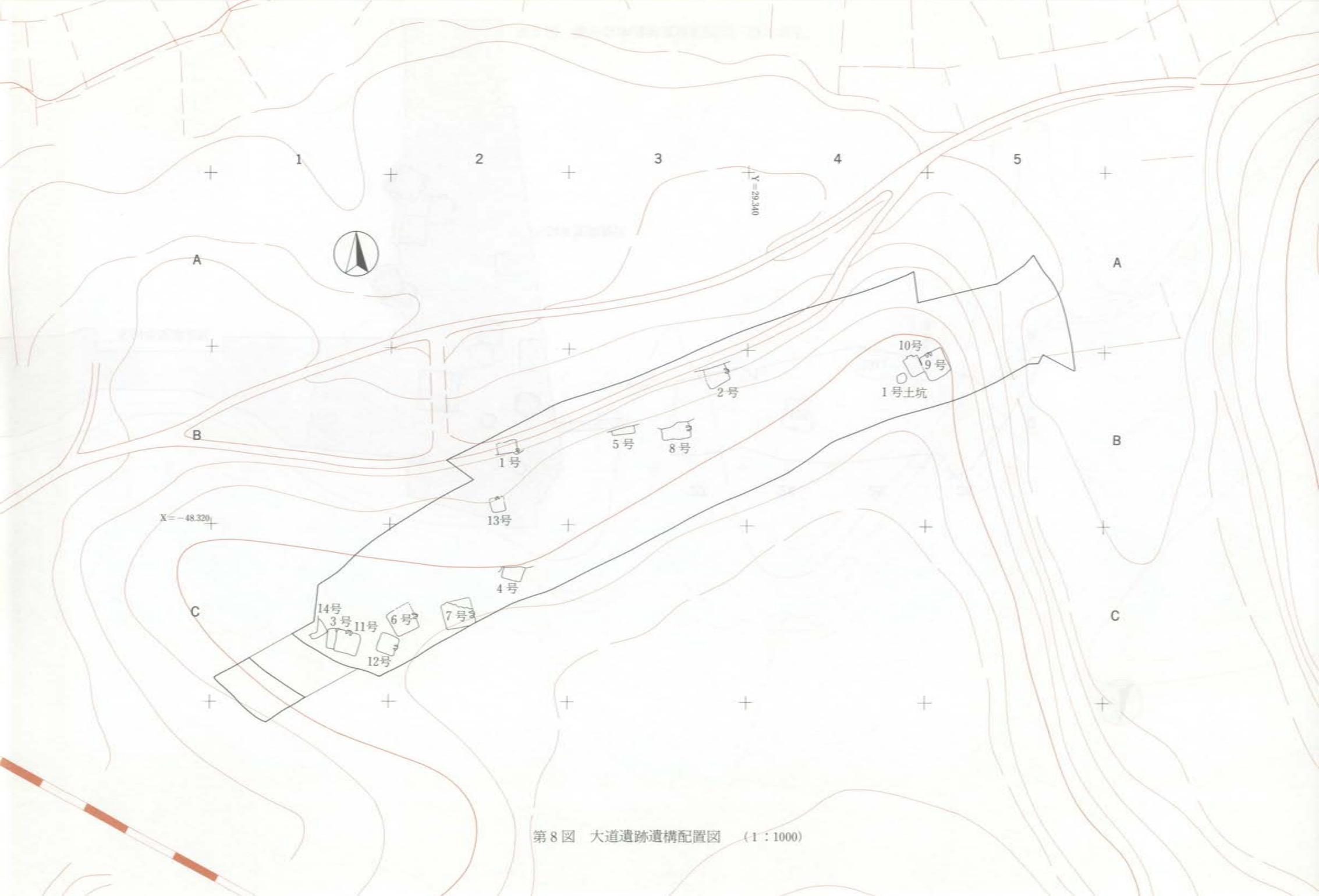


S58年度調査区

S54年度調査区

第7図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図 (第3地点)





第8図 大道遺跡遺構配置図 (1:1000)



## 第2章 笹目沢遺跡

### 第1節 調査の概要

調査区内からは、旧石器時代の確認調査で、IV～V層からナイフ形石器1点が出土したのみである。縄文時代では遺構は検出されなかったが、前期を主体とし、早期から後期に至る土器が少量出土している。赤井谷津に面した地域の調査では、これまでの調査でも当該期の遺構は検出されていないことから、縄文時代の各時期に若干の生活痕跡を残しているということがこの地域の一般的傾向とみてよいであろう。なお、縄文土器は大道遺跡と種ヶ谷津遺跡でも出土しているが極めて少量のため、挿図等は本遺跡に併せて報告した。

本遺跡から検出された遺構は、すべて古墳時代後期のもので、竪穴住居跡12軒、土坑1基である。これらの遺構は、台地の先端部分の比較的安定した平坦面に検出された。古墳時代の集落は、調査区の南側に広がる台地全域に広範囲に形成されたことが予想される。

また、今回の調査で出土した古墳時代の遺物には、土器・土製品・鉄製品・石製品等が挙げられる。出土遺物の大半は竪穴住居跡から出土している。出土遺物は全体に多くバランスのとれた出土状況を示している。本遺跡から出土した土師器・須恵器の総破片数は11,025点を数える。時代の偏りもあるが、その内訳はほとんどが土師器で占め、須恵器は2%に満たない。土器の中でも中心は土師器の杯類で、次いで甕類である。須恵器は杯類が若干みられるのみで、そのほとんどはようやく復元できるような小片である。全体的に見て、出土した遺物は若干の時代幅が認められるものの比較的まとまった時期を示しており、集落が形成されたのは、古墳時代後期の前半を中心とした時期と考えられる。各々の遺構から検出された遺物の組成については、図示できなかったものも含め、種類別の破片数を集計し掲載している（第10表）。

### 第2節 旧石器・縄文時代の遺物

#### 1. 旧石器時代（第9図1）

34P-24グリッドのIV～V層から黒曜石のナイフ形石器が1点出土した。基部は欠損しているが、基部の両側縁にブランディングを施している。

#### 2. 縄文時代石器（第9図2～4）

3点の黒曜石製の石鏃が出土した。2の基部は微かに凹み、3・4は基部に抉りを施している。

5～8は種ヶ谷津遺跡の表採資料である。いずれも黒曜石製で5は加工痕の有る剝片、6は両極石核、7・8の石鏃は、基部が平坦なものと、抉りを有するものが認められた。

#### 3. 縄文時代土器（第10図）

前期後葉の土器が圧倒的に多い。そのほかには黒浜式土器と阿玉台式土器もややまとまっていた。

34N・35N区に設定した確認グリッドでは、ほぼ諸磯式のみがまとまって出土し、大破片も多く含んでいた。包含層を形成していた可能性が高かったが、層の残りが悪く、本調査は実施しなかった。

#### I. 早期

I-1 撚糸文土器 小片が1点ある。

## II. 前期

II-1 花積下層式、関山式土器（第10図1） 貝殻腹縁による圧痕文の花積下層式土器6点と、関山式土器1点が出土した。いずれも胎土に繊維を含んでいる。

II-2 黒浜式土器（第10図2～7） 繊維を含んでおり、縄文のみの土器と沈線のみ土器、縄文地文上に竹管文を施文したものがある。160点とややまとまっていた。

II-3 諸磯式、浮島式土器（第10図8～23） 諸磯a・b式、浮島式、興津式がみられる。文様要素を中心として細分すると以下のとおりである。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| a. 爪形文           | 84点 (16～18)      |
| b. 沈線・刺突文        | 98点 (8～11、13、15) |
| c. 浮線文           | 76点 (12)         |
| d. 変形爪形文         | 61点 (14、20)      |
| e. 貝殻文           | 142点 (19、21)     |
| f. 磨消貝殻文         | 15点 (22、23)      |
| g. 前期後半の縄文のみ     | 168点             |
| h. 前期後半の無文・口縁の刻み | 11点              |

概ねa・b・cは諸磯式、d・eは浮島式、fは興津式であろう。なお、その他としたものも前期後葉の土器が多いようである。

II-4 前期末から中期初頭の土器（第10図24、25） 前類の前期後葉の縄文地文の土器のうち、縄文原体の側面圧痕や結び目による綾線文をもつものを本類とした。中期初頭のものも含んでいる可能性がある。

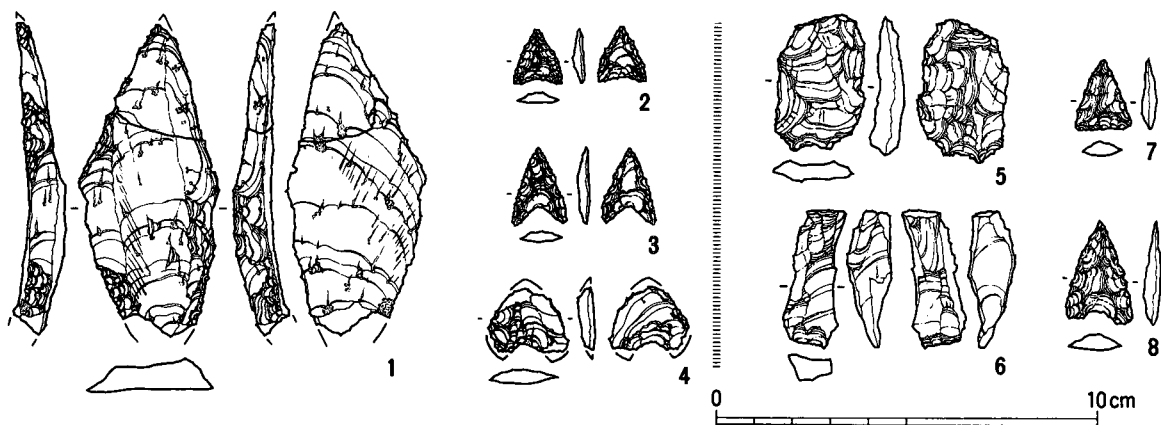
## III. 中期

III-1 五領ヶ台式土器、阿玉台式直前の土器（第10図26、27、30、31） 12点出土した。

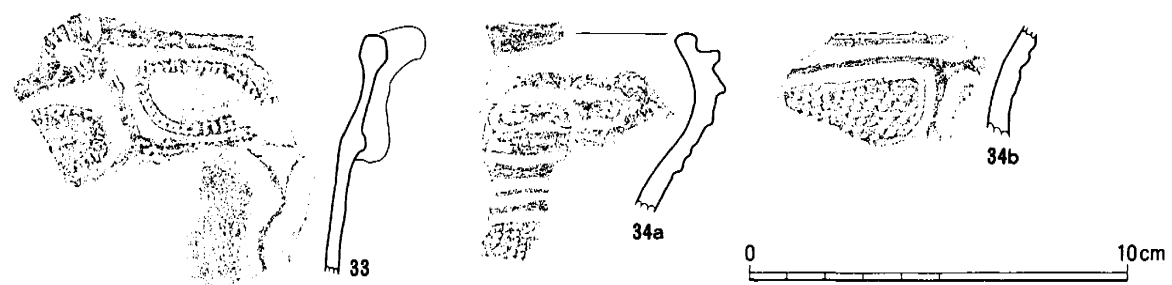
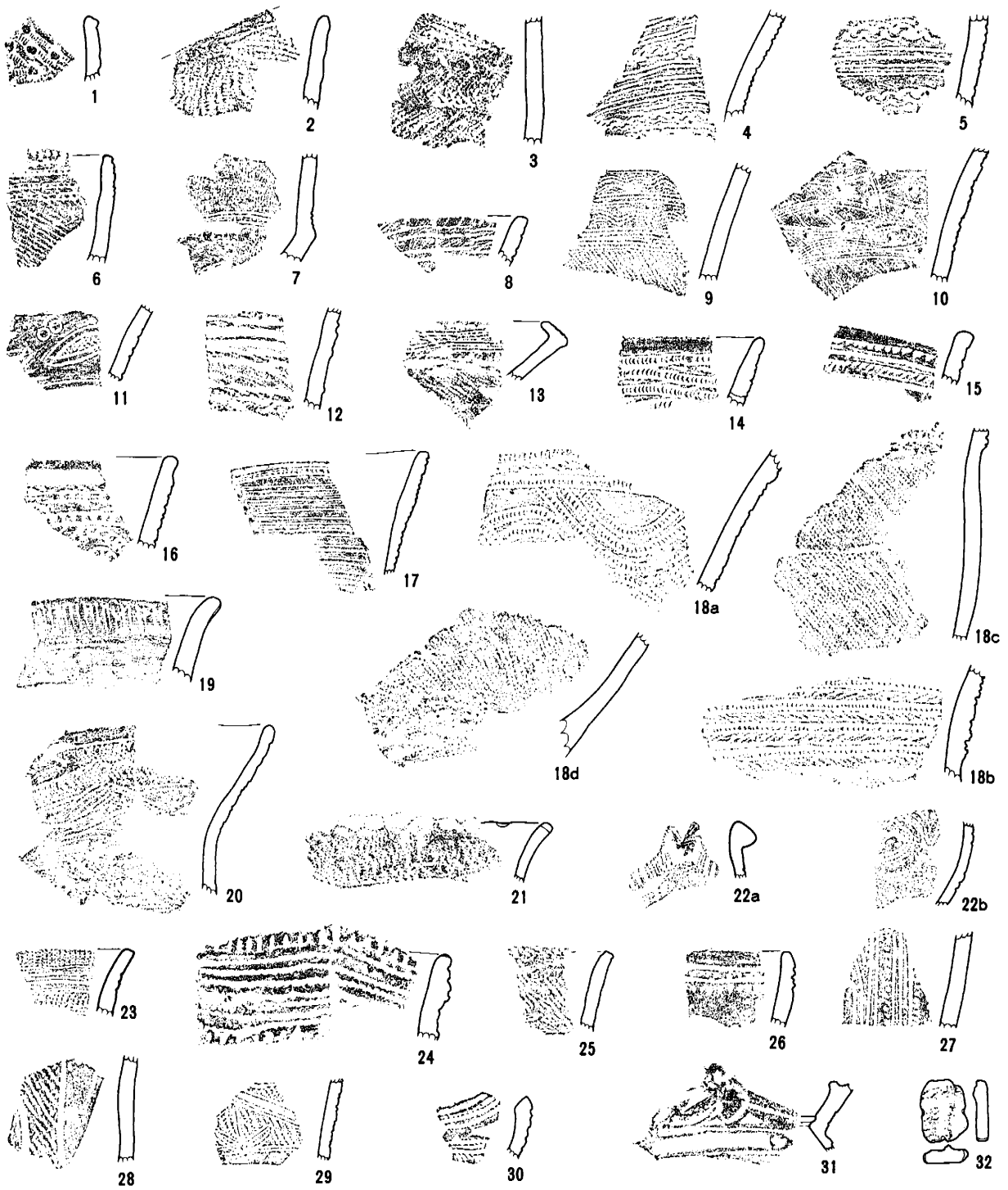
III-2 阿玉台式土器（第10図32、33） 103点出土した。ほとんどがI b式である。

III-3 加曾利E式土器（第10図28、34 a、34 b） 3点出土した。

## IV. 後期



第9図 旧石器・縄文時代石器（5～8は種ヶ谷津遺跡表採）



第10図 縄文土器 (33~34bは大道遺跡表採)

IV-1 堀之内式土器（第10図29） 1点出土した。

その他

時期区分が難しかったものをここに含めて点数のみを報告する。縄文のみ356点、沈線のみ154点、無文223点である。前期後葉、加曾利E式が多いと思われる。

### 第3節 古墳時代

#### 1 遺構

##### 1号竪穴住居跡（第11図、図版2）

調査区の西側32Q-10グリッドに位置し、主軸方位はN-120°-Eを示す。平面形は長方形を呈し、長軸約5.9m、短軸約5.5mを測る。残存壁高は40cm~60cmで、周溝は検出されなかった。支柱穴は4本で、柱間距離は3.0m×3.0mを測る。東壁の中央やや南寄りにカマドが、南東隅に貯蔵穴が設けられている。

床面からは多量の焼土と炭化材が検出された。遺物は貯蔵穴の周り、南壁付近の床面に多く、カマドからも検出されている。ほぼ完形の土器が多いのは、住居が火災に遭ったため、そのまま放置されたものと思われる。覆土の堆積状況見ると、多方向から細かい単位の土によって、住居が埋まっていることがわかる。消火を意図した土の投込みが行われた可能性も考えられる。

##### 2号竪穴住居跡（第11図、図版2）

調査区の西側33Q-01グリッドに位置し、主軸方位はN-92°-Eを示す。平面形はほぼ正方形を呈し、一辺は約3.9mを測り、比較的小型な住居跡である。残存壁高は34cm~44cmで、周溝はほぼ全周する。カマドは東壁の中央部分、やや南寄りに位置している。支柱穴は検出されず、入り口のピットと思われる小柱穴が検出されている。南壁の中央部分からカマドの袖にかけて観察されたわずかな高まりに区画された南東隅の部分に、入り口のピットと貯蔵穴が配されている。

出土遺物は少なく、図示した遺物は床面から検出されている。

##### 3号竪穴住居跡（第12図、図版2）

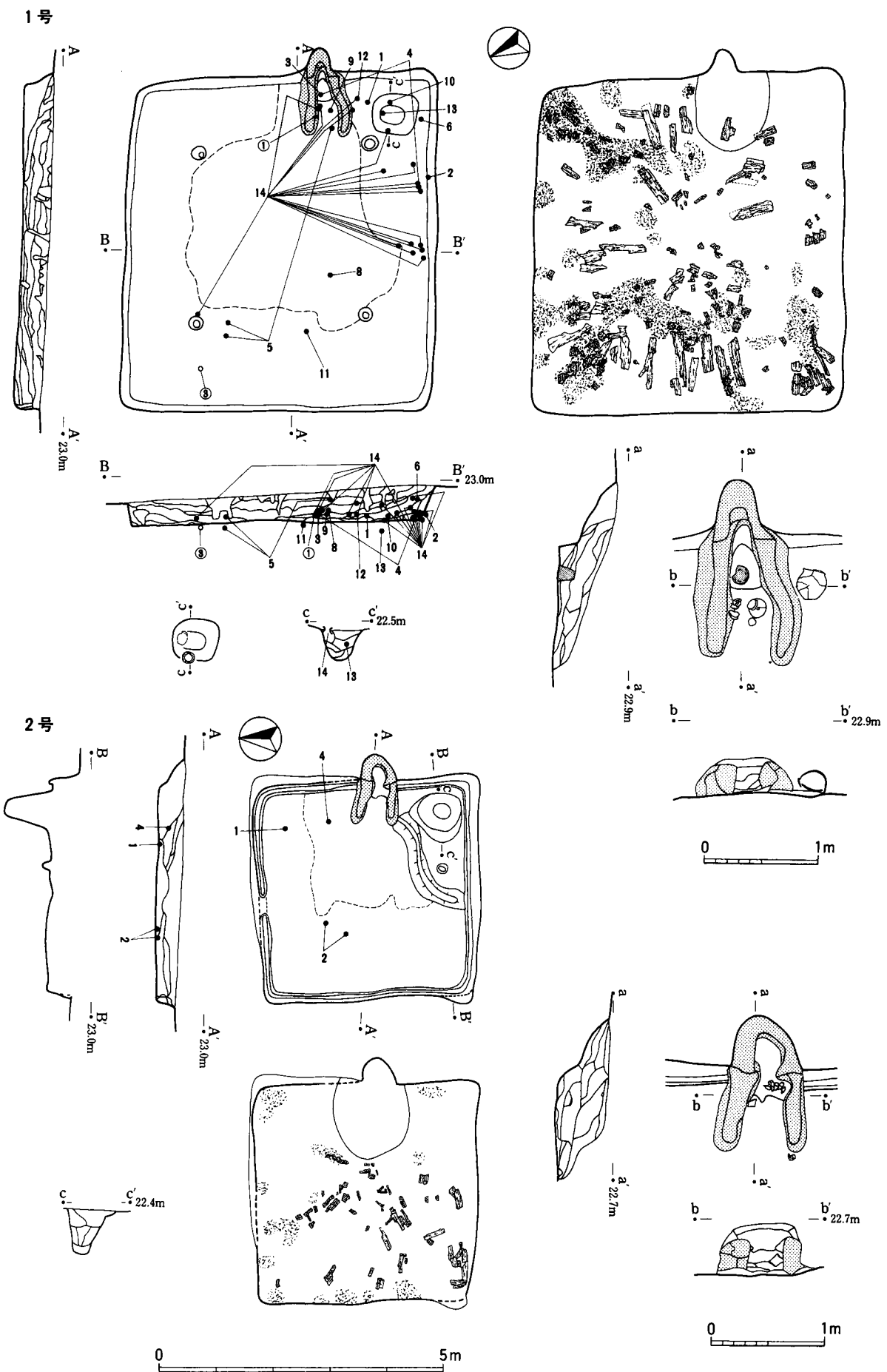
調査区の西側32Q-03グリッドに位置し、主軸方位はN-10°-Wを示す。平面形は一部突出する箇所があるものの、ほぼ正方形を呈し、約7.4m×約7.3mを測る。残存壁高は24cm~70cmで、周溝は検出されなかった。支柱穴は4本確認され、柱の断面からは、建替えの痕跡が窺える。柱間距離は約4.2m×4.2mを測る。カマドは北壁中央部分に位置し、貯蔵穴はカマドに対向する南壁の中央部分に、張り出しを伴って設けられている。

遺物の出土量は多く、床面や貯蔵穴から出土したほか、覆土のやや上部からも検出されているが、ほとんど時期差は認められない。覆土の堆積状況から見て、この住居は廃絶後比較的短時間に、人為的に埋め戻されたものと考えられる。貯蔵穴から出土した遺物は、覆土中層からまとまって検出された。

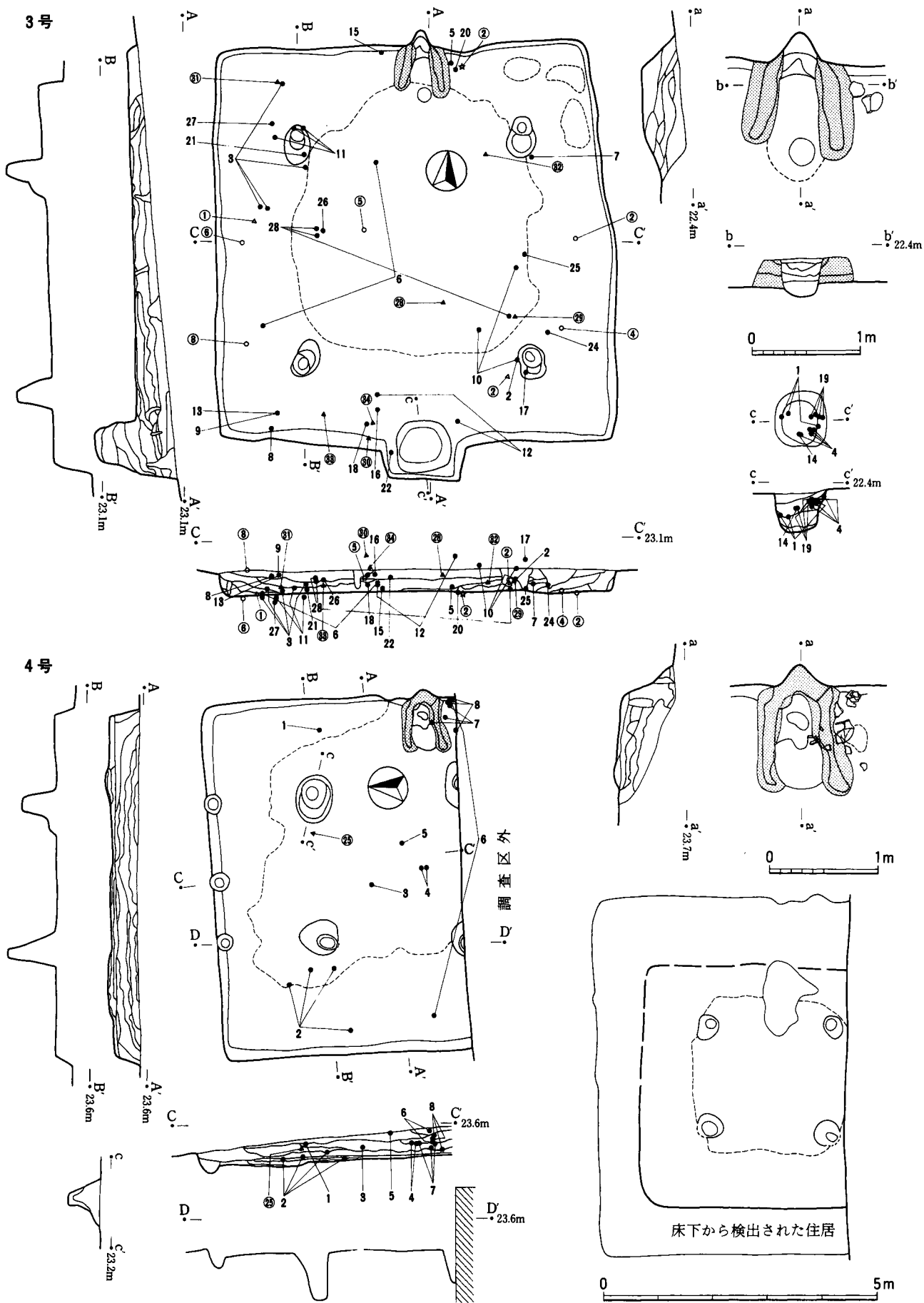
本跡は、本遺跡から今回検出された住居跡のなかで最も新しい時期に位置するものと考えられる。

##### 4号竪穴住居跡（第12図、図版3）

調査区中央部34Q-10グリッドに位置し、主軸方位はN-85°-Eを示す。本跡は調査区の境に位置し、南側部分が調査区外になるため、住居跡の全容は不明であるが、正方形若しくは長方形を呈するものと思われる。検出した一辺は約6.5mを測る。残存壁高は10cm~20cmで、周溝は検出されなかった。支柱穴は4本で、柱間距離は2.8m×2.7mを測り、北壁側には壁柱穴が3本均等に並んで検出されている。床下から

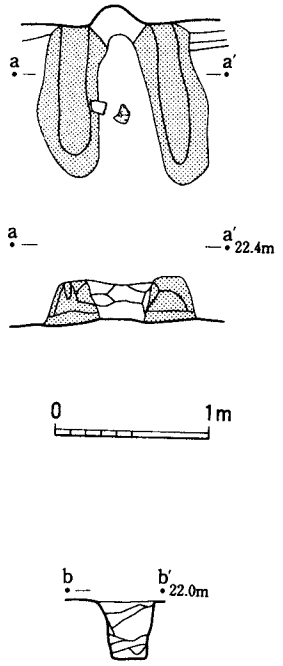
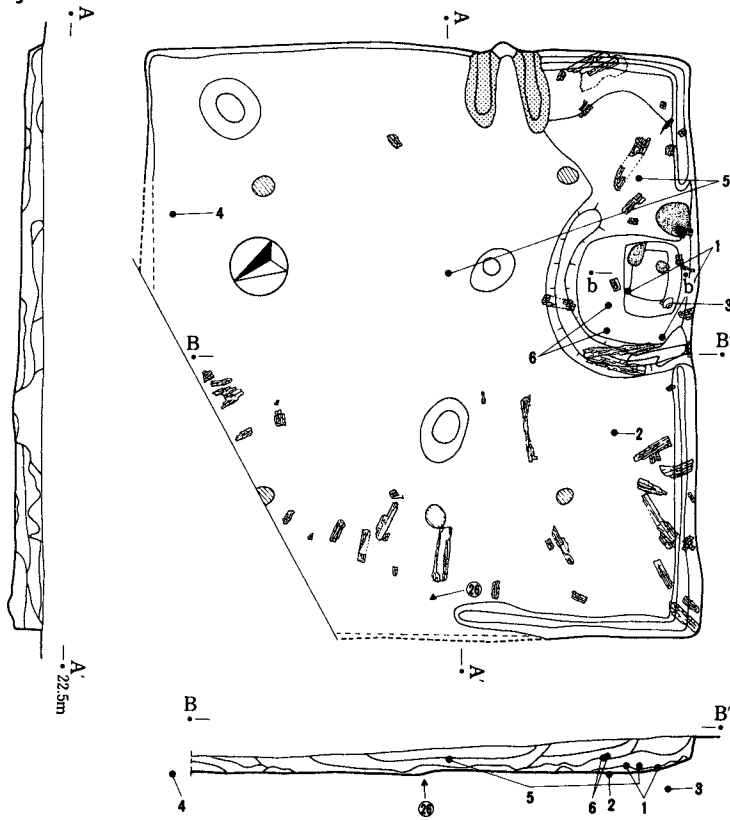


第11图 1·2号竖穴住居跡

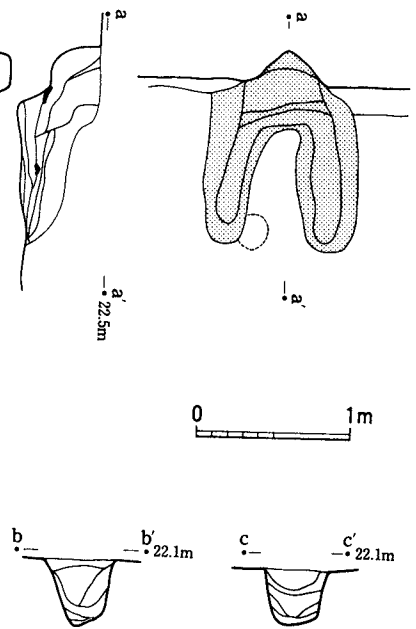
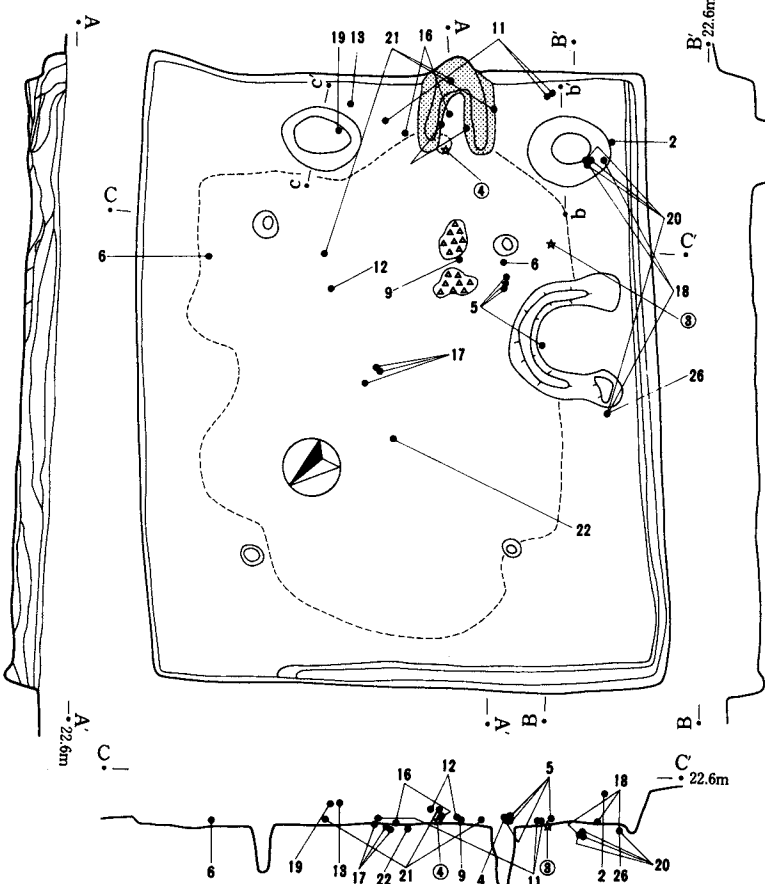


第12図 3・4号竪穴住居跡

5号



6号



第13图 5·6号竖穴住居跡



建替え前の住居が検出された。旧カマドの位置から推定すると、建替え後のものよりかなり小型で、一辺約4m、柱間距離は1.8mである。建替え後の住居の中央に完全に収まる規模で、ほぼ平均に2周りほど大きく改築したようである。

遺物はカマドから検出されたほかは、床面から若干浮いた状態で確認されている。覆土の堆積状況から見て、比較的短時間に人為的に埋め戻されたと考えられる。

#### 5号竪穴住居跡（第13図、図版3）

調査区の西側31P-21グリッドに位置し、主軸方位はN-118°-Eを示す。平面形はやや長方形を呈し、長軸約7.7m、短軸約7.2mを測る。残存壁高は18cm~46cmで、周溝は南壁と西・東壁の一部でのみ検出した。支柱は4本で、住居廃絶後に切り取られたためか、柱部分以外の堀形上面は、床の硬化面で覆われている。床面では柱痕跡のみが検出された。柱間距離は4.1m×4mを測る。カマドは東壁の南寄り部分に作られ、南壁中央部やや東寄りには、半円形の若干の高まりを伴う貯蔵穴が検出された。図示していないが、柱に囲まれた部分の床面は硬化している。

遺物は主に床面から出土している。床面では炭化材や焼土も検出されており、炭化材は住居跡の壁から中央方向に向かって多く、焼土は主に壁際に見られた。

#### 6号竪穴住居跡（第13図、図版3）

調査区の西側31P-33グリッドに位置し、主軸方位はN-125°-Eを示す。平面形はやや南北に長い長方形を呈し、長軸約8.1m、短軸約6.9mを測る。残存壁高は30cm~48cmで、周溝は南壁及び西壁部分でのみ検出された。支柱穴は4本で、柱間距離は4.4m~4.0m×3.4m~3.2mとやや不整形な柱間となっている。カマドは東壁の中央部やや南寄りに位置し、両袖部分の外側、壁寄りに貯蔵穴と思われるピットが検出されている。南壁中央部分には、馬蹄形の硬化した高まりが検出され、住居の出入り口に伴う施設と考えられるが、中央部分からは、いわゆる梯子ピット状の柱穴は見つからなかった。

遺物は、床面とカマドから検出されており、床面からはやや浮いた状態で貝類が少量まとまって出土している。

#### 7号竪穴住居跡（第14図、図版4）

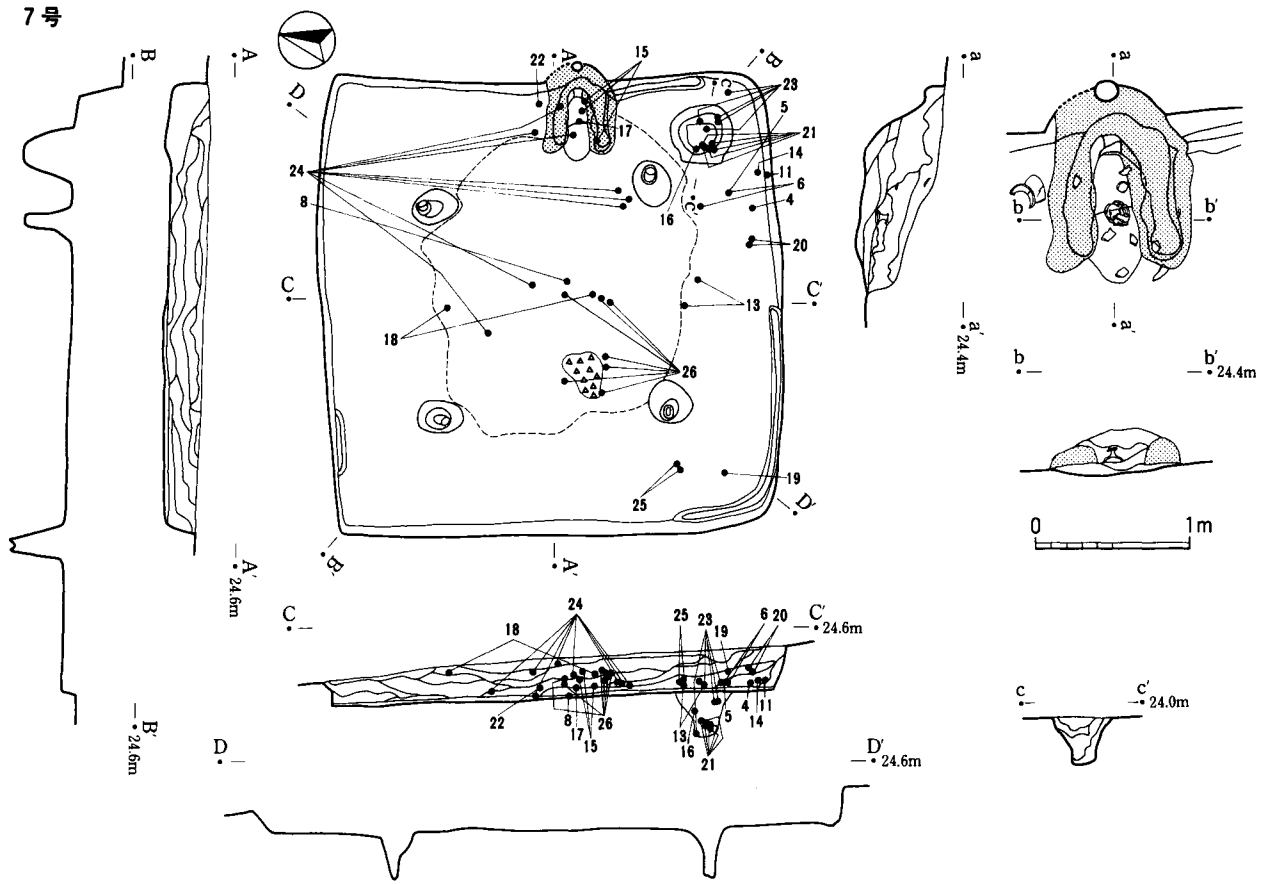
調査区の中央部35Q-02グリッドに位置し、主軸方位はN-77°-Eを示す。平面形はほぼ長方形を呈し、長軸約6m、短軸約5.8mを測る。残存壁高は34cm~58cmで、南西隅と東壁・北壁のごく一部分で検出されたのみである。支柱穴は4本で、柱間距離は2.9m~3.1m×3mを測りやや不整形な柱間になっている。カマドは東壁中央部分やや南寄りに位置し、南東隅に貯蔵穴が設けられている。

遺物は主にカマドと貯蔵穴、床面の中央部分から検出されている。カマド内中央部の火床面には、完形の高杯が伏せられた状態で検出されたが、高杯には火を受けた痕跡は見られなかったため、カマド廃絶後に故意に設置された可能性が考えられる。覆土中からは少量の貝が検出されている。

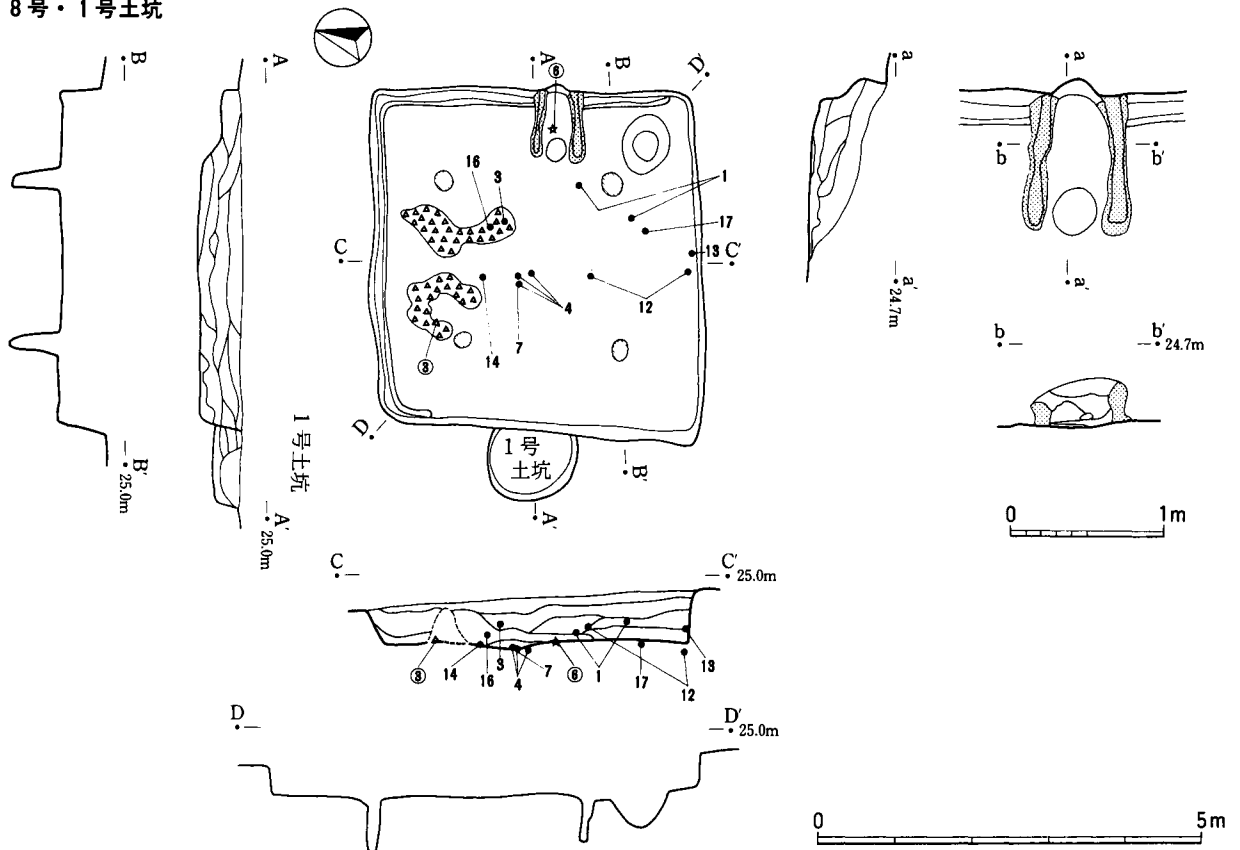
#### 8号竪穴住居跡（第14図、図版4）

調査区の東側36P-33グリッドに位置し、1号土坑の東側を壊して構築されている。主軸方位はN-77°-Eを示す。平面形はほぼ正方形を呈し、長軸約4.5m×短軸約4.4mを測る。残存壁高は42cm~68cmで、北西角から東壁にかけてのみ周溝が検出された。支柱穴は4本で、柱間距離は2.2m×2.2m、平面図中に示した支柱の範囲は、柱の痕跡を表している。床面の硬化範囲は図示していないが、支柱に囲まれたほぼ正方形の部分がおおよその床面硬化範囲である。カマドは東壁中央部分のやや南寄りに位置し、南東隅に

7号

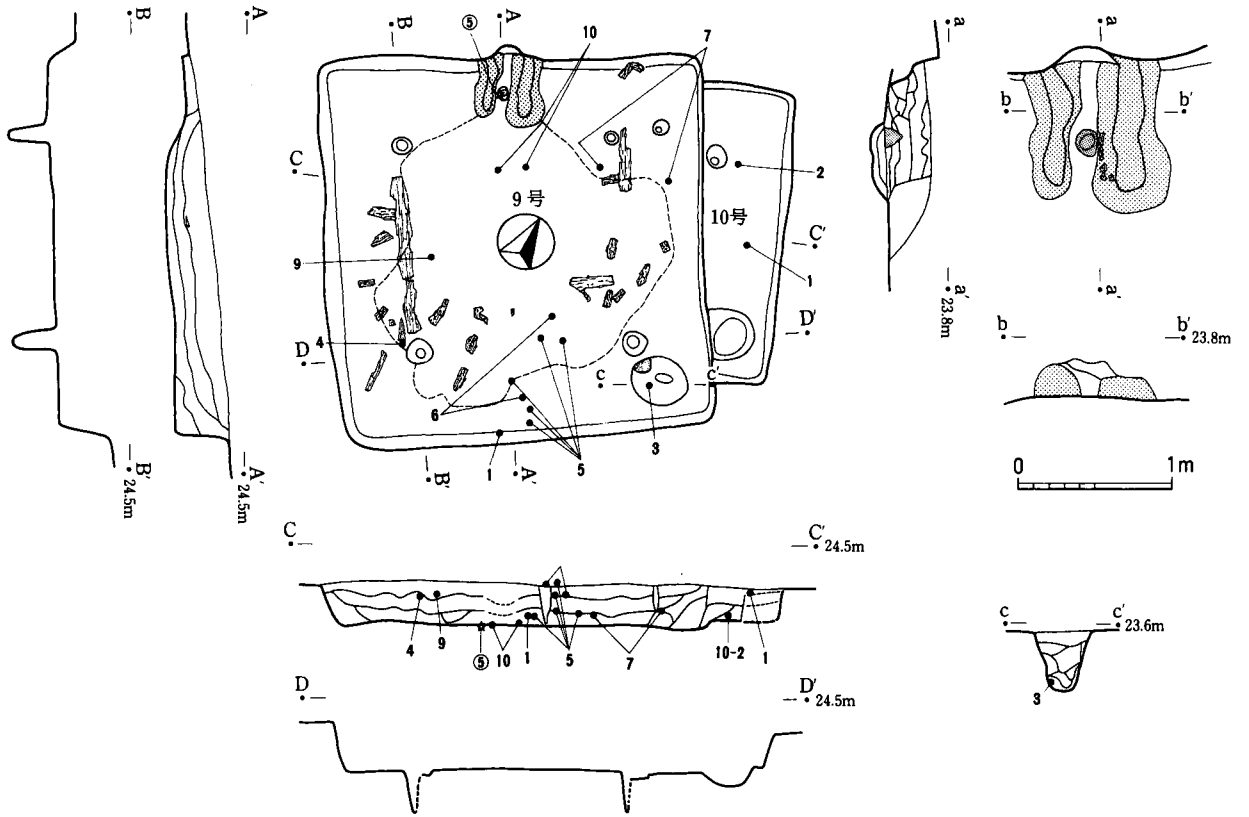


8号·1号土坑

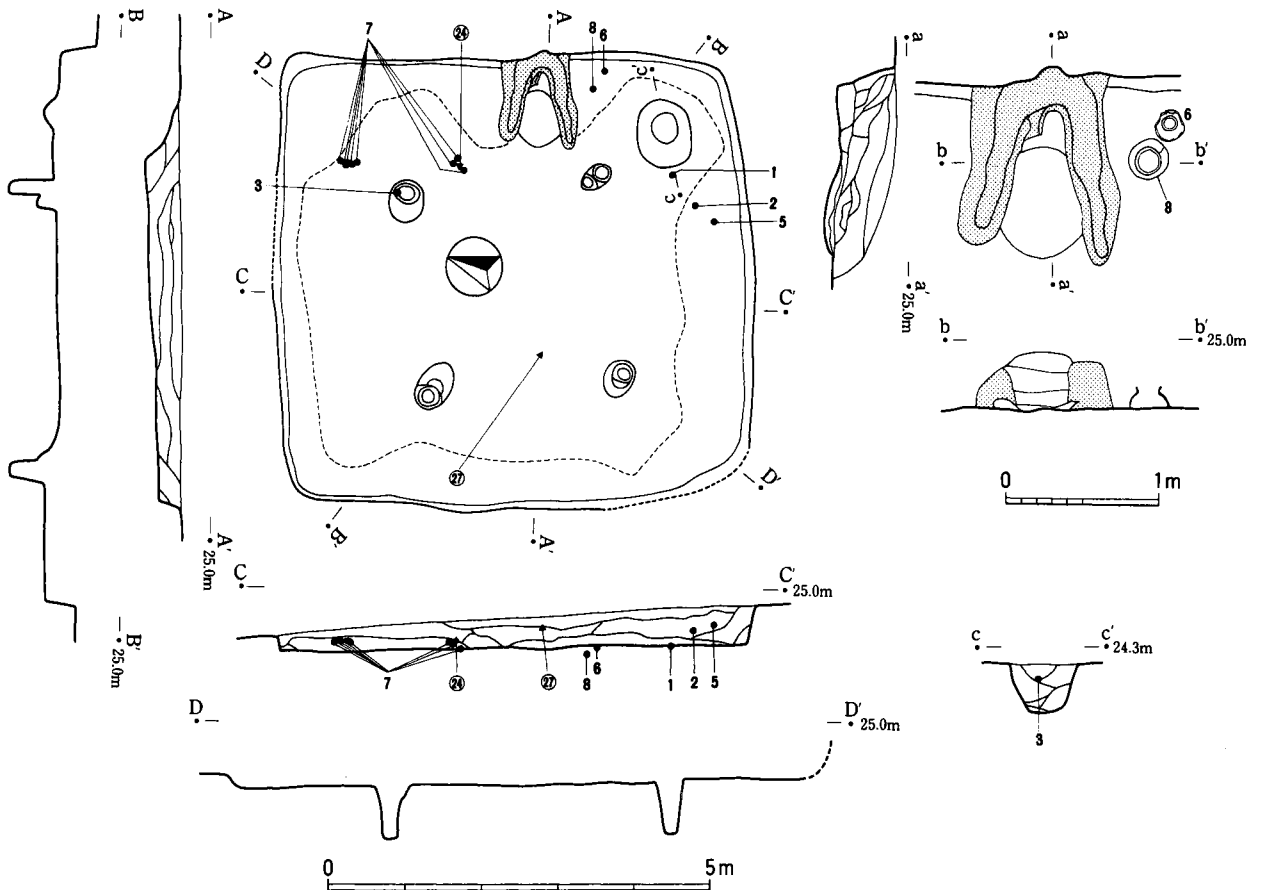


第14图 7·8号竖穴住居跡·1号土坑

9·10号



11号



第15图 9·10·11号竖穴住居跡

貯蔵穴が設けられている。

出土遺物は比較的少量で、主に床面から出土している。床面からは、遺物のほかに少量の焼土と炭化材が確認されている。覆土のやや上部からは、少量の貝類がまとまって出土しており、住居の廃絶後に覆土中に廃棄されたものと考えられる。

#### 9号竪穴住居跡（第15図、図版4）

調査区の東側36P-21グリッドに位置し、10号住居跡の西側を壊して作られている。主軸方位はN-32°-Eを示す。平面形はやや歪な長方形を呈し、長軸約7.1m、短軸約7mを測る。残存壁高は54cm~56cmで、周溝は検出されなかった。支柱穴は4本で、柱間距離は2.8m×2.7mを測る。カマドは北西壁の中央に位置し、カマドと反対壁の東隅に貯蔵穴が設けられている。床面からは焼土が検出され、柱穴と柱穴の間には、太さ20cm長さ2.5mほどの炭化材が横たわる状態で検出されており、住居の根太材の可能性が考えられる。

遺物は床面と、覆土の上層に近い位置から出土している。また、カマドの中央部には支脚が据え置かれたままの状態で見出された。

#### 10号竪穴住居跡（第15図、図版4）

調査区の東側36P-11グリッドに位置する。9号住居跡によって東側部分を除き、ほとんどが壊されており、主軸は不明である。残存壁高は40cm~42cmで、残存する部分に周溝は検出されなかった。支柱と思われるピット1本と南東隅に貯蔵穴が辛うじて確認されている。

出土した遺物はわずかであったが、床面のピット脇からは、土師器の甕がほぼ完形の状態で出土している。図示した杯1点は覆土上層から出土している。

#### 11号竪穴住居跡（第15図、図版5）

調査区の東側37P-20グリッドに位置し、主軸方位はN-70°-Eを示す。平面形は南北に横幅が長い長方形で、長軸約6.4m、短軸約5.8mを測る。残存壁高は18cm~50cmで、周溝は検出されなかった。支柱穴は4本で、建替えの痕跡が認められる。柱間距離は2.7m×2.6m。カマドは東壁の中央部分やや南寄りに位置し、南東隅に貯蔵穴が設けられている。床面の硬化した範囲は広く、壁際を除いて貯蔵穴の外側まで及んでいる。

遺物は、床面の東側、カマドの周辺からまとまって出土している。カマドに向かって右袖の外側には、甕の上半部が正位、頸部から口縁部にかけての部分が逆位で、それぞれ据え置かれたような状況で見出されている。

#### 12号竪穴住居跡（第16図、図版5）

調査区の東側37P-10グリッドに位置し、西側で13号住居跡の一部を壊して構築されている。主軸方位はN-76°-Eを示す。平面形はほぼ正方形を呈し、約5.7m×約5.8mを測る。残存壁高は38cm~52cmで、周溝は北西角の部分と北側の半分を除き全周する。支柱穴は4本、柱間距離は2.8m×2.7m~2.8mを測る。カマドは東壁中央部分やや南側に位置し、南東隅の東よりに貯蔵穴が設けられている。

出土遺物は床面から出土したものと、覆土内からやや浮いた状態で出土したものがある。カマド内中央には、支脚が据え置かれた状態で検出された。支脚の下から焼けた粘土塊が見つかっており、カマドに支脚を据え付けるための粘土と考えられる。



### 13号竪穴住居跡（第16図、図版5）

調査区の東側36P-13グリッドに位置する。ほぼ同じ高さの床面を持つ12号住居跡に東壁部分を壊されている。推定される主軸方位はN-70°-Eである。平面形はほぼ正方形を呈し長軸約5.9m、短軸約5.7mを測る。残存壁高は18cm~52cmで、周溝は西・南側と北側の半分のみ確認された。支柱穴は4本、柱間距離は3.3m×3.2mを測る。貯蔵穴は南東隅に設けられている。壊されている部分は東側わずかであるが、住居の時期や貯蔵穴の配置から考え、カマドは壊された東壁部分に位置していたと推定される。床面中央部分に深さが5cmに満たない皿状のピットが観察されたが、焼土等の痕跡は確認できなかった。

遺物は貯蔵穴と床面から、わずかししか検出されなかった。床面からは炭化材と焼土が検出されている。

### 14号竪穴住居跡（第17図、図版5）

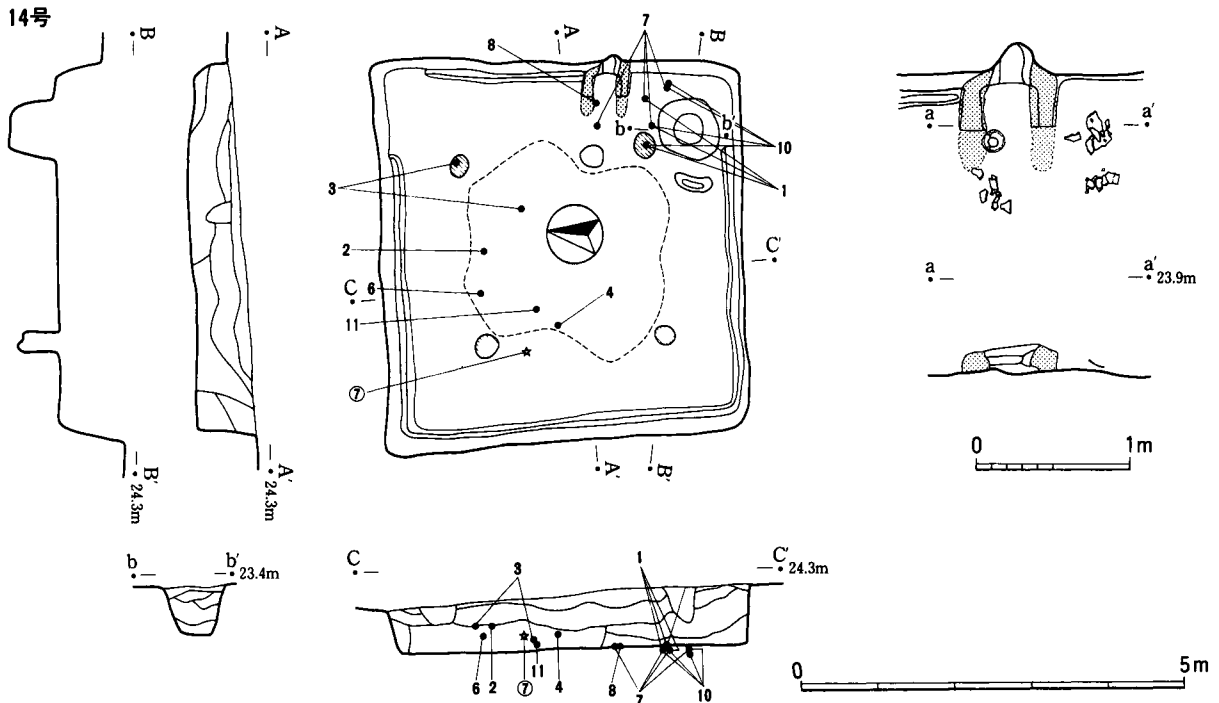
調査区の東側37P-12グリッドに位置し、主軸方位はN-80°-Eを示す。平面形はやや不整形な正方形を呈し、長軸約5m、短軸約4.8mを測る。残存壁高は56cm~78cmで、周溝は北東及び南東角を除いて、ほぼ全周する。支柱穴は4本、柱間距離は2.5m×2.5mを測るが、外形に対してやや歪んだ正方形に配されている。カマドは東壁中央部分やや南寄りに位置し、南東隅には貯蔵穴が設けられている。

遺物はカマドとその周辺、及び床面の中央部から主に出土している。カマド内には土師器の鉢が、袖の脇に置かれた状態で検出されている。

### 1号土坑跡（第14図、図版4）

本土坑は今回の調査で検出された唯一の住居跡以外の遺構である。東側を8号竪穴住居跡に壊されている。当初は住居跡のカマド正面に位置したため、住居跡に伴う貯蔵穴の可能性も考えられるが、土坑の形態や土層の堆積状況から、別の遺構と判断した。上面は攪乱されているものの、覆土はハードロームブロックを多く含み、人為的に埋め戻された様子が窺える。

遺物は、出土した総量が少ないことに反して、図示できるものは多かった。



第17図 14号竪穴住居跡

## 2. 遺物

### (1) 土器

#### 1号竪穴住居跡（第18図、図版6）

1～4は杯で口縁端部が外反するものと内湾するものがある。いずれも磨き調整され、赤彩されている。5・6は鉢とした。5は口縁部を強くヨコナデし端部が外反している。6は丸く口縁部も抱え込むように作られ、外面は丁寧になでられているため、非常になめらかな質感に仕上がっている。7は手捏で、口縁部のみ欠損している。8の杯は、外面を粗くヘラケズリされ内面にもヘラ痕が残る。やや粗雑な作りを呈しており、あるいは鉢と呼んだ方が良いかも知れない。9は壺である。外面が細かいナデ調整で、非常に丁寧に作られ口縁部内面まで赤彩されている。このほかの遺構からも類似した器形のものが見つかるが、今回は、調整や赤彩などを含め判断し、必ずしも壺にはしていない。10～14は甕と甗で、10のような無頸のもの、11・12のようなやや長胴のもの、13・14のような球胴で口縁部が外反するものが見られる。

#### 2号竪穴住居跡（第18図、図版6）

1は長胴と球胴の中間をなす甕で、体部外面は長いタテヘラケズリによって調整されている。口縁部はヨコナデされ、ややコの字状の口縁を呈する。2・3は杯の口縁部と底部のみの破片で、いずれも底部はヘラ調整される丸底で、口縁部はヨコナデされるタイプの杯である。4は鉢の口縁部で、厚みがあって丸い端部を呈する。

#### 3号竪穴住居跡（第19図、図版6）

1・2は須恵器の杯蓋で、天井部は丁寧にヘラケズリされて、端部はやや内傾している。2の肩部にはわずかに沈線がめぐっている。3～8は須恵器の杯蓋を模倣した土師器杯で、体部中央には蓋の肩部を意識した明瞭な稜線を持つ。9～11は須恵器杯で口縁部の受け部からは、端部がやや内傾して上方に立ち上がる。11の底部は回転ヘラケズリ調整され、全体に扁平な印象を受ける。12～16は須恵器杯模倣の土師器杯で、口縁端部に受け部を模倣した稜を持つ。この稜は強いヨコナデによって意識され、底部は主に多方向のヘラケズリによって調整されている。17～22も土師器杯である。前出の土師器杯のように体部に明瞭な稜を持たず、口縁端部が内湾するものと、わずかに外反するものがある。23・24は高杯の脚部。25～27は甕で、25は小型で無頸のタイプ、27はやや球胴を呈するタイプのコの字状口縁と思われる。26は小片だったため、口径は復元径である。砂粒の多い淡褐色の胎土で、口縁部内面はヘラによる丁寧なナデが施されている。接合しなかったが、同様の胎土・調整を示す同一個体と思われる胴部片も、多数出土している。胴部片にはハケ目状の痕跡も確認されており、こうした胎土・調整の特徴から東海地域以西の甕と考えられる。28は甗の底部から体部下半の破片で、外面はヘラケズリされ底部は単孔を呈するタイプである。

#### 4号竪穴住居跡（第19図、図版6）

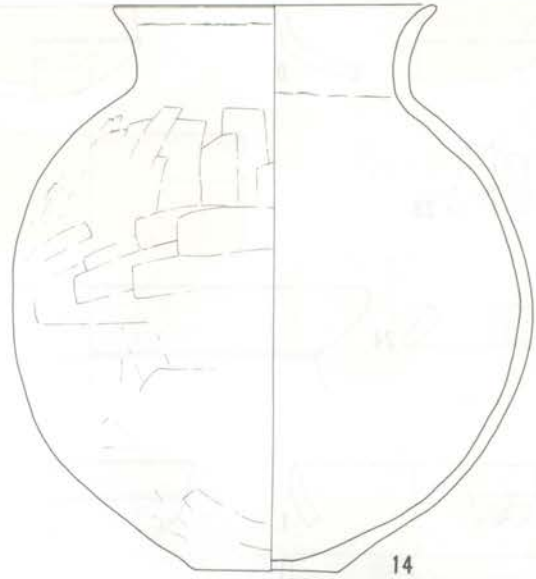
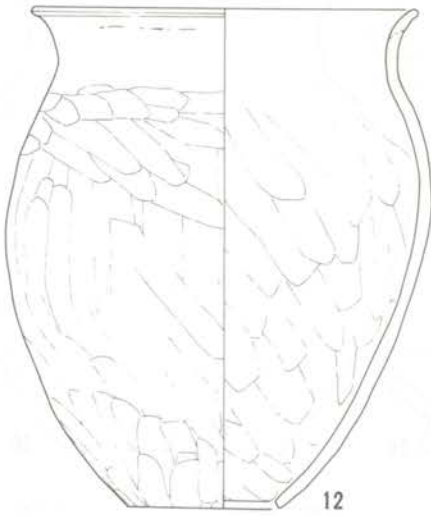
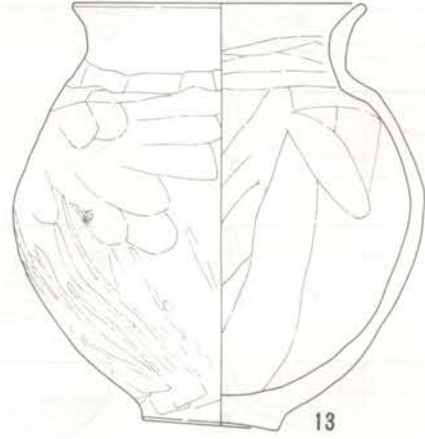
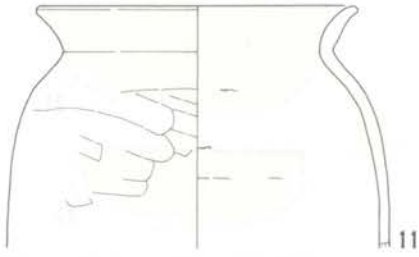
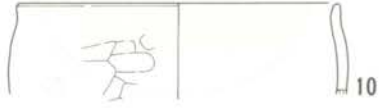
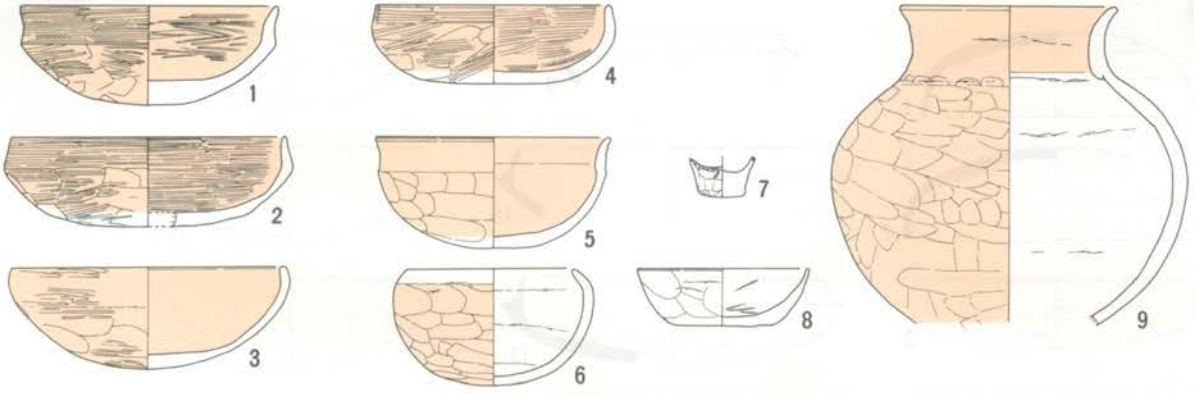
1～4は土師器杯でいずれも赤彩されている。2・3はやや深めのタイプで、あるいは鉢と呼んだ方が良いかも知れない。5は高杯の脚部で、裾部は横に平らに開く。6は小型の甕で、接点はないが底部と口縁部は図のように接合するものと考えられる。口縁部は真っ直ぐに立ち上がり、端部のみわずかに外反する。7・8の甕はいずれも球胴を呈するタイプの甕である。

#### 5号竪穴住居跡（第20図、図版7）

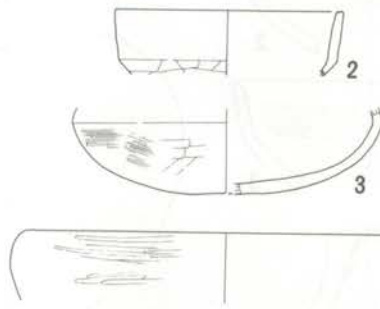
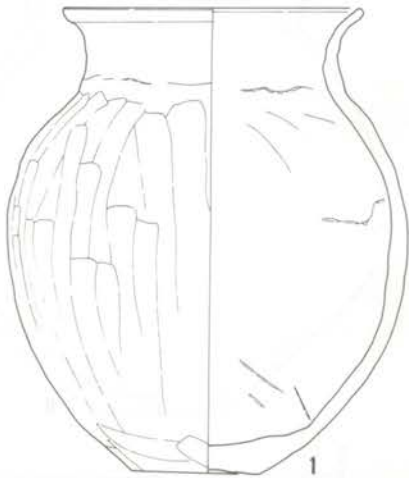
1は須恵器杯で底部と口縁部の破片である。接点はないが、胎土・焼成から同一個体と考えられる。2は土師器鉢で、やや平底気味の丸底を呈し、深い体部は真っ直ぐに立ち上がる。3・4は高杯である。3



1号

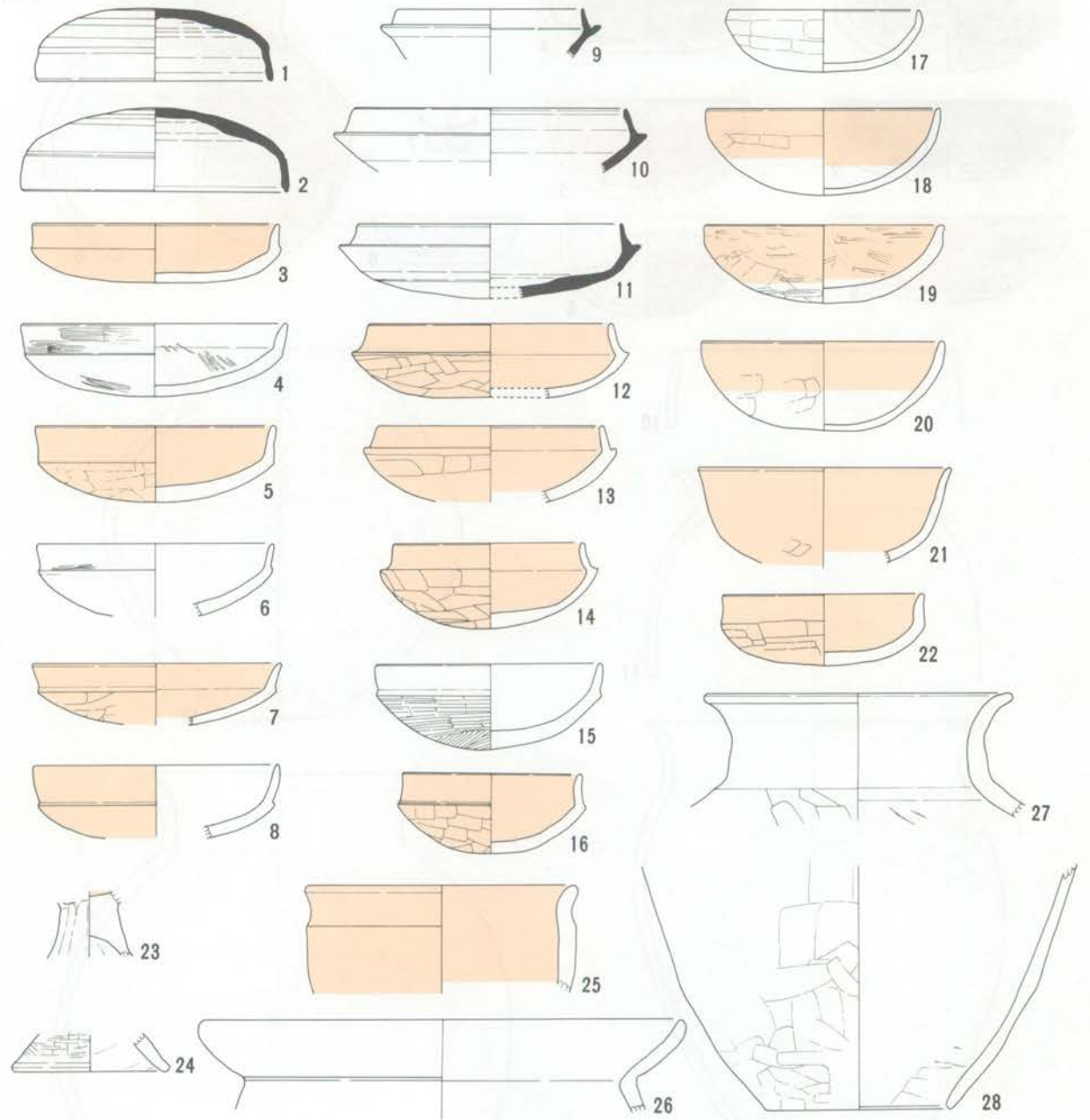


2号

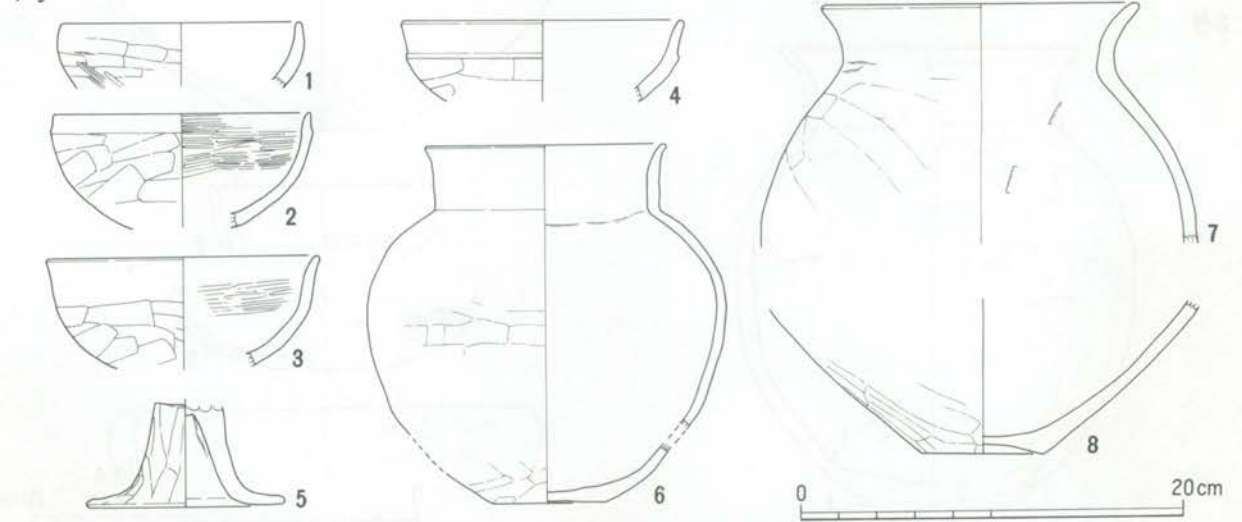


第18图 1・2号竖穴住居跡出土遺物

3号



4号



第19图 3・4号竖穴住居跡出土遺物

はほぼ完形で、杯部は体部に明瞭な稜を持つ。裾部は横に平らに広がった後、端部はやや反り上がった状態になっている。5・6は土師器甕である。出土遺物は土師器の甕片が多かったが、復元できる個体は少なく、底部のみ図示した。2点とも底部外面は丁寧にヘラ調整されている。

#### 6号竪穴住居跡（第20・21図、図版7）

1・2は須恵器の杯である。1は回転ヘラケズリされ、やや平らな底部を持ち、2は同じく回転ヘラケズリ調整された底部であるが、やや丸みのある底部である。どちらも口縁端部は受け部からやや長く立ち上がる。3～11は土師器の杯である。3～6は比較的平らな底部を持ち、口縁部はわずかに稜を持って上方に立ち上がる。7～11は丸い底部からそのまま立ち上がり、口縁部はやや内湾するものも見られる。11は底部外面にヘラ書きで「×」が記されている。12～15は高杯でいずれも赤彩されている。16・17は鉢で体部が丸みを持って立ち上がり、口縁端部が小さく外反するものと、体部が斜めに直線的に立ち上がり、口縁端部がわずかに内湾するものが見られる。18～26は甕・壺である。壺は24の小型壺が1点のみで、やや扁平で頸部の短い器形を呈し、赤彩されている。甕は25がやや長胴のタイプになると思われるほかは、球胴を呈する甕で、その中でも口縁のタイプに違いがみられる。また、器形も大型と小型が見られ、18と19は同様なタイプでの大小の例である。

#### 7号竪穴住居跡（第21・22図、図版8）

1～3は須恵器の蓋で1・2はいずれも小片であったが、杯蓋と考えられる。3は天井部と肩部、さらに端部の状況から壺類の蓋と考えられる。4～16は土師器杯である。8は丁寧に磨きや赤彩が施され、体部に不明瞭な段を持ち、見た目も器形も一風変わった土器である。9～13は丸底から体部が内湾して立ち上がる杯で、口縁端部は直立するものと、やや内湾するものに分けられる。11のように底部が削り残され小さい平底を呈するものもある。14～16はやや深めの杯である口縁端部が小さく外反するものもあり、鉢に近い器形と考えられる。17～19は高杯である。いずれも短脚で裾部が広がり、杯部の残る17は体部に段を有する。20・21は鉢で、左右に広がった体部と小さく屈曲する口縁部からなる。22は球胴の甕で、口縁部はいわゆるコの字状の口縁部に近い。23は単孔の甗である。体部は斜め上方に開きながら立ち上がり、体部外面は長い。24～26は甕で24のように比較的口縁部が広く頸部の屈曲が少ないタイプと、25のように球胴の体部から口縁部がやや垂直に立ち上がるものがある。

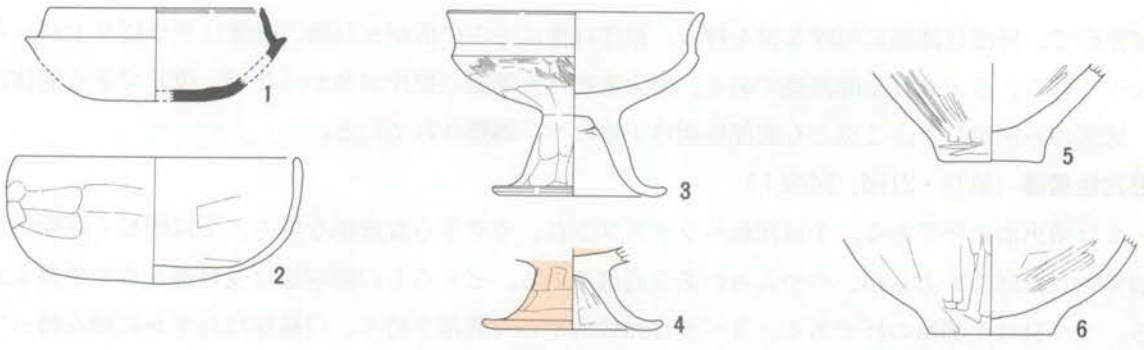
#### 8号竪穴住居跡（第22図、図版8）

1は須恵器の蓋で天井部は丁寧にケズリが施され、肩部は上下の沈線によって稜が巡るように見える。2も須恵器の蓋の小片で、天井部は1に比べて若干丸みを持つものと考えられる。1・2とも口縁端部は内傾している。3・4は須恵器の杯蓋模倣の杯で体部外面に明瞭な稜を持つ。5は平底で、口縁部分はヨコナデによって少し外反している。6はヘラケズリによって底部が平底に作られた小型の杯である。6～8は体部が丸く自然に立ち上がる杯で、外面はヘラケズリの後ナデ調整されている。10は鉢で内外面にミガキが観察され、赤彩されている。11は大型の杯で内面にはミガキが施されている。12・13は短脚の高杯で、12は体部に若干の稜を持つ。14・15は甕の口縁部片口縁部が小さく開くものと、やや大きくハの字状に開くものがある。16は単孔の甗の底部付近である。17は甕の底部、底部外面はヘラケズリの後ナデ調整されている。

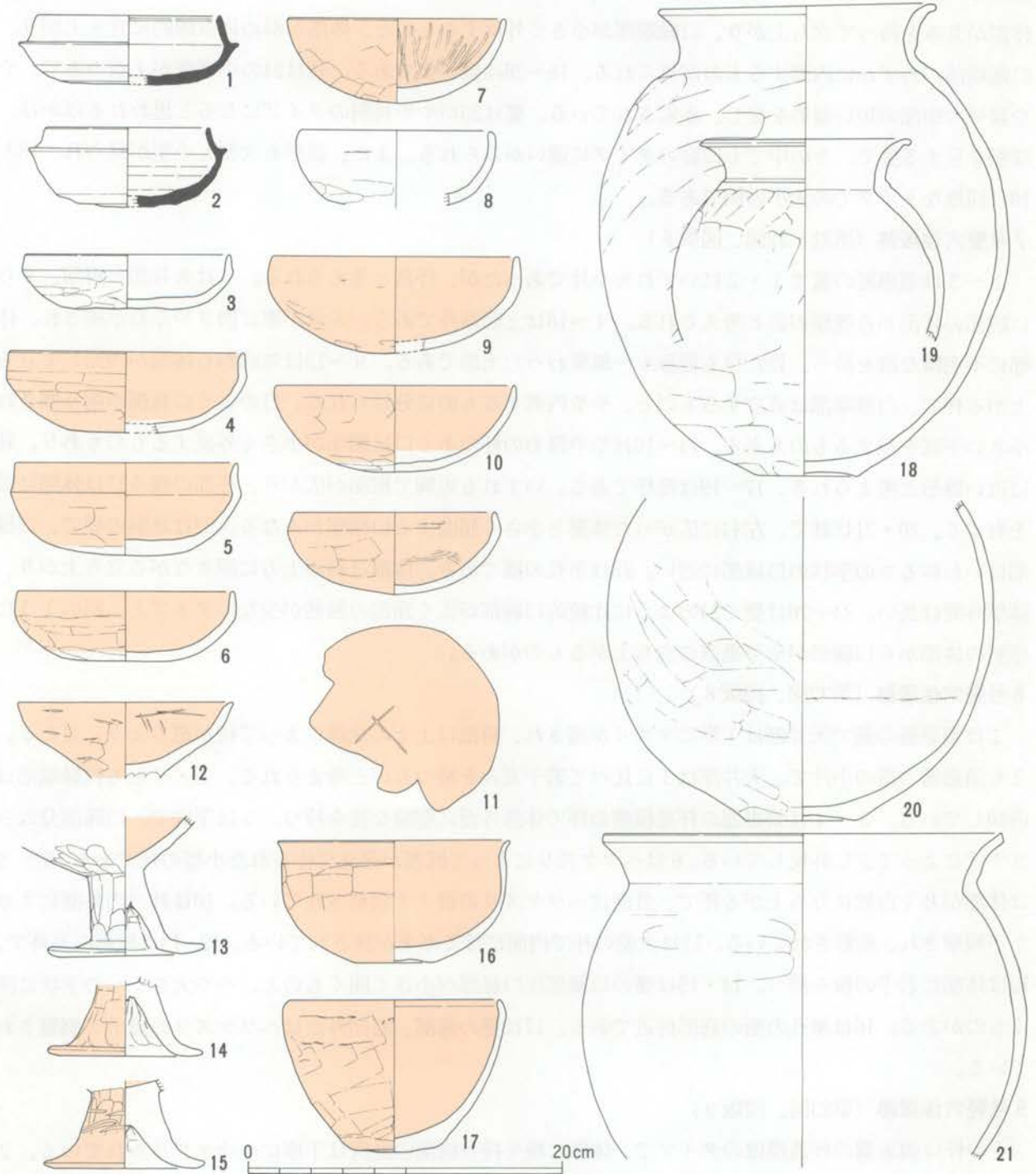
#### 9号竪穴住居跡（第23図、図版9）

1の杯は須恵器の杯蓋模倣のタイプで、体部に稜を持ち底部の丸底は丁寧にヘラケズリされている。2

5号



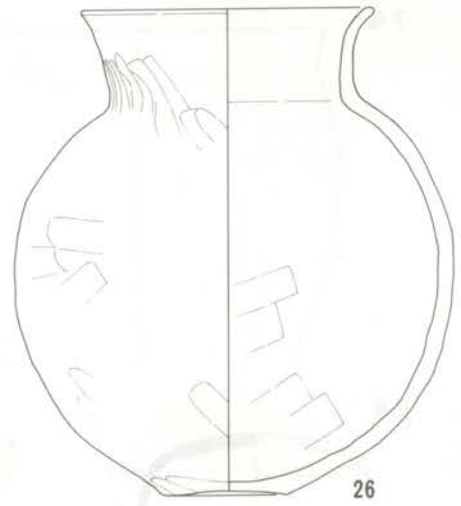
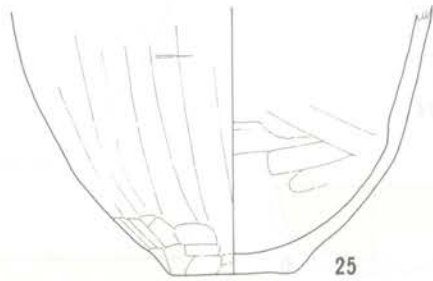
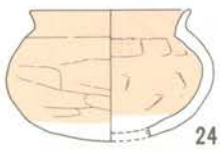
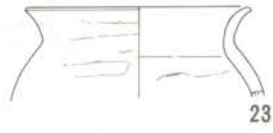
6号



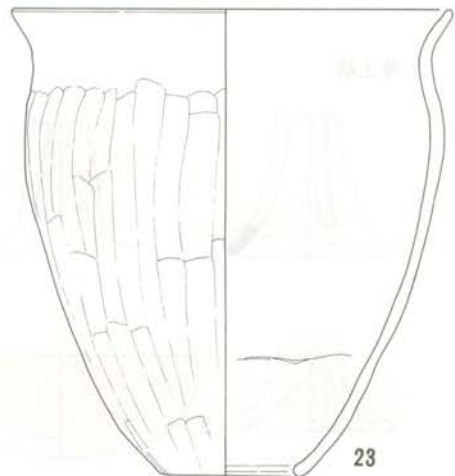
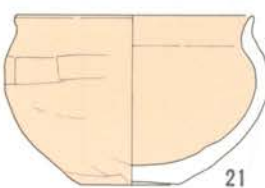
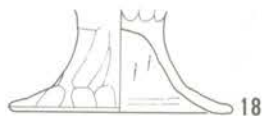
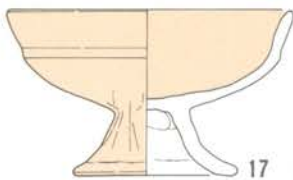
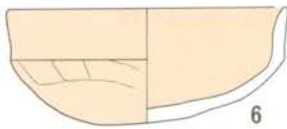
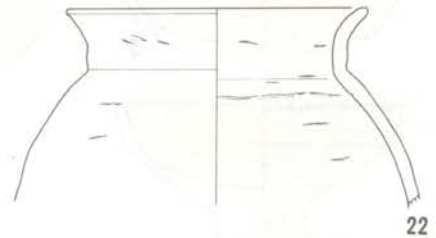
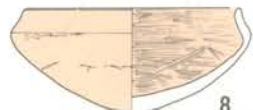
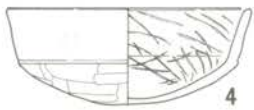
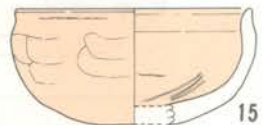
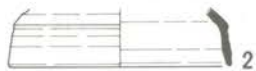
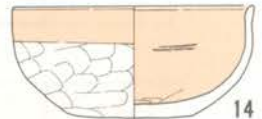
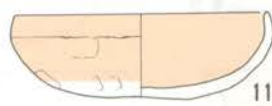
第20图 5・6号竖穴住居跡出土遺物



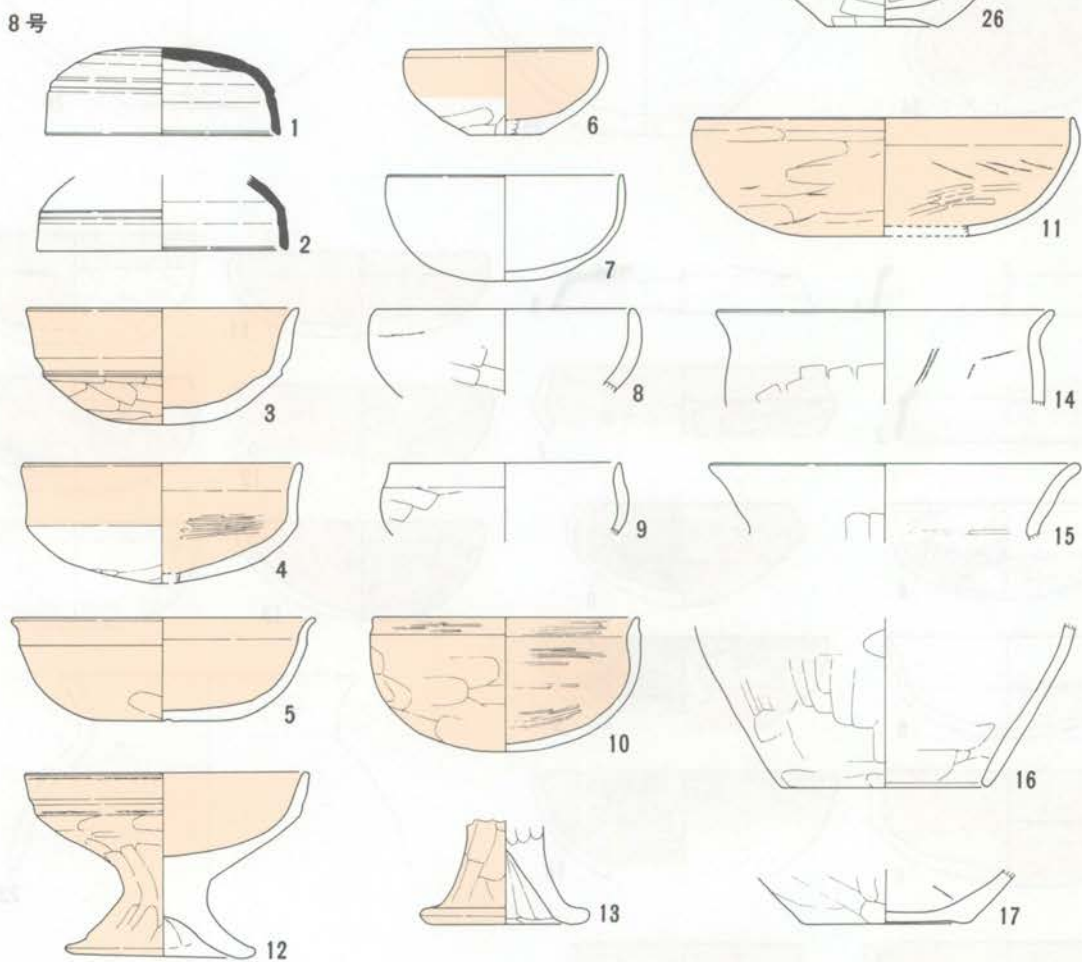
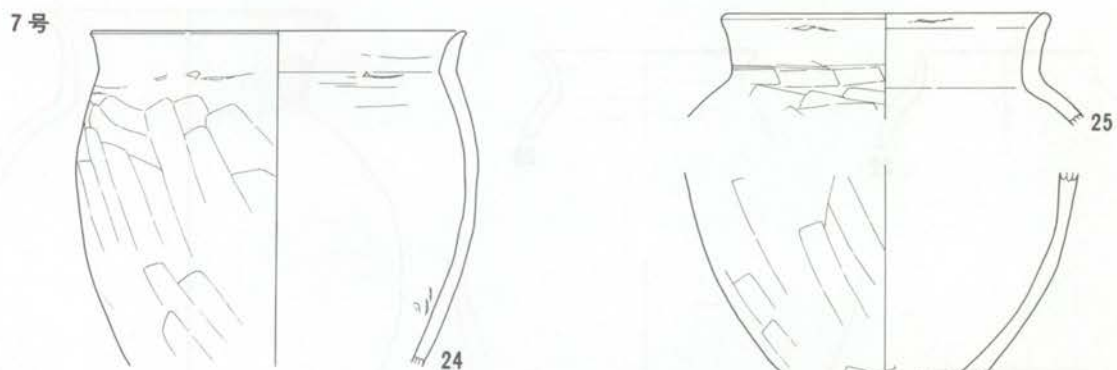
6号



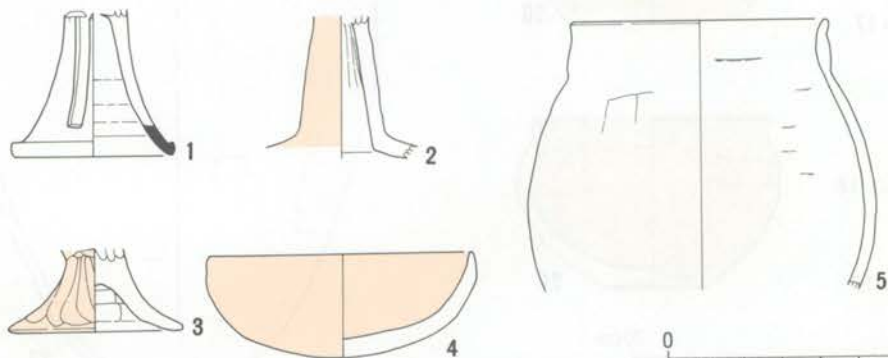
7号



第21图 6・7号竖穴住居跡出土遺物



1号土坑



0 20cm

第22图 7・8号竖穴住居跡・1号土坑出土遺物

は同じく須恵器模倣の杯であるが、こちらは杯を模倣したタイプで、体部の稜はやや退化している。内外面に横方向の磨きを施す。3・4は丸底でやや内湾しながら自然に立ち上がるタイプで、内面に若干の磨きが見られる。6は甕の底部。7は甕としたが、破片から復元された口径は広く、口縁部から下がった部分に把手が付くことから鍋と呼ぶべき器形かもしれない。8は手捏のミニチュア土器である。9は木葉痕のある底部片で、内面に赤彩が認められることから、鉢などの器形であることが考えられる。10は甕で、球胴で頸部は窄まった後、外反するタイプである。

#### 10号竪穴住居跡（第23図、図版9）

1の杯は、外面のヘラケズリによって小さめの底部が作り出され、内面には横方向の細かいミガキが施されている。2の甕はほぼ完形の状態で出土し、やや球胴で広めの口縁部を持つタイプである。

#### 11号竪穴住居跡（第23図、図版9）

1は須恵器の杯蓋、肩部の稜はあまり明瞭ではない。2は鉢でやや平底を呈する底部から、内湾して立ち上がり、口縁端部は小さく外反する。3～5の高杯は裾部がやや厚みを持って横に広がる短脚のタイプである。6～8は甕で、6のように器面の調整がよく観察されるものと、そうでないものがある。

#### 12号竪穴住居跡（第24図、図版9）

1～5は杯で、口縁部が外反するタイプと自然に立ち上がるタイプがある。1～3の内面はミガキが施されている。6・7は鉢で口縁が外反するものとやや内傾するものがある。6は磨滅が激しい。8・9の甕は球胴を呈するタイプである。

#### 13号竪穴住居跡（第24図、図版9）

1は杯で、外面はヘラケズリによって、やや平底風な底部に仕上げられており、全面に赤彩が施されている。2の甕は球胴を呈し、口縁部は大きく外反し、端部は丸みを持っている。

#### 14号竪穴住居跡（第24図、図版9）

1・2は杯である。1は体部に稜を持ち、須恵器杯蓋を模倣するタイプで、2は体部が自然に立ち上がるタイプである。3～6は高杯で、短脚のものとやや短脚のものが見られる。3は杯部に稜を持たないタイプである。7～10は鉢で、口縁端部が内傾するもの、球形のもの、口縁がヨコナデされやや外反するもの、大振りのものなどが認められる。11の甕は長胴になるとと思われる甕で、製作時に、粘土の乾燥がかなり進んだ状態でタテヘラケズリを行った様で、体部外面に飛びカンナ状の痕跡が確認された。

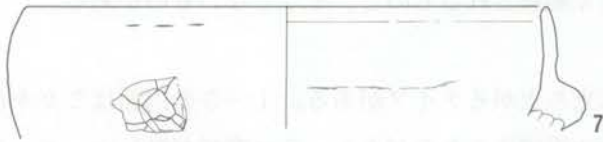
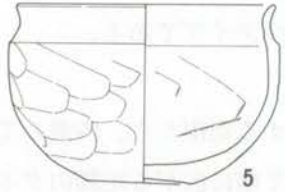
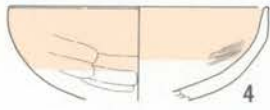
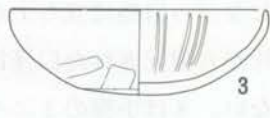
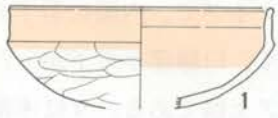
#### 1号土坑跡（第22図、図版8）

1は須恵器の高杯の脚部で、脚の三方に一段の透かしが施されるタイプである。精緻な作りで自然釉がかかる。2・3は土師器の高杯の脚部で、長脚のものと短脚のものがあり、いずれも赤彩されている。4の杯は外面はミガキが施され、外面と内面の口縁部分のみ赤彩されている。5は甕で、やや球胴の体部に垂直に立ち上がる口縁部を持つ。内面には、成形時の粘土の輪積み痕跡が残る。

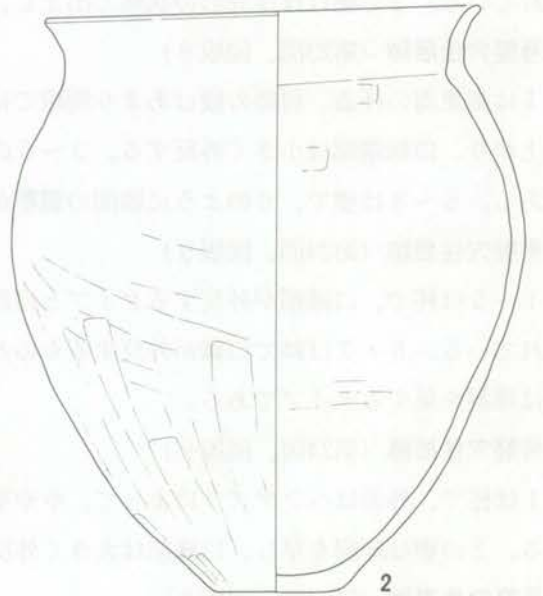
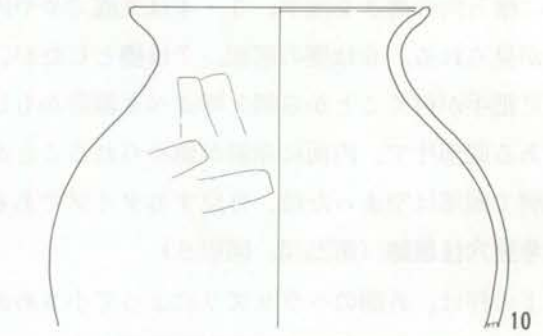
#### 遺構外（第24図）

1は受け部のある須恵器の杯で、立ち上がり部分を欠損している。2は短脚の高杯の脚部である。3は鉢で、口縁部が内湾してから小さく外反する。4・5の甕は、口縁部はあまり窄まらず小さく外反する。4は小型甕である。6は甕の底部で、底部外面はヘラ調整され、ミガキに近い状態に仕上げられている。7は平安時代の須恵器杯である。轆轤調整され底部及び体部下端をヘラケズリしている。

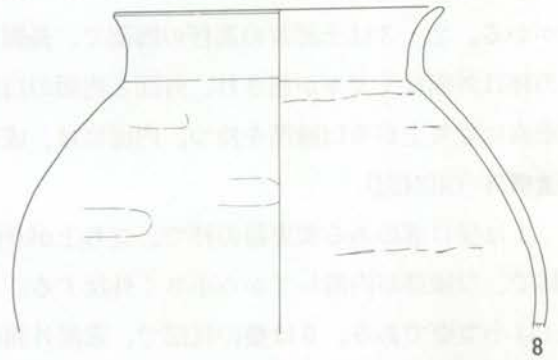
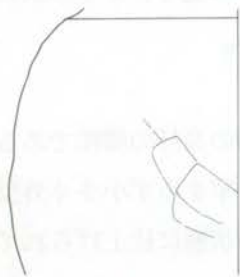
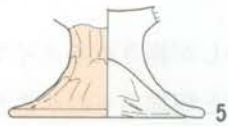
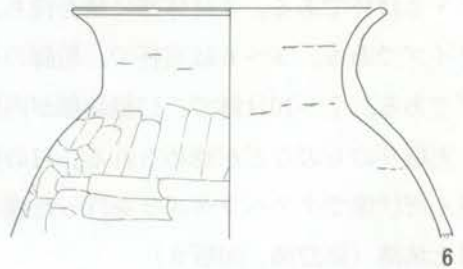
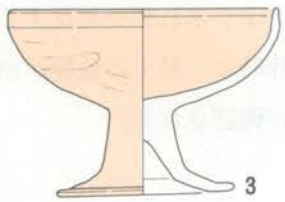
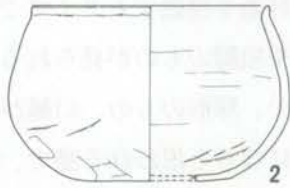
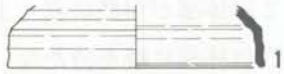
9号



10号



11号

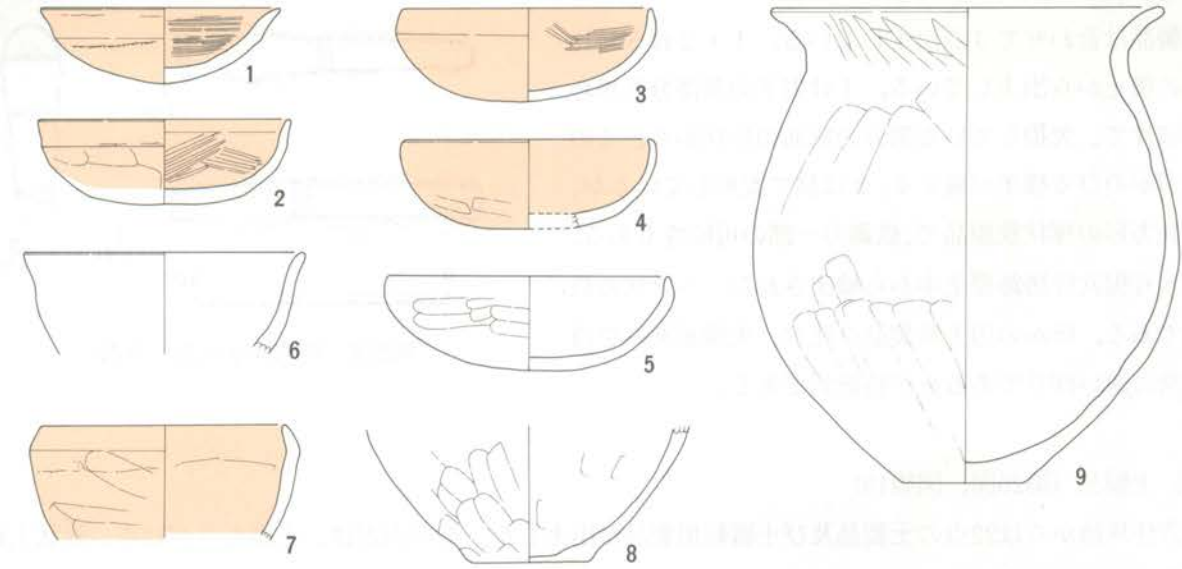


0 20cm

第23図 9・10・11号竪穴住居跡出土遺物



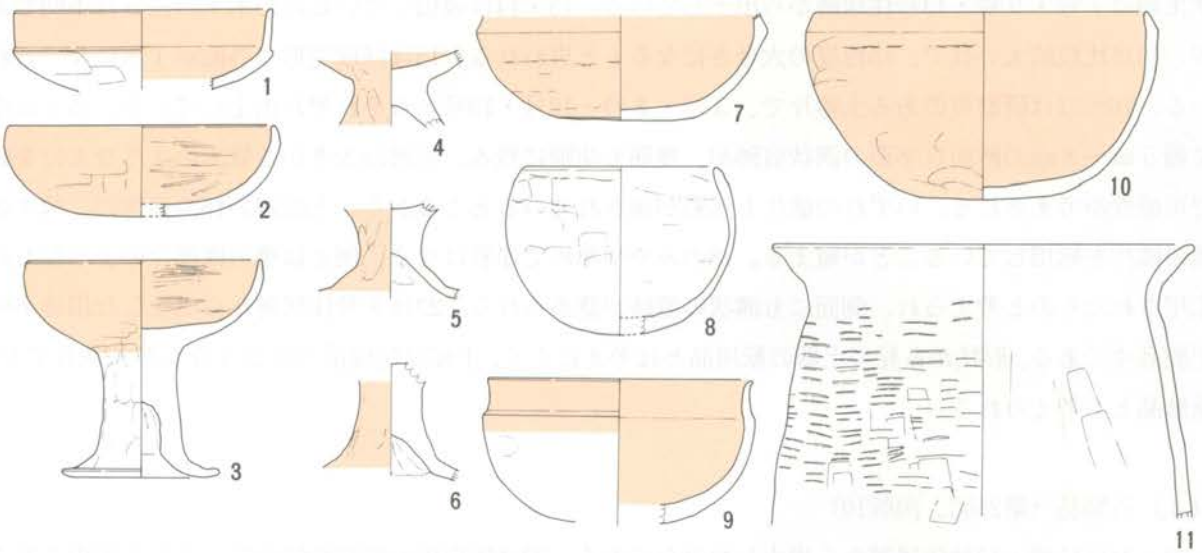
12号



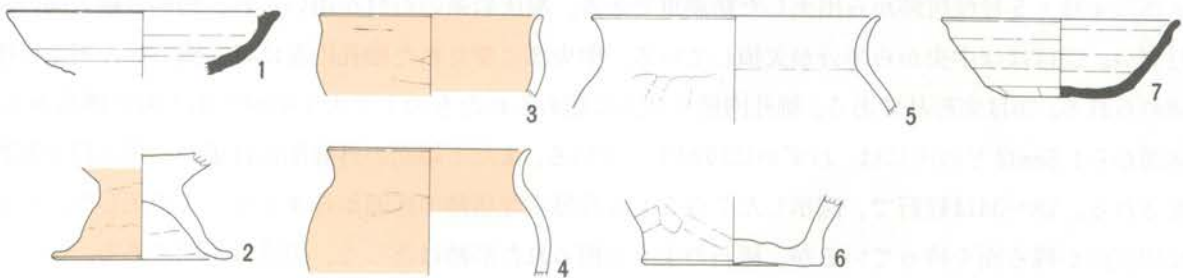
13号



14号



遺構外

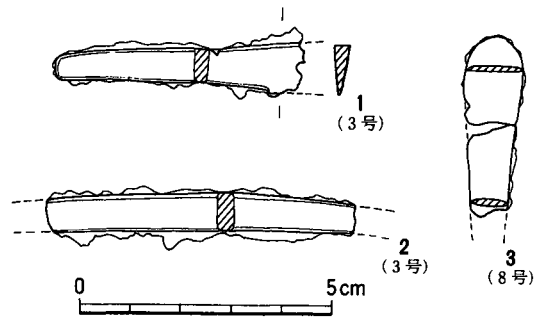


0 20cm

第24図 12・13・14号竪穴住居跡・遺構外出土遺物

## (2) 鉄製品 (第25図、図版10)

鉄製品は合わせて3点出土している。1・2は3号住居跡の覆土から出土している。1は刀子の茎部分と思われる破片で、欠損している部分の断面の形状から、この先に刃がのびる様子が窺える。2は錆て変形しているが、断面長方形の棒状鉄製品で、鉄鏝の一部の可能性もある。3は8号竪穴住居跡覆土中から検出された、ヘラ状の鉄製品である。ほかの出土鉄製品に比べ、先端が丸みを持ち非常に薄い作りである点が特徴的である。



第25図 竪穴住居跡出土鉄製品

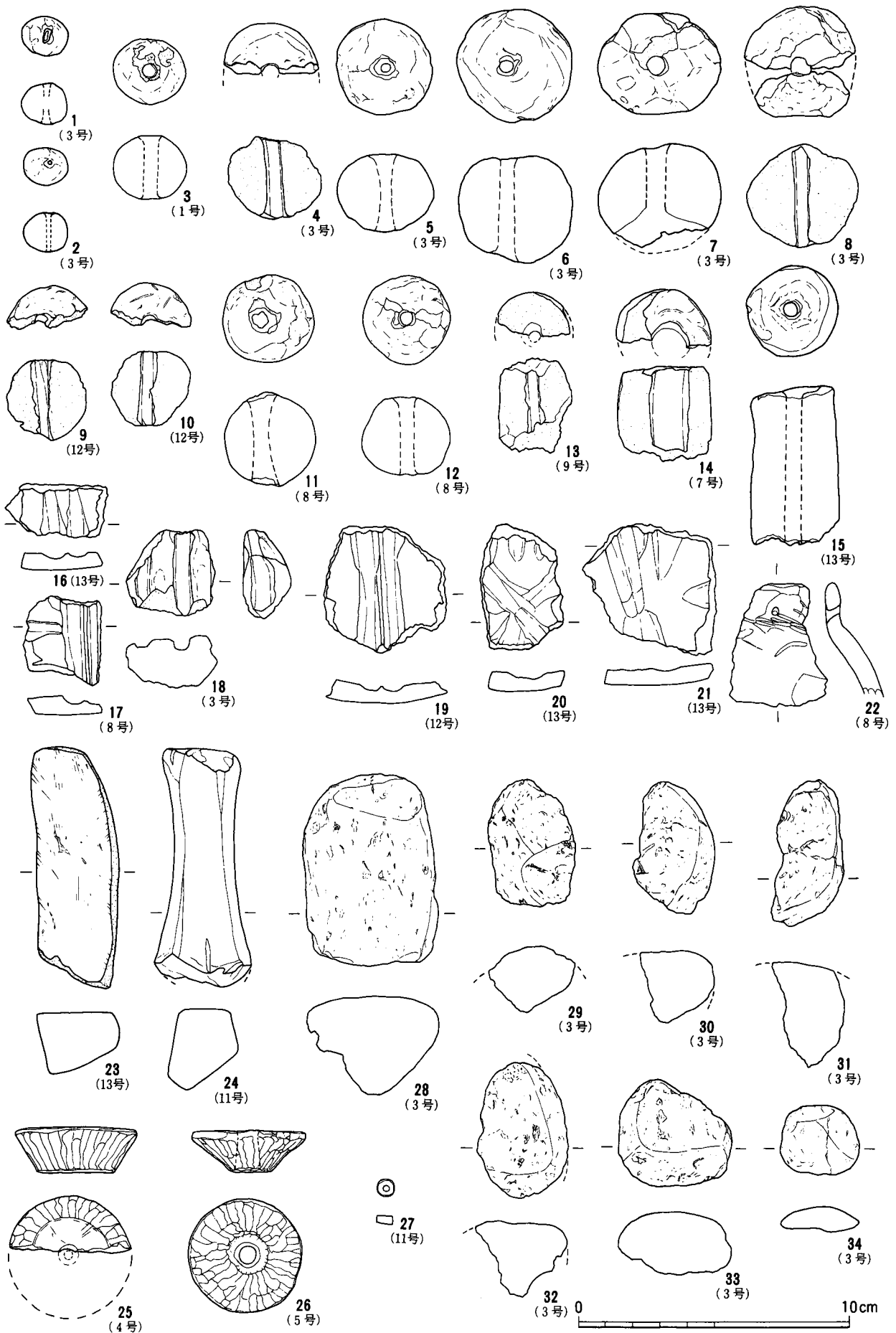
## (3) 土製品 (第26図、図版10)

竪穴住居跡からは22点の土製品及び土器転用製品が出土した。その内訳は、土製丸玉が12点、管状土錘が3点、研磨痕のある土師器片が6点、不明土製品が1点である。

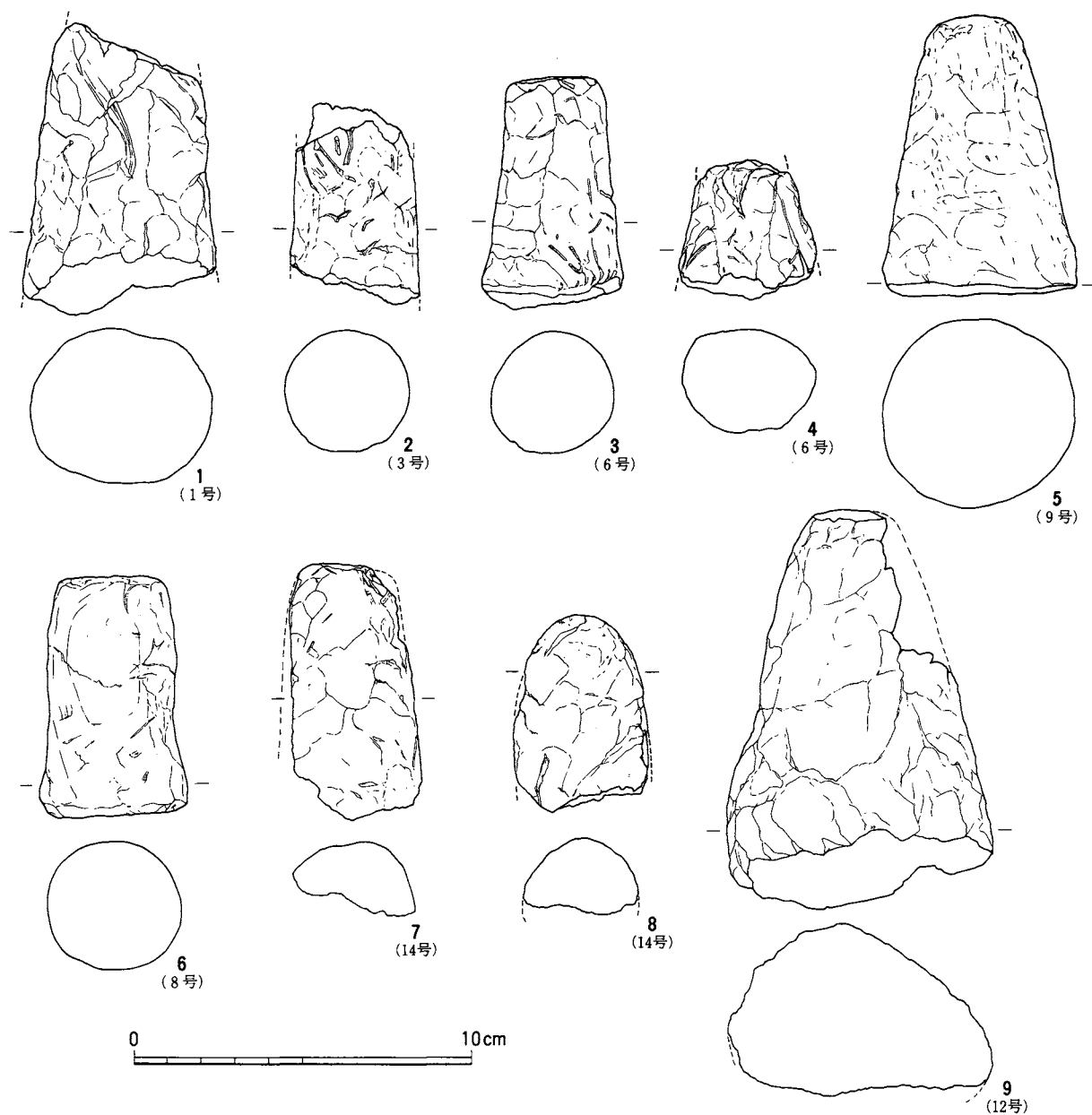
1～12の土製丸玉は、3は1号住居跡、9・10は12号住居跡、11・12は8号住居跡から出土しており、それ以外はすべて3号住居跡から検出されている。直径が2 cmに満たない1・2の小型を除いて、直径は3 cm～5 cmを測り、外面の調整や孔口の擦痕から、土錘として使用されていたことが窺える。13～15の管状土錘は7号・9号・13号住居跡から出土している。13・14は破損しているため本来の長さは不明であるが、14は比較的太い孔で、15程度の大きさになると思われる。15はほぼ完形で外面が丁寧になでられている。16～21は研磨痕のある土器片で、3号・8号・12号・13号からそれぞれ出土している。多くは片面に幅5 mm～8 mmの断面U字形の溝状痕跡が、幾筋も明瞭に残る。痕跡の太さから管玉のようなものを研いだ可能性が考えられる。いずれの破片も赤彩が施されているところから、土師器の杯や壺等の、薄手の土器の破片を転用していることが窺える。18のみやや厚めで赤彩はなく、例えば甕の底部片のようなものが転用されたものと考えられ、側面にも溝状の痕跡が認められる。22は8号住居跡から出土した用途不明の土製品片である。形状から見て土器の転用品とは考えにくく、上部に焼成前の小さな穿孔が施されており、垂飾品とも考えられる。

## (4) 石製品 (第26図、図版10)

23・24は11号・13号住居跡から出土した砥石である。23は乳白色の軟質砂岩系で、3面を使用されている。24は閃緑岩系の石材を用いたもので、上端部・下端部を除いたすべての面を非常に使い込んでいる。25・26は4号・5号住居跡から出土した紡錘車である。凝灰岩系の石材が用いられ、側面は縦方向の調整が目立つ。25はほぼ中央から半分が欠損している。中央部に穿たれた軸孔内面には、横方向の細かい擦痕が認められる。26は完形品である。軸孔内部には25に認められたものより太く明瞭な横方向の擦痕みられ、下端面から1.5 mmほどの所には、わずかに段が生じている。また下端面の外縁部には細かい刻み目が無数に観察される。28～34は軽石で、図示した7点とも3号竪穴住居跡の床面からまとめて出土した。いずれも使用痕跡が残る面を持っているが、砥石のように擦られた形跡は乏しく、用途は不明である。



第26図 竪穴住居跡出土土製品・石製品



第27図 竪穴住居跡出土支脚

(5) 支脚 (第27図)

古墳時代後期の住居跡からは、支脚が合計8点検出されている。検出状況はカマドに設置されたまま見つかったものと、廃棄された状態で見つかったものがある。出土したものの中には、図示できない小片も含まれるので、ここでは比較的残りの良いもののみを図示している。4～6・9は6号・8号・9号・12号住居跡のカマド内から検出された支脚で、1～3・7・8は1号・2号・6号・14号の住居跡の覆土中から出土している。形態はいずれも先窄まりの円柱状で、外面は火を受けて荒れた状態を呈しており、指頭痕が明瞭に観察できる。藁状の植物を芯に、粘土を固めて作られた個体も存在する。

(6) 貝類

3軒の竪穴住居跡の覆土中から、貝層の小ブロックが検出された。なお、本遺跡のほかに種ヶ谷津遺跡及び大道遺跡からも同様に貝ブロックが認められた。これらの貝類の分析・同定に当たっては、互いに関連性も認められることから、一括して報告することとした。

分析・同定の結果、これらの貝サンプルから貝類20種以上を検出した。それ以外の動物骨等は検出してない。古墳時代から平安時代の貝層であり、土器によってそれぞれ6世紀から8世紀までの年代が与えられている。なお同定分析は西野が行った。

ア 検出した貝類

第2表 貝種名一覧表

腹足綱		ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i>
ツボミガイ	<i>Patelloida pygmaea lampanicola</i>	アカニシ	<i>Rapana venosa</i>
イシダタミガイ	<i>Monodonta labio forma confusa</i>	アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>
コシダカガンガラ	<i>Omphalius rusticus</i>	二枚貝綱	
イボキサゴ	<i>Umbonium (Suchium) moniliferum</i>	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i>	バカガイ	<i>macra chinensis</i>
スガイ	<i>Lunella coronata coreensis</i>	シオフキガイ	<i>macra quadrangularis</i>
タニシ科	Viviparidae gen. & sp. indef.	マテガイ	<i>Solen strictus</i>
オオヘビガイ	<i>Serpulorbis imbricatus</i>	カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i>
カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
ウミナナ属	Batillaria sp.	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>

イ 採取した貝サンプル

今回のサンプルはすべて定量採取ではなく、貝層の全体、または部分を任意に採取したものである。おおよその採取量は水洗前の体積を第3表に示した。

第3表 生実・本納線貝サンプル一覧

遺跡名	サンプル名	採取法		マス 計量%	貝層位置	時期		最小フルイmm	
		方法	カット			大別	細別	水洗	選集
大道遺跡	4号	一括	1	不明	住居跡 ヒット内	古墳後	5C後?	?	?
大道遺跡	1号	一括	1	不明	土坑 底面	古墳後	6C前	?	?
種ヶ谷津遺跡	103号	一括	1	不明	住居跡 覆土	古墳後	6C前	?	?
種ヶ谷津遺跡	10Q-33	一括	1	11.0%	包含層 落込み	奈良~平安	8C後	0.5	4
笹目沢遺跡	7号	一括	1	19.5%	住居跡 覆土	古墳後	6C後	0.5	4
笹目沢遺跡	8号	一括	2	101.0%	住居跡 覆土	古墳後	6C後	0.5	4
笹目沢遺跡	6号	一括	4	17.9%	住居跡 覆土	古墳後	6C前	0.5	4

分析の方法

サンプルは、フロテーション法で浮遊物を回収してから、9.52・4・2・1・0.5mmの5種類のメッシュの試験フルイを用いて水洗した。貝類は4mm以上のメッシュ面に残ったものを選別、集計した。腹足綱は殻軸と殻口部が遺存するものを、二枚貝綱は殻頂部が遺存するものを左右別に集計して多い方を個体数とした。重量は遺存部位にかかわらず同定可能なものをすべて加算した。一部の種については計測も行った。二枚貝は殻長、巻貝は殻径を計測した。殻の残りが悪いスガイとサザエは蓋の最大径を計測した。なお、2mmメッシュ以下の試料では特に微細遺物が見あたらなかったため、細かい選別は省略している。浮遊物については炭化種子と微小貝のみを選別した。

#### 笹目沢遺跡 6号竪穴住居跡

4か所の小さな貝ブロックごとに全量を一括サンプリングした。A～Cブロックは覆土5層（黒褐色土）に入っている。一方、Dブロックは住居外の確認面付近で検出したものである。

貝類の組成はカットごとの差がほとんど見られない。イボキサゴとハマグリが主体で、ほかにこの両種と同じ漁場で採取可能なものが少しずつ混入している。やはり数は多くないが、淡水産の貝類であるカワニナとタニシ科も検出された。

#### 笹目沢遺跡 7号竪穴住居跡

住居跡の覆土中層（3層上部）に入った小規模な混貝土層ブロックを全量サンプリングしたものである。便宜上4つに分割して採取されているが、量が極めて少ないので1カットとして扱う。混貝土層には土器の大破片が伴っている。

貝類はイボキサゴが圧倒的に多く、やや多めに出たのはハマグリ、シオフキ、ウミニナ属、マテガイである。ウミニナ属はイボキサゴのかき集め採取に伴って混獲されたものであろう。なお、イボキサゴを中心として、貝殻が灰色に変色するほど強く火を受けているものが多い。2mmメッシュ以下に細かい破片が大量に検出された。

#### 笹目沢遺跡 8号竪穴住居跡

土器の集中に伴ってA・Bとした2か所の貝層を検出した。サンプルはブロックごとに全量採取されたものである。Bブロックの途切れた部分は土器の集中をはさんで連続している。さらにAとBも同じ層位でごく近接しており、一連の廃棄による可能性が高い。貝種組成をみてもあまり差がない。

貝類は内湾砂底種と岩礁種が主体で、数は少ないが湾奥干潟種と淡水種もある。別々に持ち込まれたと思われる貝が混在しているのが特徴である。後に述べるようにウミニナ属は混獲でなく、食用に持ち込まれたものと推定される。

#### 種ヶ谷津遺跡 103号住居跡

住居跡の北隅から廃棄されたと思われる径約20cm、厚さ5cm未満のごく小さな貝ブロックである。貝の部分全量サンプリングしている。貝は残りの悪い大型ハマグリ破片のみである。

#### 種ヶ谷津遺跡 SX01

10Q-33グリッドで奈良時代の土器とともに検出された貝ブロックである。貝と土のほか、焼土・灰・炭化材が混じる。二枚貝の中に焼土・灰・炭・火を受けた破砕貝がびっしり詰まった状態のものが多かったことから、貝と焼土等と一緒に廃棄されたものであろう。サンプルは全量一括採取したものである。

貝類はハマグリとシオフキが主体で、ほかにこれらと同じ海岸で採取できる種が幾らか見られる。貝種に関係なく二次的に火を受けた痕跡をもつ個体が多い。

#### 大道遺跡 4号竪穴住居跡

住居跡の柱穴内貝層である。どの柱穴に入っていたかは特定できない。貝層の規模やサンプルの採取量は不明であるが、小さな貝ブロックを全量一括採取したものであると思われる。ハマグリ18、シオフキ5のほかアサリ・アカニシの破片があった。

#### 大道遺跡 1号土坑跡

土坑の底面に堆積した貝層を一括採取したものとみられる。貝層の位置や規模の記録はない。貝種組成はハマグリ2、シオフキ1、アカニシ1、マガキ片であった。

ウ 貝類の組成比率

比較的個体数のまとまった4つのサンプルについて、生息環境別にみた組成表とグラフを示した。組成はそれぞれ異なっていてバラエティーに富んでいる。

検出した貝を生息環境によってa内湾砂底種、b岩礁種、c淡水種、d湾奥干潟種の4つに分けて特徴を述べてみたい。ただし、湾奥干潟種としたマガキは内湾砂底でも若干生息しており、個体数が少ない場合には漁場を特定するのは難しいため、表の対象から外している。

a. 内湾砂底種 今回あつかったすべてのサンプルで組成の中心となっている。おそらく遺跡からそれほど離れていない村田川の河口付近で採取したものであろう。イボキサゴとハマグリが最も好まれ、アサリ・シオフキガイ・マテガイも多く採っているのは、縄文時代から近世まで千葉市内の貝塚に共通する特徴である。

なお、笹目沢遺跡8号竪穴住居跡のウミナ属はほとんどの個体で殻の下半部が破壊されている。大きめの個体を採取し、身を取り出すために殻を叩いて割ったものと考えられる。これは古今を通じて見られる殻の先端を折断して殻口から身を吸い出す方法とは異なっており興味深い<sup>1)</sup>。

b. 岩礁種 岩礁種は笹目沢遺跡7・8号竪穴住居跡で見られた。同8号竪穴住居跡ではスガイがまわっており、サザエとコシダカガンガラも混じる。スガイはしばしば内湾のマガキに付着したものが遺跡に持ち込まれるが、本例では比較的大きなものが主体であることから、岩礁海岸で食用に採取されたものと考えて良い。古代に当遺跡の近くに岩礁性海岸が存在したことは考えられないので、今回発見された岩礁種はかなり遠くから運び込まれたことになる。サザエは殻に棘を持たないタイプで、比較的波の穏やかな岩礁海岸を想定できる。これらの条件に合うのは東京湾でいえば富津以南である。岩礁種は千葉市高沢遺跡の6世紀のサンプルでも見つかっており、古代の段階で、かなり遠くまで鮮魚類が流通した可能性をうかがうことができる。

c. 淡水種 淡水種は個体数が少ないが4サンプルのうち3つで見られる。笹目沢遺跡6号竪穴住居跡ではカワニナとタニシ類がやまとまっている。タニシは種レベルの同定は難しかったが、判明したものはマルタニシである。

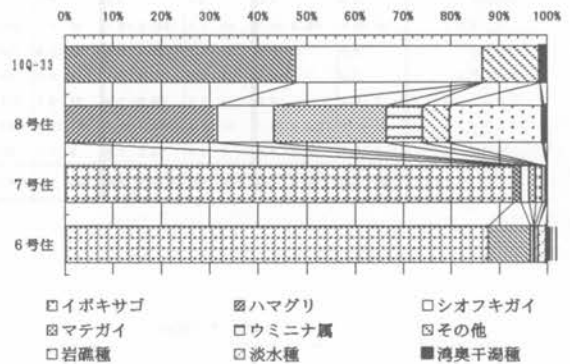
エ 計測値 (第28図)

二枚貝の平均はハマグリは60mm、アサリとシオフキガイは45mm~50mmと大きめであるが、ばらつきも大きい。笹目沢遺跡8号竪穴住居跡のウミナ属は殻が破壊されていて計測復元値も含めた計測個体33点の平均が28.76mmとかなり大きい。

第4表 生息環境別にみた貝種組成表

		種ヶ谷津 100-33	笹目沢 8号住	笹目沢 7号住	笹目沢 6号住
内湾砂底種	イボキサゴ		0	3355	1038
	ハマグリ	32	309	64	105
	シオフキガイ	26	114	63	8
	マテガイ		225	48	0
	ウミナ属		74	49	4
	その他	8	55	25	8
岩礁種		0	188	11	0
淡水種		0	4	3	21
湾奥干潟種		1	6	1	1
合計		67	975	3619	1185

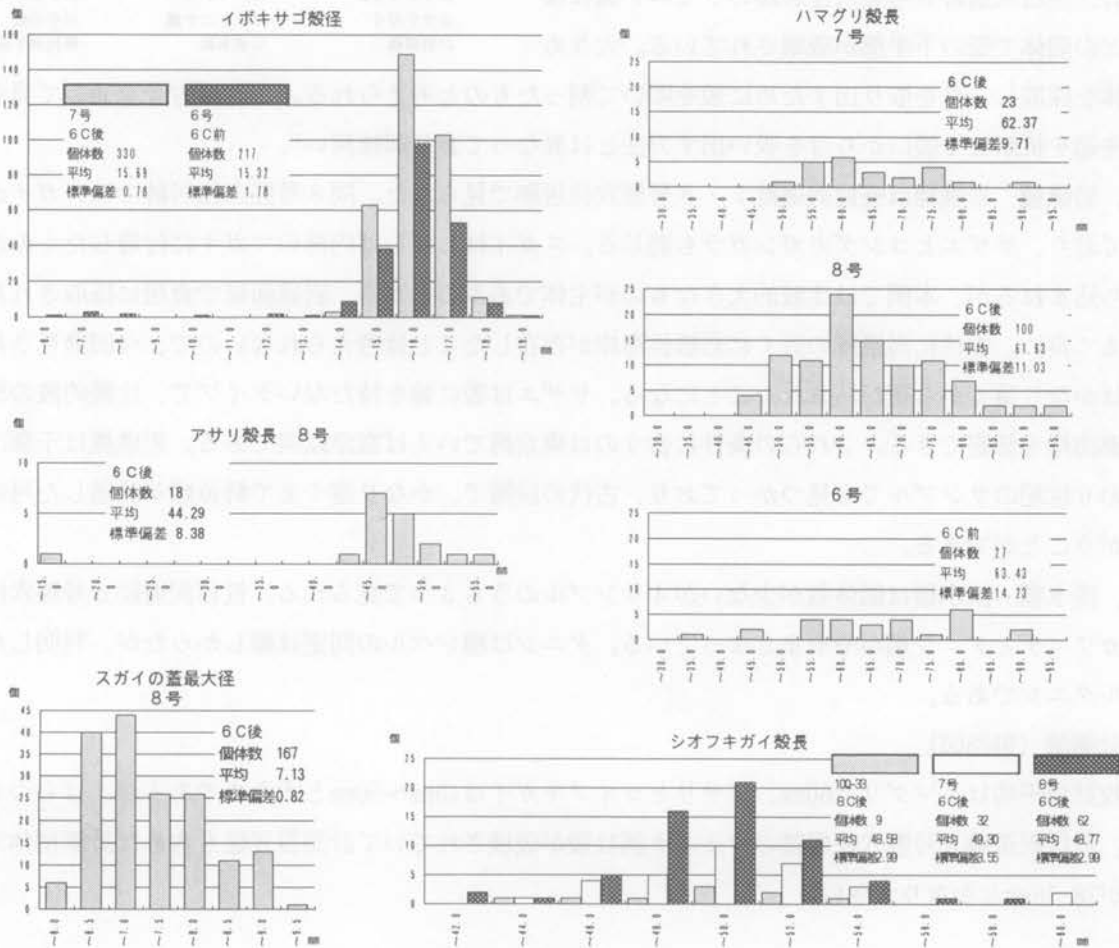
ツボミガイ、マガキおよび種不明は対象外



注1 西野雅人 1997「ウミナノの身を取り出す2つの方法」『研究連絡誌第50号』

第5表 種ヶ谷津・笹目沢遺跡貝種同定表

種ヶ谷津100-33 ①	笹目沢7号		笹目沢8号①		笹目沢8号②		笹目沢6号①		笹目沢6号②		笹目沢6号③	
	個体数 (%)	重量g (%)	個体数 (%)	重量g (%)	個体数 (%)	重量g (%)	個体数 (%)	重量g (%)	個体数 (%)	重量g (%)	個体数 (%)	重量g (%)
ツボミガイ	0.0	0.0	1 0.0	0.1 0.0	5 1.0	0.3 0.0	3 0.6	0.1 0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
インダタミガイ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0 0.0	0.7 0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
コシダカガンカウ	0.0	0.0	3 0.1	4.2 0.1	0.0	0.0	6 1.3	9.4 0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
イボキサゴ	0.0	0.0	3256 92.7	1636.3 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	353 89.1	206.6 15.9	561 87.9	371.7 17.9
サザエ	0.0	0.0	5 0.1	17.0 0.3	3 0.6	7.7 0.1	9 1.9	79.4 0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
スガイ	0.0	0.0	3 0.1	6.8 0.1	103 20.4	100.0 1.4	66 13.8	87.7 1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
タニシ科	0.0	0.0	3 0.1	1.1 0.0	0 0.0	0.9 0.0	4 0.8	4.4 0.1	3 0.8	1.5 0.1	0 0.0	0.7 0.0
オオヘビガイ	0.0	0.0	0.0	0.0	1 0.2	0.2 0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カウニナ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1 0.3	0.9 0.1	17 2.7	24.1 1.2
ウミナガ	0.0	0.0	49 1.4	36.0 0.7	51 10.1	356.8 5.1	23 4.8	77.3 0.9	1 0.3	2.6 0.2	2 0.3	0.7 0.0
ツメタガイ	1 1.5	13.8 0.8	3 0.1	27.4 0.6	1 0.2	24.4 0.3	4 0.8	31.5 0.4	1 0.3	10.3 0.8	1 0.2	4.4 0.2
アカニシ	0 0.0	1.9 0.1	0 0.0	5.4 0.1	0 0.0	8.5 0.1	1 0.2	16.4 0.2	1 0.3	12.6 1.0	0 0.0	11.9 0.6
アラムシロガイ	0 0.0	0.0	17 0.5	4.5 0.1	1 0.2	0.3 0.0	1 0.2	0.4 0.0	0.0	0.0	3 0.5	0.5 0.0
マキガイ綱	0 0.0	0.8 0.0	0 0.0	4.9 0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マガキ	1 1.5	4.9 0.3	1 0.0	20.6 0.4	2 0.4	32.5 0.5	4 0.8	73.9 0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
バカガイ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1 0.2	9.1 0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
シオフキガイ	26 38.8	408.4 23.7	63 1.7	939.0 19.1	56 11.1	958.2 13.7	58 12.2	902.8 10.4	2 0.5	17.3 1.3	3 0.5	76.6 3.7
マテガイ	0.0	0.0	48 1.3	127.7 2.6	99 19.6	156.4 2.2	126 26.4	286.3 3.3	0 0.0	2.9 0.2	0 0.0	0.2 0.0
カガミガイ	0.0	0.0	1 0.0	53.2 1.1	1 0.2	64.4 0.9	4 0.8	242.3 2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
アサリ	7 10.4	0.0	4 0.1	64.0 1.3	32 6.3	571.0 8.2	9 1.9	116.7 1.3	0 0.0	9.1 0.7	1 0.2	20.7 1.0
ハマグリ	32 47.8	1207.3 70.2	64 1.8	1876.7 38.2	151 29.8	4852.2 66.6	158 33.1	6027.7 76.0	34 8.6	1019.7 78.4	50 7.8	1568.3 75.3
二枚貝類	0 0.0	83.4 4.8	0 0.0	92.2 1.9	0 0.0	55.0 0.8	0 0.0	153.4 1.8	0 0.0	17.7 1.4	0 0.0	2.0 0.1
合計	67 100	1720.5 100	3620 100	4917.1 100	506 100	6988.8 100	477 100	8719.5 100	396 100	1301.2 100	638 100	2081.8 100



第28図 貝類計測値分布



第6表 笹目沢遺跡出土土器観察表

遺構No	挿図No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
1号住居	18-1	土師器	杯	13.5	5.3		70	10YR 1.7/1	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ミガキ
1号住居	18-2	土師器	杯	14.2	4.8		25	5YR 4/6	10R 4/6	10YR 1.7/1	赤彩	
1号住居	18-3	土師器	杯	14.3	5.4		85	5YR 6/6	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
1号住居	18-4	土師器	杯	12.3	4.25		20	5YR 5/6	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ミガキ
1号住居	18-5	土師器	鉢	12.3	6		85	10YR 7/6	7.5YR 6/6	2.5YR 5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
1号住居	18-6	土師器	鉢	8.9	6.1		100	5YR 5/6	10R 5/8	5YR 5/6	赤彩	
1号住居	18-7	土師器	手捏		2.1+	2.2	90	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6		外面ヘラナデ
1号住居	18-8	土師器	杯	9	2.9	5.4	40	7.5YR 5/6	7.5YR 5/6	7.5YR 5/6	小型	外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
1号住居	18-9	土師器	甕	11.5	16.8+		80	7.5YR 7/6	10R 5/8	7.5YR 7/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
1号住居	18-10	土師器	鉢	16.4	4.8+		35	10R 5/8	10R 5/8	10R 5/8		外面ヘラケズリ
1号住居	18-11	土師器	甕	(16.45)	12.6		20	7.5YR 7/6	2.5YR 6/8	7.5YR 6/6		外面ヘラケズリ後内面ヘラナデ
1号住居	18-12	土師器	甕	20.2	25.7	7.9	100	2.5YR 6/8	2.5YR 6/8	5YR 5/6		内外面ヘラケズリ後ナデ
1号住居	18-13	土師器	甕	15.3	21.5	7.2	95	7.5YR 6/6	7.5YR 3/1	2.5YR 4/8		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ヘラケズリ
1号住居	18-14	土師器	甕	16.8	29.3	7.7	50	5YR 7/8	2.5YR 6/8	2.5YR 5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
2号住居	18-1	土師器	甕	15.6	24.2	6.6	85	5YR 6/8	5YR 5/8	5YR 5/6		外面ヘラケズリ
2号住居	18-2	土師器	杯	(11.8)	3.4+		20	7.5YR 6/3	2.5YR 6/8	2.5YR 6/8	赤彩?	内外面ヘラナデ
2号住居	18-3	土師器	杯		4.5+		80	5YR 6/6	2.5YR 5/6	2.5YR 4/8	赤彩?	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
2号住居	18-4	土師器	鉢	(22.6)	3.6+		10	5YR 6/6	7.5YR 5/4	5YR 6/6		外面ミガキ・内面ナデ
3号住居	19-1	須恵器	蓋	14	4.5	4.8	70	10BG 5/1	10BG 5/1	10BG 5/1		ロクロ成形・天井部ヘラケズリ
3号住居	19-2	須恵器	蓋	15.8	4.5	8.4	30	10BG 5/1	10BG 5/1	10BG 5/1		ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ
3号住居	19-3	土師器	杯	14.6	3.6		65	10YR 7/6	10YR 7/6	10YR 7/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
3号住居	19-4	土師器	杯	15.5	4.3		90	10YR 7/3	10YR 3/2	10YR 3/2	黒斑あり	外面ケズリ後ナデ一部ミガキ・内面ナデ後ミガキ
3号住居	19-5	土師器	杯	14.2	4.6		90	7.5YR 4/3	7.5YR 4/3	7.5YR 4/3	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
3号住居	19-6	土師器	杯	14.2	3.5+		85	5YR 7/6	10R 6/8	10R 6/8		外面ヘラケズリ
3号住居	19-7	土師器	杯	14.8	3.7		30	5YR 6/4	5YR 6/4	5YR 6/4	赤彩	
3号住居	19-8	土師器	杯	14.4	4.3+		45	10YR 8/6	5YR 7/8	10YR 8/6	赤彩	ロクロ成形
3号住居	19-9	須恵器	杯	(13.2)	3		10	N 5/0	N 5/0	N 5/0		
3号住居	19-10	須恵器	杯	(15.8)	4.1+		20	5YR 6/1	N 5/0	N 5/0		ロクロ成形・底外回転ヘラケズリ
3号住居	19-11	須恵器	杯	16	4.5+	13	30	5G 5/1	5G 5/1	5G 5/1		
3号住居	19-12	土師器	杯	14.7+	4.4+		60	5YR 6/6	5YR 6/6	5YR 6/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
3号住居	19-13	土師器	杯	13.4+	4.6+		35	5YR 6/6	10YR 7/6	5YR 7/8	赤彩	
3号住居	19-14	土師器	杯	11	5		100	7.5YR 5/4	10R 5/8	10R 5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
3号住居	19-15	土師器	杯	13.6+	5.1		70	10YR 7/6	10YR 6/3	10YR 6/3	黒斑あり	
3号住居	19-16	土師器	杯	10.8	4.7		45	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
3号住居	19-17	土師器	杯	11.2	3.8		25	7.5YR 8/6	7.5YR 8/6	7.5YR 8/8		
3号住居	19-18	土師器	杯	13.9	5.2		95	7.5YR 7/8	10YR 7/6	7.5YR 7/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ミガキ
3号住居	19-19	土師器	杯	14.1	4.8		85	5YR 6/6	10R 5/6	10R 5/6	赤彩	
3号住居	19-20	土師器	杯	14.3	5.3		80	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
3号住居	19-21	土師器	杯	(14.8)	5.7+		20	10YR 7/6	10YR 7/6	10YR 7/6	赤彩	
3号住居	19-22	土師器	杯	12	4.2		100	7.5YR 5/4	7.5YR 5/4	7.5YR 5/4	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・杯部ミガキ・脚部ヘラケズリ
3号住居	19-23	土師器	高杯		3.9+		20	10YR 7/3	10YR 7/3	10YR 7/3	赤彩	
3号住居	19-24	土師器	高杯		2.3+	(9.4)	5	10R 8/4	10R 8/4	10R 8/4		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ヘラケズリ
3号住居	19-25	土師器	鉢	(15.8)	6.4+		10	10YR 7/6	10YR 7/6	10YR 7/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
3号住居	19-26	土師器	甕	(18.0)	5.8+		5	10YR 8/4	10YR 8/4	10YR 2/1	搬入品	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
3号住居	19-27	土師器	甕	(18.5)	7.5+		10	5YR 6/6	5YR 6/6	10R 5/6		外面ヘラケズリ・内面ナデ
3号住居	19-28	土師器	甕		14.5+	10.4	10	5YR 4/6	5YR 4/6	5YR 4/6		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ一部ヘラケズリ
4号住居	19-1	土師器	杯	(12.4)	3.4+		20	7.5YR 7/8	10R 5/8	10R 5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
4号住居	19-2	土師器	杯	13.4	5.9		40	10YR 7/6	10YR 7/6	10YR 7/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ミガキ
4号住居	19-3	土師器	杯	(14.0)	5.7+		20	5YR 6/6	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデの後一部ミガキ
4号住居	19-4	土師器	杯	(14.9)	4.2+		20	10YR 6/3	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
4号住居	19-5	土師器	高杯		5.4+	10.3	25	10YR 7/4	10YR 7/4	10R 5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
4号住居	19-6	土師器	甕	12.6	(18.5)	5.7	85	7.5YR 3/1	7.5YR 3/1	7.5YR 3/1		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
4号住居	19-7	土師器	甕	16.6	12.6+		70	7.5YR 6/6	10R 5/8	7.5YR 6/6		

遺構No	挿図No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
4号住居	19-8	土師器	甕		7.9+	6.4	15	5YR 4/8	2.5YR 4/8	5YR 4/8		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
5号住居	20-1	須恵器	杯	(11.0)	(5.0)		15	7.5YR 6/1	N 5/0	7.5Y 6/1		ロクロ成形
5号住居	20-2	土師器	鉢	14.4	6.7		90	2.5YR 5/8	5YR 5/6	5YR 5/6		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
5号住居	20-3	土師器	高杯	13.6	9.9	8.8	80	7.5YR 6/6	7.5YR 4/4	7.5YR 4/4		杯部外面ヘラケズリ後ミガキ内面ナデ 脚部ヘラケズリ裾部ヨコナデ
5号住居	20-4	土師器	高杯	2.5	3.9+	9.4	10	7.5YR 6/6	10R 5/8	脚柱部2/1	赤彩	脚部内外面ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ、底部工具痕あり
5号住居	20-5	土師器	甕		5.3+		50	5YR 6/6	2.5YR 5/6	5YR 6/6		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
5号住居	20-6	土師器	甕		5.3+	6.6	10	5YR 6/6	7.5YR 6/6	5YR 6/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ後ミガキ
6号住居	20-1	須恵器	杯	11.4	4.3		50	7.5Y 6/1	N5/6	7.5Y 6/1		ロクロ成形・底外回転ヘラケズリ
6号住居	20-2	須恵器	杯	12.4	5		50	7.5YR 6/1	N 6/0	N 6/0		
6号住居	20-3	土師器	杯	12.6	3.3		60	10YR 6/6	7.5YR 7/6	7.5YR 7/6		外面ラケズリ後内外面ナデ
6号住居	20-4	土師器	杯	14.5	5.1+		40	7.5YR 7/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	
6号住居	20-5	土師器	杯	13.9	5.7		80	7.5YR 6/6	2.5YR 5/8	2.5YR 5/8	赤彩	
6号住居	20-6	土師器	杯	13.7	4.4		40	2.5YR 5/6	10R 5/8	10R 5/8	赤彩	底部木葉痕
6号住居	20-7	土師器	杯	13.6	5.3		70	10YR 6/7	2.5YR 6/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
6号住居	20-8	土師器	杯	(11.8)	4.7+		20	7.5YR 5/6	7.5YR 5/6	7.5YR 5/6		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
6号住居	20-9	土師器	杯	15.4	5.8+		40	2.5YR 5/6	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ、接合痕あり・内面ナデ
6号住居	20-10	土師器	杯	15.2	5.5		80	5YR 6/6	2.5YR 5/6	2.5YR 5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
6号住居	20-11	土師器	杯	12.3	5.1	8	60	5YR 6/8	2.5YR 5/8	2.5YR 5/8	赤彩・底部線刻	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラミガキ
6号住居	20-12	土師器	高杯	13.6	4.8+		40	5YR 5/3	10R 4/6	10R 4/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
6号住居	20-13	土師器	高杯		8.7+	9.9	80	7.5YR 6/6	5YR 5/6	5YR 5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ、脚部先端ヨコナデ・内面杯部ナデ、脚部ヘラケズリ
6号住居	20-14	土師器	高杯		4.7+	9.7	60	7.5YR 6/4	10R 5/8	5YR 6/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ、先端部ヨコナデ・内面ヘラケズリ
6号住居	20-15	土師器	高杯		5.1+	10	40	10YR 7/6	2YR 6/8	10YR 5/4	赤彩	外面先端部ヨコナデ、脚部ヘラケズリ後ナデと粗いミガキ・内面ヘラケズリ後ナデ
6号住居	20-16	土師器	鉢	14.7	7.7	5	30	5YR 6/6	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
6号住居	20-17	土師器	鉢	13.4	9.6	4.8	40	5YR 6/6	10R 5/8	7.5YR 4/3	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ケズリ後ナデ(ハケ目)
6号住居	20-18	須恵器	甕	17.2	29.4	6.4	95	10R 5/6	10R 5/6	10R 5/6		外面ヘラケズリ・内面ケズリ後ナデ(ハケ目)
6号住居	20-19	土師器	甕	(13.2)	12.7+		20	10YR 6/6	10YR 6/6	10YR 6/6		外面ヘラケズリ後内面ナデ
6号住居	20-20	土師器	甕		20.3+	7	50	7.5YR 6/6	5YR 4/6	10R 4/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ、輪襷み痕あり
6号住居	20-21	土師器	甕	25.4	20.6+		25	7.5YR 6/6	7.5YR 6/6	5YR 6/6		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
6号住居	21-22	土師器	甕	9	5.4+		15	10YR 6/6	7.5YR 6/6	10YR 6/6		
6号住居	21-23	土師器	甕	12.8	4.8+		25	2.5YR 6/8	10R5/8	10R5/8	B	
6号住居	21-24	土師器	壺	8.4	6.6+		60	5YR 6/6	10R 5/8	10R 5/8	赤彩	
6号住居	21-25	土師器	甕	21	13.9+	6.5	30	5YR 5/6	5YR 5/8	10YR 1.7/1		内外面メズリ後ナデ
6号住居	21-26	土師器	甕	15	25.5	6.5	20	2.5YR 5/6	5YR 6/8	2.1YR 6/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
7号住居	21-1	須恵器	蓋	(14.0)	2.8+		5	10Y 5/1	10Y 5/1	10Y 5/1		ロクロ成形・天井部ヘラケズリ
7号住居	21-2	須恵器	蓋	(10.6)	3.1+		10	10G 5/1	10G 5/1	10G 5/1		
7号住居	21-3	須恵器	壺蓋	(15.8)	1.9+		10	N 5/0	N 5/0	N 5/0		ロクロ成形
7号住居	21-4	土師器	杯	12.7	5.1		50	10YR 7/6	10YR 7/6	5YR 6/8		外面ケラケズリ後内外面ナデ
7号住居	21-5	土師器	杯	12.9	5.4		60	10YR 7/6	5YR 6/8	2.5YR 6/8		
7号住居	21-6	土師器	杯	15.1	6		90	5YR 6/6	7.5YR 6/6	2.5YR 6/8	赤彩	
7号住居	21-7	土師器	杯	(14.0)	3.7+		10	10YR 7/6	10YR 7/6	10YR 7/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ工具痕あり
7号住居	21-8	土師器	杯	11.4	5.4	7.8	100	10YR 7/4	10YR 7/4	10YR 7/4	赤彩	外面ヘラケズリ後ヘラナデ・内面ヘラミガキ
7号住居	21-9	土師器	杯	(15.2)	4.8+	12.6	20	7.5YR 7/6	7.5YR 7/6	7.5YR	赤彩	外面ヘラケズリ後内外ヘラミガキ
7号住居	21-10	土師器	杯	(16.0)	5.6+	8	20	5YR 5/4	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラミガキ
7号住居	21-11	土師器	杯	13	4.5		0	5YR 5/6	10R 4/8	10R 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ・底部木葉痕
7号住居	21-12	土師器	杯	(13.3)	3.9+		20	5YR 6/6	10YR 4/8	10YR 4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
7号住居	21-13	土師器	杯	12.6	5.2		90	5YR 6/6	10R 5/8	10R 5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後一部ナデ、内面ヘラナデ
7号住居	21-14	土師器	鉢	12.4	5.8		70	7.5YR 6/6	7.5YR 3/3	7.5YR 5/4	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
7号住居	21-15	土師器	鉢	12.2	6+		40	7.5YR 5/6	7.5YR 5/6	10R 4/8	赤彩	
7号住居	21-16	土師器	鉢	12.7	5.6	5.6	80	2.5YR 5/8	2.5YR 5/8	2.5YR 5/8		

遺構No	棟図No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
7号住居	21-17	土師器	高杯	15	8.6	8.6	80	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ナデ
7号住居	21-18	土師器	高杯		5.2+	11.8	30	10YR3/2	10YR3/2	10YR3/2		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
7号住居	21-19	土師器	高杯		2.6+	(10.0)	5	10YR6/4	10YR6/4	10YR6/4		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ、ヘラ痕あり
7号住居	21-20	土師器	鉢	11.8	8+		25	10YR6/4	2.5YR5/6	10R5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
7号住居	21-21	土師器	鉢	12.4	8.8	5.1	93	10R5/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
7号住居	21-22	土師器	甕	15.6	10.2+		40	5YR6/6	2.5YR5/6	10YR5/6	黒斑あり、 内外とも黒 味帯びる	内外面ヘラケズリ後ナデ
7号住居	21-23	土師器	甕	22.8	24.1	6.6	85	2.5YR	2.5YR5/8	10R5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
7号住居	22-24	土師器	甕	19.3	17.8+		60	5YR5/6	2.5YR5/8	5YR6/8		
7号住居	22-25	土師器	甕	(16.7)	5.2+		10	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/4		外面ヘラケズリ一部ナデ・内面ヘラナデ
7号住居	22-26	土師器	甕		3.8+	5.8	40	2.5YR5/8	2.5YR4/8	7.5YR2/2		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
8号住居	22-1	須恵器	蓋	12.3	4.5		80	N5/0	2.5GY6/1	N5/0		ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ
8号住居	22-2	須恵器	蓋	13	3.8+		15	2.5YR5/2	N5/0	N4/0		
8号住居	22-3	土師器	杯	14	6.1		30	5YR6/4	10R4/6	10R4/6	赤彩	外面ヘラケズリ後外面ナデ
8号住居	22-4	土師器	杯	14.7	6.2+	8	30	5YR6/6	10YR1.7/1	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
8号住居	22-5	土師器	杯	16	5.3	7.2	30	2.5YR5/8	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ、ヘラ痕あり・内面ナデ
8号住居	22-6	土師器	杯	10.2	4.5	13.7	55	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ナデ
8号住居	22-7	土師器	杯	12.3	5.6		70	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6		器面が非常に荒れているため調整不明
8号住居	22-8	土師器	杯	(13.4)	4.4+		20	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
8号住居	22-9	土師器	鉢	(12.0)	4.1+		20	7.5YR6/6	5YR5/6	5YR5/6		
8号住居	22-10	土師器	杯	14	6.9	18	60	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ミガキ
8号住居	22-11	土師器	杯	19.8	6.2+	10.5	25	5YR6/5	10R4/8	10R4/8	赤彩	
8号住居	22-12	土師器	高杯	14.8	9.6	9.9	70	10YR7/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ナデ
8号住居	22-13	土師器	高杯		5.4+	(8.9)	10	2.5YR6/8	10R5/8	2.5YR6/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラケズリ
8号住居	22-14	土師器	甕	(17.4)	5+		10	5YR5/6	5YR5/6	10YR17/1		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ、工具痕あり
8号住居	22-15	土師器	甕	(20.0)	4.1+		10	2.5YR6/8	2.5YR5/8	5YR5/6		内外面ヘラケズリ後ナデ、工具痕あり
8号住居	22-16	土師器	甕	(10.8)	8.5+		10	7.5YR6/6	7.5YR6/6	2.5YR6/8		内面ヘラケズリ後ナデ・内面胴上半部 ヘラナデ
8号住居	22-17	土師器	甕		2.8+	9	10	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6		外部ケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
9号住居	23-1	土師器	杯	13.3	4.8+	18	25	2.5YR6/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
9号住居	23-2	土師器	杯	(12.6)	3.7+		20	10YR7/3	10R5/8	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内外面ミガキ
9号住居	23-3	土師器	杯	13.6	4.6		40	10YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ミガキ
9号住居	23-4	土師器	杯	13.6	4.9+		30	10YR6/6	10YR6/6	10YR6/6	赤彩	
9号住居	23-5	土師器	鉢	13.3	9.3	5.5	90	10R5/6	10R5/8	5YR5/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
9号住居	23-6	土師器	甕		3+	6	10	10YR3/2	10R4/6	10YR3/2		外面ヘラケズリ・内面ナデ
9号住居	23-7	土師器	甕	(27.2)	5.7+		10	5YR5/6	2.5YR5/8	5YR5/6	把手あり	
9号住居	23-8	土製品	手捏	3.6	1.9+		30	2.5YR4/4	10YR3/1	10YR3/2		内外面全面指頭痕あり
9号住居	23-9	土師器	鉢?		1.2+	4.2	10	5YR5/6	5YR5/6	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底部木葉痕
9号住居	23-10	土師器	甕	15.4	17+	24	35	7.5YR5/4	7.5YR4/3	7.5YR3/3		外面ヘラケズリ後内外連ナデ
10号住居	23-1	土師器	杯	12.3	5.4	4.6	50	2.5YR6/8	10R5/8	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ミガキ
10号住居	23-2	土師器	甕	22.6	30.7	6	95	10YR6/6	10YR6/6	10YR6/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
11号住居	23-1	須恵器	蓋	13.2	3.3+		15	N5/0	N5/0	N5/0		トクロ成形
11号住居	23-2	土師器	鉢	12.4	7.1+	8.5	40	7.5YR6/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
11号住居	23-3	土師器	高杯	14	7.6	9.4	95	10YR8/4	10YR8/4	10YR8/4	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ナデ
11号住居	23-4	土師器	高杯		2.1+	(10.0)	10	5YR6/8	2.5YR5/8	5YR6/8	裾部のみ	裾部内外面ヨコナデ、接合痕あり・脚部 内面ヘラケズリ、ヘラ痕あり
11号住居	23-5	土師器	高杯		5+	10.3	60	5YR6/6	10R5/6	5YR5/6	赤彩	脚部外面タテヘラケズリ後ナデ、内外面ヘラ痕 あり、杯部内面ミガキ、裾部ヨコナデ
11号住居	23-6	土師器	甕	16.5	12.1+		35	10YR6/6	5YR6/6	10YR6/6		外面ケズリ・内面ナデ
11号住居	23-7	土師器	甕		13.5+		10	5YR5/6	5YR4/6	5YR3/2		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
11号住居	23-8	土師器	甕	17.2	16.7+		45	10YR6/6	10YR6/6	10YR5/4		輪轆み痕あり
12号住居	24-1	土師器	杯	12.5	4		35	5YR6/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ミガキ
12号住居	24-2	土師器	杯	13.2	4.6	7.8	30	7.5YR6/6	10R5/8	2.5YR5/8	赤彩	
12号住居	24-3	土師器	杯	13	5		50	5YR6/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8	赤彩	
12号住居	24-4	土師器	杯	13.2	4.8+		25	7.5YR6/6	2.5YR4/8	2.5YR4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
12号住居	24-5	土師器	杯	14.6	4.9		100	10YR6/6	10R6/6	10R6/6		
12号住居	24-6	土師器	鉢		14+	5.3+	30	7.5YR6/6	10R5/8	10R5/8		
12号住居	24-7	土師器	鉢	12.6	6+		15	5YR5/6	2.5YR4/6	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ

遺構No	挿図No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
12号住居	24-8	土師器	甕		7.1+	6	20	5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6		外面ヘラケズリ・内面ハラナゲ
12号住居	24-9	土師器	甕	20	25.1	6.2	85	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面剥離が著しく不明
13号住居	24-1	土師器	杯	13.8	4.9	5.4	50	2.5YR6/8	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
13号住居	24-2	土師器	甕	(16.0)	6.3+		10	10YR7/6	10YR7/6	H1.7.1		内外面ケズリ後ナデ
14号住居	24-1	土師器	杯	13.4	4.2+		35	5Y6/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
14号住居	24-2	土師器	杯	13.9	4.7+		25	10YR6/3	10YR1.7/1	10R4/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ミガキ
14号住居	24-3	土師器	高杯	12.3	11.4	8.2	60	7.5YR6/6	7.5YR4/6	7.5YR4/6	赤彩	体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ミガキ、脚部内外面タテヘラケズリ後外面ナデ、脚部ヨコナデ
14号住居	24-4	土師器	高杯		4+		15	7.5YR6/6	10R5/8	5YR6/6	赤彩	杯部内面ミガキ、脚部内外ヘラケズリ後外面ナデ
14号住居	24-5	土師器	高杯		5+		10	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	赤彩	脚部内外面ヘラケズリ後外面ナデ、裾部ヨコナデ
14号住居	24-6	土師器	高杯		6.2+		20	7.5YR7/6	7.5YR6/6	7.5YR5/4	赤彩	
14号住居	24-7	土師器	鉢	12.8+	5.5+		80	10YR6/6	10YR6/6	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
14号住居	24-8	土師器	鉢	7.8	8.8+		35	7.5YR5/6	7.5YR5/6	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後ハラナデ・内面ハラナデ
14号住居	24-9	土師器	鉢	13.8+	7.7+		40	5YR5/4	5YR5/4	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
14号住居	24-10	土師器	鉢	17.4	7.7		60	7.5YR5/4	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ハラナデ・内面ハラナデ
14号住居	24-11	土師器	甕	22	14.1		35	10YR7/3	10YR7/3	5YR6/4	遠来	外面ヘラケズリ後・内面ハラナデ・外面に飛鉋状の痕跡
1号土坑	22-1	須恵器	高杯		7.6+	(4.4)	30	5YR5/3	N4/0	N2/0	自燃釉	ロクロ調整
1号土坑	22-2	土師器	高杯		7.4+		20	10YR6/7	10YR6/7	10YR6/7	赤彩	外面ヘラケズリ後ヨコナデ、内面ヘラケズリ
1号土坑	22-3	土師器	高杯		4.3+	(8.9)	20	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラケズリ
1号土坑	22-4	土師器	杯	13.7	5.4		85	5YR4/1	2.5YR6/8	2.5YR6/8	赤彩	内外面ナデ
1号土坑	22-5	土師器	甕	(13.0)	14+		20	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ハラナデ、工具跡あり
遺構外	24-1	須恵器	杯	14.2	3.3+		10	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7.5Y5/1		ロクロ成形・外面体部上半ヘラケズリ
遺構外	24-2	土師器	高杯		5.4+	9.5	20	10YR7/6	10R5/6	10YR7/6	赤彩	脚部内外面ヘラケズリ後外面ナデ、裾部ヨコナデ
遺構外	24-3	土師器	鉢	(11.5)	4.3+		15	7.5YR6/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
遺構外	24-4	土師器	小形甕	(10.6)	6.6+		15	7.5YR7/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	
遺構外	24-5	土師器	甕	(15.0)	5.1+		10	5YR6/6	5YR5/6	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ハラナデ
遺構外	24-6	土師器	甕		3.6+	9.7	10	7.5YR6/3	7.5YR6/3	7.5YR6/3		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
遺構外	24-7	須恵器	杯	12.3	4	5.6	65	5YR6/6	10YR4/3	10YR4/3		ロクロ調整

第7表 笹目沢遺跡出土鉄製品観察表

挿図No	器種	器形	種類	最大長(mm)	最大幅(mm)	厚み(mm)	重さ(g)	備考	遺構No
25-1	鉄製品	不明	4.8	9.8	3.8	4.18			3号住居跡
25-2	鉄製品	不明	6.2	9.0	3.8	5.89			3号住居跡
25-3	鉄製品	不明	3.6	12.0	1.8	1.30			8号住居跡

第8表 笹目沢遺跡出土土製品・石製品観察表

挿図No	器種	器形	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大孔径 (mm)	最小孔径 (mm)	重さ (g)	色調	備考	遺構No
26-1	土製品	土玉	14.5	17	5.2	2.1	3.9	10YR 5/3		3号住居跡
26-2	土製品	土玉	13.9	16.3	1.7	1.5	3.61	10YR 3/1		3号住居跡
26-3	土製品	土玉	23.4	26.5	6.1	5.1	14.22	5YR 2/1		1号住居跡
26-4	土製品	土玉	29.8	33.6+	6.9	5.2	16.32	7.5YR 6/6	1/2欠損	3号住居跡
26-5	土製品	土玉	27.8	34.9	7.4	3.5	33.96	2.5YR 6/8		3号住居跡
26-6	土製品	土玉	38.5	42.5	6.7	5.8	66.32	7.5YR 5/6		3号住居跡
26-7	土製品	土玉	32.2+	44.9	7.3		52.39	7.5YR 6/6	下端部欠損	3号住居跡
26-8	土製品	土玉	37.0+	41.1+	6.3	4.7	27.88	7.5YR 6/6	1/2欠損	3号住居跡
26-9	土製品	土玉	29.5	29.3+	7.6+		9.22	7.5YR 3/3	1/2弱	12号住居跡
26-10	土製品	土玉	27.1	28.8+	6.8		9.59	7.5YR 6/6	1/2弱	12号住居跡
26-11	土製品	土玉	32.9	33.5	12	6.3	32.16	2.5YR 6/8	完形	8号住居跡
26-12	土製品	土玉	26.6	32.4	8.5	5.3	26.5	2.5YR 4/6	完形	8号住居跡
26-13	土製品	管状土錘	33.7	25.5+	4.0		11.5	5YR 5/4	半分欠損	9号住居跡
26-14	土製品	管状土錘	33.5	34.5	15.0		24.38	5YR 5/	半分欠損	7号住居跡
26-15	土製品	管状土錘	57	32	12.5		68.33	5YR 5/6		13号住居跡
26-16	土製品	転用土器	36	29			5.77	7.5YR 5/4		13号住居跡
26-17	土製品	転用土器	33	28			6.58	5YR 5/6	赤彩	8号住居跡
26-18	土製品	転用土器	32	33			10.19	7.5YR 6/6	赤彩	3号住居跡
26-19	土製品	転用土器	57	45			17.45	5YR 5/6		12号住居跡
26-20	土製品	転用土器	46	28			11.6	5YR 5/6	赤彩	13号住居跡
26-21	土製品	転用土器	47	43			16.44	7.5YR 4/2		13号住居跡
26-22	土製品	不明	45	36			12.79	10YR 7/3		8号住居跡
26-23	石製品	砥石	88	30.5			5.82	7.5Y 6/1		13号住居跡
26-24	石製品	砥石	86	41			100.17	10YR 5/3		11号住居跡
26-25	石製品	紡錘車	45	15	7.5		20.67	7.5GY 4/1		4号住居跡
26-26	石製品	紡錘車	41.1	15	8.3		28.75	7.5GY 2/1		5号住居跡
26-27	石製品	臼玉	32	62	6.1	2.2	0.64	10GY 4/1		11号住居跡
26-28	石製品	軽石	7	48			15.49	2.5Y 8/3		3号住居跡
26-29	石製品	軽石	46	32			8.17	2.5Y 8/3		3号住居跡
26-30	石製品	軽石	48	26			10.04	2.5Y 8/3		3号住居跡
26-31	石製品	軽石	53	27			14.47	2.5Y 8/3		3号住居跡
26-32	石製品	軽石	49	34			12.31	2.5Y 8/3		3号住居跡
26-33	石製品	軽石	39	41			11.49	7.5YR 8/3	赤彩?	3号住居跡
26-34	石製品	軽石	25	29			2.25	2.5Y 8/3		3号住居跡

第9表 笹目沢遺跡出土支脚観察表

挿図No	器種	器形	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	重さ (g)	色調	備考	遺構No
27-1	土製品	支脚	17.2+	10.5	1265	7.5YR7/6	上下欠損	1号住居跡
27-2	土製品	支脚	10.8+	7.5	400	7.5YR7/6	上下欠損	3号住居跡
27-3	土製品	支脚	13.8	7	699	7.5YR7/6	下欠損	6号住居跡
27-4	土製品	支脚	8.3+	7.7	280	7.5YR7/6	上下欠損	6号住居跡
27-5	土製品	支脚	16.7	11.2	1385	7.5YR7/6		9号住居跡
27-6	土製品	支脚	14	7.8	815	7.5YR7/6		8号住居跡
27-7	土製品	支脚	11.9+	7	355	7.5YR7/6		14号住居跡
27-8	土製品	支脚	11.7+	7.2	325	7.5YR7/6	縦半分欠損	14号住居跡
27-9	土製品	支脚	23.3	15.4	1775	7.5YR7/6	下端欠損	12号住居跡

第10表 笹目沢遺跡出土遺物総破片数

遺構No	種類	時期	土 師 器											須 恵 器							陶磁器	土器以外			合計				
			杯	蓋	高杯	鉢	手押	甕					甌	壺	不明	杯	蓋	甕	甌	壺		高杯	不明	土製品		石製品	鉄製品		
								在地	常総	武蔵	小型	台付																	
1	住居	古後	129				1	419						24												4	13		590
2	住居	古後	392	1	8	2		1156						9												14	9	2	1634
3	住居	古後	33	1	1			82																		1			118
4	住居	古後	86		1			272			19															1			379
5	住居	古後	29		7	9		240								9										2	28		324
6	住居	古後	234		38	48		171			14			20		10		89								3	1		628
7	住居	古後	402		13	11		1100					25			6	4	7		3						5	2		1578
8	住居	古後	233		11		1	458					7	2			3									26		1	742
9	住居	古後	200		11	48		757					1			3	1									4	2		1027
10	住居	古後	25			5		101																		1			132
11	住居	古後	40		14	27		349			18					5										5	3		461
12	住居	古後	211		6	10		493								1										4	1		726
13	住居	古後	30					133																		4	1		168
14	住居	古後	177		10	53		370				5														19	10		644
1	土坑	古後	15		1	1		7												2									26
遺構外			543		14	9		1426					2	2	12	1	2									3	8	14	2036
合計			2779	2	135	223	2	7534	0	0	51	0	73	22	2	50	29	115	0	3	2	0	3	3	101	84	3	11213	

## 第3章 種ヶ谷津遺跡

### 第1節 調査の概要

本遺跡の調査対象範囲は、以前調査が行われた地点の間を埋める部分の調査となった。また、調査区の間には幾つかの小支谷が介在しており、このため調査区は3地点に分割される結果となった。3地点は西から順に1・2・3地点と呼称し、調査は平成5年度に第1地点・第2地点、平成6年度に第3地点を実施した。

検出された遺構は、古墳時代中・後期の竪穴住居跡5軒及び奈良・平安時代の土器集積遺構、ピット群1か所である。古墳時代の竪穴住居跡は第1地点から2軒、第2地点から1軒、第3地点からは古墳時代中期と後期が各1軒検出された。古墳時代の遺物は全体に少なく、総破片数は4,336点を数えた。各々の遺構から検出された遺物の組成については、図示できなかったものも含め、種類別の破片数を集計し掲載している（第13表）。

また、奈良・平安時代の遺構・遺物は第2地点でのみ認められた。奈良・平安時代の遺物の集中出土地点は、昭和58年に行われた調査でも、第2地点西側に隣接する地区で検出されている。前回の調査では、奈良時代の2か所の遺物集中地点が見つかり、その中から三彩陶器、鉄製儀鏡などが出土している。今回の調査でも、前回調査された遺物包含層の続きを調査し、同様に三彩陶器・金属製品等が多量の土器とともに出土している。

なお、調査の結果、古墳時代より古い時期の遺構は検出されなかったが、縄文時代の遺物は第1・2地点で加曽利E式土器、第3地点で前期後葉の土器片と石器がわずかに出土した（少量のため、第2章に併せて掲載した）。

### 第2節 古墳時代

#### 1. 遺構

##### 101号竪穴住居跡（第29図、図版11）

調査区の第1地点3S-00グリッドに位置し、主軸方位はN-78°-Eを示す。平面形はほぼ正方形を呈し、一辺は約6.5mを測る。残存壁高は10cm～58cmで、周溝は検出されなかった。支柱穴は4本で、柱間距離は3.2m×3.2m～3.0mを測り、やや縦方向が長い。カマドは東壁の南寄りに位置し、東南隅に貯蔵穴が設けられている。

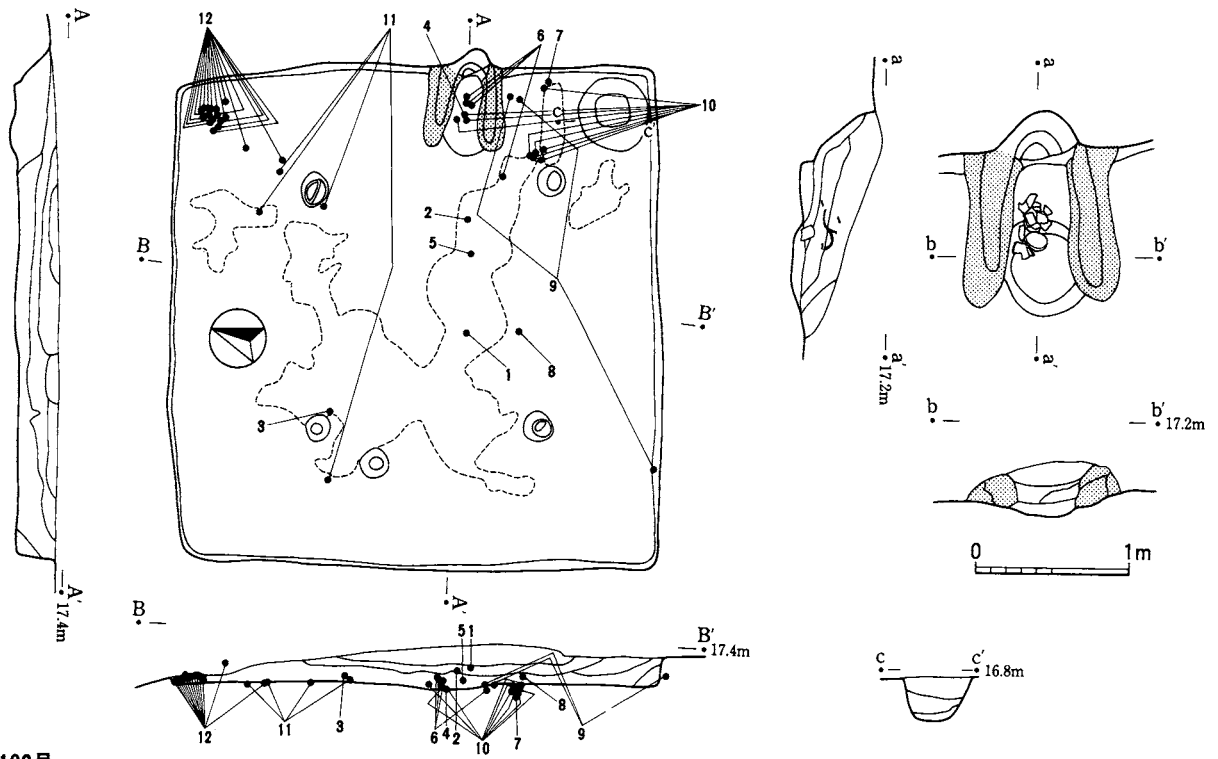
遺物はカマド周辺の床面に多く検出され、北東角付近からは、完形の甕が床面に置かれたままの状態出土している。なお、床面からはわずかに焼土が検出された。

##### 102号竪穴住居跡（第29図、図版11）

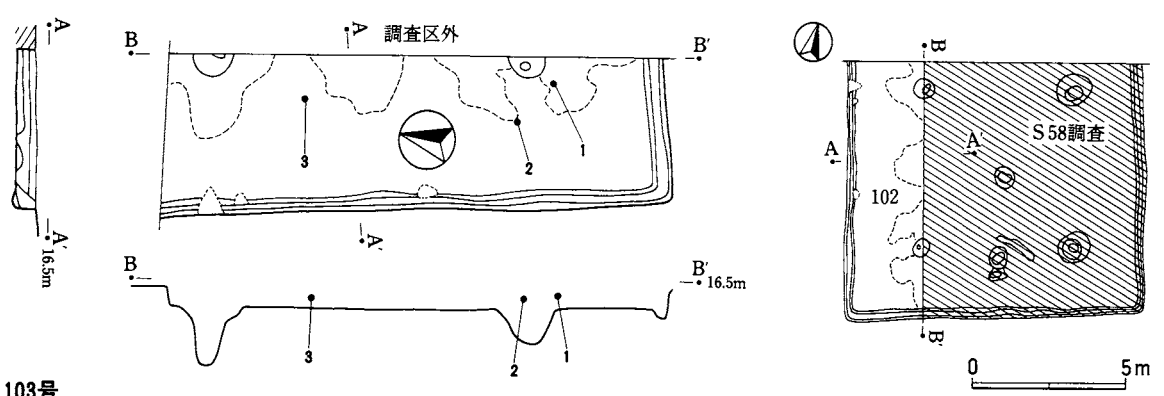
調査区の第1地点3R-31グリッドに位置する。本跡は、昭和58年の調査で東側部分のおよそ2/3がすでに調査され、B地点の4号住居として報告済みである。今回は残りの西側部の一部の調査である。推定規模は、一辺7.7mで、検出した支柱の柱間距離は4.1mを測る。残存壁高は22cm～32cmで、周溝も検出されている。カマド・貯蔵穴はいずれの調査でも見つかっていないが、住居跡の時期から考慮して、カマドは



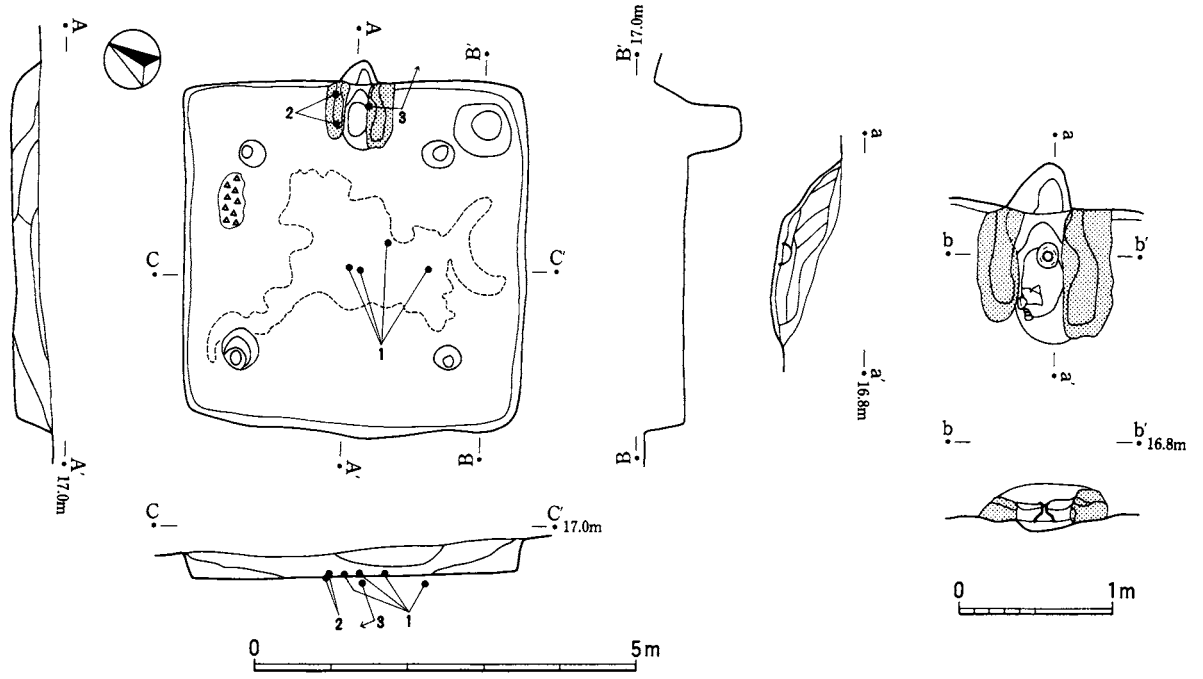
101号



102号

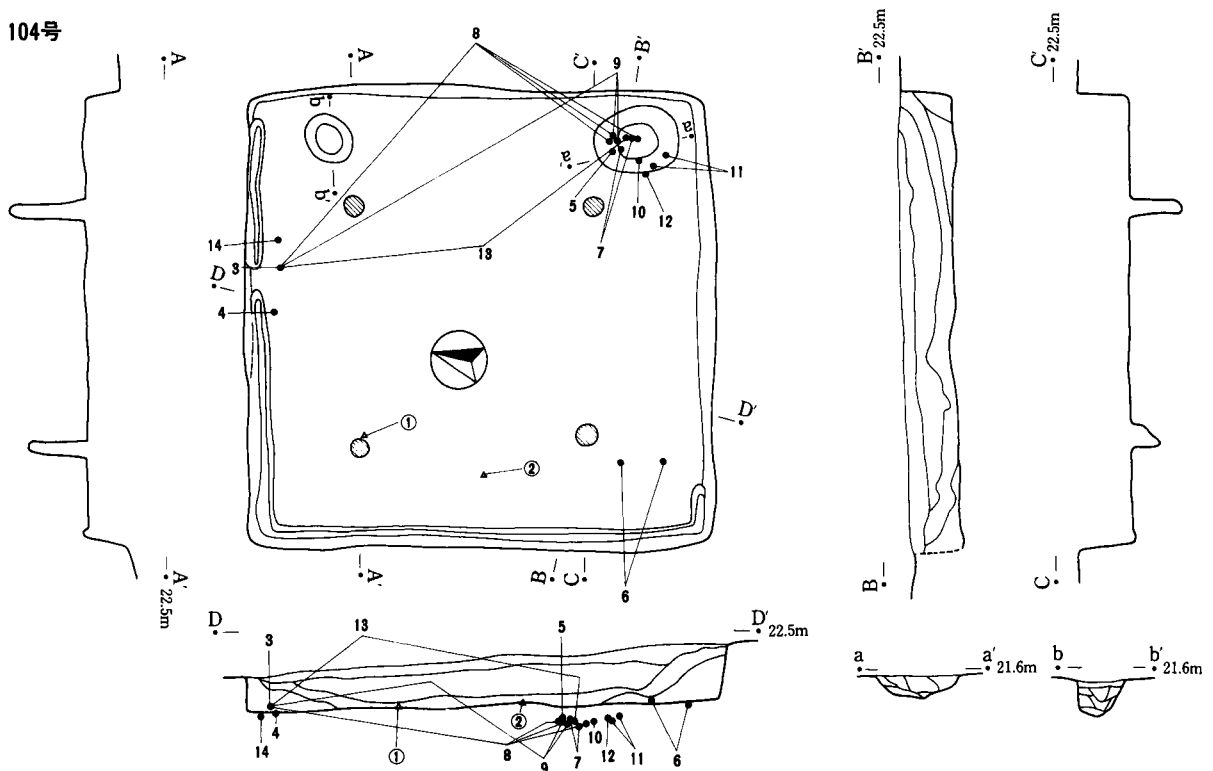


103号

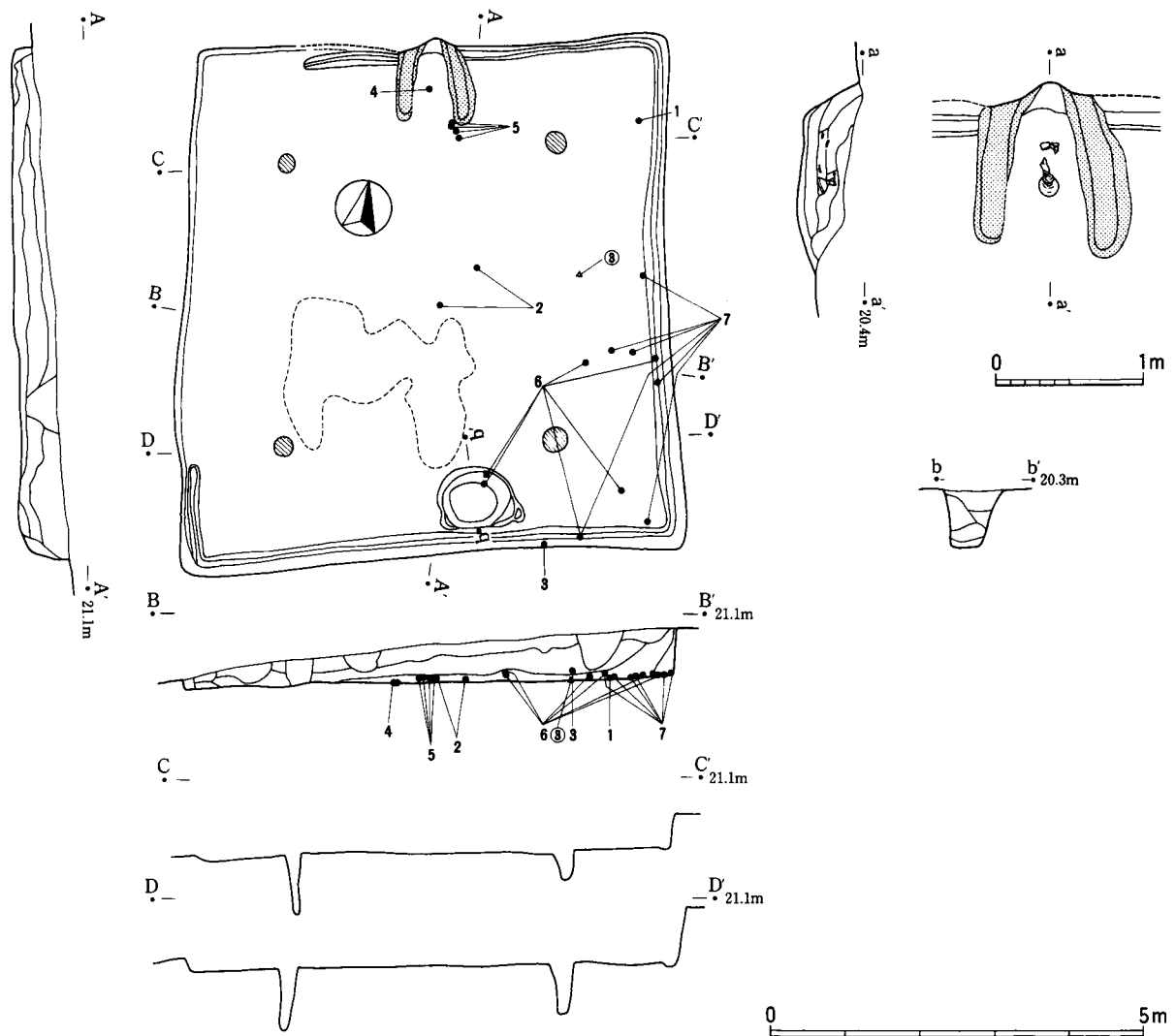


第29図 101・102・103号竪穴住居跡

104号



105号



第30图 104·105号竖穴住居跡

対向する北壁部分に作られていたと推定される。

遺物は、調査面積が少なかったためかほとんど出土しておらず、図示した遺物が床面から検出されたのみである。

#### 103号竪穴住居跡（第29図、図版12）

調査区第2地点10Q-33グリッドに位置し、主軸方位はN-65°-Eを示す。平面形はほぼ正方形を呈し、一辺約4.6m×約4.5mを測り、比較的小型の住居跡である。残存壁高は32cm～42cmで、周溝は検出されなかった。支柱は4本で、柱間距離は2.7m×2.6m～2.8mを測る。カマドは東壁中央に位置し、南東隅に貯蔵穴が設けられている。

遺物は主にカマドと床面中央部分から検出されているが、出土量は少ない。カマドには、高杯が伏せられた状態で検出されたが、高杯には火を受けた痕跡は確認できない。本跡の上層には奈良時代の土器集積遺構（SX01）が検出されている。

#### 104号竪穴住居跡（第30図、図版12）

調査区第3地点25R-01グリッドに位置する。炉や床の硬化面、入り口に伴うピット等は確認できなかったため、主軸方向は不明である。平面形はほぼ正方形を呈し、一辺約6.2m×約6.1mを測る。残存壁高は42cm～70cmで、北壁側と西壁側にのみ周溝が検出された。支柱穴は4本、柱間距離は3.2m～3.0m×3.1～3.0mのやや不規則な間隔である。柱は住居廃絶時に切り取られたようで、床面では堀形の範囲は検出されなかった。南東隅に深さ20cmほどの皿状の貯蔵穴が設けられ、炭・焼土とともに多くの土器が出土した。本来は、住居の中央付近に炉が検出される時期の住居であるが、可能性のある窪みや床面が焼けた痕跡は検出されなかった。

出土遺物のほとんどは貯蔵穴から出土し、ほかには床面の壁際からも若干検出されている。北東隅にもピットが確認されたが、ここからは遺物は出土していない。

#### 105号竪穴住居跡（第30図、図版12）

調査区第3地点24Q-22グリッドに位置し、主軸方位はN-10°-Wを示す。平面形はやや不正形な長方形を呈し、長軸約6.8m、短軸約6.6mを測る。残存壁高は14cm～60cmで、北壁・西壁の一部を除き周溝が巡っている。カマドは北壁中央部に位置し、カマドの対面の南壁中央部分のやや東寄りに、円形の貯蔵穴が設けられている。柱は住居廃絶時に切り取られたようで、床面では堀形の範囲は検出されず柱痕跡のみ確認することができた。

遺物は主に床面と、カマド内から出土している。カマド中央部の火床面からは、高杯が伏せられた状態で出土している。高杯に火を受けた痕跡は認められない。

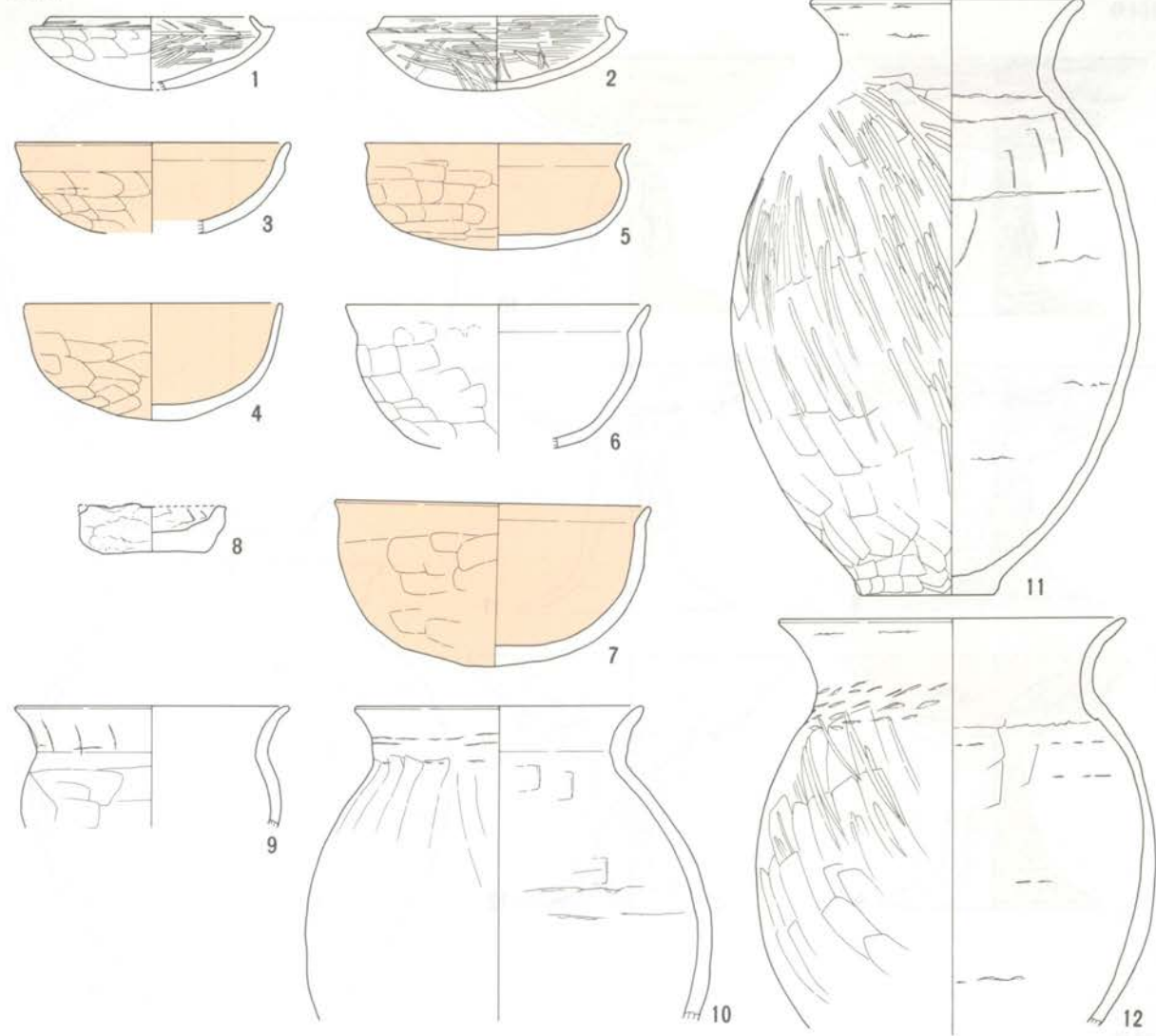
## 2. 遺物

### （1）土器

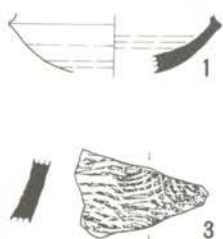
#### 101号竪穴住居跡（第31図、図版16）

1・2は須恵器の杯身を模倣した土師器杯で、ケズリ・ナデによる成形の後、ミガキが施されている。現状では薄くなり、目立たなくなっているが、内外面とも表面は漆仕上げされていたようである。3・4の杯は外面をヘラケズリ調整し、赤彩を施している。5～7の鉢はいずれも丸底を呈し、口縁端部が外反する特徴を持つ。8は手捏で、口縁部がかなり磨滅している。9～12は甕である。9は頸部が広口なタイ

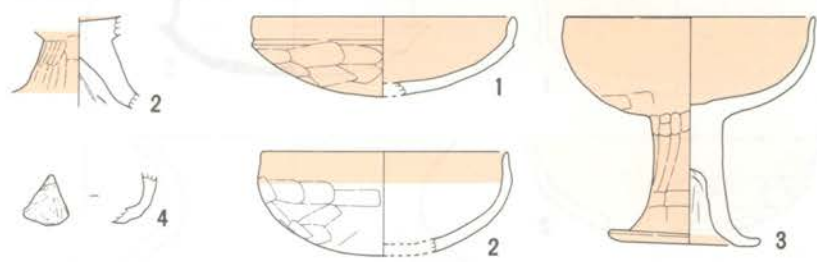
101号



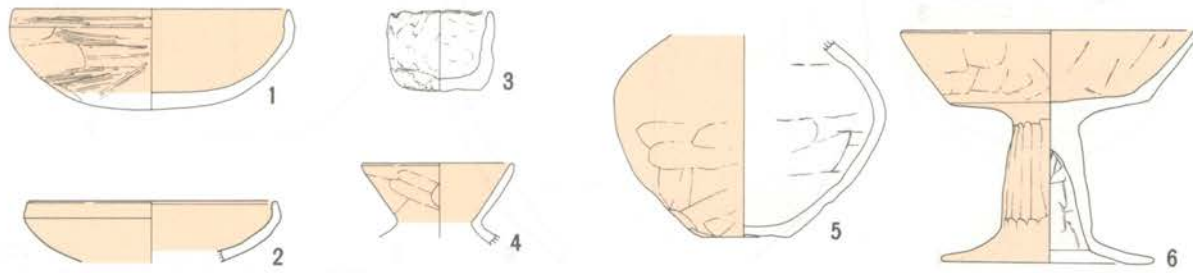
102号



103号



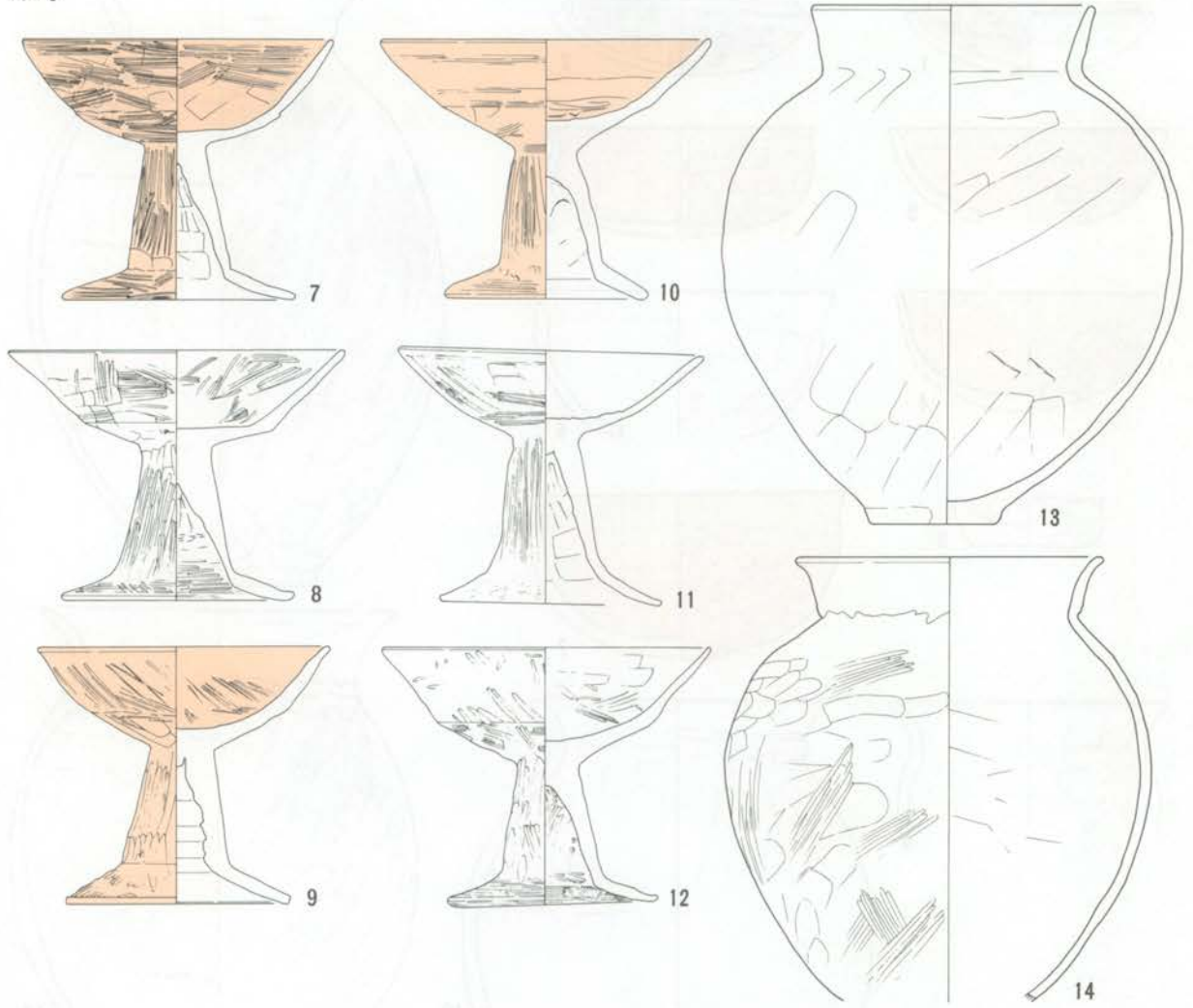
104号



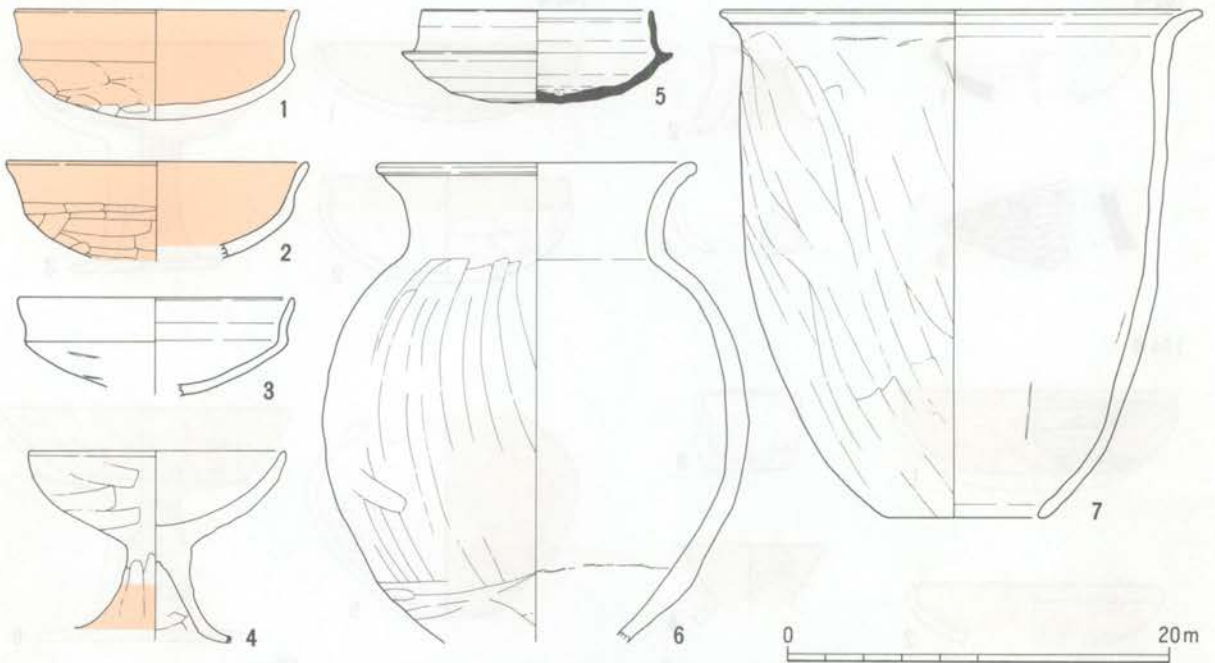
0 20cm

第31图 101·102·103·104号竖穴住居跡出土遺物

104号



105号



0 20m

第32图 104·105号竖穴住居跡出土遺物

プの小型の甕で、外面は横・斜め方向によるヘラケズリ調整されている。11・12はやや肩の張る球胴の甕で、外面ヘラケズリの後、磨きが施されている。

#### 102号竪穴住居跡（第31図、図版16）

1は須恵器杯で、前回調査で出土した杯蓋とセットになる時期のものである。2の高杯は、脚部のみの破片である。短く開くタイプで、外面はタテヘラケズリされている。3は須恵器甕の体部片で外面には平行タタキ目を持ち、内面に同心円の当て具痕が残る。4は手捏の土器片である。

#### 103号竪穴住居跡（第31図、図版16）

土師器の杯は口縁部がヨコナデによって屈曲するタイプのもの、底部から丸く立ち上がるタイプがあり、いずれも赤彩されている。高杯も杯部が丸く立ち上がるタイプで、脚部は内面の繰り込みが浅く、外面は縦方向のヘラケズリが施される。長さの割に裾部はあまり開かず、丸みを持って終わっている。杯と同様に赤彩されている。

#### 104号竪穴住居跡（第31・32図、図版16・17）

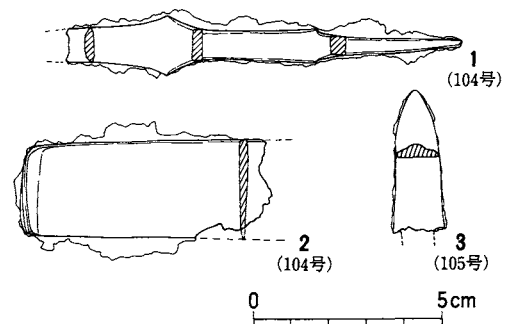
1・2は、丸底の底部にやや内湾する口縁部を持つ杯で、赤彩されている。3は手捏で、比較的平らな底部に、垂直に立ち上がる口縁部を持つ。4は小型の土師器壺の口縁部と思われる破片で、器壁も薄く、丁寧に作られている。5の土師器壺は体部及び底部のみの出土で、体部中央が大きく張り出し平底を呈している。6～12の高杯は、いずれも杯部にはっきりした、または緩やかな稜を持ち、多くはミガキが施され、丁寧な作りのものが目立った。13・14はやや胴が張る球胴形の甕で口縁は比較的上方に向かって立ち上がる。14は外面をヘラケズリしたのち粗い磨きが施されている。

#### 105号竪穴住居跡（第32図、図版17）

1～4の土師器の杯・高杯は、口縁部を強くヨコナデすることによって生じる体部の稜を持つものと、そのまま丸く口縁に至るものがある。5の須恵器杯は口縁端部の返りがやや長めに上方に立ち上がり、底部も丁寧にヘラケズリが施され、やや古い型式を示している。6の土師器甕は外面を長いタテヘラケズリによって調整され、やや胴が張る球胴形を呈する。口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く終わる。7は単孔の甑で、口縁部は窄まらず体部から真っ直ぐに立ち上がり、小さく外反する端部で終わっている。外面は長いタテヘラケズリが観察される。

#### (2) 鉄製品（第33図）

遺物はいずれも第3地点に位置する11号住居跡に伴うものである。1は先端が欠損しているが、断面形が長楕円形を呈し、扁平な頭部を持つ鉄製の利器と思われる。基部分の断面は四角形を呈す。2は片側に短い折り返しを持つ板状の鉄製品で、形状から鎌の基部である可能性が考えられる。いずれも211号から出土している。3は頭部の断面形が三角形を呈する鉄製利器の先端部分である。どのような基部が付くかは不明である。



第33図 竪穴住居跡出土鉄製品

第11表 種ヶ谷津遺跡出土土器観察表 (古墳時代)

遺構No	棟図 No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
101号住居	31-1	土師器	杯	11	4.1+		30	10R7/6	10R7/6	10R7/6	黒色処理内 外漆仕上げ	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
101号住居	31-2	土師器	杯	12.4	4.15		30	10R6/3	10R6/3	10R6/3	黒色処理内 外漆仕上げ	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ミガキ
101号住居	31-3	土師器	杯	(15)	5.1+		20	10R7/4	10R5/6	10R5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
101号住居	31-4	土師器	鉢	14	6.4		80	5YR5/8	10R5/8	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヨコナデ
101号住居	31-5	土師器	鉢	14.4	6		95	5YR6/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヨコナデ
101号住居	31-6	土師器	鉢	16.6	7.8+		70	5YR6/6	10R5/8	10R5/8		
101号住居	31-7	土師器	鉢	17.2	9		90	2.5YR6/8	10R5/8	10R5/8	赤彩	
101号住居	31-8	土師器	手捏	(7.7)	2.7+	6.2	80	5YR5/6	5YR5/6	10YR1.7/1		内外面ナデ
101号住居	31-9	土師器	小型甕	14.7	6.7+		25	2.5YR5/6	10R5/8	10YR1.7/1	一部黒変	体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
101号住居	31-10	土師器	甕	15.9	17.3+		70	10R5/8	10R5/8	10R5/8		体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
101号住居	31-11	土師器	甕	14.5	33.1	7.2	70	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		体部外面ヘラケズリ後ナデ・粗いミガキ・ 内面ナデ・底部ヘラケズリ後ナデ
101号住居	31-12	土師器	甕	18.3	22.9+		60	10R6/4	10R6/4	10R6/4		体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後 ミガキ
102号住居	31-1	須恵器	杯		3.5+	7.2	20	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y5/1		ロクロ成形・体部外面下半部ヘラケズリ
102号住居	31-2	土師器	高杯		4.7+		20	10YR5/6	10YR5/6	10YR5/6	赤彩	脚部外面タテ方向のヘラケズリ後ナデ・ 裾部ヨコナデ・坏底部ヘラケズリ後ナデ・ 脚部内面ヘラケズリ、裾部ヨコナデ・坏 底部ナデ
102号住居	31-3	須恵器	甕				小片	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y5/1		体部外面タテ方向のタタキ・内面同心円の タタキ
102号住居	31-4	土師器	手捏				小片	10YR6/4	10YR6/4	10YR6/4		外面凹凸・内面ナデ
103号住居	31-1	土師器	杯	13.6	4.2+		80	7.5YR7/4	2.5YR6/6	2.5YR6/6	赤彩	体部外面ヘラケズリ・内面ヨコナデ
103号住居	31-2	土師器	杯	12.6	5.3+		40	7.5YR6/6	10YR1.7/1	7.5YR6/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
103号住居	31-3	土師器	高杯	12.9	11.9	7	100	2.5YR5/8	10R5/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ、脚部ヘラケズリ 後ナデ、裾部ヨコナデ・体部内面ナデ、 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ
104号住居	31-1	土師器	杯	14.8	5.2		30	2.5YR5/6	10R4/6	10R4/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
104号住居	31-2	土師器	杯	13.1	3.2+				10R5/8	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヨコナデ
104号住居	31-3	土師器	手捏	5.2	4.1	4	100	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	黒変	
104号住居	31-4	土師器	小型壺	7.9	4.3+		30	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	赤彩	体部外面ヘラケズリ・内面ナデ
104号住居	31-5	土師器	小型壺		10.7+	4.7	80	10YR6/4	2.5YR5/6	10YR6/4	赤彩	体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・ 底部ヘラケズリ
104号住居	31-6	土師器	高杯	14.8	12.2	11.2	90	7.5YR6/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8	赤彩	坏部～脚部外面ヘラケズリ後ナデ・内面 ヘラナデ
104号住居	32-7	土師器	高杯	16.8	14.3	12.6	100	7.5YR6/6	5YR5/6	5YR5/6	赤彩	外面坏部～脚部ヘラケズリ後ミガキ
104号住居	32-8	土師器	高杯	17.9	13.5	12	80	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面坏部～脚部ヘラケズリ後ミガキ・坏 部内面ミガキ
104号住居	32-9	土師器	高杯	15.5	13.9	11.9	90	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	赤彩	外面坏部～脚部ヘラケズリ後ミガキ
104号住居	32-10	土師器	高杯	17.6	14.3	11.1	70	10YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/8	赤彩	
104号住居	32-11	土師器	高杯	16.2	13.6	11.8	25	2.5YR5/6	10R5/8	10R5/8		
104号住居	32-12	土師器	高杯	19.6	13.9	11.4	95	10YR7/6	5YR5/6	2.5YR5/6		外面坏部～脚部ヘラケズリ後ミガキ・坏部 内面ミガキ
104号住居	32-13	土師器	甕	15	28.4	6.7	70	5YR6/6	10YR1.7/1	10YR5/3		外面坏部～脚部ヘラケズリ後ミガキ
104号住居	32-14	土師器	甕	16.2	24+		70	7.5YR5/4	7.5YR5/4	7.5YR5/4		
105号住居	32-1	土師器	杯	14.5	4.8		95	2.5YR5/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	体部外面ヘラケズリ・内面ナデ
105号住居	32-2	土師器	高杯	15.6	4.9+		40	7.5YR6/6	2.5YR5/8	7.5YR4/3	赤彩	体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヨコナデ
105号住居	32-3	土師器	高杯	14.4	5+		25	5YR6/6	10R5/8	10R5/8		体部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
105号住居	32-4	土師器	高杯	13.3	10+		90	5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8	赤彩	坏部～脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ・ 坏部内部ナデ、脚部ヘラケズリ
105号住居	32-5	須恵器	杯	12.1	3.6		30	N4/0	N4/0	N4/0		ロクロ成形・体部内面回転ヘラケズリ
105号住居	32-6	土師器	甕	16.4	25.1+		40	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR5/4		胴部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
105号住居	32-7	土師器	甕	24.9	26.5	8.3	60	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		胴部外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ



第12表 種ヶ谷津遺跡出土鉄製品観察表（古墳時代）

挿図No	器種	器形	種類	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	備考	遺構No
33-1	鉄製品			104	130	2.0	16.9		104号住居跡
33-2	鉄製品	板状		65	25.5	3.6	30.3		104号住居跡
33-3	鉄製品	鉄鏃		37	12	1.8	2.8		105号住居跡

第13表 種ヶ谷津遺跡出土遺物総破片数（古墳時代）

遺構No	種類	時期	土 師 器										須 恵 器						土器以外			合計				
			杯	蓋	高杯	鉢	手捏	甕				甗	壺	不明	杯	蓋	甕	甗	壺	高杯	不明		土製品	石製品	鉄製品	
								在地	常総	武蔵	小型															台付
101	住居	古後	54			7	1	151			3											1	1		218	
102	住居	古後	22	1	1		1	71								2	2								100	
103	住居	古後	37		2			302							6										347	
104	住居	古中	75		99		4	436			1	2		1									1	3	622	
105	住居	古後	105		39			267					41		7							1	2		462	
遺構外			293	6	26			1855	128	180		4			74	18							3		2587	
総計			586	7	167	7	6	3082	128	180	4	6	41	1	0	89	0	20	0	0	0	0	2	7	3	4336

### 第3節 奈良・平安時代

#### 1. 遺構

遺物の出土した範囲は第2地点西側部分を中心に、地形の傾斜方向に沿って南東方向に広がっている。調査時は、明確な遺構としての掘込み等が確認できなかったためか、全体を一つの包含層として扱ったが、その後の整理作業が進むにつれて、第2地点西側部分に集中する遺物が大きく3つのまとまった地点を示すことが明らかとなった。このため、それぞれの集まりをSX01～SX03と呼称し、土器集積遺構として扱うこととした。また、南東側の遺物出土の限界範囲も図中に示し、この範囲内から出土した遺物で、同時期のものを一括して報告する。

第2地点の基本的な層序は、第35図中に示したとおりである。1層は褐色土で、地点によって明るくなり、チョコレート色に変化する。2層は暗褐色土で、茶褐色の土に黒土が斑に入る、粒子大きくブロック状を呈する。3層は黒褐色土で、粒子はさらに大きくブロック状を呈し、地点によって黒味を増す。出土した遺物は、1層・2層に集中しており、3層からはほとんど出土していない。

出土した遺物は、総破片数にして92,960点を数えた。遺物の出土状況を端的に示すものは、調査時の写真と100枚以上に及ぶ遺物の平面分布図である。分布図に記したドットは、あくまで破片の分布を示すもので、ドットが多く落ちているグリッドでも、実測個体の全くない所も存在する(第35図)。各グリッドから出土した遺物の破片数の内訳は、別表に示した(第17表)。

器形の復元できた遺物は、全体で639個体を数えるが、完形に近い状態に復元できるものは、先に述べたSX01～SX03の3地点に集中している。これらの遺物の分布を器種・器形別に表したものが第36図～第45図である。遺物の、個々の個体の分布状況や挿図番号等については、同一箇所によくの遺物が存在し、煩雑になるため細かく示していないが、それぞれの個体はかなり近接する範囲でまとまって検出されている。

#### SX01 (第35図、図版13・14)

最も広範囲から多量の遺物が出土したSX01は、10Q-32・33、10R-02・03グリッドにまたがる位置に形成された土器集積遺構である。古墳時代後期に作られた103号住居の廃絶後、100年以上経て残ったわずかな窪みを、土器の廃棄に利用した例である。遺物の出土する範囲は住居跡の範囲を超えて主に南東側に広がっているように認められる。これは、地形自体が北東方向に向けて傾斜しているために、南側では廃棄後の竪穴住居の埋没が少なく、窪みが比較的深かったためと考えられる。このことは土器の投棄の方向を示唆する可能性も考えられる。土器の堆積する範囲は、およそ直径5m、厚さ10cm～40cmの範囲に広がっており、図示した遺物の大半は、この一帯から出土した遺物である。

#### SX02 (第35図、図版15)

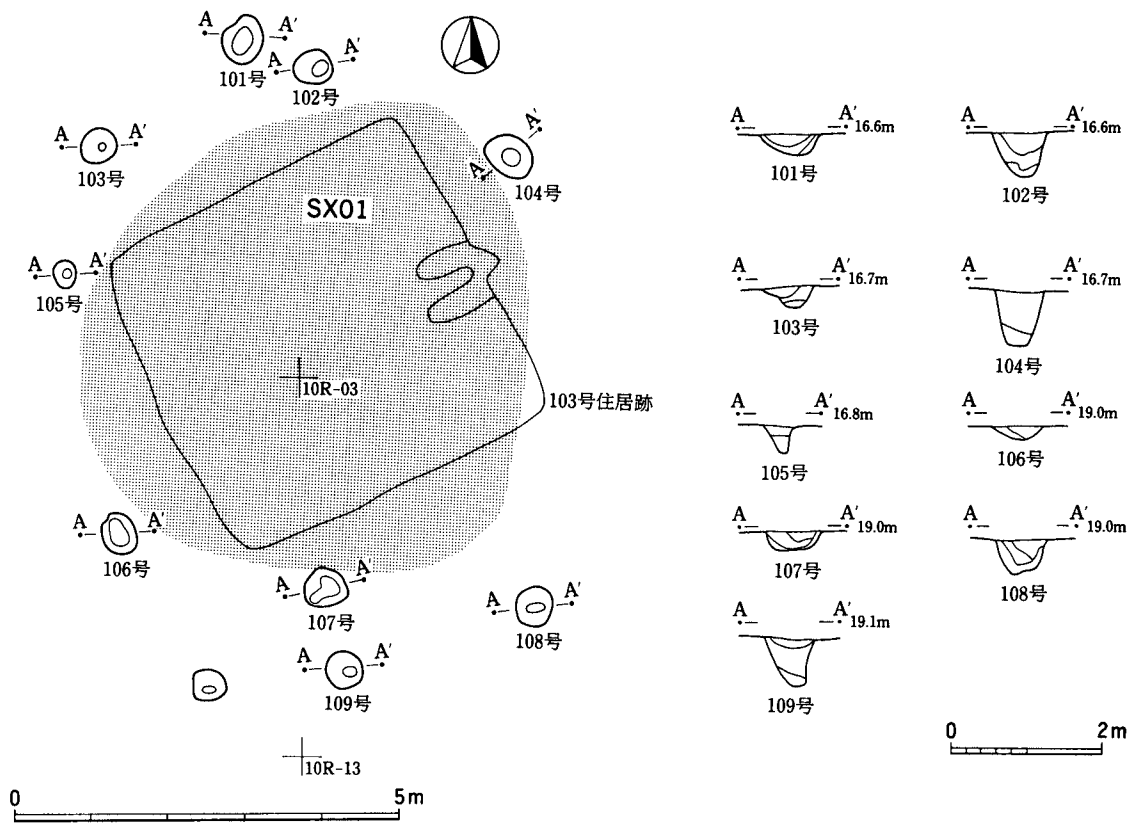
SX01の南側に約4mほど離れて形成された土器集積遺構である。調査区の限界に位置するため、今回調査した部分はわずかな範囲に留まり、今回は集積範囲の南端部を調査できたに過ぎない。ここより南側は、事業地の範囲外になるため調査できなかったが、遺物の検出状況から見て土器の集積範囲の中心部分は、さらに南に広がるのが予測される。SX01に比べ、出土遺物は少なく実測できる個体も少なかったためか、器形も限定される。完形の佐波理製垂飾品が出土している。

#### SX03 (第35図、図版15)

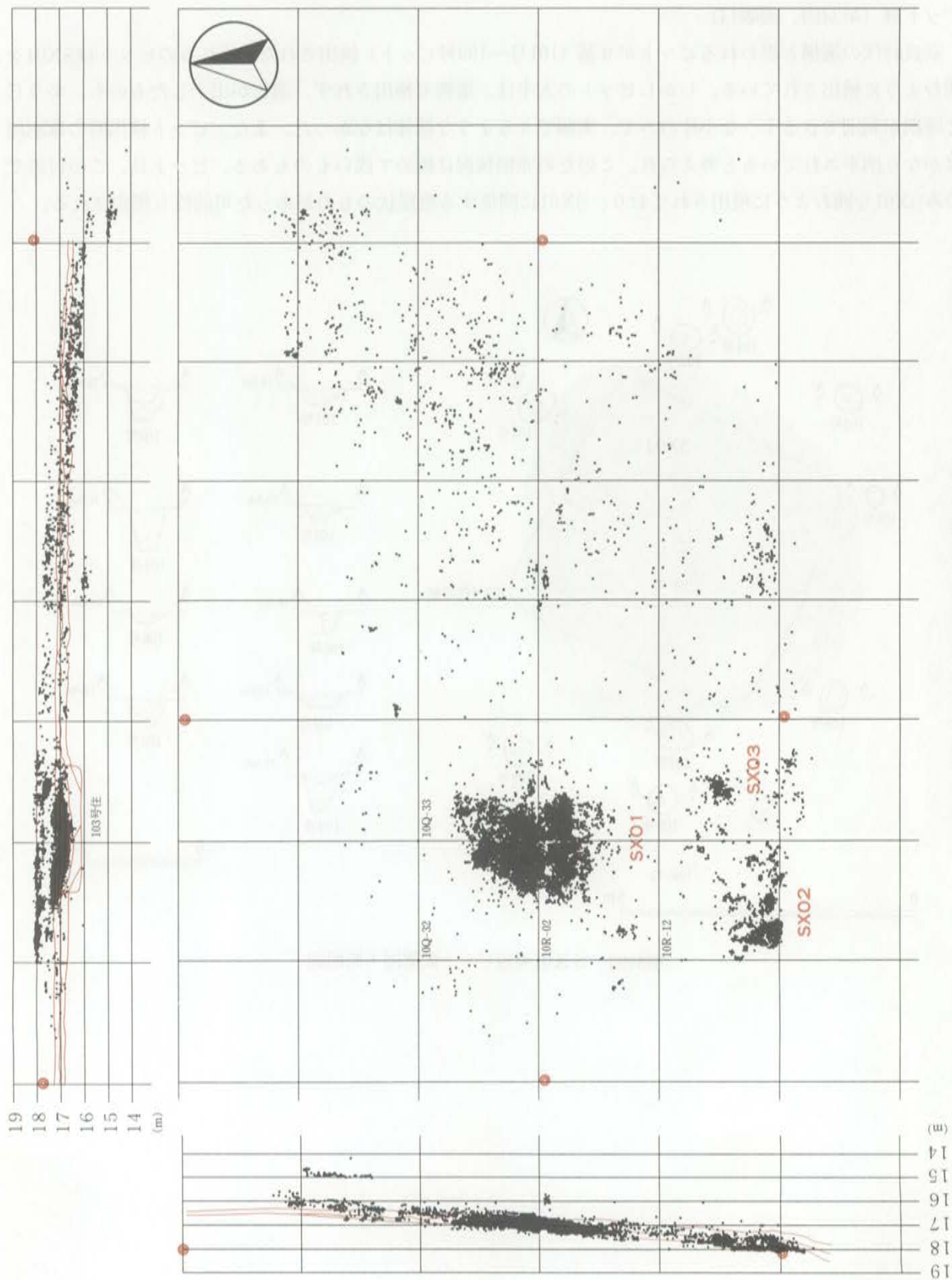
SX03はSX02の東に位置するさらに小規模な土器集積である。土器が密集して堆積する範囲は、およそ50cm四方で、その外側にも疎らに広がっている。個体が潰れているため、若干の厚みは見られるが、多種の

土器が幾重にも重なると言う様子はない。出土した遺物もほかの地点に比べ少なく、器形も限定される。  
 ピット群（第34図、図版14）

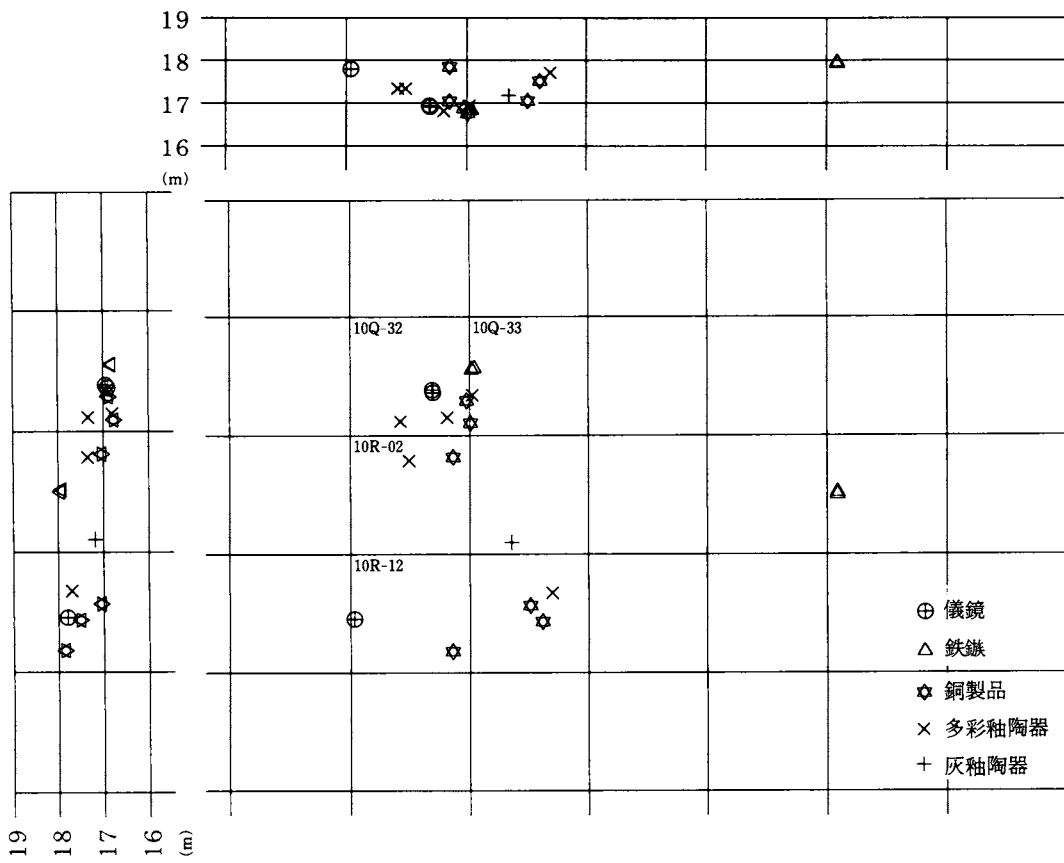
奈良時代の遺構と思われるピットが9基（101号～109号ピット）検出された。これらのピットはSX01を  
 囲むように検出されている。しかしピットの大半は、遺物も検出されず、遺物が出土したものも、辛うじ  
 て時期が判別できるような小片のみで、実測できるような個体はなかった。また、ピット検出時の確認面  
 はかなり削平されていると考えられ、このため完掘状況は極めて浅いものもある。ピットは、この付近で  
 のみSX01を囲むように検出されており、SX01に関する覆屋状のものがあった可能性も想定される。



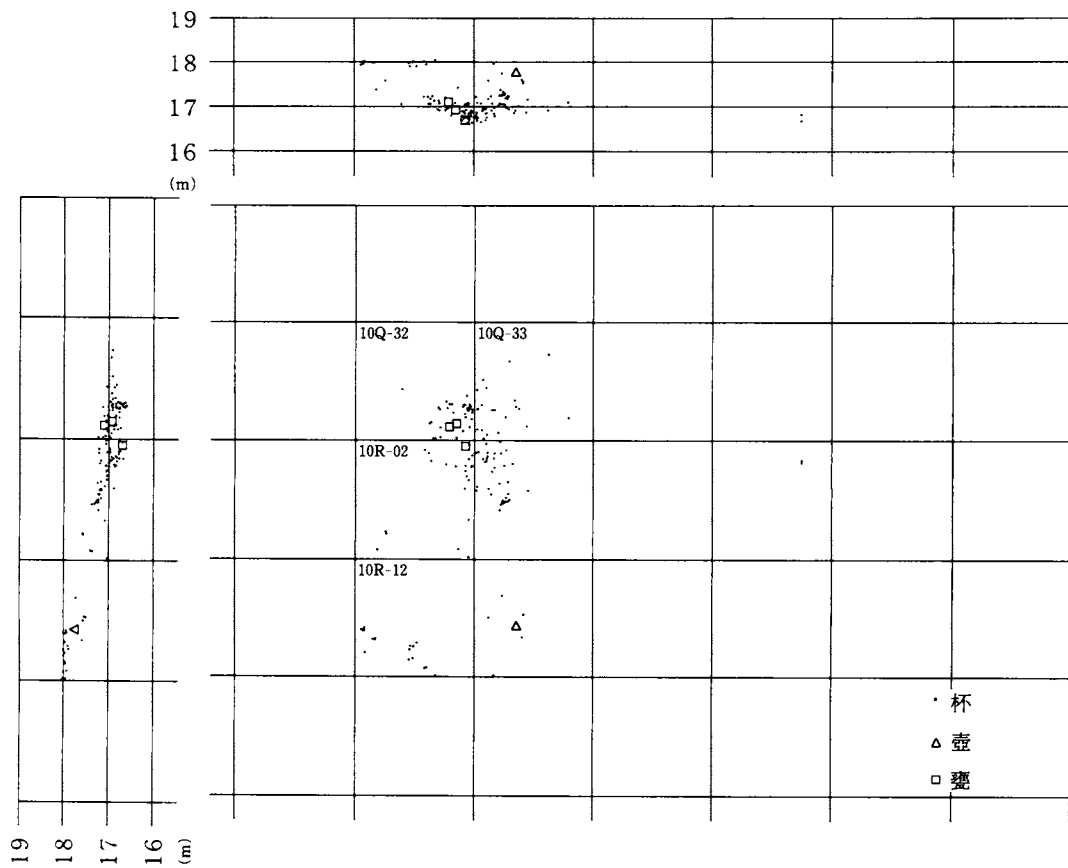
第34図 SX01周辺ピット配置図・断面図



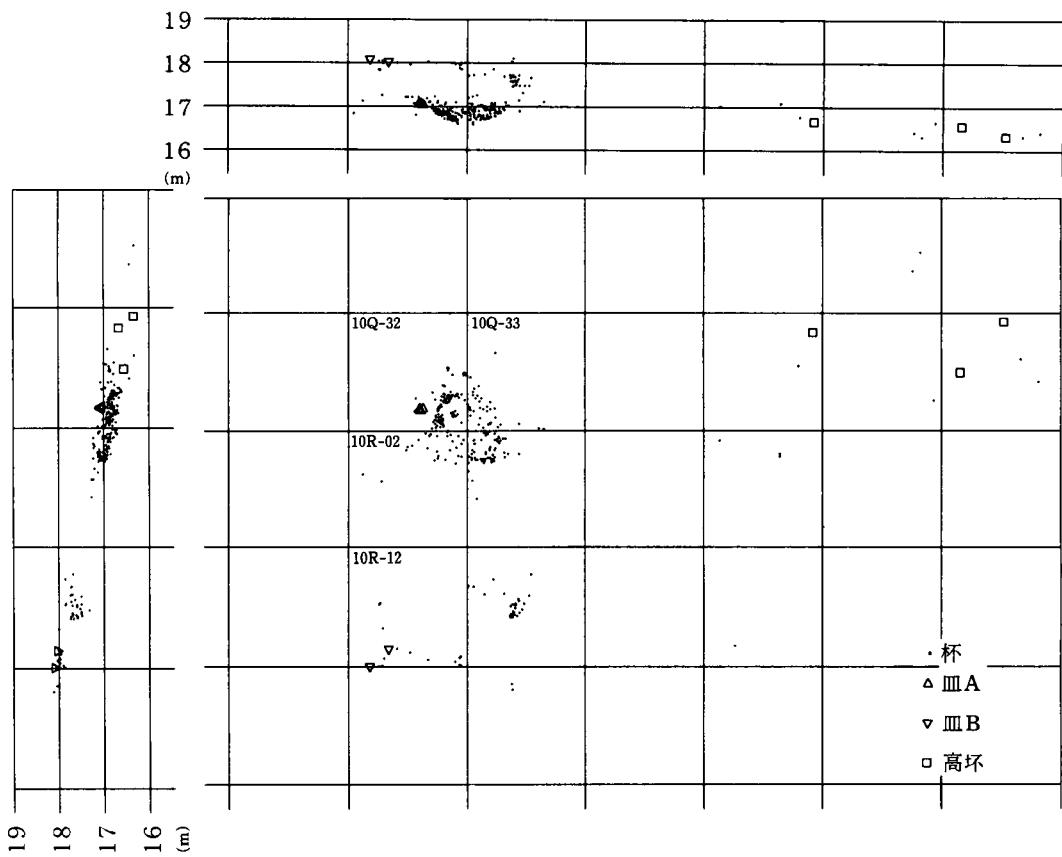
第35図 奈良時代遺物集中地点周辺遺物分布図



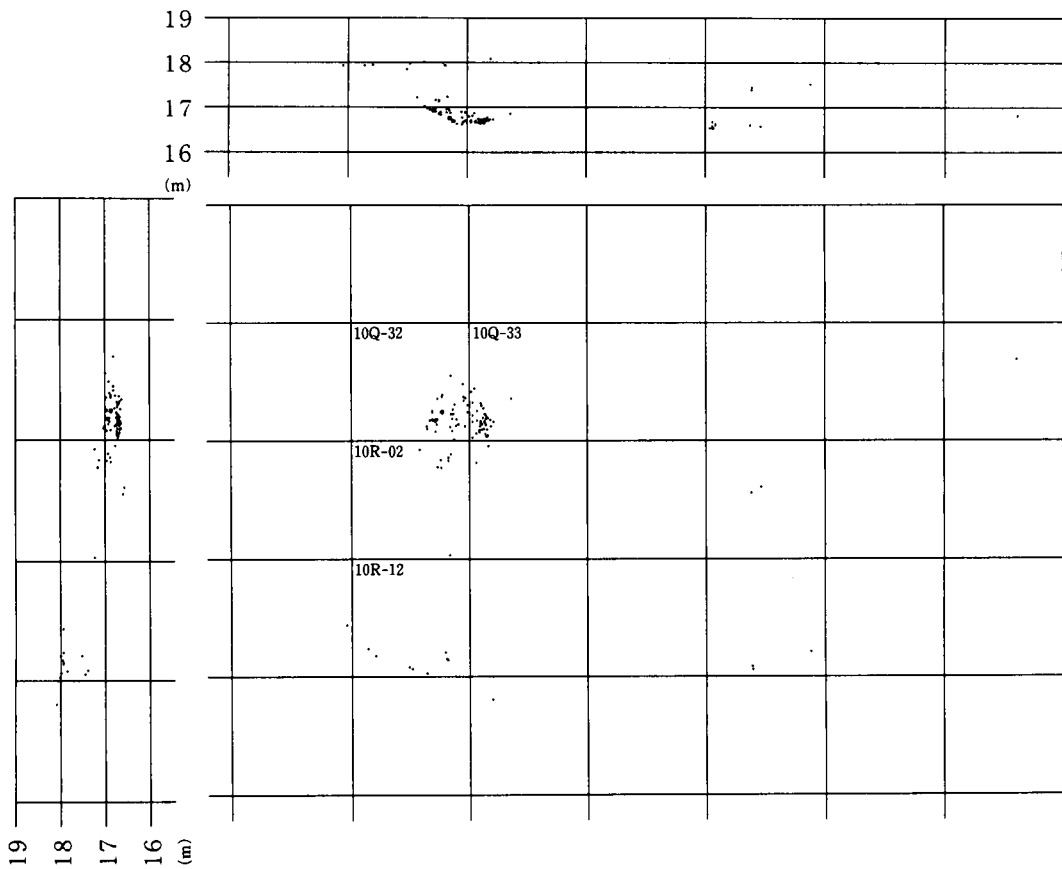
第36図 遺物分布図 多彩釉陶器・金属製品



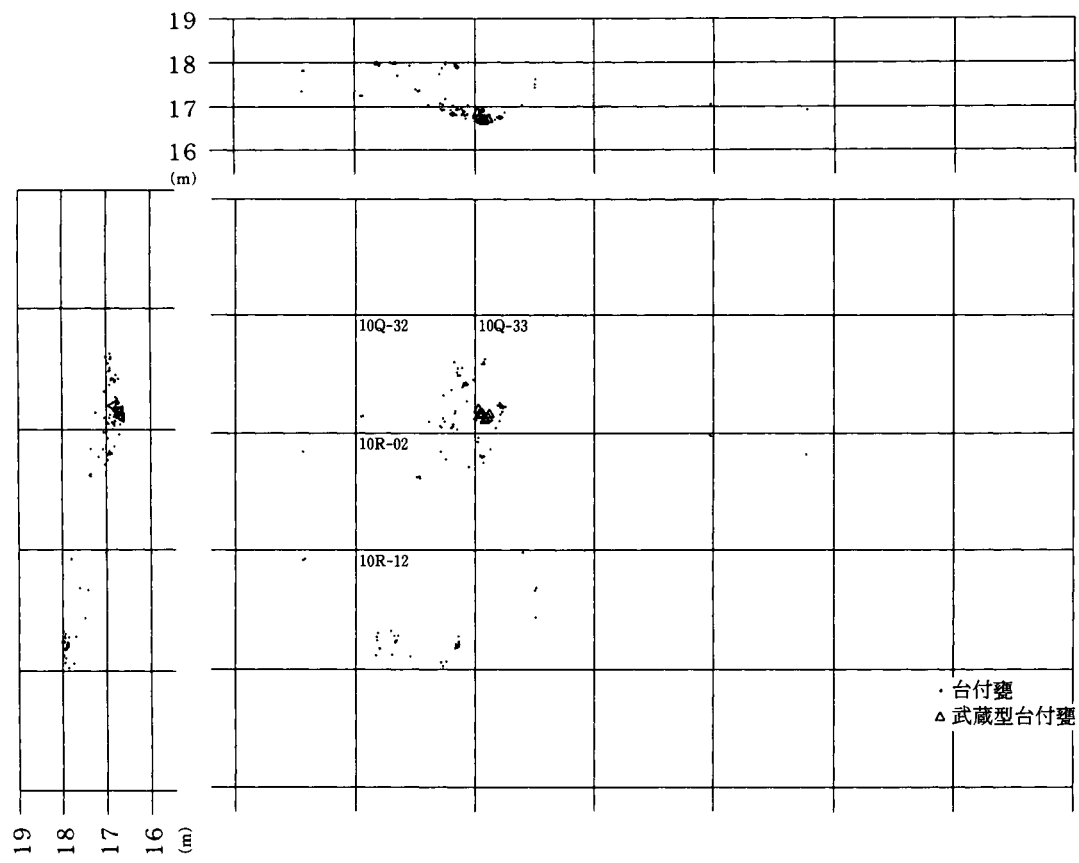
第37図 遺物分布図 須恵器



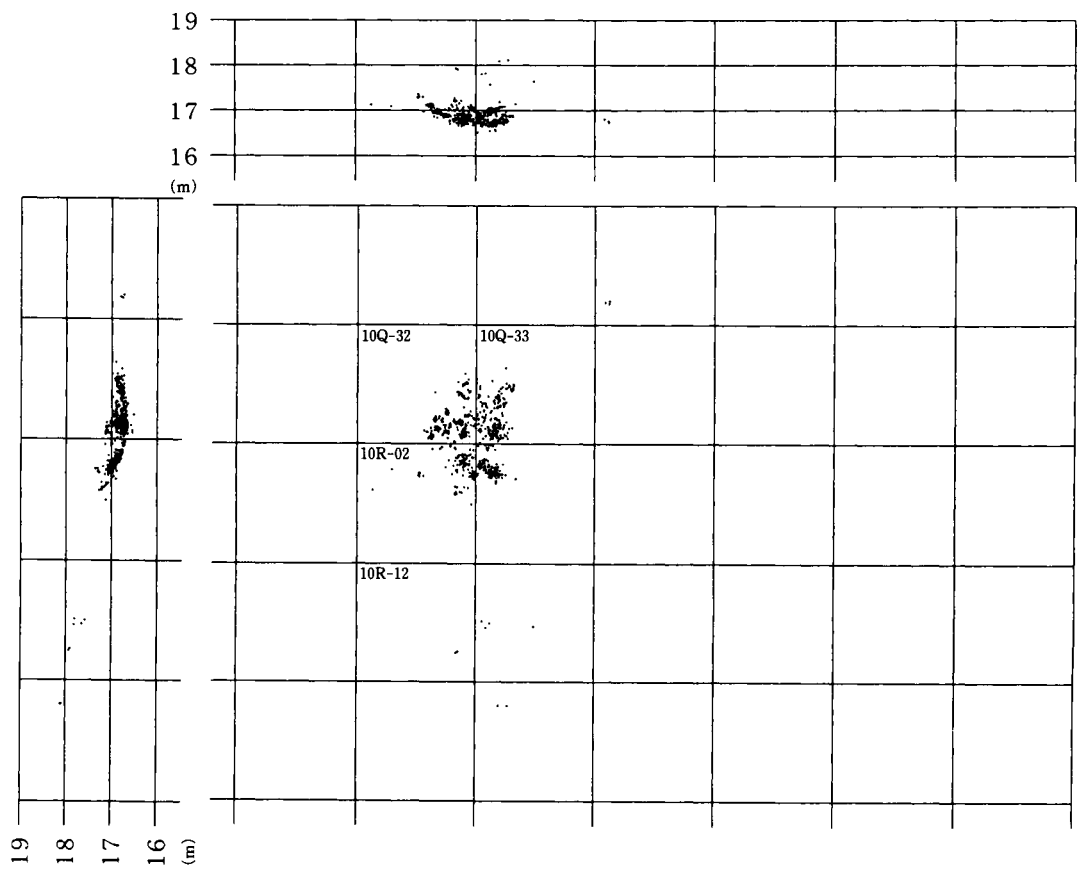
第38図 遺物分布図 土師器杯類



第39図 遺物分布図 土師器鉢

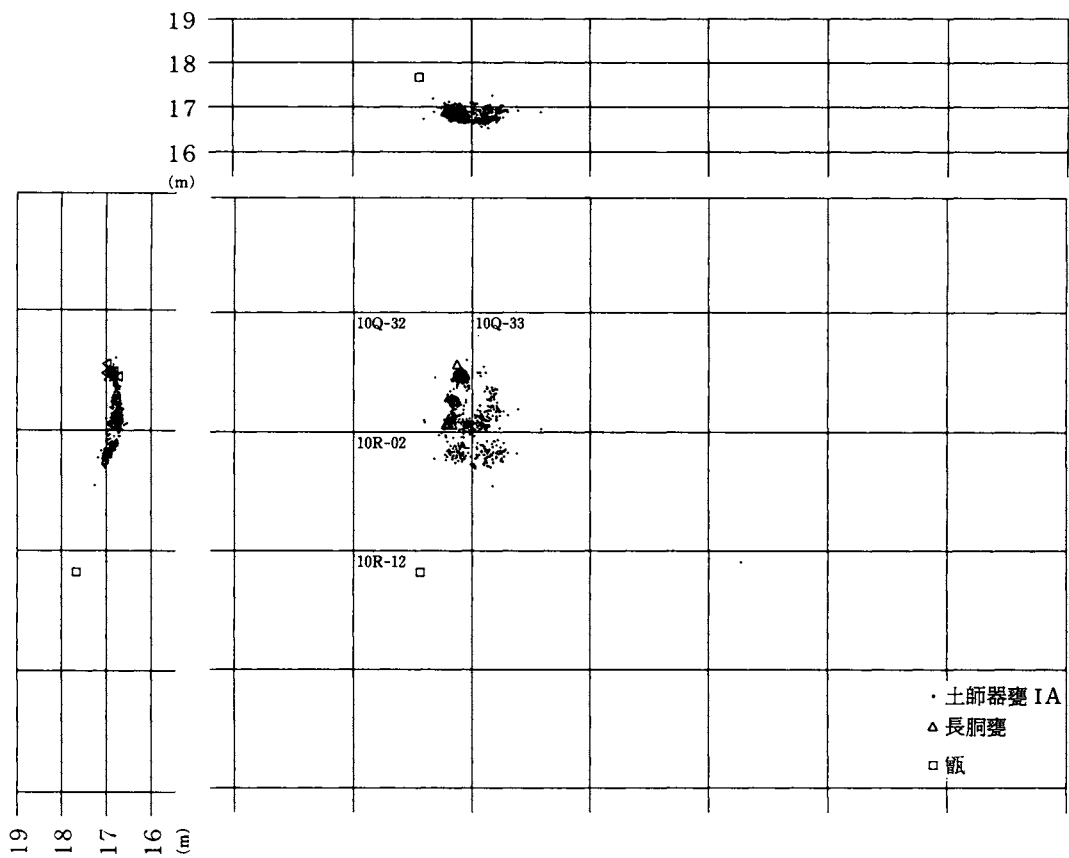


第40図 遺物分布図 土師器台付甕

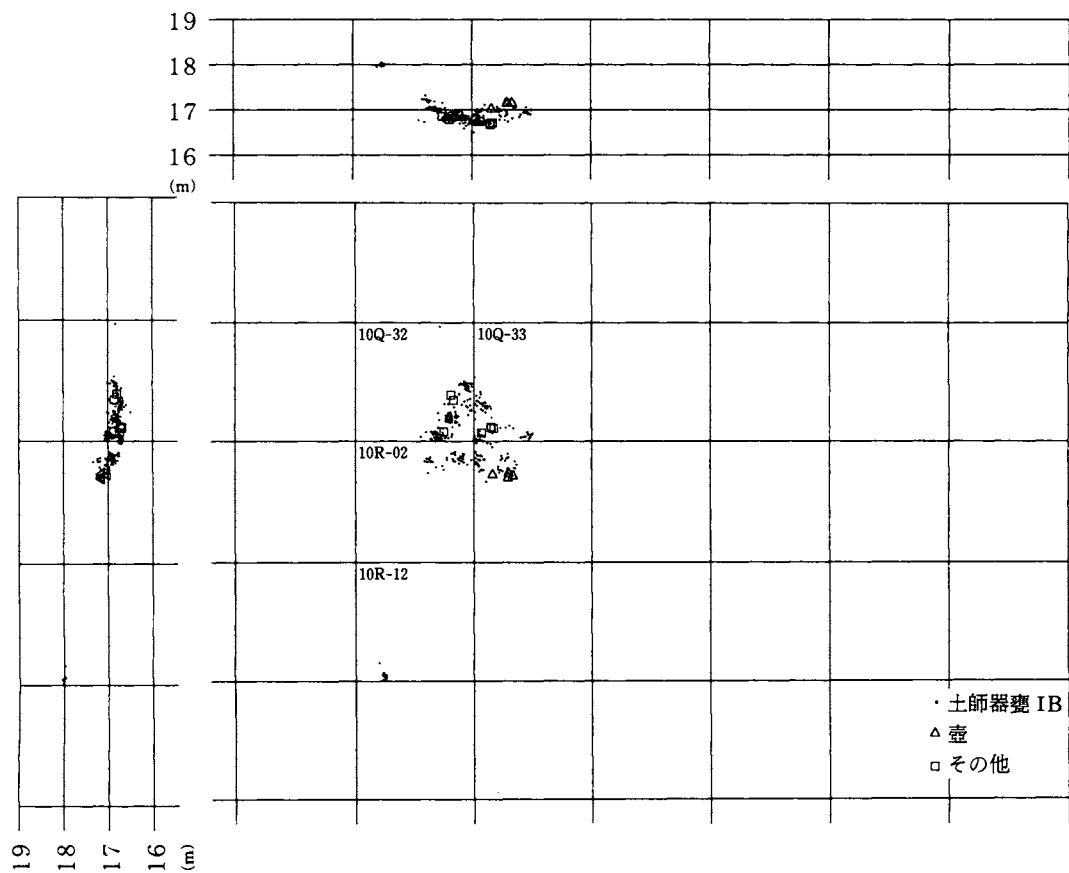


第41図 遺物分布図 土師器小型甕

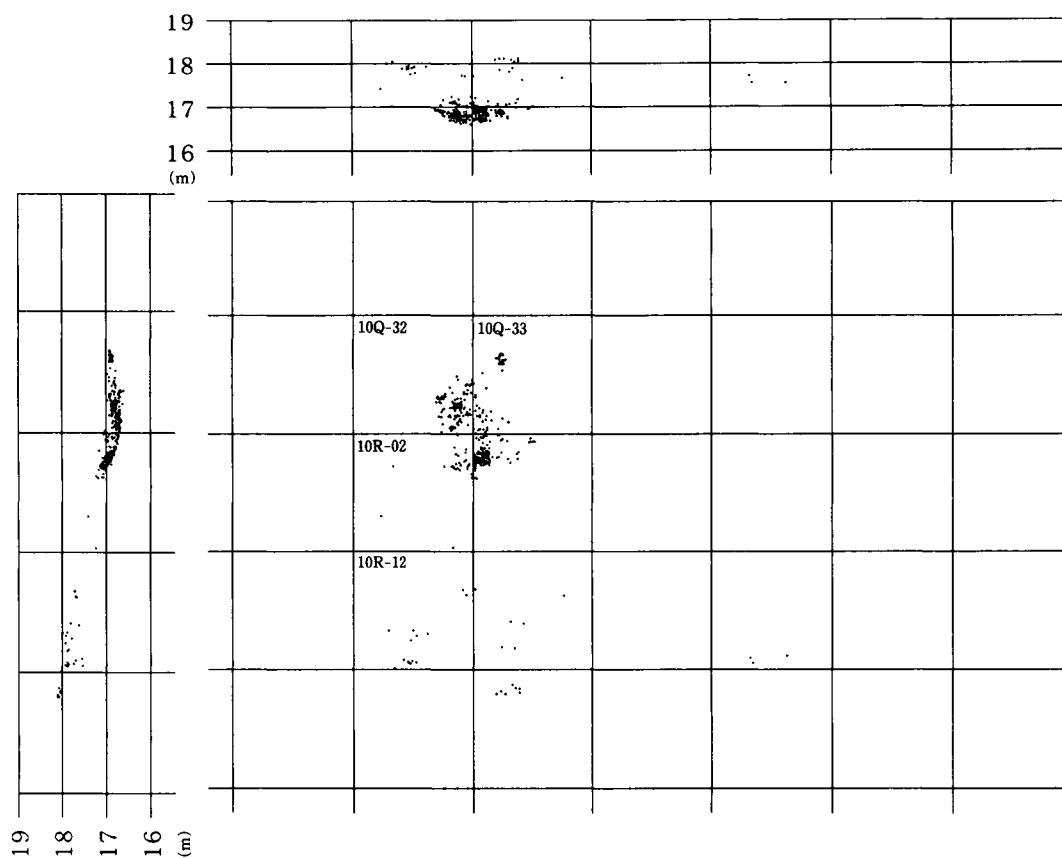




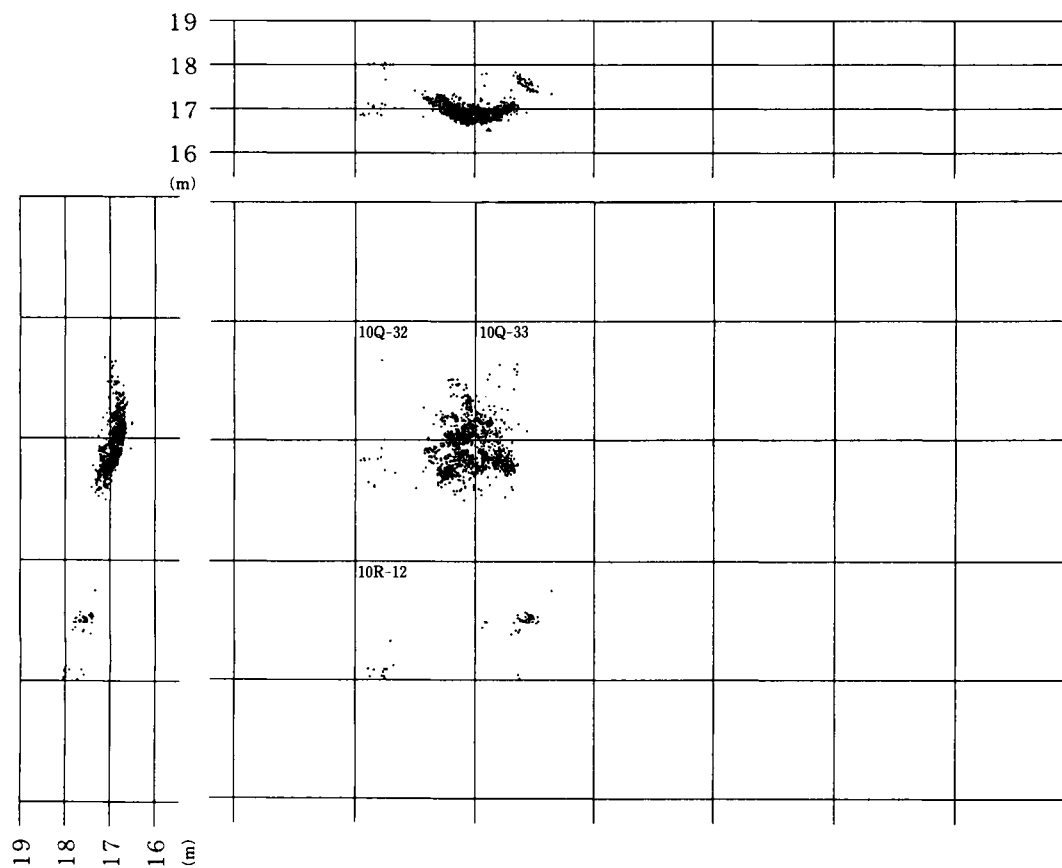
第42図 遺物分布図 土師器甕 I A (在地型) ほか



第43図 遺物分布図 土師器甕 I B (在地型) ほか



第44図 遺物分布図 土師器甕ⅡA〔武蔵型〕



第45図 遺物分布図 土師器甕ⅡB〔常総型〕

## 2. 遺物

### (1) 土器

本跡からは破片数にして92,960点、実測個体数639点の奈良・平安時代の遺物が出土しており、そのほとんどは奈良時代後期に属する遺物と考えられる。図示した遺物の多くは先に述べた土器集積遺構から出土した遺物である。個体の接合状況を種類別にみていくと、杯類や鉢といった小型の遺物の多くは、出土当初から、完形もしくは完形に近い状況で検出されているものが多く、破片になった遺物もほぼその場所で復元できる状況が確認された。甕類等の大型土器も、個体によっては100片近い破片が接合され復元された。こうした土器片の分布を見ても、多くはその場で収まる分布を示している。また、破片の一部が離れた場所で検出された例も確認されたが、土器が壊された上で破片の一部が故意に分配されたとは考えにくい。こうしたことからいずれの土器もこの場所にもたらされた時は完形の姿を保っていたものと推定できる。

それぞれの遺物は、あまり時期幅のない同時期の様相を示していると考えられる。このため、土器器の杯・皿、須恵器は遺構ごとに挿図を分け、そのほかの器形は種類ごとに分類し挿図を作成している。

### 須恵器

出土した須恵器は、杯類を主体とした小型のものがほとんどで、大型の器形は丸底の甕が1点だけ検出されているのみである。須恵器杯は高台が付くものと、高台が付かないものがある。今回出土した中では後者が圧倒的に多く前者は2点に過ぎなかった。そのほかには、椀型の杯、皿、杯蓋、壺蓋がわずかに出土している。高台付の杯には口径の小さいコップ型を呈すと思われるものの底部(45)も1点見られた。

### 杯・皿類 (第49・52図、図版18・21)

高台の無いタイプをI、高台の付くタイプをII、椀器形のタイプをIIIと大きく分類した。主体をなす無高台の杯〔I〕はすべて底部がヘラによって切り離され、糸切りを用いたものは確認できなかった。無高台の杯は、底部の調整手法から、底部全面を回転ヘラケズリするもの〔A〕と全面を手持ちヘラケズリするもの〔B〕に分けられる。

I A 底部外面を回転ヘラ切り後、全面回転ヘラケズリするもの

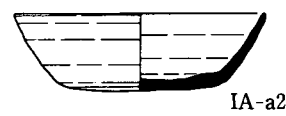
I B 底部外面を回転ヘラ切り後、全面手持ちヘラケズリするもの

ヘラケズリするものには、単一方向のケズリ〔-a〕と多方向のケズリ〔-b〕が認められた。さらにそれぞれの調整がこれで終わるものを〔1〕、体部下端または底部外周にヘラケズリを加えるものには〔2〕を付与した。しかし、I B-b類は底部全面に不定方向の手持ちヘラケズリが施され、外周のみのケズリと区別しづらいために、あえて分類しなかった。I B-a 2とした中には、底径と口径にあまり差のないもの(28、29、32、33)と、底径に比して口径が広がるものがみられた。前者は、底部がかなり厚いものもあり、器形的に見て他の土器とは違った様子であることが、図面からも窺える。

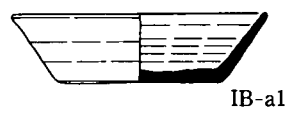
わずかにみられる高台が付くものは、通常の杯をII A、コップ型をII Bとしている。(4、45)



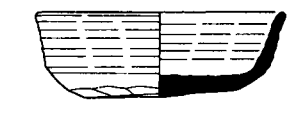
IA-a1



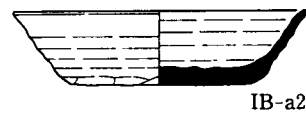
IA-a2



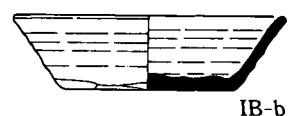
IB-a1



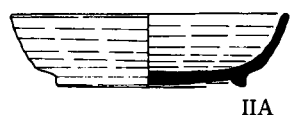
IB-a2



IB-a2



IB-b



IIA

杯蓋は2点出土している。1は4の杯身とセットになると思われる蓋で、外面に杯身同様の緑色の自然釉が附着する。いずれも天井部はヘラケズリされ、端部に返りは持たない。扁平な擬宝珠型のつまみを持つ。(1、2)

皿は一点のみ出土している。ロクロ成形され、口径が比較的大きく深さのある皿で、口縁端部は直立する。底部はヘラ切りの後、底部及び体部の中段まで回転ヘラケズリ調整されている。(3)

#### 壺類 (第52図、図版21)

SX03から壺蓋が1点確認されている。やや厚みのある平らな天井部と、肩部から垂直に下がる立ち上がりを持ち、小さい擬宝珠型のつまみが付く。その形態や大きさから見て小型の短頸壺の蓋と思われる。(133)

#### 甕類 (第49図46)

SX01から出土した1点のみ確認されている。SX01の中央部からほぼ完形に近い状態で検出された。出土当初甕の中には大量の土が詰まっており、それ以外のものは検出されなかった。

焼成は良好で、やや暗い青灰色を呈す。口縁部はヨコナデされ、口縁端部は鋭く外反し、シャープな端部を作り出している。頸部はやや広く少し肩の張る器形で、底部は丸底を呈している。外面底部付近には、丸底に成形する際に付いた平行タタキ痕(図版28)が多く残り、上半部にはわずかに確認できるのみである。内面は丁寧にナデ調整され、当て具痕跡は目立たない。

#### 土師器

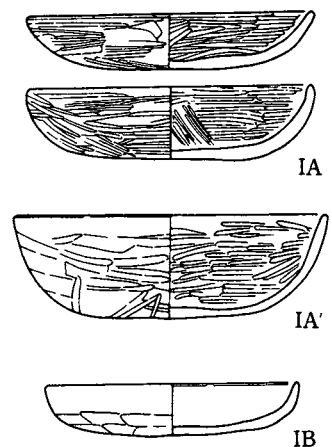
杯・皿・高杯・鉢・台付甕・小型甕・甕と多くの器形があり、それぞれの出土量も大変豊富である。これらは同じ器形内で、形や技法、産地等によってさらにまとまった幾つかのタイプに分類される。最も多かった器形は甕で、86,512片が確認され、実測個体で249点認められる。一方、甗は復元された個体もなく、単孔の甗と判断された破片が1点検出されたに過ぎなかった。

#### 杯・皿・高杯類 (第46・50～52図、図版19～21)

杯は、非ロクロのものをI、ロクロ成形のものをIIと大きく分類した。大半を占める非ロクロの杯は、多くは外面を手持ちヘラケズリ調整される。中には調整がヘラケズリで終わるもののほかに、ヘラケズリの後にミガキや暗文を施すものや、さらに赤彩されるものなどがある。これらの杯は形や調整の違いから10種類に分類することができた。

I A 外面を手持ちヘラケズリによって口縁部まで調整し、底部が平底気味の丸底を呈する杯。器高が低く、皿に近い器形もある。基本的に内外面共にナデに近いミガキが施されるが、ミガキの単位は不明瞭で遺物によっては図化できないものもある。杯A類の中には赤彩されたものも見られた。112は、A類が大きく深くなった器形であるがA類に比べ、ミガキの単位が太く顕著で、赤彩されている。見た目の雰囲気はかなり異なるため、(I A')とした。(47～57、112、124、125、127、128、141、148、156)

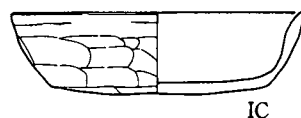
I B 外面を手持ちヘラケズリによって調整し、底部が丸底の杯。内面及び口縁部はヨコナデされる。A類に比べ小振りでも浅く、非常に薄い器壁を持ち、全体にオートミール色を呈す。搬入品と思われる。後述する武蔵型の甕とよく似た胎土で、武蔵国府周辺に類例が見られる。(58～62、129)



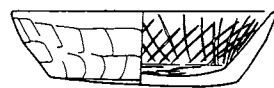
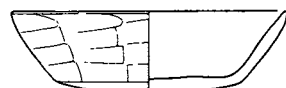
I C 外面を手持ちヘラケズリによって調整し、底部をやや丸みを持つ平底に作り出す杯。体部は垂直気味に立ち上がり、比較的深く箱形を呈するものと、やや開いて短く立ち上がるものが認められる。口縁部と内面はナデ調整されるが、最終調整は外面のヘラケズリと考えられる。赤彩されたものが2点認められたが、内外面に磨きが施されているものは、平底ながらAに近いタイプと考えられる。(63~81、132、144、145、147、150、151)



I D 口縁部から体部をヨコナデした後、外面を手持ちヘラケズリによって最終調整し、平底を呈する。水溶性の強いきめの細かい胎土に、やや粗い混入物が混じる軟質の杯。明るい橙色に発色する。いわゆる上総型の杯と呼ばれる一群である。このD類には、口径が広く器高が低くなった、ケズリによって底形が規定されているようなタイプと、やや口径が小さく器高が高くなるタイプがみられ、前者には体部内面に斜格子状暗文が観察される。しかし非常に柔らかい胎土のため、器面が磨滅している様子が窺える。このため、暗文が観察できなかった遺物にも、本来は暗文が施されていた可能性も考えられる。口径のやや小さいものには、斜格子状暗文と合わせて見込み部分に螺旋暗文が付くもの(152)も見られた。(83~94、149、152)



IC

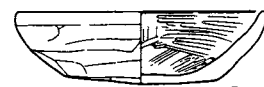


ID

I E 口縁部から体部をヨコナデした後、外面を手持ちヘラケズリによって調整する。やや小さめの平底を持つものと、丸底に近いものがある。内面はヨコナデの後、多くにミガキが施される。さらに、外面も磨くものもみられ、1点は体部下方から縦方向にミガキが施されている(100)。103は赤彩され、深形の器形はI Hに似ているが、胎土の特徴からI Eとした。他の杯類に比べて、白くきめの細かい胎土が特徴的な一群である。(95~100、102、103、107、130)



IE



IF

I F 器形はI Dと似るが、外面をふぞろいな手持ちヘラケズリによって調整し、口縁端部はケズリが及ばない部分が残し、やや内湾している。内面はヨコナデの後ミガキが施される。101以外の胎土は、I D類の胎土と同様の白い土と赤褐色土が、練り込み土器のように斑に見える。(101、104~106)

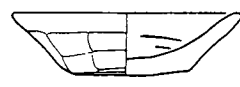


IG



IH

I G 外面を手持ちヘラケズリによって調整し、底部は丸底に近く仕上げられる。外面のケズリは粗いが、それに反して内面は丁寧な作りで、ヨコナデされた後、ミガキが施されている。胎土は赤褐色を呈す。(108、109、131)

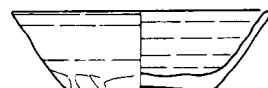


I H 外面は手持ちヘラケズリ調整され、平底を呈する。内面も、大きく横方向にヘラナデされた痕跡が残る。口縁端部は小さく外反する。器形は深形で後述の鉢にも似るが、胎土が違い、作りも丁寧である。(110、153)



IJ

I J 外面を手持ちヘラケズリで調整する杯。小さめの平底で、体部は直線的に外上方に立ち上がる。底部は厚く、ケズリ後ナデ調整され全体の作りはやや粗い。大型のものと小型のものが認められる。(111、114、126)



IIA

II A ロクロ成形の杯。今回出土した土師器の中で、ロクロにより成形されているものは、SX01で1点、SX03で3点出土したのみであった。4点とも赤

彩されている。113はいわゆる盤状杯と呼ばれているようなタイプで、底部はヘラ切り後手持ちヘラケズリ調整され、ケズリは体部下端にまでおよんでいる。SX03から出土した3点は、113に比べ口径も広く、器高も低い。底部外面はヘラケズリまたは回転ヘラケズリされている。

(113、142、143、146)

皿は大型のもの(A)と小型のもの(B)がある。

A 口径が広く盤状を呈する皿。内外面ともナデ調整されており、口縁端部はやや玉縁状に内面に巻き込みまれている。器形の特徴や胎土は、在地の土器にはあまり見かけないもので、平城宮分類の皿A類に似た土器である。搬入品の可能性がある。(82)

B 口径が10cm以下で丸底を呈する皿。暗赤褐色の胎土で器壁は薄く、外面はミガキ調整されている。(157、158)

高杯は口縁部と脚裾部の小片がわずかに確認された。いずれも胎土は精良で、焼成も良好である。表面は化粧土が掛かり、明るい橙褐色を呈す。口縁部片2点は、暗文や端部の形状から、接合はしないものの同一個体であることが考えられる。口縁部は大きく外反した後、やや屈曲してわずかに立ち上がり、口縁端部内面には細かい斜放射暗文が確認でき、外面は横方向の細かいミガキが確認できる。残る1点は脚裾部分の破片である。内面外面ともヘラケズリの後ミガキが施され、外面には格子目状に暗文が見られる。これらは何れも小片のため、同一個体かどうかは不明であるが、器形を推定し、同一図上に復元した。いずれの破片も、通常の在地の土器には見られない非常にきめ細かい胎土で、丁寧に作られている。搬入品の可能性が高い。

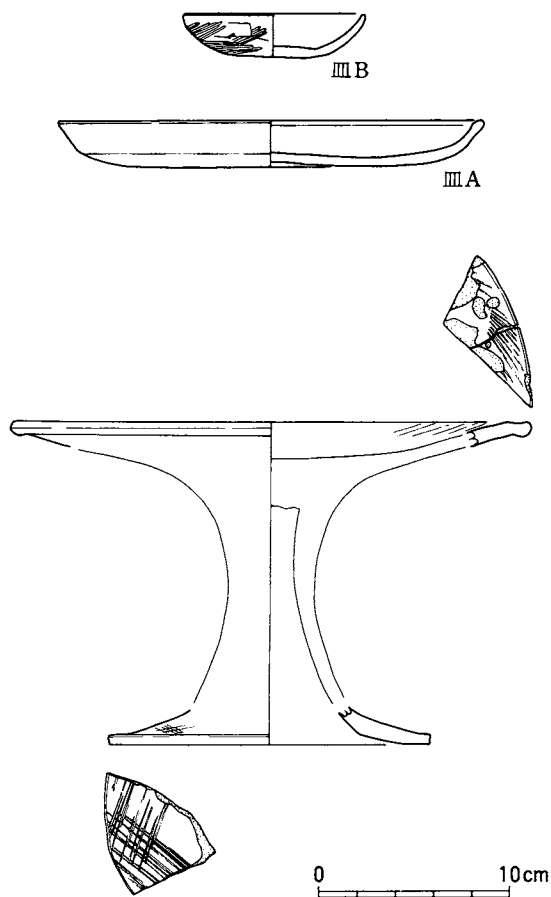
#### 鉢類 (第53図、図版22)

土師器の鉢類には、大振りなもの、手捏で作られたかなり小型のものまで、様々な大きさが確認できた。ほとんどが底部に粘土紐を輪積みして、ヘラで簡単に成形しただけのような粗雑な作りで、器形も歪なものが多い。これらの鉢は、外面の調整の種類によってI～IVの4種類に分類された。しかし基本的に今回出土した鉢類には様々な形態が認められ、統一された規格は窺えない。そのため同一分類とされた土器も、外形的に見た形状が異なる結果となっている。

- I 体部の外面調整がタテヘラケズリを主体とするもの
- II 体部の外面調整が不定方向にヘラケズリされるもの
- III 体部の外面調整にヘラを使用せず、ナデで仕上げられるもの
- IV 手捏され、外面を二次調整しないもの

#### 台付甕類 (第54図、図版23)

小型甕に脚が付くものと、先に述べた鉢状のものに脚が付くタイプがあるが、まとめて台付甕として報告する。中には脚に付く上部が、口径のやや広く開いたような高杯状のものもみられた。しかし、脚部か



第46図 高杯実測図

ら口縁部まで全形が復元できるものは、ほかの器形に比べて少なく、脚部のみの破片が多かった。脚部の調整や形態、取り付け方法の違いから細かい分類が可能であるが、出土した台付甕全体を見渡すと、個体によりそれぞれ特徴に差異が認められる。ここでは脚部の調整方法から下記の4種類に分類するとともに、それ以外は特徴の傾向を簡単に記す。比較的長脚のもの多くは、脚部を逆さから見ると中央に脚部を取り付ける前の、器の底部外面を見ることができる。また、接合部分の内面は繋ぎ目が残ったままのものと、丁寧にナデ消すものが見られる。脚部は外面をタテヘラケズリして、端部のみヨコナデするものと、ヨコナデだけで仕上げられるものがある。このほかには、ほとんど立ち上がりがなく、横に開いただけのような脚部も認められる(221)。

I 脚部の外面調整がタテヘラケズリされるもの

II 脚部の外面調整をナデ調整で仕上げるもの

さらにそれぞれを、胎土のきめが細かく精良なもの(A)と、やや粗雑な作りで、胎土も前述の鉢と似た粗いもの(B)に分け、IA、II Bと言うように組み合わせて使用した。

#### 小型甕類(第55・56図、図版24・25)

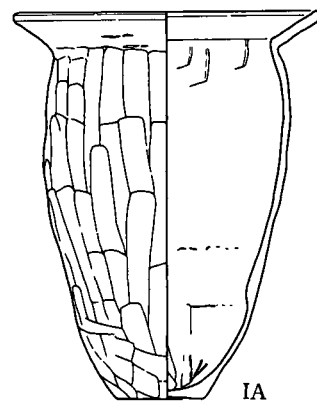
器高が25cm以下の甕を小型甕とし、まとめて報告する。小型甕はさらに器高によって大きく3種類に分けられ、器高が18cm以上のもの(I)を18点、器高18cm未満のもの(II)を16点、器高13cm以下のもの(III)を20点図示した。器形は、基本的にすべて平底で、器高の高いものには長胴タイプが多く見られ、器高が低くなるにしたがって丸みを帯びた体部で、底部も広く安定したものが多く認められた。後述の甕で分類したように、在地甕の長胴・球胴としたタイプの、それぞれの小型器形が見られ、ほかにも頸部から先が短い短頸のものが認められる。いずれも外面は縦方向または不定方向のヘラケズリによって調整され、内面もほとんどがヘラナデによって仕上げられている。最も小型に分類されたIII類の中には、図面から見た器形では鉢に近いものもあるが、前述の鉢類に比べ全体的な作りが丁寧なため、今回は小型甕に分類した。胎土も調整もほかの小型甕とは異なる、常総型の小型甕が1点(276)出土している。常総型の大型の甕とは底形や全体の形状が異なるものの、口縁部の作りや体部下半のタテ方向のミガキなど、甕と同様の調整上の特徴が見られ、胎土・焼成はほとんど変わらない。千葉市域では現在まで、常総型の小型甕の出土例は報告されておらず、本例のようにほとんど完形で検出された例は初めてである。

#### 甕類(第57~64図、図版26~29)

出土した甕には在地のものを含め、4つのタイプが主体をなすことが認められた。I類は県内で認められる在地型の甕で、長胴のものを(A)、球胴のものを(B)とした。そのほかの在地型以外の甕をII類とし、武蔵型(II A)と常総型(II B)の甕が一定量検出されている。さらに、通常タイプより長胴になることが予測される甕(322・325)や、どの類型にも属さないような(360)なども数点認められた。前者は長胴であることを理由にIAと同一の挿図上に掲載したが、本来の在地型甕の長胴タイプとは、調整技法や胎土も異なる土器である。

甕類は全般的に、ほとんど使用された痕跡が窺えず、そのため集落遺跡から通常出土する甕に比べ、内外の調整が顕著に観察できるものが多い。

IA 長胴で、体部外面がタテヘラケズリによって調整される甕であ



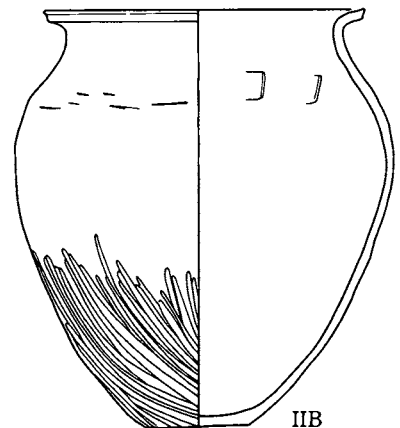
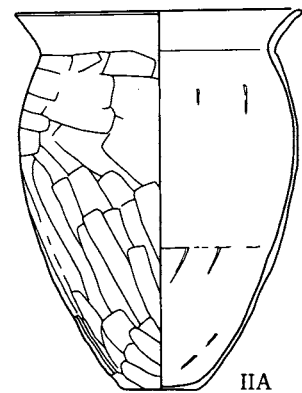
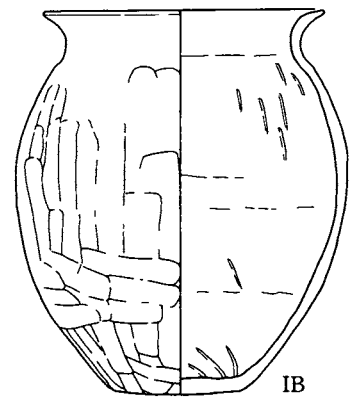


る。県内で良く見られる在地の甕で、主に東京湾沿岸部と上総地域に多く分布する。底部外面は、ヘラケズリまたはヘラケズリ後ナデ調整されるものが多い（図版28）。(331～343、322、325は除く)

I B 球胴で、体部外面がタテ・斜め方向のヘラケズリによって調整され、ヘラケズリの上にナデを施すものもある。古墳時代から継承される形の特徴を示す在地の甕で、千葉県内陸部、主に下総地域を中心に多く分布する甕である。底部外面は、ヘラケズリされるもの、ナデられるもの、無調整のものがある（図版28）。(344～359)

II A 武蔵国を中心に、広く関東地域に流通している甕で、形態は、在地 I A型に似て長胴で左右に広がる口縁部を持つ。内面はヘラナデ、外面は多方向のヘラケズリによって非常に薄い器壁に仕上げられている。底部は小さく、やや丸底気味の平底を呈し、自身での直立は難しい（図版28）。いわゆる武蔵型の甕である。(291～310)

II B 下総地域から常陸地域を中心に分布する甕で、小さめの底部にやや肩の張る体部、比較的広口で大きく外反する口縁部からなる。砂粒を多く含み、やや白味を帯びた淡褐色の非常に特徴的な胎土を持ち、体部外面はヘラケズリ後下半部を縦方向に長くヘラミガキしている（図版29）。肩の張る鶏卵形を呈し、口縁部は大きく外反し回転ナデが施されている。出土した土器の多くは底部外面に木葉痕を持つものに対し、木葉痕を体部下半のミガキと同時にミガキ消すものや、ナデ消すものも1点ずつ見つかっている。また底部の木葉痕も一枚の葉を使ったものと、2枚を逆さに合わせて使用したものも観察されている。ほとんどの土器の肩部外面には、横方向またはやや斜め方向に、若干の窪みを伴う連続した擦痕が確認される（図版29）。個体の多くには、部分的な黒斑が認められ、内面が全面黒色を呈するものもある。いわゆる常総型の甕である。(361～390)



### 多彩釉陶器（第48図1～8、図版30）

今回の調査ではおよそ8個体の多彩釉陶器が出土した。中には三彩ではなく二彩のものや、そのどちらであるかが確認できない小片も含まれているが、今回は、奈良時代の多彩釉陶器の総称として奈良三彩とし、まとめて取り扱うこととした。今回出土した三彩の器種は、胴部の小片のため確実でない1点を除いて、すべて小壺である。また、それぞれの破片は、胎土や高台部分の特徴の違いからすべて別個体であると判断した。

1は小壺の蓋である。口径4.5cm、器高1.4cmを測る。扁平な擬宝珠形のつまみが付き、外面は轆轤痕が顕著で、やや角張った肩部を持つ。胎土は非常に精緻で、白に近い淡褐色を呈し、かなり硬質な焼き上がりになっている。釉薬の発色は、外面の緑釉部分は薄緑色を、透明釉の部分は灰色を示す。褐釉部分は3か所に確認され鈍い光沢を示すが、褐釉部分以外では光沢はかなり薄れている。蓋の立ち上がり外面には、

釉薬が高温のため泡だって焼け付いている部分が認められ、焼成時にやや高すぎる熱を受けていたことが解る。釉薬全体の光沢が薄れているのはこのためで、焼き上がり時にはすでに現在の釉調であったと思われる。これに対し、内面は灰色がかってはいるが光沢のある透明釉が掛かり、部分的に釉薬が剥がれている。内面中央部分には、焼成時に貼り付いた円筒状のものを剥した痕跡が確認された。2は1同様小壺の蓋であるが、二彩陶器である。口径4.8cm、器高1.6cmを測る。天井部は平坦で、肩は丸く下がり、歪な球形のつまみが付く。胎土は比較的精良で、焼き上がりは良好、胎土の色調は1よりやや濃く、白褐色を呈す。釉調は、緑釉部分は明るく透明釉のかかる部分はやや薄緑がかった発色を示す。出土した当初は、長い間土中に埋まっていたために釉薬表面のガラス質が変化し、全体にざらついたもので覆われたような状態になっており、光沢を示す部分はわずかしら観察できなかった。内面は、透明釉がかかり部分的に釉薬が剥がれている部分があるものの、美しい光沢が見られる。中央部分には、1同様焼成時に付着した円筒状のものを剥がしたために、釉薬が剥離している個所が確認される。1・2に観察されたこの痕跡は、本来直径2cm程度の円筒形と見られ、焼成時の焼き台の一種と考えられる。2では部分的に釉薬が剥離しているのに対し、1では焼き台と思われるものの胎土が、逆に蓋側に付着してしまっている。付着した部分を見ると、この焼き台に使用された土も、製品同様精良な胎土であることが解る。多彩釉陶器にこうした痕跡が確認され、報告された例は少ないが、一例として、奈良市西隆寺跡出土の三彩陶器に、今回報告するものよりやや大きめの、同様な痕跡が残ることが確認されている。しかしこの他には、多くの三彩小壺が出土した奈良市大安寺跡を始めとして、平城京や長岡京出土の多彩釉陶器からも、こうした痕跡例は確認されていない。3は小壺の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口径3.6cm、体部最大径は約7cmと推定される。肩が丸く張り、器高に対し最大径が大きい形態を示す。口縁部はやや垂直に立ち上がり、端部はわずかに内傾する。胎土は比較的精良で、焼き上がりは良好で、白褐色を呈す。小片で釉薬もかなり剥離しているため、緑釉部分とやや薄緑色の透明釉部分がわずかに確認されるのみで、褐釉部分は確認できない。二彩陶器の可能性も考えられる。釉薬が観察される部分は光沢が残っている。4は小壺の胴部片と思われる小片である。外面に透明釉がわずかに確認できる。胎土は良好で、淡白褐色を呈す。5～8は小壺の底部片で、残存する高台形や高台貼り付け部分の形状から4点が別個体であることが明らかである。いずれも小片のため、釉薬が確認できる部分はわずかで、褐釉部分は観察できなかった。4点とも淡白褐色～白褐色の精良な胎土を用い、焼成も良好である。底部は丁寧にナデ仕上げされるものと、回転による指ナデの跡が顕著なものが見られた。また高台も角高台と細目の三角高台が付くものが認められた。

#### 灰釉陶器（第48図9、図版30）

9は灰釉陶器の碗の底部片である。胎土は硬く精良で、淡灰褐色を呈し、焼成も良好である。退化した角高台を持ち、漬け掛けによって施釉されている。内面には重ね焼きされた痕跡が顕著に残る。東海地方からもたらされたものである。この遺物はSX01の南東付近から出土しているが、遺物の時期は平安時代前期後半のものと考えられる。土器集積遺構とその周辺から検出された土器群とは時期差が認められる。

#### （2）銅製品（第48図10～15、図版30）

銅製品は鏡・垂飾品・不明銅板片が出土した。10は銅製の儀鏡で直径約38.3mm、厚さ0.9mmを測る。腐食が激しく、周縁部分はほとんど本来の姿を示していないが、ほぼ正円を示す小型の鏡と考えられる。鏡面

には若干の反りが観察され、鏡裏面にあたる凹面中央部分には、平面形が長楕円形を呈する紐が確認できることから鏡と判断した。紐部分は横から見ると丸い山形をなし、中央部分に1.5mmの紐孔が開いている。11～13はきわめて薄手の銅製品である。3点ともに、表面には光沢があり、かつ、通常の銅製品には見られない細かな模様（銅系の金属の色を呈する、地の細かなひびに緑青が入り込んだために模様状に見える）と不定方向の擦痕が全面に観察される。全体に湾曲し反りを持つが、凸面側は凹面側よりも光沢がある。凹面は光沢が若干弱くやや黒味を帯びている。11は垂飾品と考えられる。最大幅29mm、高さ29.8mm、厚みが0.55mm～0.7mmを測る。角の丸い台形状を呈し、各辺がわずかに弧を描く。ほぼ完形だが周縁部分には若干の傷みが見られる。上辺中央部分には径2mmの円形の孔が開いている。

12・13は一部に縁辺部を残すものの、原形の復元が困難な破片である。肉眼で観察できる特徴は11に同じであるが、12はほかの2点に比べ凹面の黒味が少ない。

3点とも分析の結果、佐波理製であることが確認されているため、鏡などの佐波理製品の破片を再加工して製作された可能性が考えられる。しかしこの3点からは轆轤挽きの痕跡は確認できなかった。

14・15は表面上の特徴が11～13とは異なる銅板片である。これらの破片は本来の表面を残しつつも、部分的に緑青が吹き出し、遺存状態は悪い。厚さも前述の3点よりやや厚手で、黒味を帯びている。いずれも破片のため全形は不明であるが、外縁上部には、破断面ではない面が確認でき、本来円形に近い形状をしていたことが推定できる。全体の湾曲の度合いから、鏡などの破片と考えられることや、凹面側は黒味を帯び、凸面側には部分的ではあるが光沢を持つところが残るなど、前述の資料と共通する特徴を見ることがもできる。ここでは比較的遺存状態の良い大きい破片を2片図示したが、このほかにも小破片が3片出土している。この3点についてはかなり腐食が進んでいたため、図化できなかった。

このほかに出土した銅製品として、鈴が1点確認された。しかし、これも腐食が激しく、調査時に周りの土ごと取り上げたが、その後も分離は不可能で、図化することができなかった。下半部分はほとんど欠損した状態であるが、上下を中央部分で張り合わせるタイプであることが、辛うじて確認できた。推定径約25mmの球形を呈する。頭頂部は比較的残りが良く、4.5mm×5.5mmの四角い紐が付き、紐には直径約1mmの円形の孔が開いている。

### （3）鉄製品（第48図16～23、図版30）

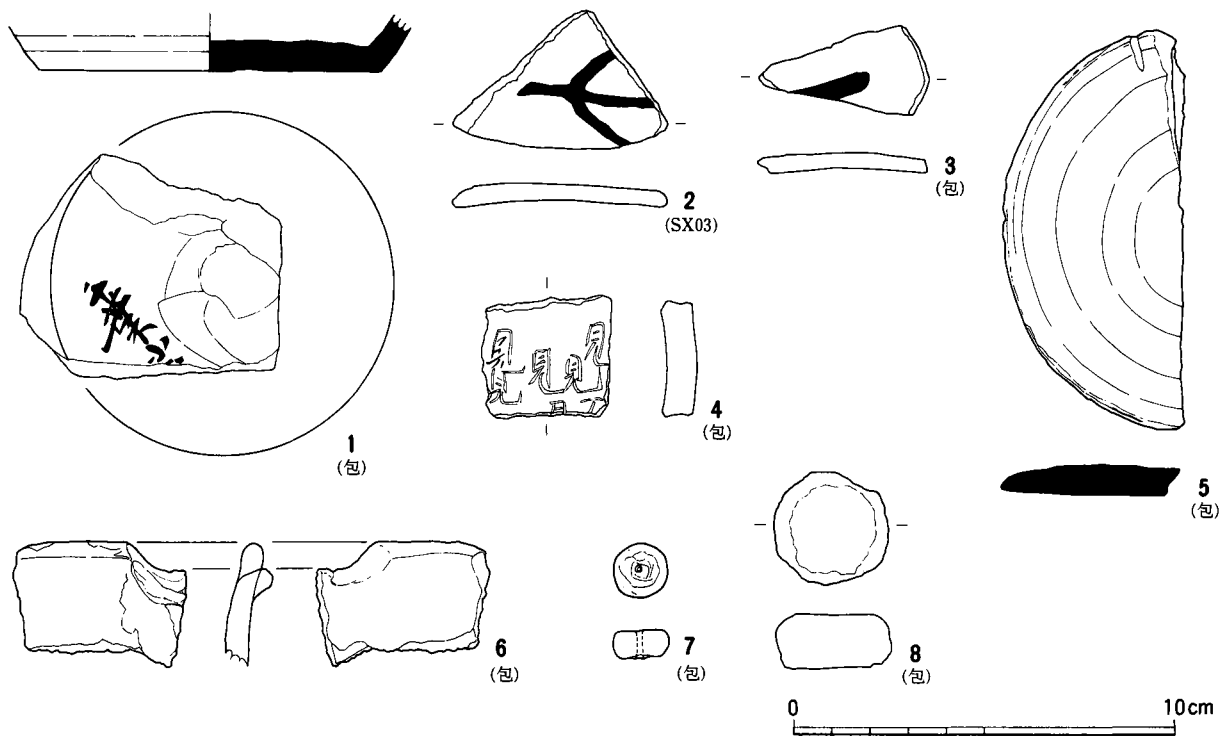
鉄製品では鏡・鉄鏃・不明鉄製品が出土した。16は儀鏡で、直径41.4mm、厚さ1.2mm～1.3mmを測る。小型の鉄板でわずかな反りと、中央部分に確認された紐が剝離したような痕跡から鏡と判断した。昭和58年の調査でも、類似した儀鏡が出土し報告されている。先に述べた銅製の鏡同様、一部欠損部分が認められるが、ほぼ正円形で縁はなく、薄板状の小型の鏡である。紐は確認できないが中央部分に小さい窪みが観察されるため、本来別作りの紐が付いていて、剝離した可能性が指摘できる。鏡面は、中心部分と周縁部分の間に若干の反りが認められる。17～21は鉄鏃で、17・18は先端部分、19～21は茎の部分である。17は腸袂三角型式の鉄鏃で、全体に扁平な作りである。一方18は先端部分が茎より若干広がった後に三角に収まる無関小型三角型式である。19は鉄鏃の茎部と思われる破片で、幅94mm厚さ4mmの棒状を呈する。20・21は茎部の破片で、頸部の裾が若干広がって茎部に至っている。21は頸部に比して茎部分は細くなるが厚みが増して、断面四角形を呈する。22・23は形状は似ているが厚さの異なる鉄製品である。刀子の可能性も考えられるが、双方とも刃部は確認できなかった。

(4) 墨書土器・篋書土器 (第47図1～4、図版20)

1の墨書土器は、須恵器杯の底部外面に書かれたもので、墨痕が非常に鮮明に残っており「千葉□□」  
と読むことができる。杯は、底部外面を回転ヘラケズリの後、外周ヘラケズリによって仕上げている(IA  
-a2類)。2・3は武蔵型甕の胴部片に書かれた墨書である。小片のため書かれた文字については良くわか  
らないが、2に見られる墨痕は記号のようなものとも考えられる。4は在地の甕の体部片に書かれた篋書  
で、「見」と言う文字のみが6文字ほど認められる。文字はすべて同じ方向から書かれており、並びは不規  
則で近接している。文字の様子から非常に先端の細いもので書かれたことが観察される。2以外の遺物は  
包含層から検出され、1はSX01の北西、3～4はSX03の東側からそれぞれ出土している。

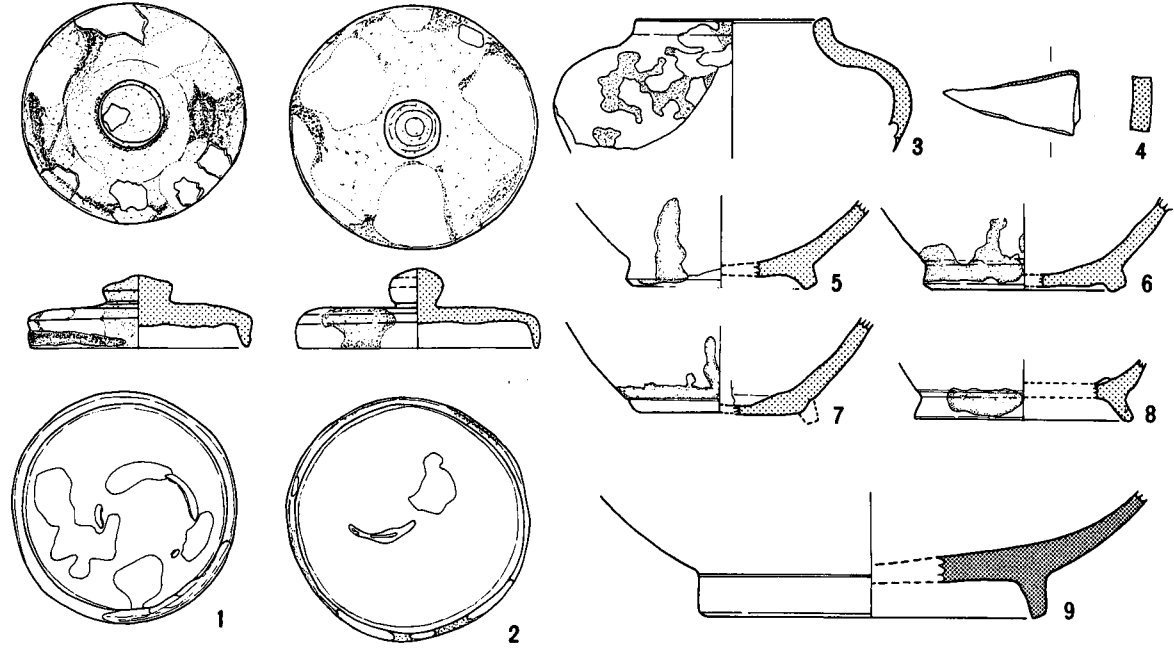
(5) その他の遺物 (第47図5～8、図版20)

5は須恵器杯の底部片を転用した土製品である。底部の円盤状の部分を丁度半分にした半円形状で、外  
周部分は両面から擦られた様子が確認できる。あまり鋭くはないが刃のように加工されている。6は内外  
面に銅滓の付着するトリベの口縁部片である、口縁端部には片口が作られその部分に多く銅滓が付着して  
いた。本遺跡からは青銅製品も出土しており、その製作の一端を示す可能性が指摘される。7の土玉は小  
型で、外面の調整も比較的丁寧に行われている。8は瓦片を小さく打ち欠いて円形に加工した土製品で  
ある、用途は不明である。5～8の遺物は第2地点の包含層のSX01～SX03が位置する地点からやや東に寄っ  
た所から出土している。

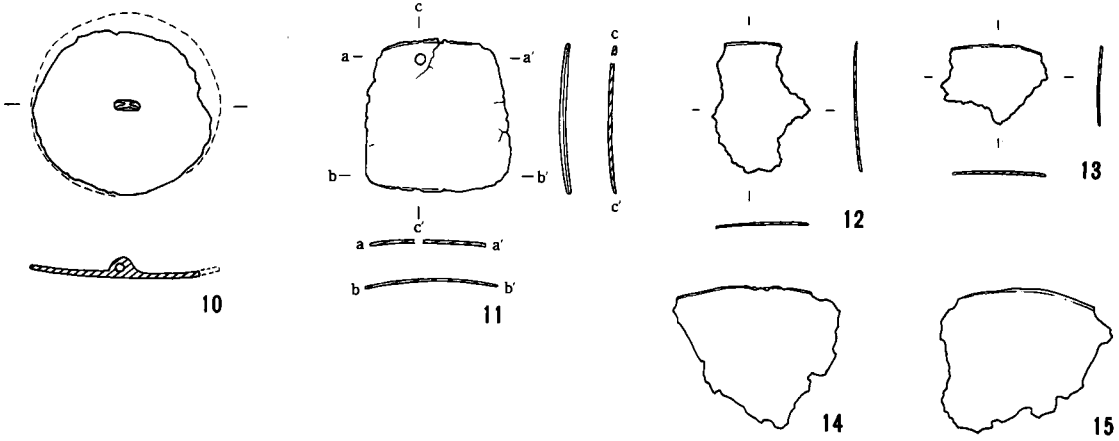


第47図 墨書土器ほか実測図

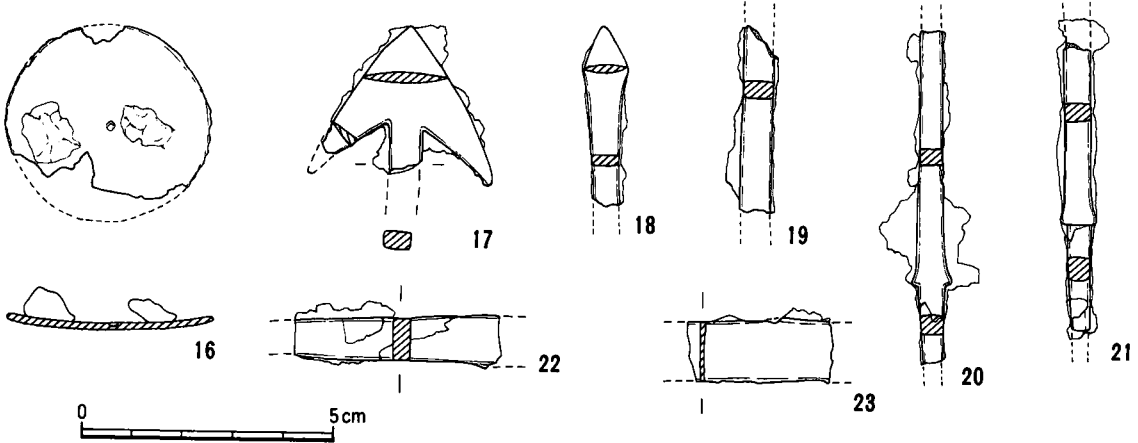
陶器



銅製品



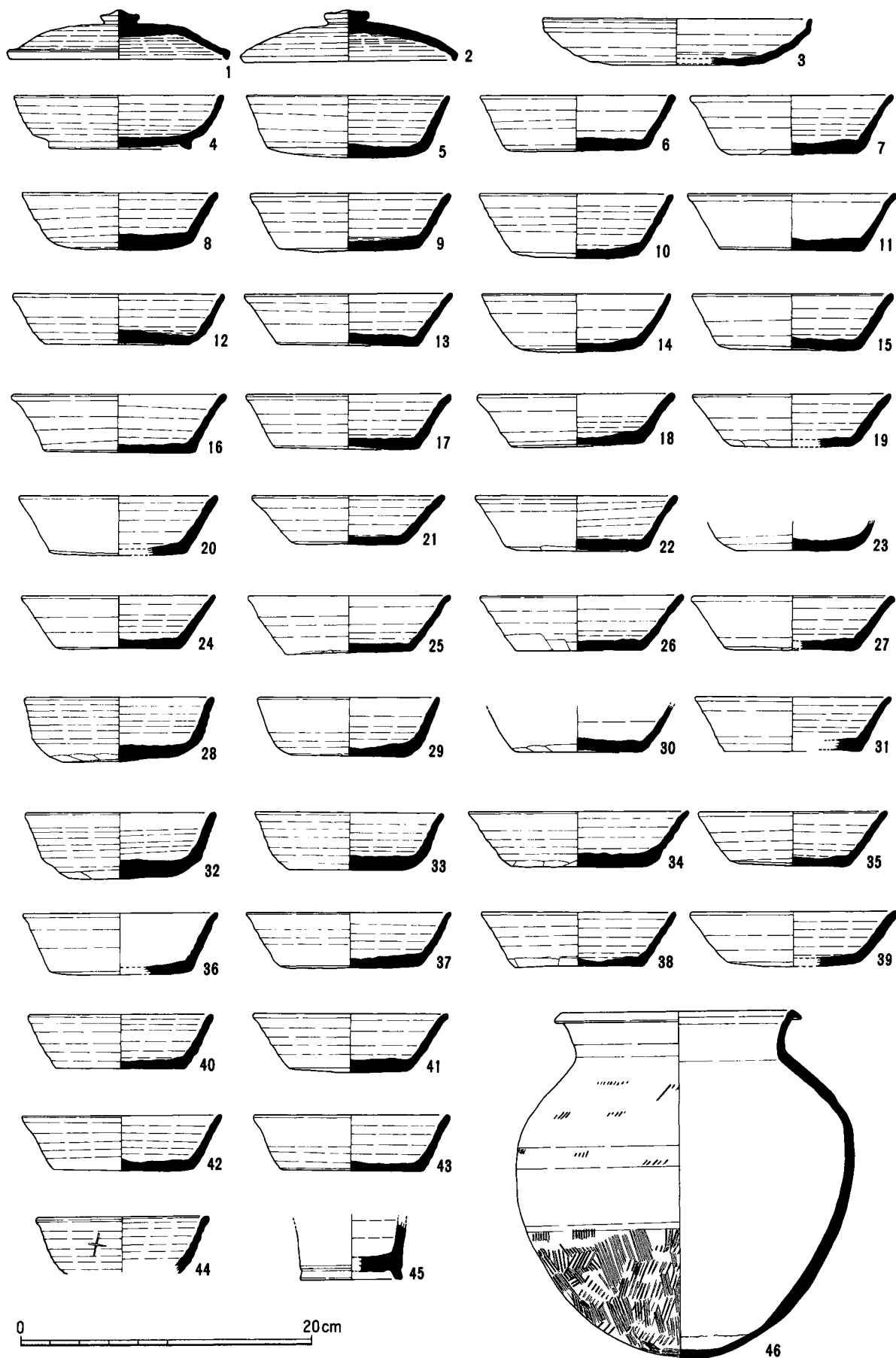
鉄製品



0 5cm

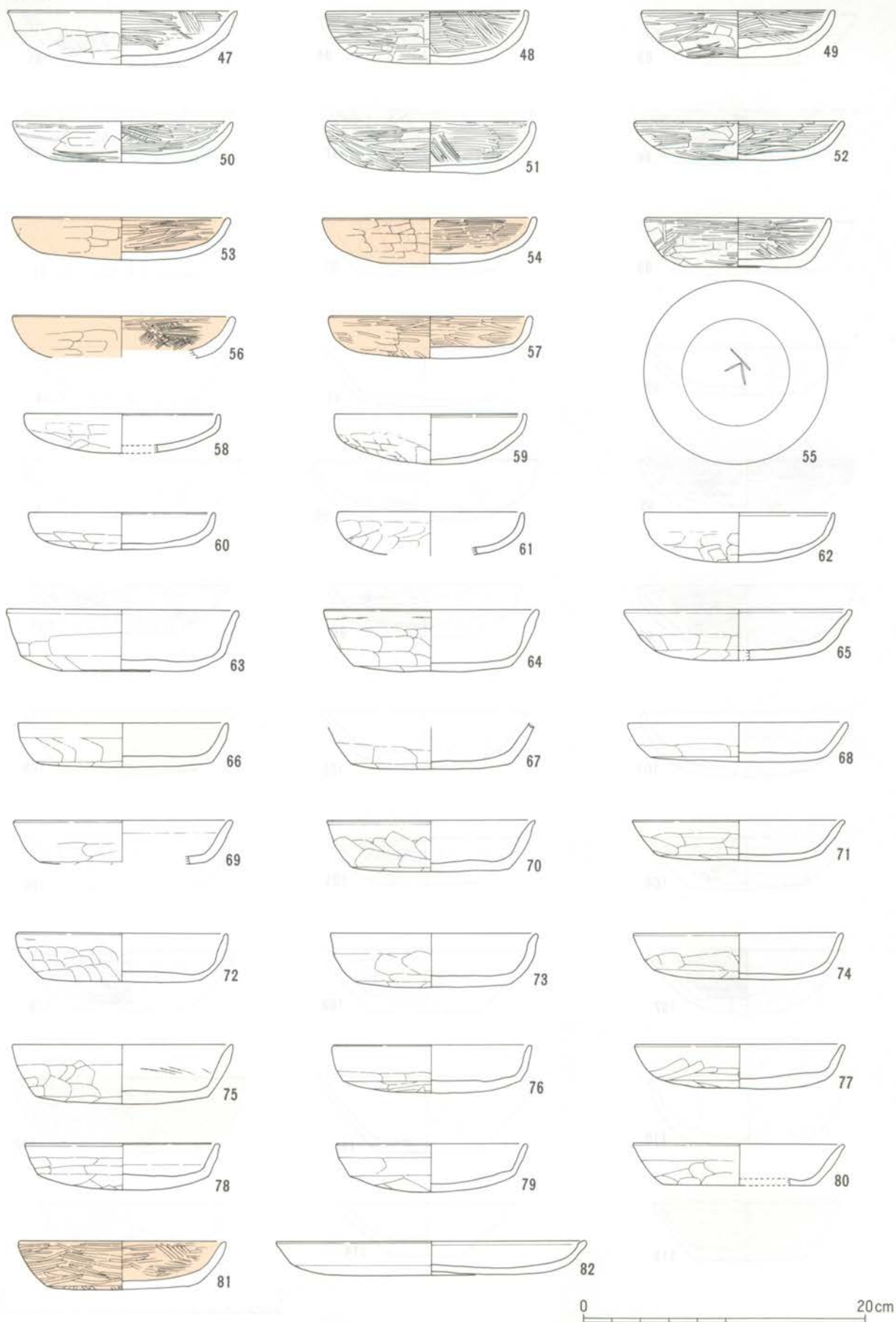
第48図 多彩釉陶器・金属製品実測図

SX01



第49図 SX出土遺物 須恵器

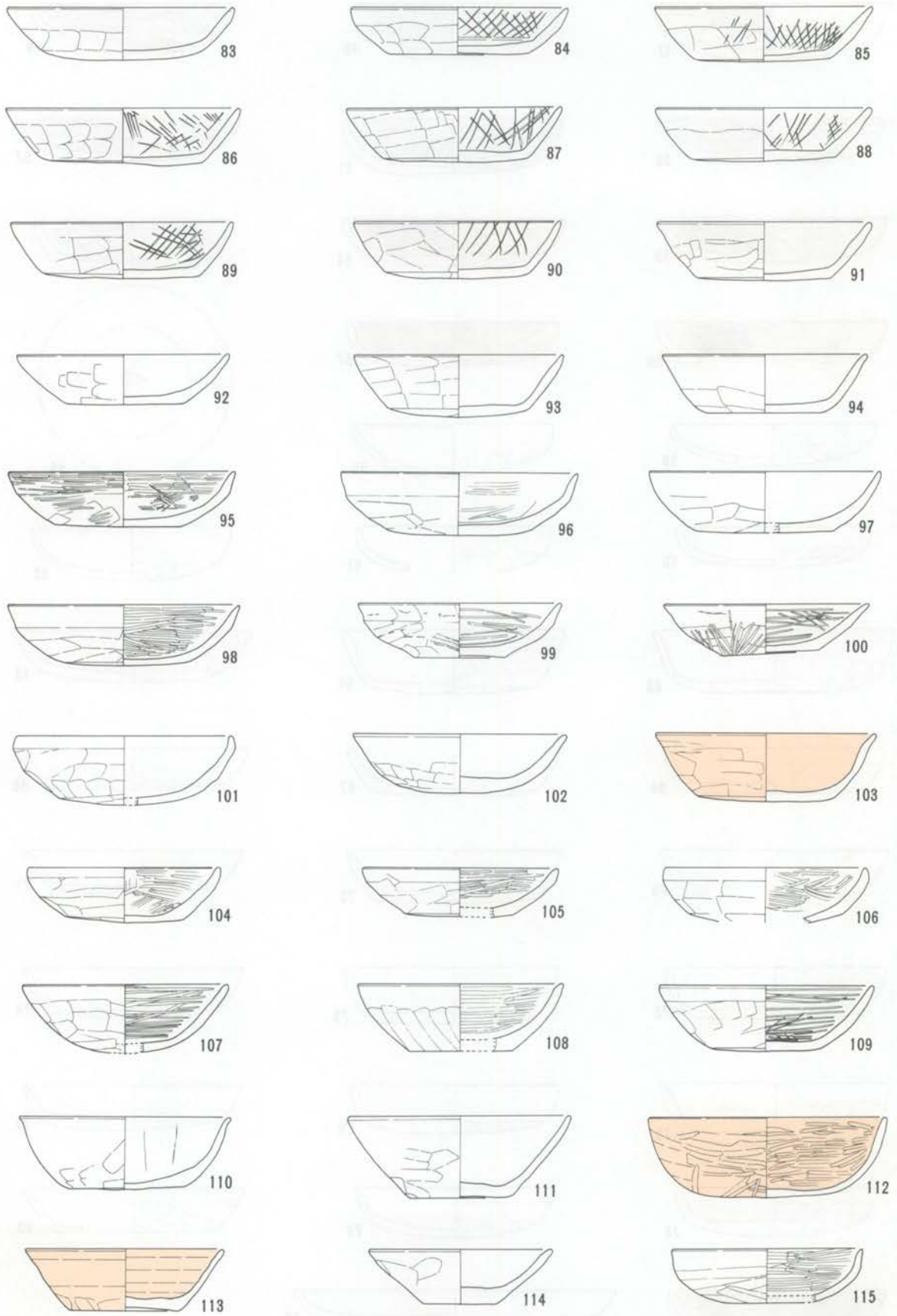
SX01



第50図 SX出土遺物 土師器杯類(1)



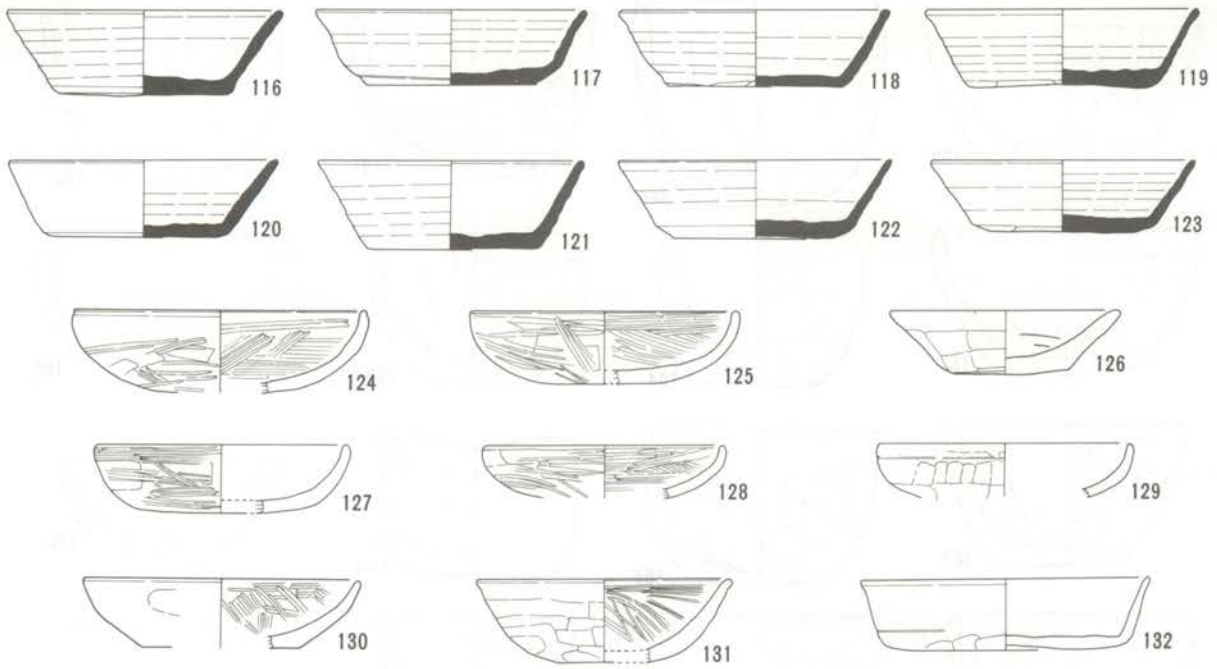
SX01



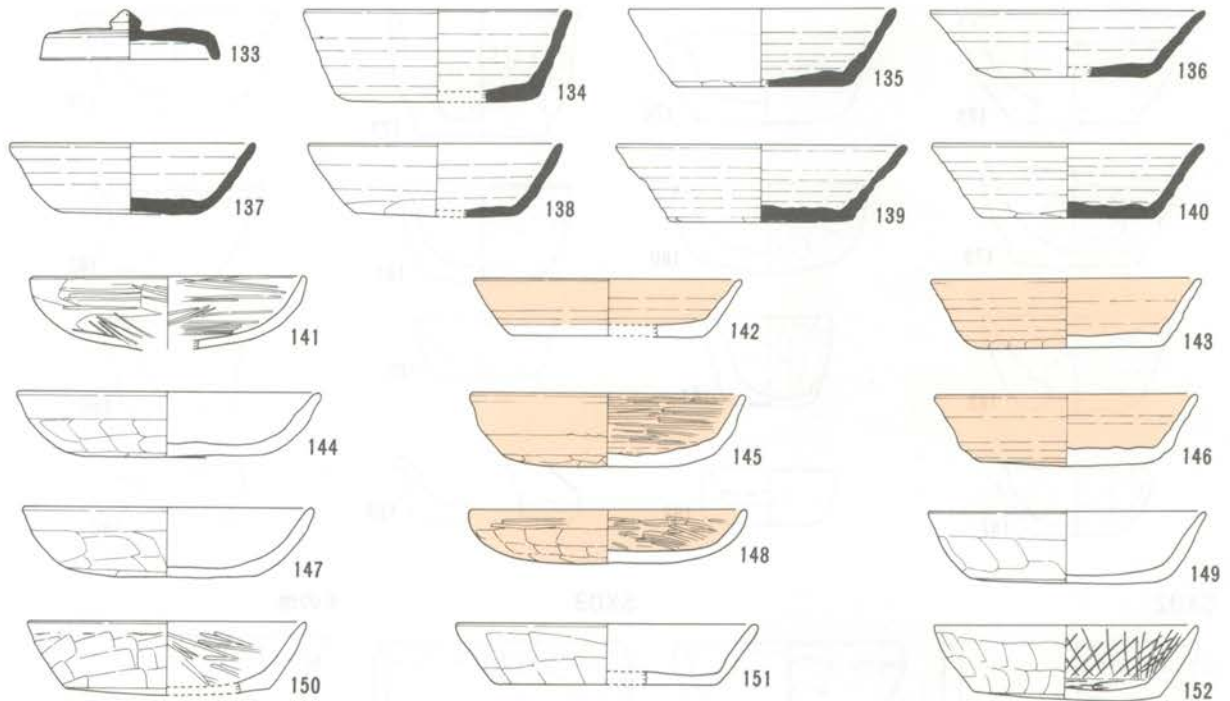
0 20cm

第51図 SX出土遺物 土師器杯類(2)

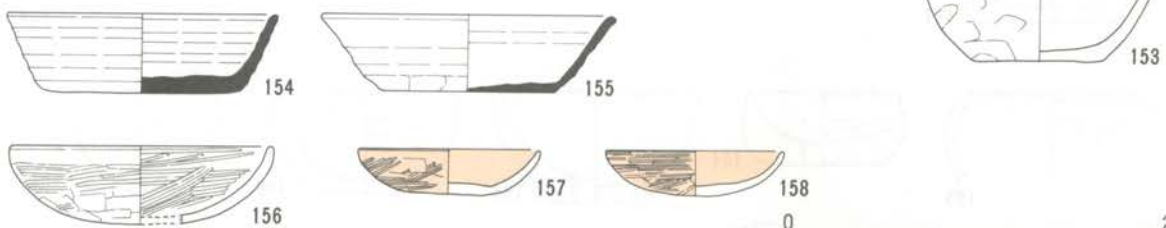
SX02



SX03



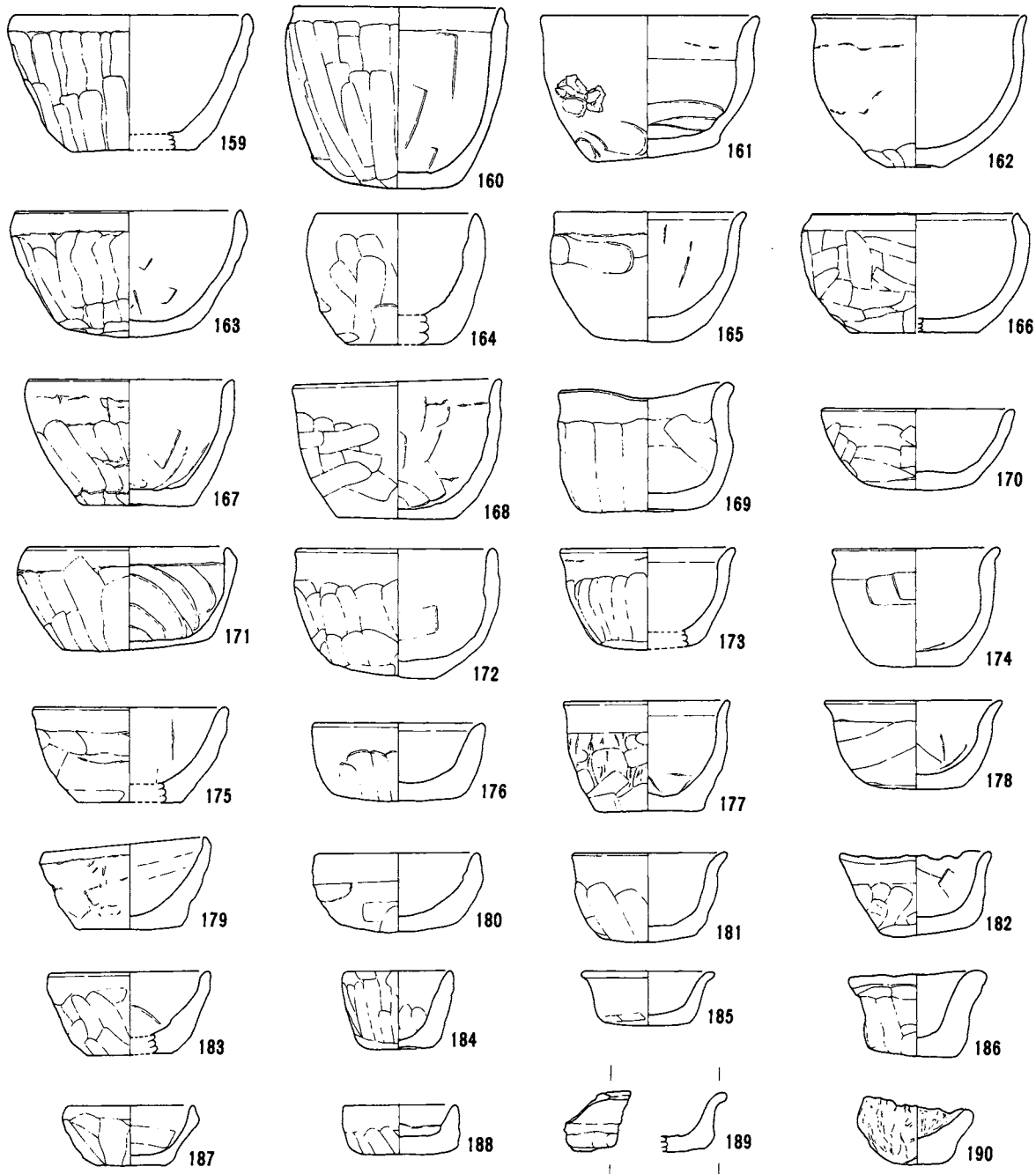
その他



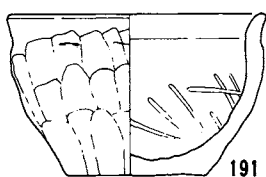
0 20cm

第52図 SX出土遺物 土師器・須恵器

SX01

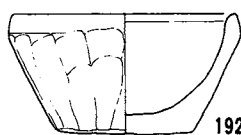


SX02

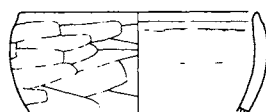


191

SX03

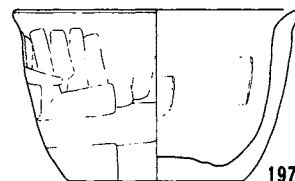


192

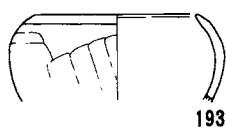


195

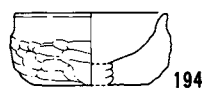
その他



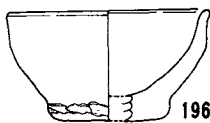
197



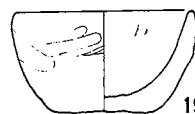
193



194



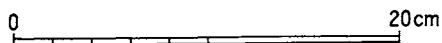
196



198

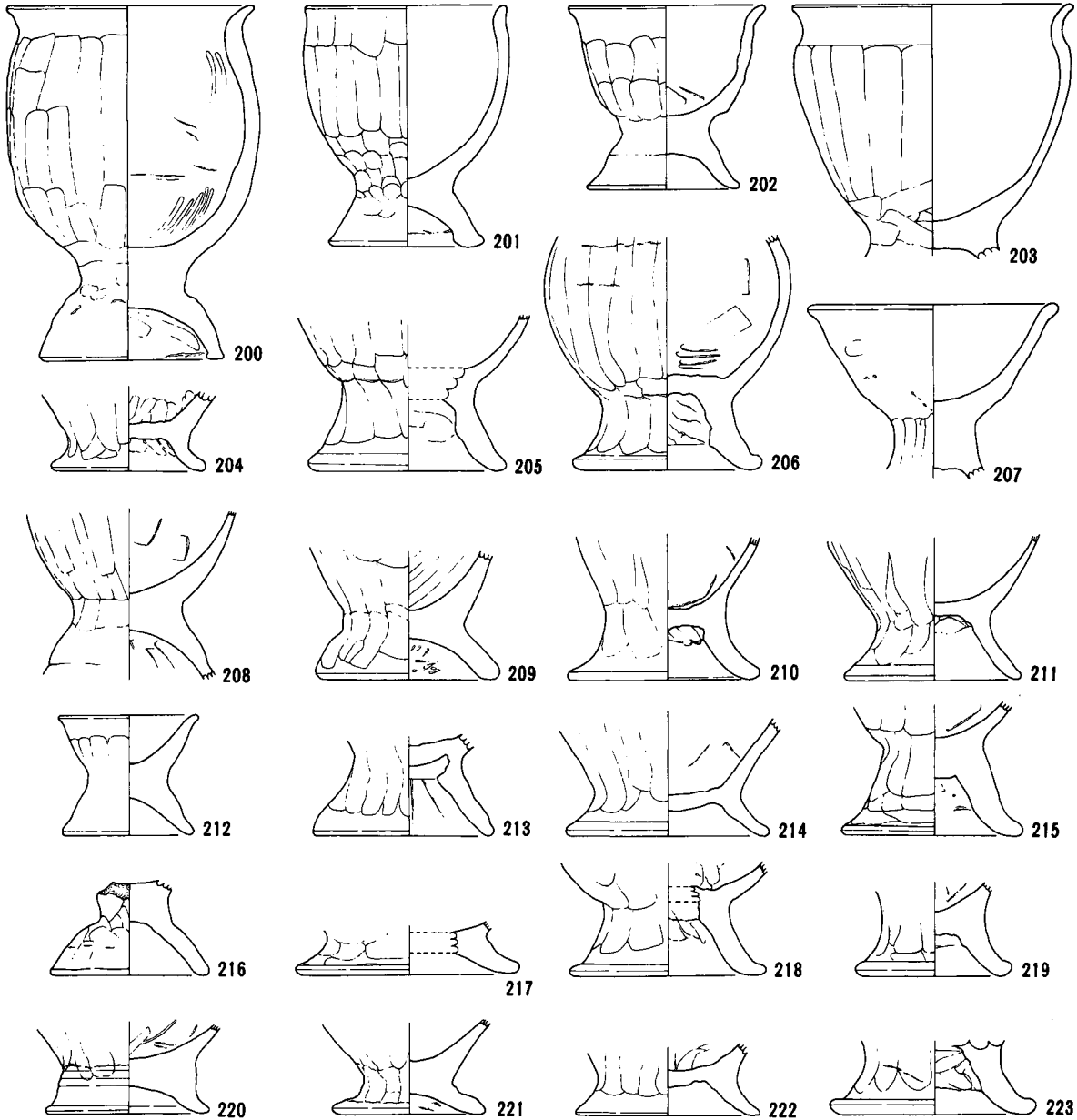


199

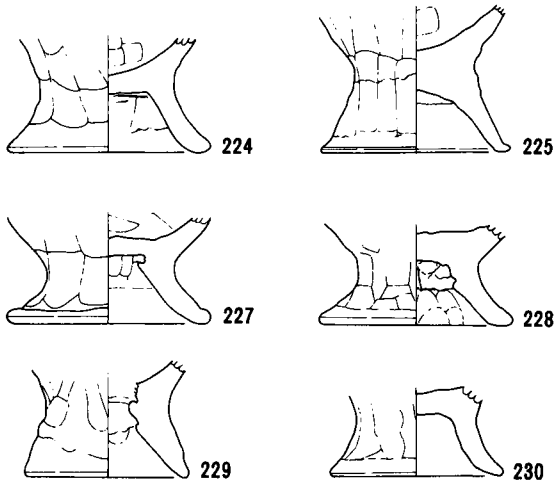


第53図 SX出土遺物 土師器鉢類

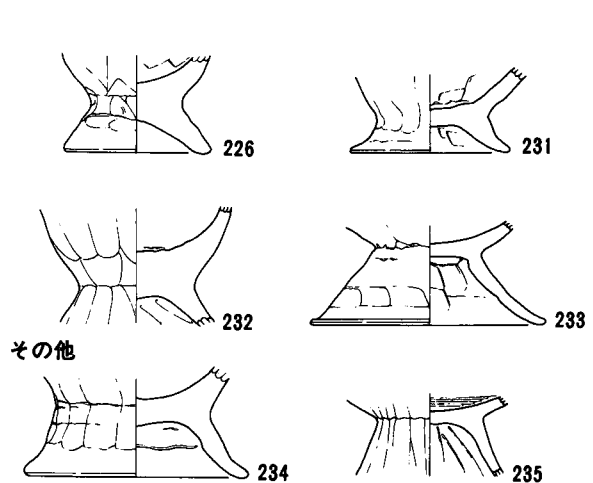
SX01



SX02

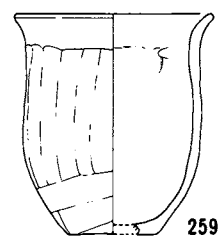
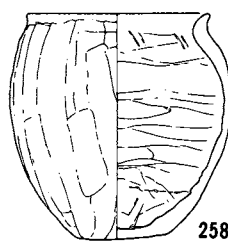
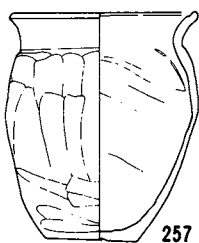
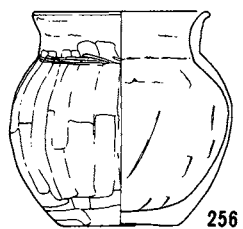
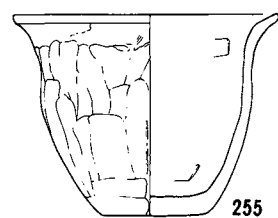
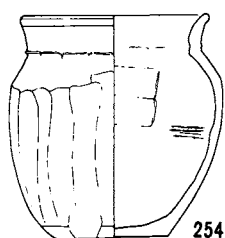
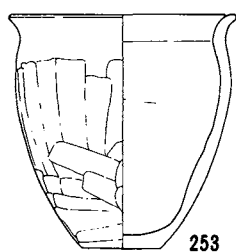
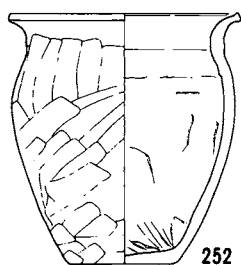
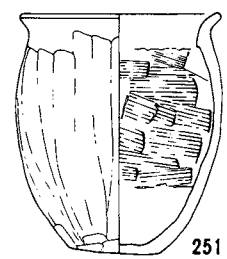
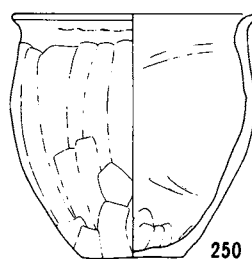
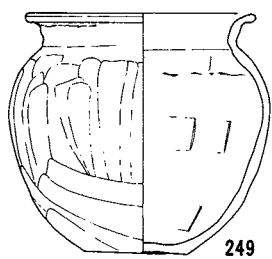
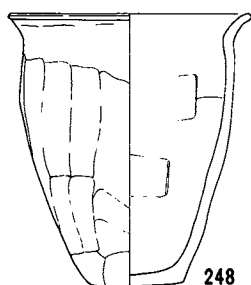
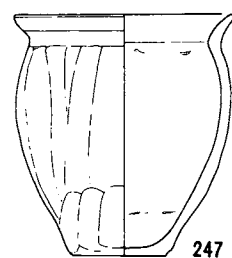
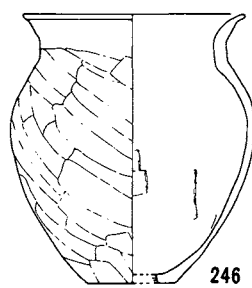
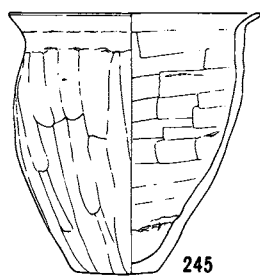
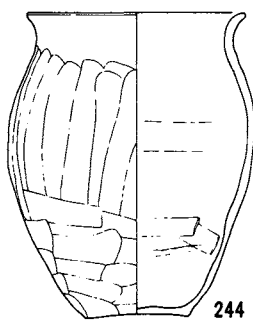
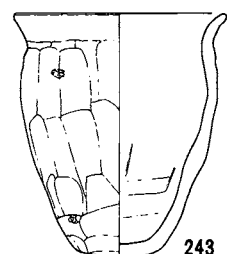
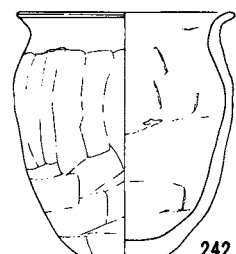
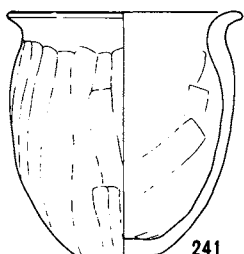
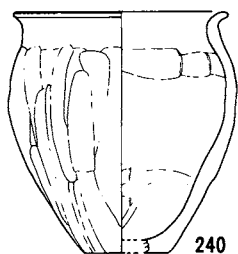
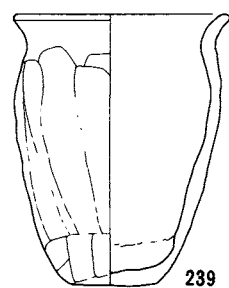
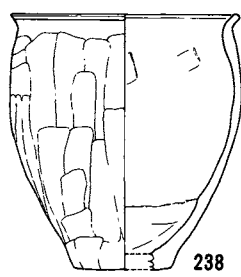
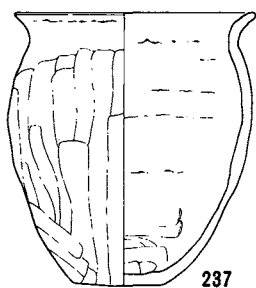
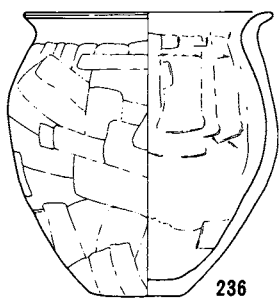


SX03



第54図 SX出土遺物 土師器台付甕

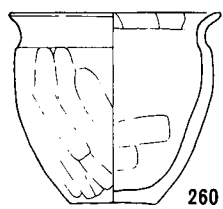
SX01



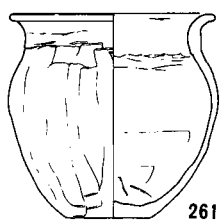
0 20cm

第55図 SX出土遺物 土師器小型甕(1)

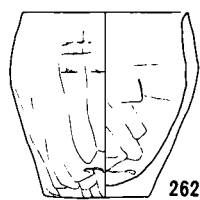
SX01



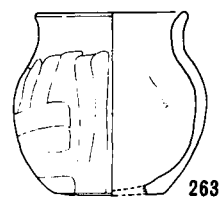
260



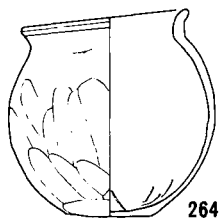
261



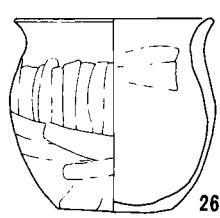
262



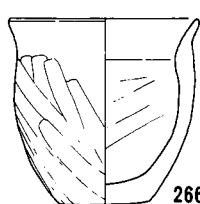
263



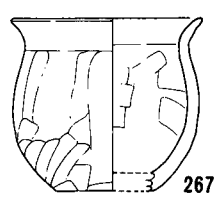
264



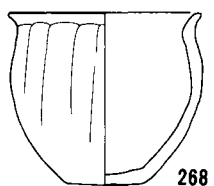
265



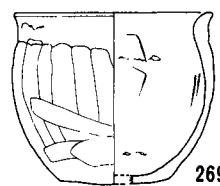
266



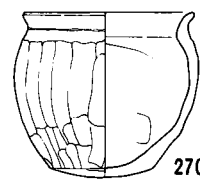
267



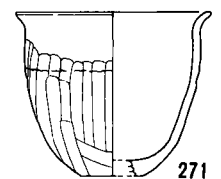
268



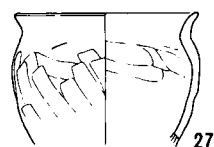
269



270



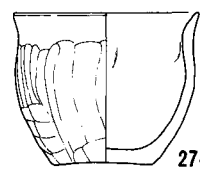
271



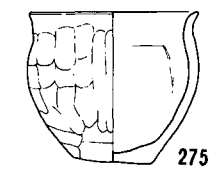
272



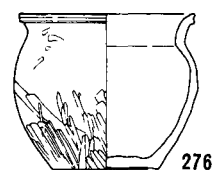
273



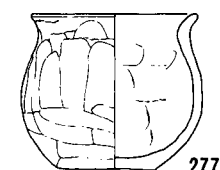
274



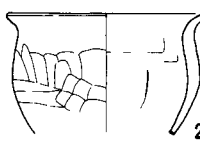
275



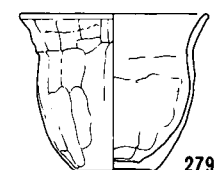
276



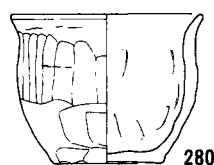
277



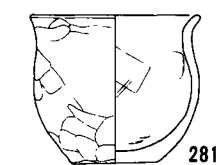
278



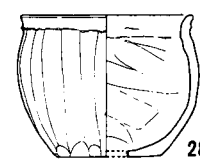
279



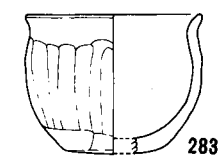
280



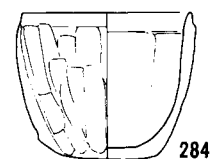
281



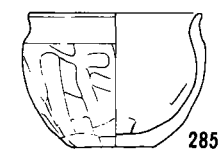
282



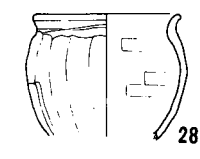
283



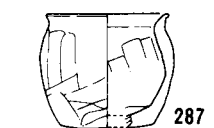
284



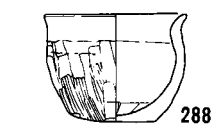
285



286

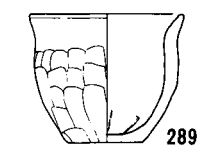


287

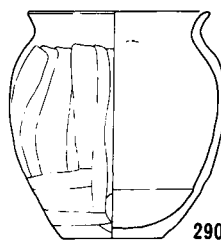


288

SX03



289

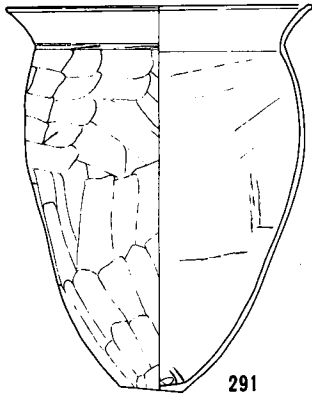


290

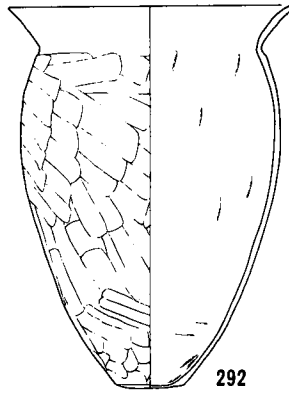


第56図 SX出土遺物 土師器小型甕(2)

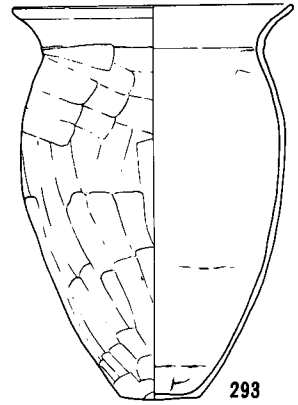
SX01



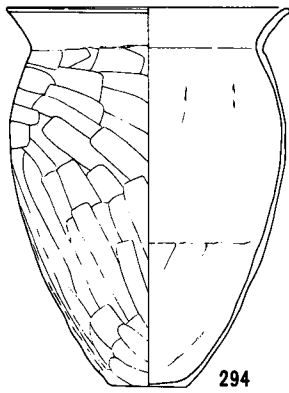
291



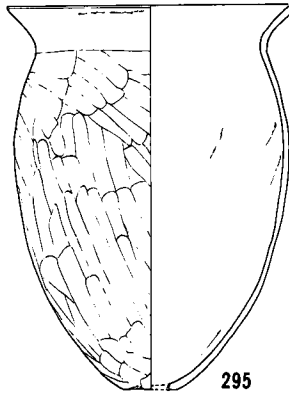
292



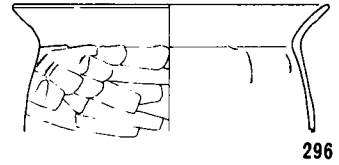
293



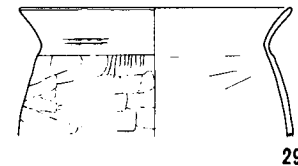
294



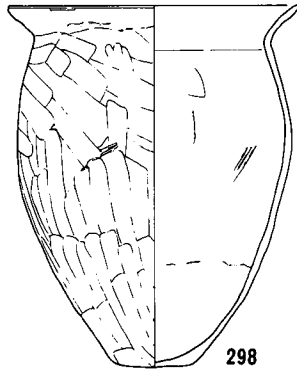
295



296



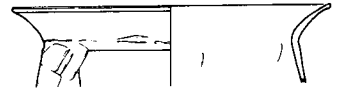
297



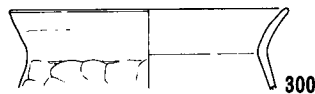
298



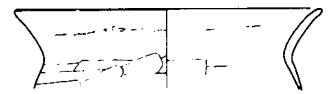
299



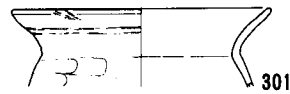
302



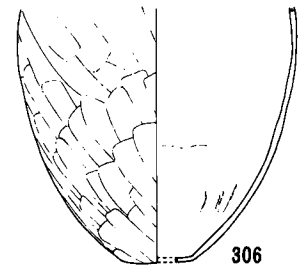
300



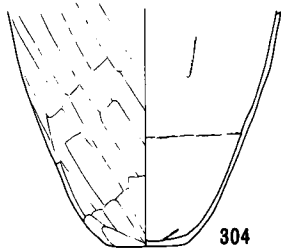
303



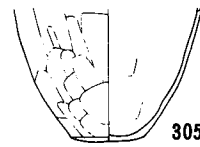
301



306

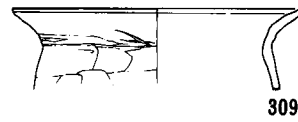


304

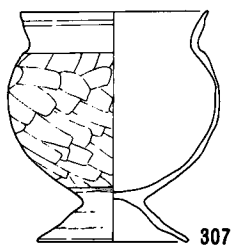


305

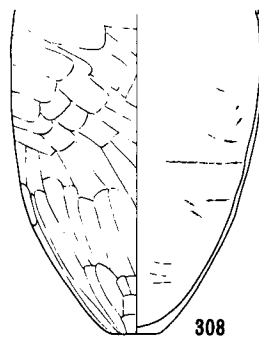
SX02



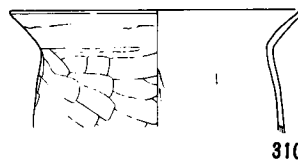
309



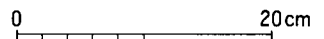
307



308



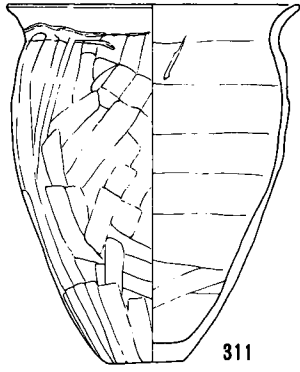
310



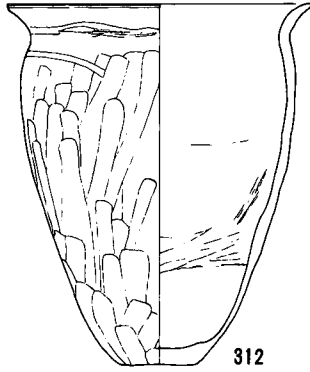
第57図 SX出土遺物 土師器甕II A〔武蔵型〕



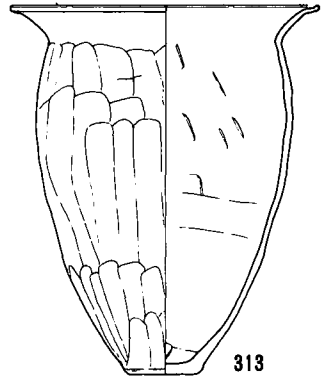
SX01



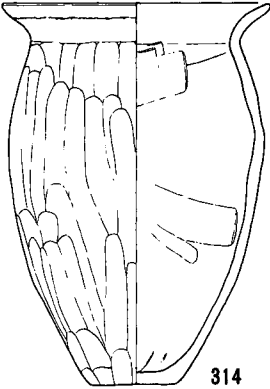
311



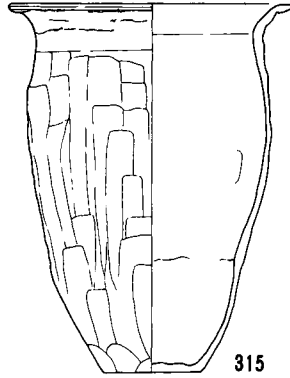
312



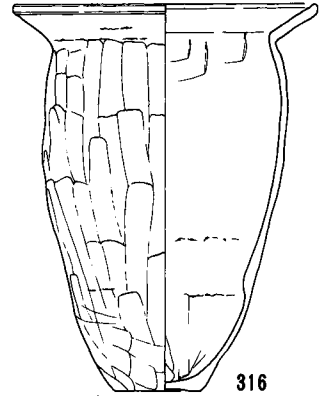
313



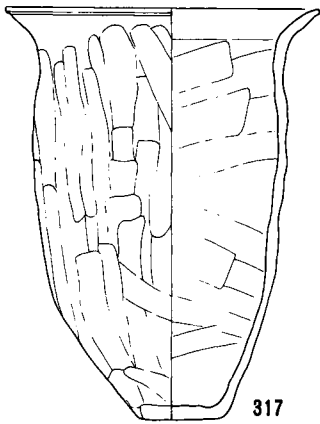
314



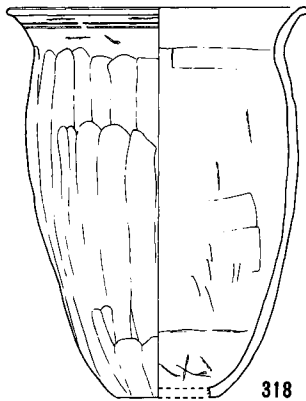
315



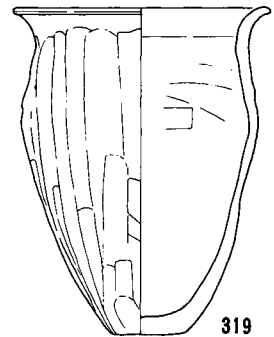
316



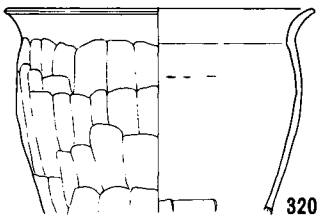
317



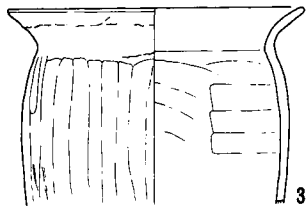
318



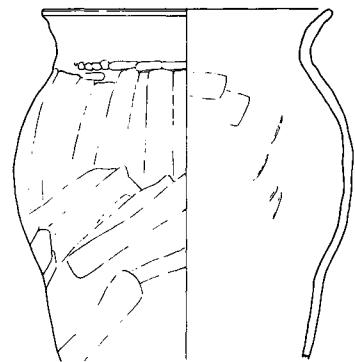
319



320



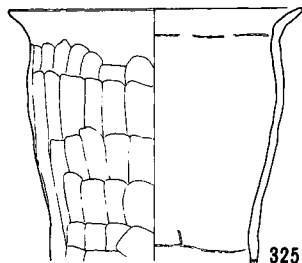
321



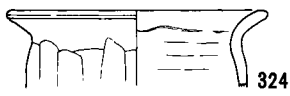
322



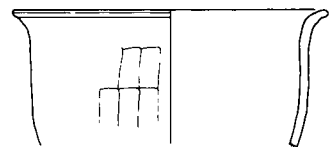
323



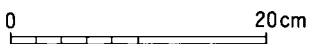
325



324

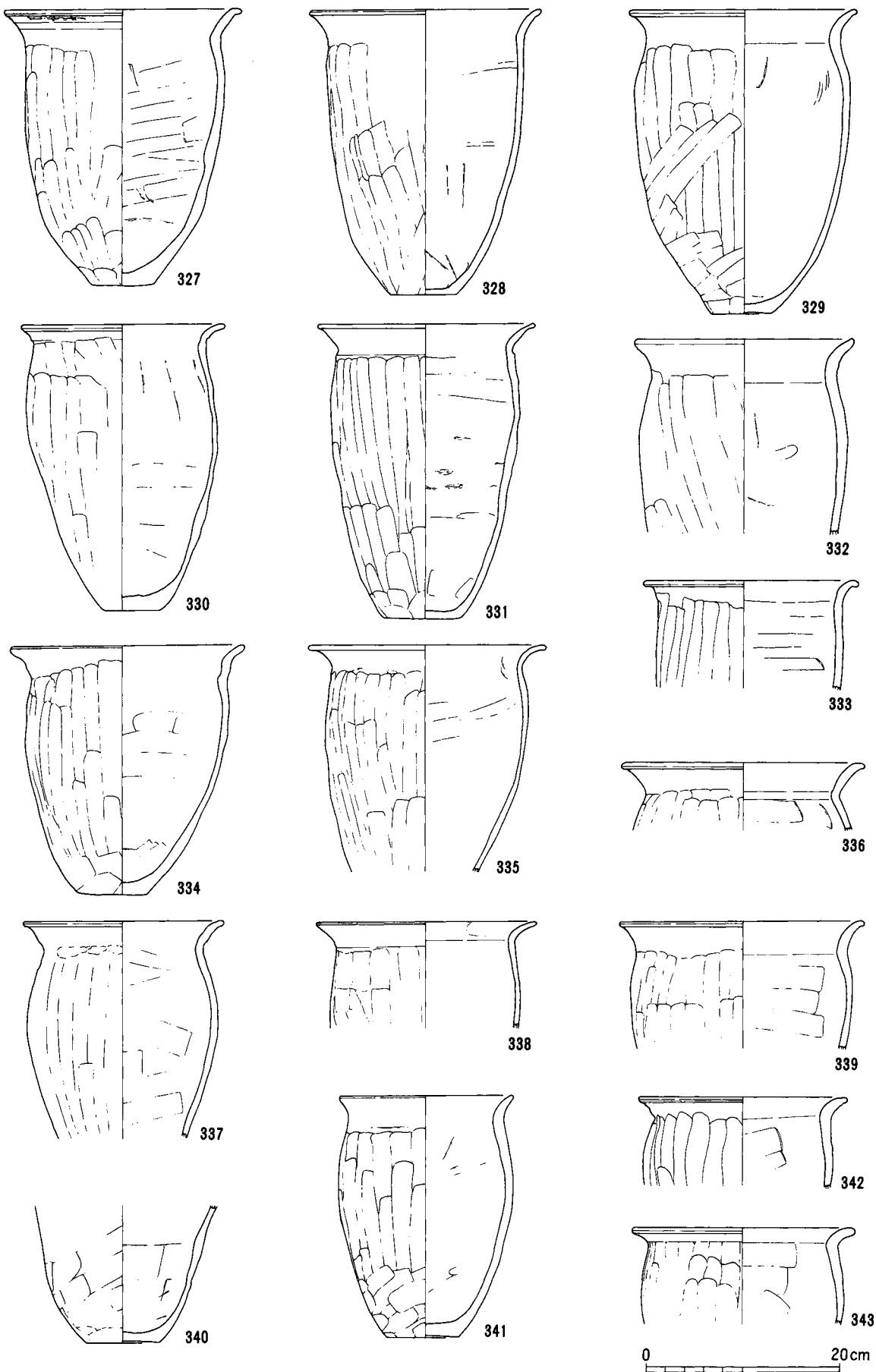


326



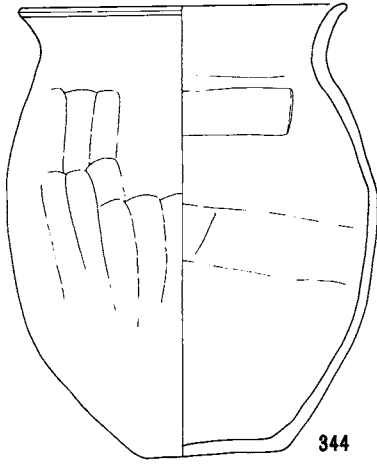
第58图 SX出土遺物 土師器甕 I A〔在地型〕(1)

SX01

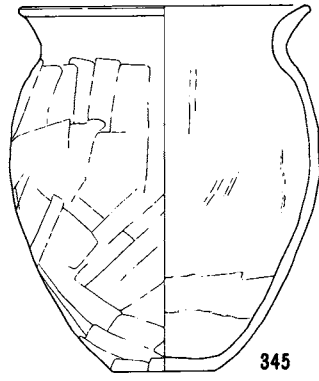


第59図 SX出土遺物 土師器甕 I A [在地型] (2)

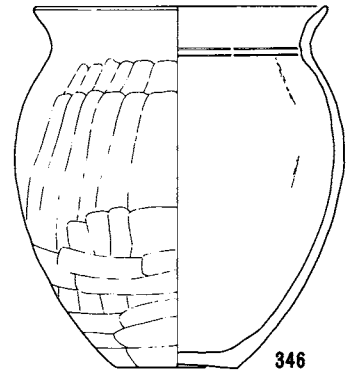
SX01



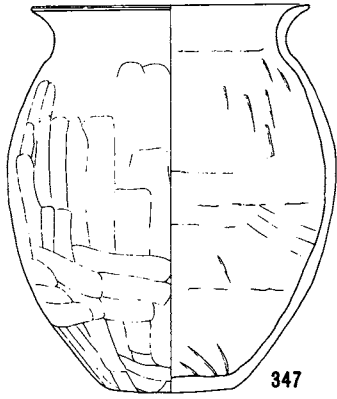
344



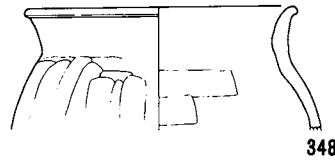
345



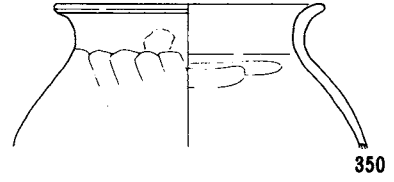
346



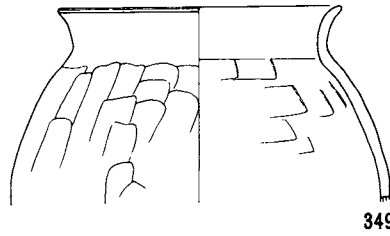
347



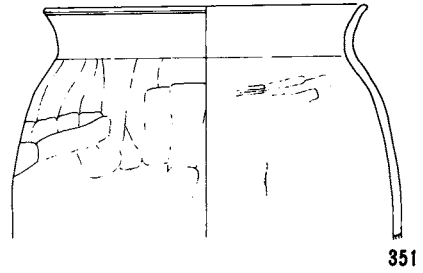
348



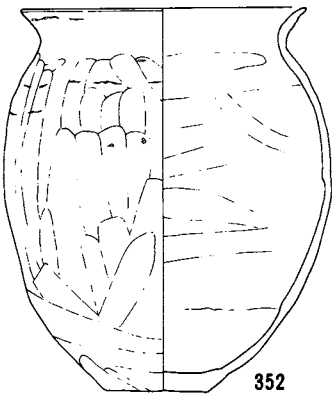
350



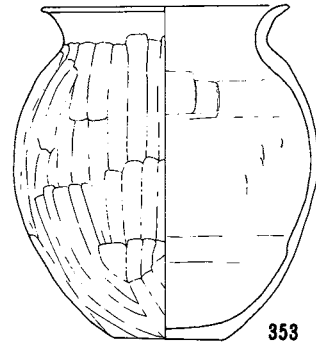
349



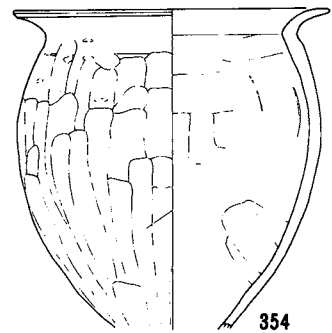
351



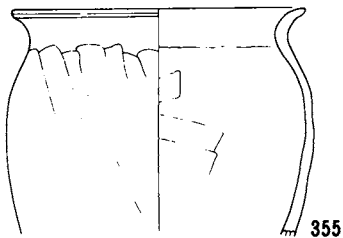
352



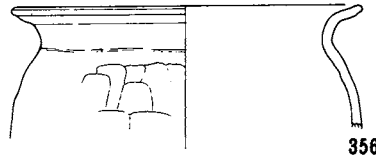
353



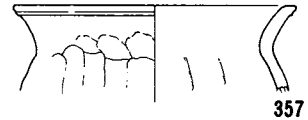
354



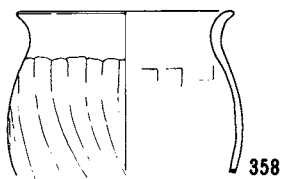
355



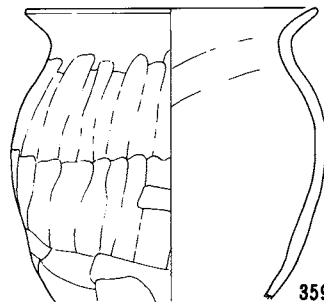
356



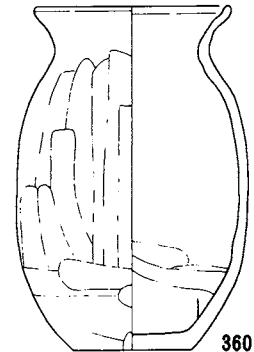
357



358



359

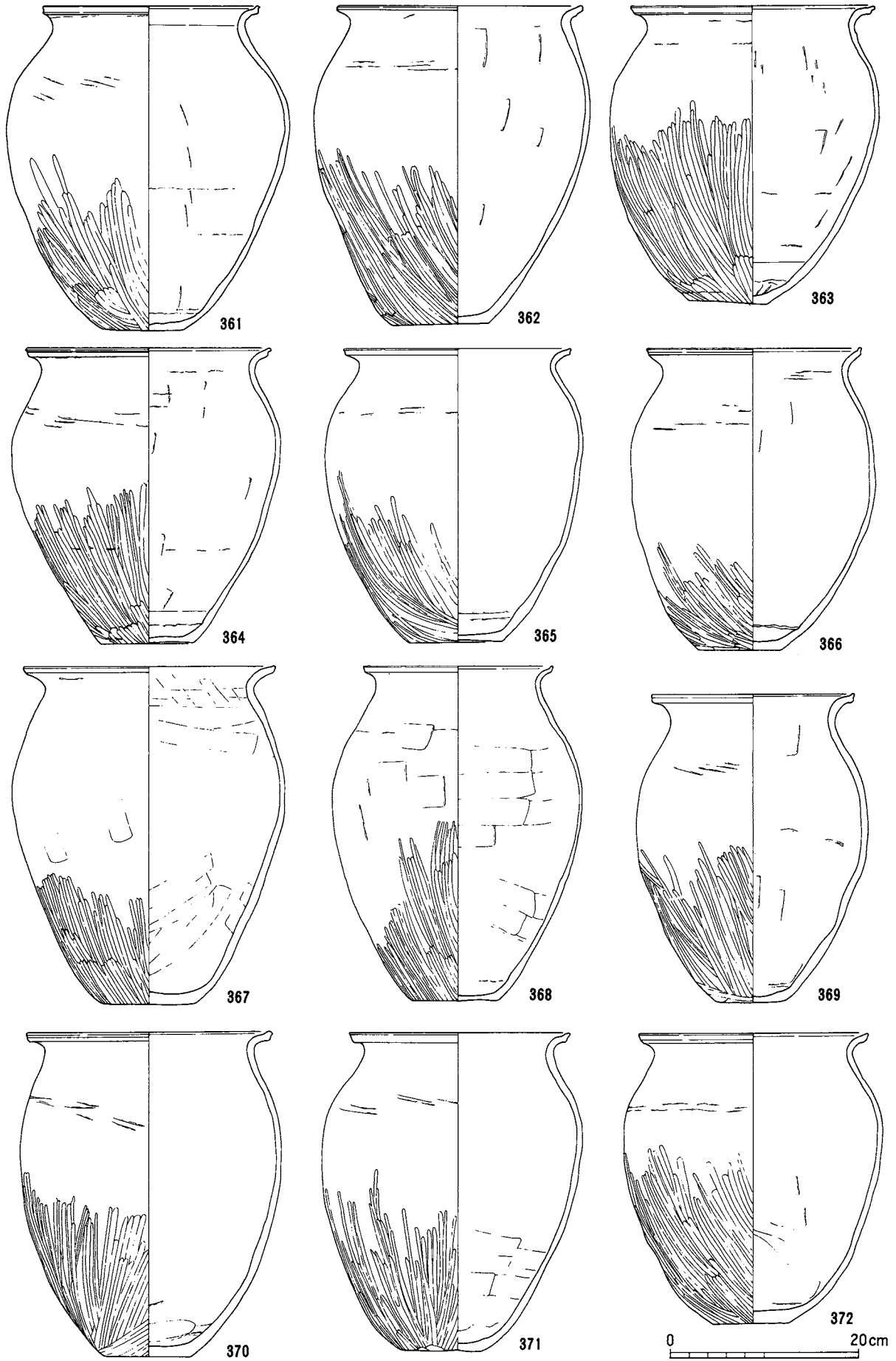


360



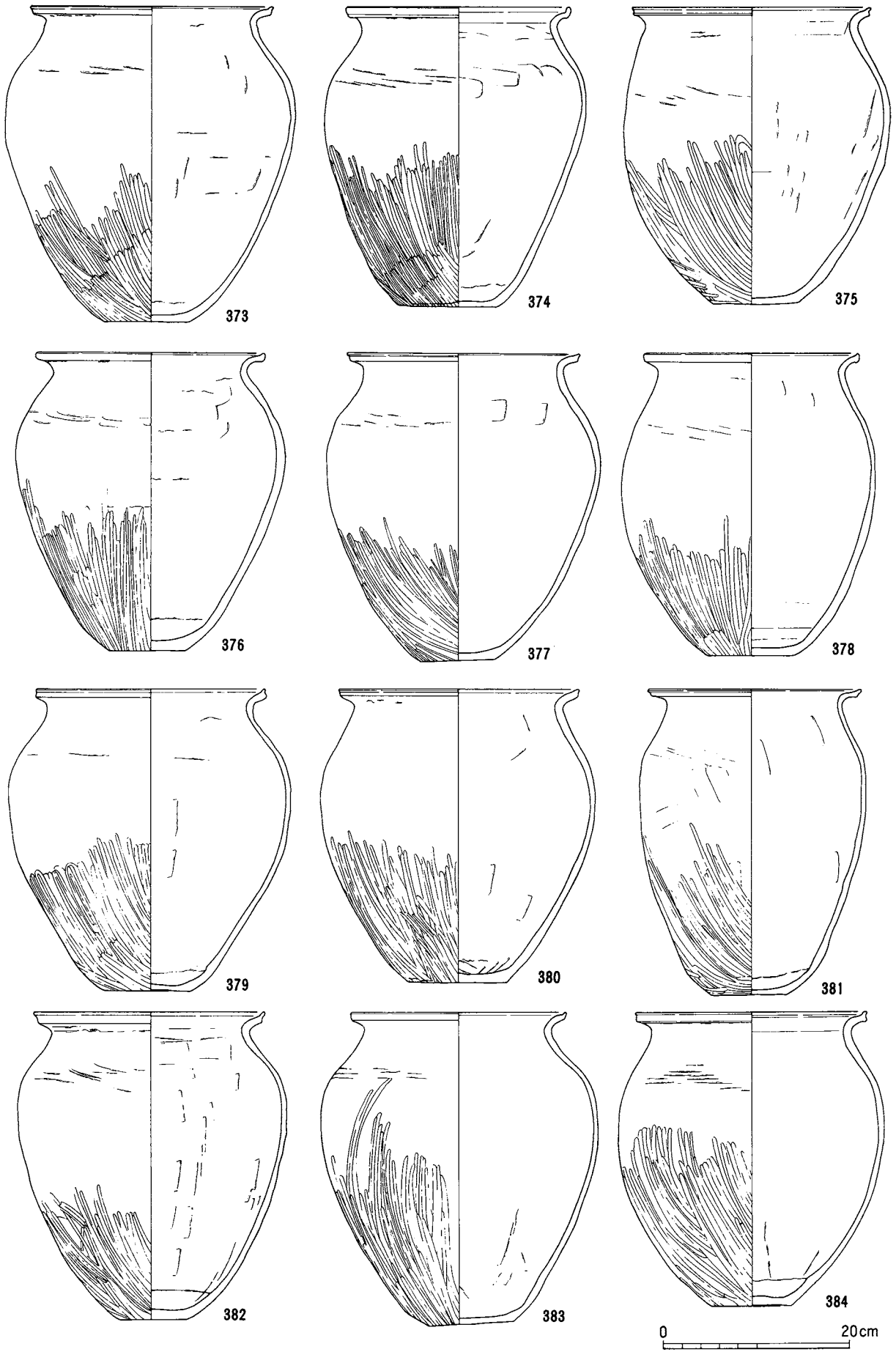
第60図 SX出土遺物 土師器甕I B〔在地型〕

SX01



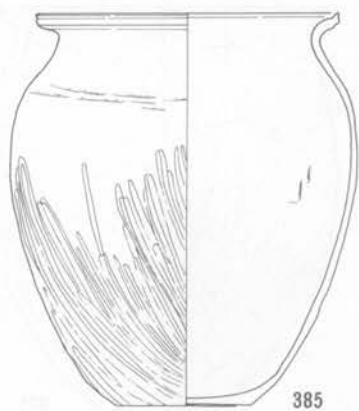
第61図 SX出土遺物 土師器甕II B〔常総型〕(1)

SX01



第62図 SX出土遺物 土師器甕II B〔常総型〕(2)

SX01



385

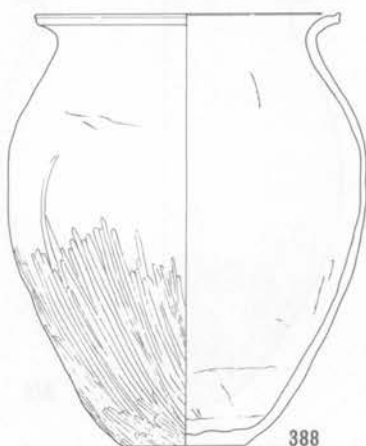


386

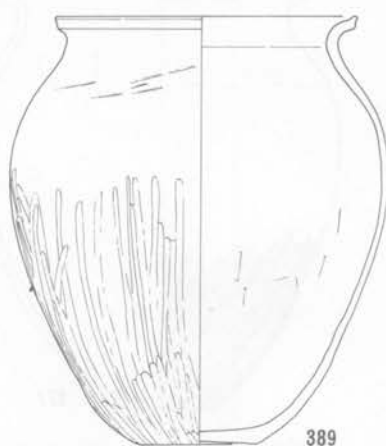


387

SX02

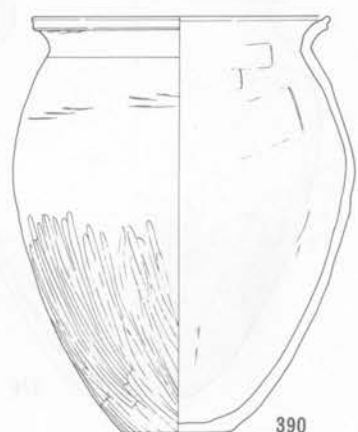


388



389

SX03



390

0 20cm

第63図 SX出土遺物 土師器甕II B〔常総型〕 (3)



361



362



363



365



381



384



387

(ケズリ)



369

(ミガキ)

0 20cm

第64図 常総型甕底部拓影図

第14表 種ヶ谷津遺跡出土土器観察表 (奈良・平安時代)

遺蹟No	グリッド	棟図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
その他	11Q-33	46-1	土師器	高杯	盤	(27.2)	-	(17)	5	5YR6/6	5YR5/6	2.5YR6/8	暗文	内外面ヘラケズリの後ミガキ
SX01	10Q-33	49-1	須恵器	蓋	FUTA	15.1	3.5		100	10YR6/1	10Y4/2	10YR6/1	自然釉 東海	ロクロ成形 天井部回転ヘラケズリ
SX01	10Q-32	49-2	須恵器	蓋	FUTA	14.9	3.6		100	7.5YR4/1	7.5YR4/1	7.5YR4/1		
SX01	10R-02	49-3	須恵器	皿	皿	18.4	3.2+	7	25	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ中段まで
SX01	10Q-33	49-4	須恵器	杯B	II	14.2	3.8	9.7	70	7.5Y6/1	7.5Y5/1	7.5Y6/1	自然釉 東海	高台付杯、ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX01	10Q-32	49-5	須恵器	杯	IA-a1	14	4.5	11.2	100	7.5Y4/1	7.5Y4/1	7.5Y4/1	東海	ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX01	10R-03	49-6	須恵器	杯	IA-a2	13.6	4	10.2	100	N6/0	N6/0	N6/0		
SX01	10R-03	49-7	須恵器	杯	IA-a2	14	4.2	8.9	25	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ
SX01	10R-03	49-8	須恵器	杯	IA-a1	13.4	4	9.5	100	5Y7/2	5Y7/2	2.5Y6/3		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX01	10Q-32	49-9	須恵器	杯	IA-a1	13.8	3.9	9.8	25	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10R-02	49-10	須恵器	杯	IA-a2	13.2	4.5	8.4	60	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10R-03	49-11	須恵器	杯	IA-a2	14.4	3.9	9.8	65	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ
SX01	10R-02	49-12	須恵器	杯	IA-a1	14.4	3.5	9.9	90	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7.5Y5/1	胎土密	ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX01	10R-02	49-13	須恵器	杯	IA-a1	14.2	3.6	9.6	25	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		
SX01	10R-02	49-14	須恵器	杯	IA-a2	13	4.1	8.2	30	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7.5Y5/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ
SX01	10R-02	49-15	須恵器	杯	IA-a2	13.8	3.8	10	100	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10R-03	49-16	須恵器	杯	IA-a1	14.4	4.1	9.5	70	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX01	10R-03	49-17	須恵器	杯	IA-a1	13.8	3.8	9.2	60	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		
SX01	10R-03	49-18	須恵器	杯	IA-a2	13.4	3.7	9.3	30	5Y6/1	5Y6/1	5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ
SX01	10R-03	49-19	須恵器	杯	IA-a2	13.9	3.7	8.3	25	2.5Y6/2	2.5Y6/2	2.5Y6/2		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向)+外周ヘラ
SX01	10Q-33	49-20	須恵器	杯	IA-a1	13.5	4.2+	9.3	25	2.5Y6/2	5YR6/6	2.5Y6/2		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX01	10Q-33	49-21	須恵器	杯	IA-a1	13.2	3.4	7.8	25	10YR6/3	10YR6/3	10YR6/3		
SX01	10Q-32	49-22	須恵器	杯	IA-a2	14	3.8	8.2	75	7.5Y7/2	7.5Y7/2	7.5Y5/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ+外周ヘラケズリ
SX01	10R-03	49-23	須恵器	杯	IA-a2		2+	7.8	40	5Y7/2	5Y/16/1	5Y7/2	胎土密	ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ
SX01	10Q-33	49-24	須恵器	杯	IB-a1	13.2	3.6	8.5	50	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向)
SX01	10R-02	49-25	須恵器	杯	IB-a1	13.8	3.9	8.7	50	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10Q-32	49-26	須恵器	杯	IB-a1	14	3.7	8.8	60	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10R-03	49-27	須恵器	杯	IB-a1	14	3.8+	8.5	40	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10R-03	49-28	須恵器	杯	IB-a2	12.9	4.5	8	55	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ
SX01	10R-03	49-29	須恵器	杯	IB-a2	12.4	4.1	7.8	100	N4/0	N4/0	N4/0	東海	
SX01	10R-03	49-30	須恵器	杯	IB-a2		3.4+	8.9	55	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		
SX01	10R-03	49-31	須恵器	杯	IB-a1	13.4	3.8+	9.4	25	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向)
SX01	10Q-33	49-32	須恵器	杯	IB-a2	13.3	4.6	7.3	100	7.5Y7/2	7.5Y7/2	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ
SX01	10R-03	49-33	須恵器	杯	IB-a2	13	4		60	7.5Y7/1	7.5Y7/1	N5/2		
SX01	10R-02	49-34	須恵器	杯	IB-a2	15.2	3.9	9.4	30	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10R-02	49-35	須恵器	杯	IB-a2	13.0	3.8	7.2	80	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7.5Y5/1		



追講No	グリッド	挿凶No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10R-03	49-36	須恵器	杯	I B-b	13.4	4.2+		30	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向)
SX01	10R-03	49-37	須恵器	杯	I B-b	14.2	3.8	9.7	65	7.5YR7/1	7.5YR7/1	7.5YR7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向) + 外周ヘラ
SX01	10R-02	49-38	須恵器	杯	I B-b	13.4	3.7	8.9	75	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		
SX01	10R-02	49-39	須恵器	杯	I B-b	14	3.8+	9.2	33	7.5YR5/3	7.5YR5/3	7.5YR5/3		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向)
SX01	10R-03	49-40	須恵器	杯	I B-b	12.4	3.8	9	25	2.5Y6/1	2.5Y6/1	2.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向) + 外周ヘラ
SX01	10Q-32	49-41	須恵器	杯	I B-b	13.4	4.5	8.6	50	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向)
SX01	10Q-32	49-42	須恵器	杯	I B-b	13.8	3.8	9.6	50	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向) + 外周ヘラ
SX01	10Q-32	49-43	須恵器	杯	I B-b	13.5	3.9	9.8	90	7.5Y	7.5Y	7.5Y		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向)
SX01	10Q-33	49-44	須恵器	碗	Ⅲ	11.8	4+		70	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1	碗形	ロクロ成形 体部下半ヘラケズリ
SX01	10R-01	49-45	須恵器	杯B	ⅡB		4.5+	7.2	25	2.5Y6/1	2.5Y6/1	2.5Y6/1	コップ形	高台付杯、ロクロ調整 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX01	10R-02	49-46	須恵器	壺	V	16	24.2		100	N5/0	N5/0	N5/0	丸底	外面工具によるタクキの後ナデ・内面ナデ
SX01	10Q-32	50-47	土師器	杯	I A	16.2	3.9		90	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-32	50-48	土師器	杯	I A	14.2	3.8		75	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-32	50-49	土師器	杯	I A	13.4	3.4		80	7.5YR7/6	10YR7/4	7.5YR7/6		
SX01	10Q-32	50-50	土師器	杯	I A	15.5	3.3		55	7.5YR7/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10R-02	50-51	土師器	杯	I A	14.6	3.9		65	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10Q-32	50-52	土師器	杯	I A	14.4	3		80	10YR7/4	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10Q-33	50-53	土師器	杯	I A(S)	15.3	3		95	10R7/4	2.5YR5/8	2.5YR5/8	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10R-02	50-54	土師器	杯	I A(S)	15.1	3.3		99	10YR7/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	
SX01	10Q-32	50-55	土師器	杯	I A(S)	13	3.4		99	10YR7/4	5YR6/6	5YR6/6		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-32	50-56	土師器	杯	I A(S)	15.4	3.0+		30	5YR7/6	10R3/6	10R3/6	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10R-03	50-57	土師器	杯	I A(S)	14.2	3		70	2.5YR6/8	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-32	50-58	土師器	杯	I B	14.1	2.8+		40	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10Q-32	50-59	土師器	杯	I B	14.0	3.6		80	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10Q-32	50-60	土師器	杯	I B	13.3	2.7		90	10YR7/4	5YR6/6	5YR6/6		一部黒変
SX01	10Q-32	50-61	土師器	杯	I B	13.4	2.9+		10	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4		一部黒変
SX01	10Q-32	50-62	土師器	杯	I B	13.9	3.6		70	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10Q-32	50-63	土師器	杯	I C	16.4	4.4	9.5	40	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		
SX01	10R-03	50-64	土師器	杯	I C	15.1	4.3	24.5	98	10YR7/6	10YR7/4	7.5YR6/4		
SX01	10R-03	50-65	土師器	杯	I C	16.2	3.6+	16.2	40	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10Q-32	50-66	土師器	杯	I C	14.8	3.2	12.6	60	10Y7/4	10Y7/4	10Y7/4		
SX01	10R-03	50-67	土師器	杯	I C		3.3+	11.5	20	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		
SX01	10R-03	50-68	土師器	杯	I C	15.4	2.8	12.6	60	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10R-02	50-69	土師器	杯	I C	15.6	3.1+	12	20	10YR7/4	10YR7/4	10YR6/2		
SX01	10R-03	50-70	土師器	杯	I C	14.8	3.7	11.5	90	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/4		
SX01	10R-03	50-71	土師器	杯	I C	15.0	2.8	11.7	80	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		
SX01	10R-02	50-72	土師器	杯	I C	14.8	3.5	11.3	80	5YR6/6	5YR5/6	7.5YR5/4		
SX01	10R-03	50-73	土師器	杯	I C	14.8	3.9	11.3	70	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		
SX01	10R-03	50-74	土師器	杯	I C	14.7	3.2	12.2	60	10YR7/6	10YR6/4	10YR5/1		
SX01	10R-02	50-75	土師器	杯	I C	15.4	4.2	12.2	90	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR6/4	内面に 工具痕	

遺構No	グリッド	棟図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10R-03	50-76	土師器	杯	I C	14	3.4	12.7	25	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10R-03	50-77	土師器	杯	I C	14.8	3.1		80	7.5YR7/6	10YR7/6	7.5YR7/6		
SX01	10Q-32	50-78	土師器	杯	I C	13.6	3.3		90	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		
SX01	10Q-32	50-79	土師器	杯	I C	13.4	3.5	11.8	85	5YR6/6	5YR6/6	10YR1.7/1		
SX01	10R-03	50-80	土師器	杯	I C	14.8	3 +	10.8	30	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	黒変 (内面)	
SX01	10Q-32	50-81	土師器	杯	I C(S)	14.4	3.5	10.5	75	5YR7/6	10R4/6	10R4/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ミガキ
SX01	10Q-32	50-82	土師器	皿	皿-A	21.4	2.4		40	7.5YR7/6	5YR6/6	5YR6/6		内外面ナデ、底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-33	51-83	土師器	杯	I D	15.5	3.6		70	7.5YR7/8	2.5YR6/8	7.5YR7/8	暗文	外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10Q-32	51-84	土師器	杯	I D	14.8	3.3	9.2	95	7.5YR6/8	7.5YR6/8	7.5YR6/8	暗文	
SX01	10R-03	51-85	土師器	杯	I D	14.8	3.7	9.1	85	7.5YR7/8	7.5YR7/8	2.5YR6/8	暗文	
SX01	10Q-33	51-86	土師器	杯	I D	15.9	3.7	10.8	80	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	暗文	
SX01	10Q-32	51-87	土師器	杯	I D	14.7	3.8	10.1	70	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	暗文	外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10R-03	51-88	土師器	杯	I D	14.4	3.7	9.9	80	7.5YR7/8	5YR6/8	7.5YR7/8	暗文	
SX01	10Q-33	51-89	土師器	杯	I D	15	3.8	10.6	50	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	暗文	
SX01	10Q-32	51-90	土師器	杯	I D	14.1	3.9	10	90	7.5YR7/8	5YR6/8	7.5YR7/8	暗文	
SX01	10R-03	51-91	土師器	杯	I D	14.4	3.9	9.05	95	7.5YR7/8	7.5YR7/8	2.5YR6/8		
SX01	10Q-33	51-92	土師器	杯	I D	14.2	3.4	8	95	7.5YR7/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8		
SX01	10Q-33	51-93	土師器	杯	I D	14.2	4.3	9.2	50	5YR7/8	5YR7/8	5YR7/8		
SX01	10Q-33	51-94	土師器	杯	I D	14.0	4.0	8	30	10YR7/6	5YR6/8	2.5YR5/8		
SX01	10Q-32	51-95	土師器	杯	I E	15.3	3.8	8.6	95	10YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	一部黒変	外面ヘラケズリ後内外面ミガキ
SX01	10Q-32	51-96	土師器	杯	I E	16	4.3	8.7	25	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		
SX01	10Q-32	51-97	土師器	杯	I E	15.4	4.15	9.4	25	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		外面ケズリ後内外面ナデ
SX01	10R-02	51-98	土師器	杯	I E	15.4	4.2		95	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4		外面ケズリ後内外面ナデ・内面ミガキ
SX01	10Q-33	51-99	土師器	杯	I E	13.8	3.5	6.2	50	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	一部黒変	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-33	51-100	土師器	杯	I E	13.7	3.4	6.6	85	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	一部黒変	外面ヘラケズリ後ミガキ・外面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-33	51-101	土師器	杯	I F'	14.5	4.7+		50	5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-32	51-102	土師器	杯	I E	14.7	4		70	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4	一部黒変	外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10Q-33	51-103	土師器	杯	I E'	15.2	4.7	9	95	10YR8/3	10YR8/3	10YR8/3	赤彩	外面ヘラケズリ後内外ナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10R-03	51-104	土師器	杯	I F	12.8	3.8	8	95	7.5YR6/6	7.5YR6/6	5YR6/6	胎土斑	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10R-02	51-105	土師器	杯	I F	13	3.3+		25	10YR7/3	7.5YR7/6	7.5YR6/4	胎土斑	
SX01	10R-02	51-106	土師器	杯	I F	13.6	3.8+		30	10YR7/3	7.5YR7/6	5YR6/6	胎土斑	
SX01	10R-02	51-107	土師器	杯	I E	14	5.1+		30	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	一部黒変	外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10R-03	51-108	土師器	杯	I G	14	4.6+	7	65	5YR6/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外部タテ方向のヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10R-03	51-109	土師器	杯	I G	14.6	4.5	7.4	30	5YR6/6	5YR6/6	5YR5/4		外面ヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX01	10Q-32	51-110	土師器	杯	I H	14.2	4.9	7.6	60	5YR6/8	2.5YR4/8	2.5YR4/8		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
SX01	10Q-32	51-111	土師器	杯	I J	15.1	5.6	6.8	70	5YR5/8	5YR5/8	5YR5/8		外面ヘラケズリ後 内外面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-02	51-112	土師器	杯	I A'(S)	15.9	5.5	7.8	70	10YR8/4	5YR6/6	5YR6/6	赤彩	外面多方向のミガキ・内面ヨコ方向のミガキ
SX01	10R-01	51-113	土師器	杯	II A(S)	13.4	4.3	7.4	25	7.5YR7/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	ロクロ成形 体部下端ヘラケズリ・底外不定方向のヘラケズリ
SX01	10Q-32	51-114	土師器	杯	I J	12.6	3.8	5	40	7.5YR6/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後 内外面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-02	51-115	土師器	杯	その他	12.8	3.7+		25	10YR7/4	7.5YR7/6	10YR7/4	(古)	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
SX02	10R-12	52-116	須恵器	杯	I A-a2	14.2	4.5	9	70	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ+外周ヘラ

造請No	グリッド	押込No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX02	10R-12	52-117	須恵器	杯	I B-a1	13.9	4	8.8	90	2.5Y5/2	2.5Y5/2	2.5Y5/2	茶色味強	ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向)
SX02	10R-12	52-118	須恵器	杯	I B-a1	13.8	4.1	9.1	70	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7.5Y5/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向) + 外周ヘラ
SX02	10R-12	52-119	須恵器	杯	I B-a2	14	4	9.3	50	10YR6/3	10YR6/3	10YR6/3	茶色味強	ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向) + 外周ヘラ
SX02	10R-12	52-120	須恵器	杯	I A-a2	13.9	4.2	8.6	70	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ + 外周ヘラ
SX02	10R-12	52-121	須恵器	杯	I B-a1	13.6	4.8	9	80	5Y6/1	5Y6/1	5Y6/1		ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向)
SX02	10R-12	52-122	須恵器	杯	I B-a2	14.2	4.2	8.3	80	2.5Y6/3	2.5Y6/3	2.5Y6/3	茶色味強	ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向) + 外周ヘラ
SX02	10R-12	52-123	須恵器	杯	I B-b	13.7	3.9	7.5	70	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向) + 外周ヘラ
SX02	10R-12	52-124	土師器	杯	I A	15.3	4.3+		20	10YR7/4	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
SX02	10R-12	52-125	土師器	杯	I A	14.2	3.8+		35	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		
SX02	10R-12	52-126	土師器	杯	I J	12.0	3.3	6.1	80	5YR5/8	5YR4/6	5YR5/8		外面ヘラケズリ後 内外面ナデ・底外ヘラケズリ
SX02	10R-11	52-127	土師器	杯	I A	13.3	3.6+		25	7.5YR4/3	10R5/7	10R5/7		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
SX02	10R-12	52-128	土師器	杯	I A	12.8	2.8+		25	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
SX02	10R-11	52-129	土師器	杯	I B	13.4	2.8+		35	7.5YR6/4	7.5YR6/4	5YR6/6	一部黒変	外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX02	10R-12	52-130	土師器	杯	I E (14.2)	14.2	3.6+	7.8	20	7.5YR7/4	10YR7/4	7.5Y7/4	一部黒変	外面ヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX02	10R-12	52-131	土師器	杯	I G	13.4	4.3+		50	7.5YR6/6	2.5YR6/8	7.5YR6/4		外面ヘラケズリ・内面ミガキ
SX02	10R-12	52-132	土師器	杯	I C	14.8	3.7	12	40	N3/0	10YR6/2	10YR6/2		外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX03	10R-13	52-133	須恵器	壺蓋	FUTA-2	9.4	2.7		60	2.5Y6/1	2.5Y6/1	2.5Y6/1	宝珠つまみ	ロクロ成形 天井部回転ヘラケズリ
SX03	10R-13	52-134	須恵器	杯	I B-b	13.6	4.9+	10.6	40	5Y5/1	5Y5/1	5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向)
SX03	10R-13	52-135	須恵器	杯	I B-a2	13.9	4.1		40	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向) + 外周ヘラ
SX03	10R-13	52-136	須恵器	杯	I B-a2	14.2	3.5+	7.9	25	2.5Y6/2	2.5Y6/2	7.5YR5/3		
SX03	10R-13	52-137	須恵器	杯	I A-a1	12.6	3.5	7.6	60	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1		ロクロ成形 ヘラ切り後回転ヘラケズリ
SX03	10R-13	52-138	須恵器	杯	I B-b	13.1	3.8+	8.6	60	5Y6/2	5Y6/2	5Y6/2		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向) + 外周ヘラ
SX03	10R-13	52-139	須恵器	杯	I B-a2	15.4	4	4.8	50	5Y7/2	5Y7/2	5Y7/2		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(一定方向) + 外周ヘラ
SX03	10R-13	52-140	須恵器	杯	I B-b	13.6	3.8	9	30	7.5Y7/1	7.5Y7/1	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向) + 外周ヘラ
SX03	10R-13	52-141	土師器	杯	I A	14.4	3.8+		35	10YR7/4	10YR7/4	5YR6/6		外面ヘラケズリ後 内外面ミガキ
SX03	10R-13	52-142	土師器	杯	II A (14)	14	3.0+		20	5YR6/6	10R4/6	10R4/6	赤彩	ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ後ナデ
SX03	10R-13	52-143	土師器	杯	II A(S)	13.8	3.6	9.5	30	2.5YR6/6	2.5YR5/8	2.5Y5/8	赤彩	ロクロ成形 底部手持ちヘラケズリ
SX03	10R-13	52-144	土師器	杯	I C	15.6	3.4		65	10YR7/6	10YR1.7/1	10YR7/6		外面ヘラケズリ後内外面ナデ
SX03	10R-13	52-145	土師器	杯	I C(S)	14.2	3.8	11	25	5YR7/4	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ヨコ方向のヘラミガキ

遺構No	グリッド	挿図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX03	10R-13	52-146	土師器	杯	II A(S)	13.2	3.7	9.0+	45	5YR6/4	10R4/8	10R4/8	赤彩	ロクロ成形 底部回転ヘラケズリ
SX03	10R-13	52-147	土師器	杯	I C	15.2	3.7	10.3	65	10YR7/6	10YR6/4	10YR6/4		外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX03	10R-23	52-148	土師器	杯	I A(S)	14.2	2.9		40	7.5YR7/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
SX03	10R-13	52-149	土師器	杯	I D	14.2	3.8	9.7	90	5YR6/8	2.5YR6/8	5YR6/8	暗文?	外面ヘラケズリ・内面ナデ・底部ヘラケズリ後ナデ
SX03	10R-13	52-150	土師器	杯	I C	14.4	3.8+	10.6	25	10YR6/4	10YR6/4	7.5YR6/4		外面ヘラケズリ・内面ナデ後ミガキ
SX03	10R-13	52-151	土師器	杯	I C	15.6	3.2+		45	2.5YR7/8	2.5YR7/8	2.5YR7/8		外面ヘラケズリ・内面ナデ
SX03	10R-13	52-152	土師器	杯	I D	13.7	4	9.8	98	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	暗文	外面ヘラケズリ・内面ナデ・底部ヘラケズリ後ナデ
SX03	10R-13	52-153	土師器	杯	I H	12.6	5.2	6.8	25	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		外面ケズリ後 内外ナデ・底部ナデ
その他	11R-01	52-154	須恵器	杯	I B-b	14	4.2	10.3	45	2.5Y7/2	2.5Y7/2	2.5Y7/2		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向)
その他	11R-11	52-155	須恵器	杯	I B-a2	15	4.3	9.2	50	7.5Y7/1	N5/0	7.5Y7/1		ロクロ成形 ヘラ切り後手持ちヘラケズリ(不定方向) + 外周ヘラ
その他	11R-01	52-156	土師器	杯	I A	13.9	4.2+		25	10YR7/4	5YR6/6	10YR7/4		外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
その他	11R-01	52-157	土師器	皿	皿-B	9.3	2.3		80	5YR6/8	2.5YR5/6	2.5YR5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ヨコナデ
その他	11R-01	52-158	土師器	皿	皿-B	9.3	2.3		25	10YR7/4	2.5YR5/6	2.5YR5/6	赤彩	
SX01	10Q-32	53-159	土師器	鉢	I	13.9	7.5+	6.2	25	2.5YR5/6	7.5YR6/6	2.5Y5/6		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	53-160	土師器	鉢	I	10.2	10+		35	10R5/8	10R5/8	10R5/8		
SX01	10Q-33	53-161	土師器	鉢	III	12.7	9.4	7.8	37	5YR5/4	10YR1.7/1	10YR1.7/1		内外面ヘラナデ、輪積み痕、指頭痕有り
SX01	10Q-33	53-162	土師器	鉢	III	12.6	9	3.3	20	7.5YR6/6	5YR5/6	5YR5/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面及び底外ナデ
SX01	10Q-32	53-163	土師器	鉢	I	13.2	7.6	7.4	30	2.5YR5/8	2.5YR5/8	10YR1.7/1		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-33	53-164	土師器	鉢	II	9.3	7.8+	6.1	45	7.5YR6/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-32	53-165	土師器	鉢	III	11.6	7.8	5.3	90	5YR5/8	5YR5/8	5YR5/8		外面ヘラケズリ、輪積み痕有り・内面ヘラナデ、ヘラ痕有り・底外ヘラケズリ?
SX01	10R-02	53-166	土師器	鉢	II	12.2	7.2+	5.9	40	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-33	53-167	土師器	鉢	I	12.2	7.5	6.8	90	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
SX01	10R-03	53-168	土師器	鉢	II	12	8.2	7	95	7.5YR6/6	5YR6/6	2.5YR6/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-32	53-169	土師器	鉢	I	10.4	7.5	6	90	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		外面タテヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外不定方向のヘラナデ
SX01	10Q-33	53-170	土師器	鉢	II	11.3	4.8	6.1	25	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-32	53-171	土師器	鉢	I	11.8	6.1	8.7	60	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面タテヘラケズリ・底部ナデ・内面ナデ痕強
SX01	10Q-33	53-172	土師器	鉢	II	11.5	7.5	6.2	80	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面タテ方向のヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-02	53-173	土師器	鉢	I	10.4	5.8+	5.6	38	2.5YR4/6	2.5YR3/6	2.5YR3/6		外面タテヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10Q-32	53-174	土師器	鉢	II	9.9	7	5.3	100	5YR5/8	5YR5/8	5YR5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラ痕
SX01	10Q-32	53-175	土師器	鉢	II	11.2	5.7+	6.1	70	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ後・底外ヘラケズリ

遺構No	グリッド	挿図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10Q-33	53-176	土師器	鉢	I	10	4.6	7.3	30	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		外面タテ方向のヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-33	53-177	土師器	鉢	II	10	6.6	6.5	88	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10R5/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	53-178	土師器	鉢	II	10.2	5.3	5.6	70	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ後ナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10R-03	53-179	土師器	鉢	III	9.5	5.1	6.3	98	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		内外面ナデ・底外ヘラケズリ? 口縁ヨコナデ
SX01	10Q-32	53-180	土師器	鉢	II	9.7	4.7	6.7	40	7.5YR6/8	7.5YR6/8	7.5YR6/8		外面及び底外ヘラケズリ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-33	53-181	土師器	鉢	I	9.2	5.2	5.8	60	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面タテヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	53-182	土師器	鉢	II	8.7	4.7	5.5	80	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6		体部外面指頭痕・内面ナデ
SX01	10R-02	53-183	土師器	鉢	II	9.4	4.9+	5	40	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		内外面ナデ・底外ヘラケズリ? 口縁ヨコナデ
SX01	11Q-33	53-184	土師器	鉢	I	6.2	4.6	4	25	10YR7/6	10YR7/6	10YR6/3		外面タテヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10Q-32	53-185	土師器	鉢	III	7.6	3.3	5.1	70	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面下半ヘラケズリ・底外ナデ後内外面ナデ
SX01	10Q-32	53-186	土師器	鉢	II	8	4.9	5.3	70	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		外面上半部ナデ下半部ヘラケズリ・内面ナデ
SX01	10Q-32	53-187	土師器	鉢	II	7.2	3.5	4.2	100	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	53-188	土師器	鉢	I	6.7	2.9	5.6	100	2.5YR5/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1		外面ヨコナデ後指頭でナデ・内面ヨコナデ・底部ナデ、木葉痕残る
SX01	10R-02	53-189	土師器	鉢	III		3.9+		29	10R3/6	10YR1.7/1	10R3/6		外面下半ヘラケズリ・底外ナデ後内外面ナデ
SX01	10Q-33	53-190	土師器	鉢	IV	6.7	4.1	3.3	100	5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8		手づくね
SX02	10R-12	53-191	土師器	鉢	I	13.5	5.4	7.2	65	2.5YR3/6	2.5YR3/6	2.5YR3/6		外面タテ方向のヘラケズリ・内面ナデ・底外ヘラケズリ
SX02	10R-12	53-192	土師器	鉢	I	11.7	6.3	7.2	40	10R4/6	10R4/6	2.5YR3/4		
SX02	10R-12	53-193	土師器	鉢	I	8.6+	4.8+		20	7.5YR6/6	5YR5/6	7.5YR6/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
SX02	10R-12	53-194	土師器	鉢	II	8	3.9+	6	40	10R4/6	10R4/6	10R4/6		外面ヘラケズリ・内面ナデ・精緻な胎土
SX03	10R-13	53-195	土師器	鉢	II	12.5	5.4+		40	5YR6/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ、輪轆み痕有り
SX03	10R-23	53-196	土師器	鉢	III	10.6	5.8	6	47	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		内外面ナデ・体部下端指頭痕
その他	11R-01	53-197	土師器	鉢	I	14.8	8.9		70	7.5YR7/6	5YR6/6	5YR6/6		外面及び底外ヘラケズリ・内面ヘラナデ
その他	10R-11	53-198	土師器	鉢	II	9.3	5.3	5.3	40	5YR6/6	7.5YR5/3	7.5YR5/3		外面ナデ一部ヘラナデ・内面ナデ・底外木葉痕
その他	11Q-13	53-199	土師器	鉢	III	8.4	5.1	6.2	55	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		内外面ナデ、ヘラ痕有り
SX01	10Q-32	54-200	土師器	台付甕	II B	14.2	20.7	10.3	75	10R5/8	5YR5/8	10R4/6		外面タテヘラケズリ・底外ヨコナデ
SX01	10R-03	54-201	土師器	台付甕	II B	11.7	14.2	8.9	45	2.5YR5/6	5YR4/2	5YR4/2		外面タテヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコ方向のナデ・脚部内面指頭圧痕
SX01	10Q-32	54-202	土師器	台付甕	II B	11.4	10.8	8.6	70	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面タテヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ
SX01	10Q-33	54-203	土師器	台付甕	II B	15.3	14.5+		40	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面タテヘラケズリ後ナデ
SX01	10R-01	54-204	土師器	台付甕	I A		4.6+	8.3	40	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6	胎土良	体部脚部ともヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ・脚部内面指頭圧痕
SX01	10Q-32	54-205	土師器	台付甕	I A		9+	11.4	40	2.5YR5/6	2.5YR5/6	10R5/6	胎土良	

遺蹟No	グリッド	棟図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10Q-32	54-206	土師器	台付甕	I A		13.5+	10	20	7.5YR6/8	7.5YR6/8	2.5YR5/6	胎土良	
SX01	10R-03	54-207	土師器	台付甕	I B	13.6	9.8+		20	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		
SX01	10R-02	54-208	土師器	台付甕	II B		9.5+		50	2.5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		外面タテ方向のヘラケズリ後ナデ・脚部外面ヘラケズリ後ヨコ方向のナデ
SX01	10Q-32	54-209	土師器	台付甕	I B		8.1+	9.8	25	5YR5/6	2.5YR5/8	10R5/8		胴部及び脚部外面ケズリ・裾部ヨコナデあとケズリ
SX01	10Q-32	54-210	土師器	台付甕	I A		4 +	10.6	40	5YR6/5	2.5YR5/4	5YR6/6	胎土良	胴部及び脚部外面タテ方向のヘラケズリ・裾部ヨコナデ、脚部内面指圧痕
SX01	10Q-33	54-211	土師器	台付甕	I A		4.5+	9.6	60	10YR7/4	10YR7/4	5YR6/6	胎土良	体下半部、脚部タテ方向のヘラケズリ・裾部ヨコナデ
SX01	10Q-32	54-212	土師器	台付甕	II B	8	6.9	7.4	50	10R4/8	10YR1.7/1	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	54-213	土師器	台付甕	I B		5.2+	9.8	30	7.5YR6/8	5YR6/8	7.5YR6/6		脚部外面ヘラケズリ・裾部ヨコナデ
SX01	10Q-33	54-214	土師器	台付甕	I A		6.9+	10.8	30	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	胎土良	外面ヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ
SX01	10R-11	54-215	土師器	台付甕	I A		7.6+	10.4	20	7.5YR7/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8	胎土良	体部、脚部外面ヘラケズリ・裾部ヨコナデ
SX01	10Q-32	54-216	土師器	台付甕	II B		4.8+	9.2	50	5YR5/6	2.5YR4/6	5YR5/6		脚部外面ヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ
SX01	10Q-32	54-217	土師器	台付甕	I B		2.9+	(12)	10	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4		脚部外面ヨコナデ後ヘラケズリ・裾部ヨコナデ
SX01	10R-02	54-218	土師器	台付甕	I A		6.6+	10.6	20	5YR6/4	5YR6/4	5YR6/4		外面ヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ
SX01	10Q-33	54-219	土師器	台付甕	I A		4.6+	8	20	7.5YR7/4	7.5YR7/4	10YR1.7/1	黒変	脚部外面タテ方向のヘラケズリ・裾部ヨコナデ
SX01	11R-01	54-220	土師器	台付甕	II A		5.1+	9.4	30	5YR5/6	7.5YR5/6	7.5YR4/6	胎土良	体部外面タテケズリ後ナデ・脚部ヨコナデ
SX01	10R-02	54-221	土師器	台付甕	I B		5.4+	8.7	50	7.5 6/6	7.5 6/4	10YR1.7/1		体部、脚部タテヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ
SX01	10R-02	54-222	土師器	台付甕	I B		4.1+	10.6	20	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6		体部外面及び脚部タテヘラケズリ・裾部ヨコナデ
SX01	10Q-32	54-223	土師器	台付甕	I A		3.6+	10	20	7.5YR5/4	5YR5/4	7.5YR5/4	胎土良	外面脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ・内面ヘラケズリ、裾部ヨコナデ
SX02	10R-12	54-224	土師器	台付甕	I A		6 +	10.6	40	7.5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	胎土良	脚部外面タテケズリ・裾部ヨコナデ・脚部内面ヘラナデ
SX02	10R-12	54-225	土師器	台付甕	I B		7.6+	9.6	20	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		
SX02	10R-11	54-226	土師器	台付甕	II B		5.2+	7.8	35	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR5/6		胴部外面ヘラケズリ後ナデ・脚部ヨコナデ・脚部内面指頭圧痕
SX02	10R-12	54-227	土師器	台付甕	I B		5.6+	10.5	25	7.5YR6/6	7.5YR5/6	7.5YR5/6	短脚	体部脚部外面タテヘラケズリ後ナデ・脚部内面指頭圧痕・裾部ヨコナデ
SX02	10R-12	54-228	土師器	台付甕	I B		4.8+	9.5	50	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		
SX02	10R-12	54-229	土師器	台付甕	II B		5.6+	7.8+	20	10YR6/4	7.5YR6/6	7.5YR6/6		胴部外面ヘラケズリ、裾部ヨコナデ・脚部指頭圧痕
SX02	10R-12	54-230	土師器	台付甕	I B		4.6+	9.1	50	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		脚部外面タテヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ
SX03	10R-13	54-231	土師器	台付甕	II A		4.5+	8.2	40	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	胎土良	
SX03	10R-13	54-232	土師器	台付甕	I B		5.9+		25	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6		体部及び脚部外面タテヘラケズリ
SX03	10R-13	54-233	土師器	台付甕	II A		5.8+	12	70	7.5YR7/4	2.5YR6/6	2.5YR6/6	胎土良	体部及び脚部外面ヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ・脚部内面ヘラナデ
その他	11R-00	54-234	土師器	台付甕	I A		5.9+	11	60	5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	胎土良	脚部外面タテヘラケズリ後ナデ・裾部ヨコナデ

遺識No	グリッド	挿図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	追存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
その他	12Q-20	54-235	土師器	台付甕	IA		4.2+		20	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	胎土良	外面タテヘラケズリ・内面ミガキ・脚部内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	55-236	土師器	小型甕	小型1	19	22.7	7.1	80	10R5/8	10R5/8	10R5/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	55-237	土師器	小型甕	小型1	18.3	21.3	7.2	60	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	55-238	土師器	小型甕	小型1	18	20.2+	7.4	40	2.5YR6/8	2.5YR6/8	5YR3/3		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-32	55-239	土師器	小型甕	小型1	16.4	21.8	6.8	50	1.R5/8	1.R5/8	1.R5/8		
SX01	10Q-32	55-240	土師器	小型甕	小型1	16	19+	6.5	70	2.5YR5/4	2.5YR5/4	2.5YR5/4		
SX01	10Q-32	55-241	土師器	小型甕	小型1	18	19.3	6.5	80	10R4/6	10R4/6	10R4/6		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ナデ
SX01	10Q-32	55-242	土師器	小型甕	小型1	16.6	19.1	6.9	70	10YR7/4	10YR7/4	10YR4/1		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	55-243	土師器	小型甕	小型1	16	19.1	6.2	67	2.5YR4/6	2.5YR4/6	2.5YR4/6		
SX01	10R-03	55-244	土師器	小型甕	小型1	16.9	23.7	8	60	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ・底部ナデ
SX01	10R-03	55-245	土師器	小型甕	小型1	19.6	20.5	6.5	70	5YR6/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面ナナメタテヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ナデ
SX01	10Q-33	55-246	土師器	小型甕	小型1	17.2	21.2+	6.8	30	10R5/8	10R5/8	10R4/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-33	55-247	土師器	小型甕	小型1	16.8	19	7.5	40	7.5YR6/8	7.5YR6/8	10YR7/4		外面タテヘラケズリ・内面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-03	55-248	土師器	小型甕	小型1	18.9	21.4	7.1	80	10YR8/8	10YR8/8	10YR8/8		
SX01	10R-03	55-249	土師器	小型甕	小型1	17.2	18.8	8	50	7.5YR6/6	7.5YR6/6	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-33	55-250	土師器	小型甕	小型1	18.5	19.1	8	60	2.5YR5/6	2.5YR4/3	2.5YR3/2		外面タテ方向のヘラケズリ・内面ナデ・底外多方向のヘラケズリ
SX01	10Q-33	55-251	土師器	小型甕	小型1	15.6	18.8	7	83	10R5/8	10R5/8	10R5/8		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ、ハケ目状のヘラ痕・底外ヘラナデ
SX01	10R-02	55-252	土師器	小型甕	小型1	17.6	19.7	8	90	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-02	55-253	土師器	小型甕	小型1	17.3	18.4	6.2	45	5YR6/6	2.5YR5/8	10R5/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ後ナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-33	55-254	土師器	小型甕	小型2	14.2	17.5	8.7	50	10YR6/4	10YR6/4	2.5YR5/6		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-33	55-255	土師器	小型甕	小型2	20.4	15.75	8.1	98	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		
SX01	10R-02	55-256	土師器	小型甕	小型2	13.2	16.3	8.7	70	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6		
SX01	10R-02	55-257	土師器	小型甕	小型2	14.1	17.85	7.1	60	10R5/8	10R5/8	10R5/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ナデ
SX01	10R-02	55-258	土師器	小型甕	小型2	14.4	17.8	6.5	85	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ、ヘラ痕強い
SX01	10Q-33	55-259	土師器	小型甕	小型2	15	17.3	7	60	10Y7/6	10Y7/6	10Y7/6		外面ヘラケズリ・内面ナデ・底外ナデ
SX01	10Q-33	56-260	土師器	小型甕	小型2	16.4	15.2	6.6	80	10YR7/4	7.5YR6/6	5YR6/6		外面タテヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10R-03	56-261	土師器	小型甕	小型2	15.1	16.4	6.6	50	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面タテヘラケズリ後ナデ・内面ヘラケナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-03	56-262	土師器	小型甕	小型2	12.8	14.8	8	60	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10R-03	56-263	土師器	小型甕	小型2	11.6	14.5+	8.5	30	7.5YR7/6	5YR6/8	5YR6/8		
SX01	10R-02	56-264	土師器	小型甕	小型2	12.5+	15.4	6.6	45	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ



遺蹟No	グリッド	挿図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10Q-32	56-265	土師器	小型甕	小型 2	15.2	14.7	8.5	65	7.5YR6/6	7.5YR6/6	5YR6/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ナデ
SX01	10Q-33	56-266	土師器	小型甕	小型 2	14.8+	14.6	6.7	50	7.5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-33	56-267	土師器	小型甕	小型 2	14.2	13.5	7.5	75	2.5YR5/6	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-32	56-268	土師器	小型甕	小型 2	14.8	13.6	6.1+	70	7.5YR5/3	10YR1.7/1	10YR1.7/1		外面タテヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10R-02	56-269	土師器	小型甕	小型 2	15	13.5	8.4	30	5YR6/6	5YR6/6	7.5YR7/6		外面タテヘラケズリ、下方部ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-33	56-270	土師器	小型甕	小型 3	13	13	7.9	50	5YR5/6	7.5YR6/6	7.5YR5/4		外面タテヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-02	56-271	土師器	小型甕	小型 3	15 +	12.9	4.7+	13	5YR5/6	5YR5/6	10YR1.7/1		外面タテヘラケズリ内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	56-272	土師器	小型甕	小型 3	14.2	10.5+		55	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
SX01	10R-03	56-273	土師器	小型甕	小型 3	13.3	12.6	7	50	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-33	56-274	土師器	小型甕	小型 3	14.2	11.8	7.9	30	10YR7/4	5YR6/6	10YR7/4		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ナデ
SX01	10Q-33	56-275	土師器	小型甕	小型 3	13.2	12.6	5.3	30	2.5YR4/8	2.5YR4/8	2.5YR4/8		
SX01	10Q-32	56-276	土師器	小型甕	小型 3	13.3	12.2	8.1	60	10R7/4	10R7/4	10R7/4	常総型	外面ケズリ後ナデ後半部ミガキ・内面ナデ・底外木葉痕有り
SX01	10R-02	56-277	土師器	小型甕	小型 3	13	12.2	7.2	85	5YR6/6	5YR6/6	2.5YR6/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	56-278	土師器	小型甕	小型 3	14.8	9.5+		25	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-03	56-279	土師器	小型甕	小型 3	14.2	12.4	6	80	7.5YR6/6	7.5YR6/6	2.5YR6/6		外面ヘラケズリ後粗いナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10R-02	56-280	土師器	小型甕	小型 3	14.7	11.7	8.3	50	7.5YR7/8	7.5YR7/8	7.5YR7/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	56-281	土師器	小型甕	小型 3	12.8	11.6	6.6	85	7.5YR6/6	7.5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10Q-33	56-282	土師器	小型甕	小型 3	13.1	10.1+	8	70	5YR5/6	5YR5/6	2.5YR5/6		外面タテヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-02	56-283	土師器	小型甕	小型 3	13.8	10.9+	7.2	40	2.5YR4/8	2.5YR4/8	2.5YR4/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	56-284	土師器	小型甕	小型 3	13	11.6		80	7.5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面タテヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-32	56-285	土師器	小型甕	小型 3	13.2	10.5	6.3	60	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ナデ
SX01	10Q-32	56-286	土師器	小型甕	小型 3	11	9.9+		30	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	56-287	土師器	小型甕	小型 3	9.6	9 +	7	70	5YR5/6	5YR5/6	10YR1.7/1		内外面及び底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	56-288	土師器	小型甕	小型 3	10.9	8.5	6.8	95	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX03	10R-13	56-289	土師器	小型甕	小型 3	11.8	10.8	5.8	15	10YR7/6	10YR7/6	2.5YR6/8		外面タテヘラケズリ、内面ヘラナデ・底外ナデ
SX03	10R-13	56-290	土師器	小型甕	小型 1	14.2	17.9	7.9	70	5YR6/6	7.5YR6/6	2.5YR5/6		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-03	57-291	土師器	甕	II A	23.8	30.1	4.8	50	5YR6/6	5YR6/6	2.5YR6/8	武蔵型	体部外面、口縁ヨコナデ後ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ

遺構No	グリッド	挿図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10R-03	57-292	土師器	甕	II A	22.2	20.5		50	2.5YR6/6	7.5YR6/3	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10Q-32	57-293	土師器	甕	II A	21.5	31.5	6.1	60	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10R-03	57-294	土師器	甕	II A	22.2	29.6	6	68	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10R-03	57-295	土師器	甕	II A	22.4	21.9+	(4.2)	70	2.5YR6/6	2.5YR6/6	10YR7/6	武蔵型	
SX01	10Q-32	57-296	土師器	甕	II A	24.2	10.4+		25	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	武蔵型	
SX01	10Q-32	57-297	土師器	甕	II A	(21)	10.5+		20	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10R-03	57-298	土師器	甕	II A	22.4	28.3	6	50	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10R-02	57-299	土師器	甕	II A	23.9	6.2+		30	5YR6/4	5YR6/4	5YR6/4	武蔵型	
SX01	10R-02	57-300	土師器	甕	II A	(22)	6.3+		20	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10R-02	57-301	土師器	甕	II A	(20.5)	6.3+		10	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10Q-32	57-302	土師器	甕	II A	(24.2)	6.3+		20	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	武蔵型	
SX01	10Q-32	57-303	土師器	甕	II A	(22.7)	6.4+		20	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	武蔵型	
SX01	10R-03	57-304	土師器	甕	II A		18.5+	6.2	40	10YR7/4	2.5YR5/8	2.5YR5/8	武蔵型	体部外面、口縁ヨコナデ後多方向のヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10R-02	57-305	土師器	甕	II A		10.4	5.8	20	2.5YR5/6	7.5YR5/2	7.5YR5/3	武蔵型	
SX01	10Q-32	57-306	土師器	甕	II A		20.2+	5.7	25	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8	武蔵型	
SX01	10Q-33	57-307	土師器	台付甕	II A	14.7	18	11.5	50	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	台付武蔵型	体部外面、口縁ヨコナデ後多方向のヘラケズリ・内面ヘラナデ・脚部ヨコナデ
SX01	10R-02	57-308	土師器	甕	II A		25.1+	3.8	50	5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8	武蔵型	体部外面、口縁ヨコナデ後ヘラケズリ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX02	10R-23	57-309	土師器	甕	II A	(22.6)	6+		20	7.5YR6/6	10R5/6	10R5/6	武蔵型	
SX02	10R-12	57-310	土師器	甕	II A	23	9.8+		25	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8	武蔵型	
SX01	10Q-32	58-311	土師器	甕	I A	22.8	28.5	5.8	80	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	58-312	土師器	甕	I A	23.5	28.8	5.8	80	2.5YR5/6	2.5YR5/6	10YR1.7/1		
SX01	10Q-32	58-313	土師器	甕	I A	23.4	29.5	4	50	2.5YR4/6	2.5YR4/6	2.5YR4/6		
SX01	10Q-32	58-314	土師器	甕	I A	20.3	29.9	6.5	50	2.5YR6/8	2.5YR6/8	10R5/8		
SX01	10Q-32	58-315	土師器	甕	I A	22.1	29	7.6	90	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ
SX01	10Q-32	58-316	土師器	甕	I A	23	30.2	6.7	85	5YR5/6	5YR5/6	10R5/8		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラ痕有り
SX01	10Q-32	58-317	土師器	甕	I A	24.1	32.5	6.7	70	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・底外ヘラケズリ後ナデ
SX01	10Q-32	58-318	土師器	甕	I A	22.6	30.8+	7.5	60	10R5/8	10R5/8	10R5/8		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	58-319	土師器	甕	I A	19.4	25.7	15.6	95	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・底外一定方向のヘラケズリ
SX01	10Q-32	58-320	土師器	甕	I A	23.4	17.2+		35	2.5YR6/6	10YR6/6	5YR6/6		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ
SX01	10Q-32	58-321	土師器	甕	I A	23	15.5+		25	5YR5/6	10YR1.7/1	5YR5/6		
SX01	10Q-32	58-322	土師器	甕	その他	22.7	27.6+		50	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	長胴タイプ	
SX01	10Q-32	58-323	土師器	甕	I A	(33)	6.2+		15	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/6		
SX01	10Q-32	58-324	土師器	甕	I A	19.6	6+		40	5YR6/6	5YR6/6	2.5YR6/8		
SX01	10Q-32	58-325	土師器	甕	その他	22.8	20+		25	5YR6/6	5YR6/6	10YR7/4	長胴タイプ	
SX01	10Q-32	58-326	土師器	甕	I A	24.4	10.7+		30	7.5YR5/6	7.5YR5/6	7.5YR5/6	短耳タイプ	
SX01	10Q-33	59-327	土師器	甕	I A	24	28	5.4	70	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		外面タテヘラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ヘラナデ・底外ナデ

遺蹟No	グリッド	押図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10Q-33	59-328	土師器	甕	I A	23.4	30	7	35	10R5/8	10R5/8	10R5/8		外面タテハラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ・底外ハラケズリ
SX01	10Q-33	59-329	土師器	甕	I A	22.3	27.4+	6	30	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面タテハラケズリ・下部斜めハラケズリ後ナデ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ・底外一定方向のハラケズリ
SX01	10R-02	59-330	土師器	甕	I A	20.9	29.6	5.6	60	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面タテハラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ・底外ハラケズリ
SX01	10R-02	59-331	土師器	甕	I A	22	30.4	7.9	45	7.5YR6/6	10YR7/4	7.5YR6/6		
SX01	10Q-33	59-332	土師器	甕	I A	(22.6)	20 +		20	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面タテハラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ
SX01	10Q-33	59-333	土師器	甕	I A	18.6	11.2+		35	2.5YR4/8	2.5YR4/8	2.5YR4/8	短耳タイプ	
SX01	10R-02	59-334	土師器	甕	I A	22.6	25.8	6	65	10YR7/4	10YR7/4	7.5YR6/4		外面タテハラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ・底外ケズリ後ナデ
SX01	10R-02	59-335	土師器	甕	I A	23.8	24 +		35	10YR6/6	10YR6/6	10YR6/6		外面タテハラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ
SX01	10R-03	59-336	土師器	甕	I A	23.9	20 +	7.1	35	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		外面タテハラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ・底外不定方向のハラナデ
SX01	10R-02	59-337	土師器	甕	I A	20.4	22.5+		40	7.5YR6/6	7.5YR6/6	5YR6/6		外面タテハラケズリ・口縁ヨコナデ・内面ハラナデ
SX01	10R-03	59-338	土師器	甕	I A	22.8	10.9+		25	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		
SX01	10R-03	59-339	土師器	甕	I A	25.1	13.4+		25	5YR6/6	2.5YR5/6	5YR5/6		
SX01	10R-03	59-340	土師器	甕	I A		15.4+	7.3	30	10YR6/4	7.5YR7/6	5YR6/6		
SX01	10R-03	59-341	土師器	甕	I A	18	25.4	7.4	80	10YR7/3	10YR7/3	10YR7/3	短耳タイプ	
SX01	10R-03	59-342	土師器	甕	I A	(21.1)	9.1+		20	2.5YR4/6	2.5YR4/6	2.5YR4/6		
SX01	10R-03	59-343	土師器	甕	I A	(23)	9.8+		20	2.5YR4/4	2.5YR4/4	2.5YR4/4		
SX01	10Q-32	60-344	土師器	甕	I B	25.2	35.7	10.2	75	5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8		外面タテハラケズリ後ナデ・内面ハラナデ・底外ナデ
SX01	10Q-32	60-345	土師器	甕	I B	11.4	28.7	8	30	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6		外面タテハラケズリ・下半部ハラケズリ後ナデ・内面ハラナデ・底外ハラケズリ
SX01	10R-02	60-346	土師器	甕	I B	22.4	28.9	9.5	40	10R5/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面ハラケズリ後ナデ・内面ハラナデ
SX01	10Q-32	60-347	土師器	甕	I B	21.1	30.5	9.8	50	5YR6/6	2.5YR5/8	2.5YR5/8		
SX01	10Q-32	60-348	土師器	甕	I B	20.7	9.8+		70	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ハラケズリ後ナデ・内面ハラナデ
SX01	10Q-32	60-349	土師器	甕	I B	21.8	15 +		25	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		
SX01	10R-02	60-350	土師器	甕	I B	20.4	11.2+		30	2.5YR5/8	2.5YR5/8	2.5YR5/8		
SX01	10R-02	60-351	土師器	甕	I B	(25.2)	15 +		20	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6		
SX01	10Q-33	60-352	土師器	甕	I B	22	30.1	7.9	70	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		
SX01	10R-02	60-353	土師器	甕	I B	19.6	26.5	9	40	7.5YR7/6	7.5YR7/6	2.5YR6/8		外面タテハラケズリ・内面ハラナデ・底外ハラケズリ
SX01	10Q-32	60-354	土師器	甕	I B	24.6	25.1+		80	5YR6/6	10YR6/4	5YR6/6		
SX01	10Q-33	60-355	土師器	甕	I B	22.6	18 +		25	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ハラケズリ・内面ハラナデ
SX01	10Q-32	60-356	土師器	甕	I B	27	9.8+		25	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6		
SX01	10Q-32	60-357	土師器	甕	I B	(21.6)	6.8		15	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		
SX01	10Q-33	60-358	土師器	甕	I B	16.8	12.9+		30	10YR7/4	5YR6/6	5YR6/6		
SX01	10Q-33	60-359	土師器	甕	I B	22.8	23 +		40	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		外面上半部ハラケズリ・内面ハラナデ
SX01	10Q-32	60-360	土師器	甕	その他	12.6	7.4+	6	100	10R7/4	10R7/4	5YR7/6	徳利形	外面タテハラケズリ・内面ハラナデ・底外ハラケズリ

造機Na	グリッド	挿入Na	器具	器形	種類	口径	器高	底径	追存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10Q-32	61-361	土師器	甕	II B	22.3	35.3	8.7	60	10R7/4	10R7/4	10R7/4	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外木葉痕
SX01	10Q-32	61-362	土師器	甕	II B	25.8	34.45	10.1	80	5YR6/6	5YR6/6	10YR1.7/1	黒斑・ 内黒 常総型	
SX01	10Q-32	61-363	土師器	甕	II B	25.5	32	84	85	10YR6/4	10YR6/4	10YR6/4	黒斑 常総型	
SX01	10Q-32	61-364	土師器	甕	II B	25.1	31.5	9.7	80	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	黒斑 常総型	
SX01	10Q-32	61-365	土師器	甕	II B	24.1	31.2	9.8	70	10YR6/4	10YR6/4	10YR1.7/1	黒斑・ 内黒 常総型	
SX01	10Q-32	61-366	土師器	甕	II B	22.5	32.1	8.7	80	10YR7/6	10YR7/6	10YR7/6	常総型	
SX01	10R-02	61-367	土師器	甕	II B	26.2	36	10	70	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	黒斑 常総型	
SX01	10R-02	61-368	土師器	甕	II B	20	35.5	9	60	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外ヘラケズリ、木葉痕
SX01	10R-02	61-369	土師器	甕	II B	21.4	32.8	7.8	40	2.5YR6/6	2.5YR6/6	5YR6/6	黒斑 常総型	
SX01	10R-02	61-370	土師器	甕	II B	25.6	35.3	9	45	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外木葉痕
SX01	10R-02	61-371	土師器	甕	II B	23.4	33.8	8.6	70	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10YR1.7/1	内黒 常総型	
SX01	10R-02	61-372	土師器	甕	II B	24.2	30.9	8	80	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/6	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外ヘラケズリ、木葉痕
SX01	10R-02	62-373	土師器	甕	II B	25.4	34.4	9	45	10R7/4	10R7/4	10YR1.7/1	黒斑・ 内黒 常総型	
SX01	10R-02	62-374	土師器	甕	II B	23.3	32.6	10.4	70	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外木葉痕
SX01	10R-02	62-375	土師器	甕	II B	25.2	31.9	9.5	40	10R7/4	10R7/4	10R7/4	黒斑 常総型	
SX01	10R-02	62-376	土師器	甕	II B	23.3	32	7.9	60	10YR3/4	10YR3/4	10YR3/4	黒斑 常総型	
SX01	10R-02	62-377	土師器	甕	II B	24.9	33	8	40	10YR7/4	10YR7/4	10YR1.7/1	黒斑・ 内黒 常総型	
SX01	10R-02	62-378	土師器	甕	II B	22.6	32.5	9	50	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	黒斑 常総型	
SX01	10R-02	62-379	土師器	甕	II B	24	32.5	8.8	40	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外木葉痕
SX01	10R-02	62-380	土師器	甕	II B	25.3	31.5	10.6	45	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	黒斑・ 火燻 常総型	
SX01	10R-02	62-381	土師器	甕	II B	22.4	32.8	8	50	10YR8/4	10YR8/4	10YR5/2	黒斑・ 内黒 常総型	
SX01	10R-03	62-382	土師器	甕	II B	24.4	33	7	70	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	常総型	
SX01	10R-03	62-383	土師器	甕	II B	23	33.5	9	70	10R7/4	10R7/4	10R7/4	常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外木葉痕
SX01	10R-03	62-384	土師器	甕	II B	14.6	31.6	18.6	70	7.5YR7/6	5YR6/6	5YR6/6	黒斑・ 常総型	
SX01	10R-03	63-385	土師器	甕	II B	23.5	31.4	10.4	65	10YR7/4	10YR7/4	10YR4/2	黒斑 常総型	

遺蹟No	グリッド	挿図No	器具	器形	種類	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
SX01	10R-03	63-386	土師器	甕	II B	23.8	30.3	9.2	50	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外木葉痕
SX01	10R-03	63-387	土師器	甕	II B	23.4	30.7	8.7	70	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/4	黒斑 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外一定方向のヘラケズリ
SX02	10R-12	63-388	土師器	甕	II B	23.6	34	9.5	70	10YR7/6	10YR7/6	10YR5/3	黒斑・ 内黒 常総型	外面ケズリ後ナデ・体部下半 のみミガキ・内面ヘラナデ・ 底外木葉痕
SX02	10R-12	63-389	土師器	甕	II B	23.5	33.7	9.3	60	10YR6/4	10YR6/4	7.5YR6/4	黒斑・ 火罨 常総型	
SX03	10R-13	63-390	土師器	甕	II B	27	32.7	8.7	70	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	黒斑 常総型	
SX-03	10R-13	48-1	多彩釉 陶器	小型壺 蓋	三彩	4.4	1.4		100	10YR8.5/2	2.5YR8/3	5G5/8		
SX-01	10R-02	48-2	多彩釉 陶器	小型壺 蓋	二彩	4.8	1.6		100	10YR8.5/4	10YR8.5/6	7.5GY5/7		
SX-01	10Q-32	48-3	多彩釉 陶器	小型壺	二彩?	3.8	2.6+		20	10YR8.5/4	10YR8/4	5GY6/8		
SX-01	10Q-32	48-4	多彩釉 陶器	小型壺 ?	二彩?				5	10YR8.5/2		5GY5/8		
SX-01	10Q-32	48-5	多彩釉 陶器	小型壺	二彩?		1.8+	(3.4)	10	10YR8.5/4	10Y8/6	2.5GY6/8		
SX-01	10Q-33	48-6	多彩釉 陶器	小型壺	二彩?		1.7+	3.3	10	10YR8.5/2	2.5GY7/6	2.5GY6/8		
SX-01	10Q-32	48-7	多彩釉 陶器	小型壺	二彩?		1.7+	3.2	10	10YR8.5/2		2.5GY7/10		
SX-01	10Q-33	48-8	多彩釉 陶器	小型壺	二彩?		1.2+	4.2	10	10YR8.5/4		2.5GY7/8		
SX-01	10R-03	48-9	灰釉陶器	椀	灰釉		2.4+	6.7						
包含層	10Q-31	47-1	須恵器	杯片	墨書土器		15 +	89		10YR6/4	10YR6/4	10YR6/4		
SX-03	10R-13	47-2	土師器	甕片	墨書土器					5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
包含層	11R-11	47-3	土師器	甕片	墨書土器					5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
包含層	11R-11	47-4	土師器	甕片	刻書土器		31 +			5YR5/6	5YR5/4	5YR5/6		
包含層	11R-10	47-5	須恵器	杯片	転用土器			106		2.5YR6/3	2.5YR6/3	2.5YR6/3		
包含層	11R-11	47-6	土師器	鉢	トリベ		29 +			5YR5/2	2.5YR5/6	5BG2/1	内面に 銅付着	

第15表 種ヶ谷津遺跡出土金属製品観察表（奈良時代）

挿図No	器種	器形	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	色調	備考	遺構 No.	グリッド
48-10	銅製品	儀鏡	径 37.0		1.2		鈕孔径1.5 鈕2×3	儀鏡	SX-02	10R-12
48-11	銅製品	垂飾	29.8	29	0.65	3.04	孔径2.0	佐波理製	SX-02	10R-12
48-12	銅製品	垂飾	25.5	19.6	0.4	0.63		佐波理製	SX-01	10Q-33
48-13	銅製品	垂飾	1.57	2.1	0.5	0.62		佐波理製	SX-01	10Q-32
48-14	銅製品	板状	3.43	2.8	0.7	3.00			SX-01	10R-02
48-15	銅製品	板状	33.4	28.5	0.6	1.96			SX-01	10R-02
ナシ	銅製品	鈴	径 25.0				鈕孔径1.0 鈕4.5×5.5		SX-03	10R-13
48-16	鉄製品	儀鏡	径 41.4		1.3	7.2		儀鏡	SX-01	10Q-32
48-17	鉄製品	鉄鏃	31	36	2	5.04			包含層	12Q-10
48-18	鉄製品	鉄鏃	40.8+	8-~10+	3	4.87			包含層	11R-11
48-19	鉄製品	鉄鏃	35.1	9.4	3.2	1.86			包含層	13Q-32
48-20	鉄製品	鉄鏃	36.7	5.9	3.1	3.84			SX-01	10Q-33
48-21	鉄製品	鉄鏃	28.9+	12.6	3.8	2.08			包含層	13Q-32
48-22	鉄製品	刀子?	65	8.2	2.5	6.77			包含層	11R-02
48-23	鉄製品	刀子?	56.33	6.9	2.4	6.18			SX-01	10Q-33

第16表 種ヶ谷津遺跡出土土製品観察表（奈良時代）

挿図No	器種	器形	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大孔径 (mm)	最小孔径 (mm)	色調	備考	遺構 No.	グリッド
47-7	土製品	土玉	17	15	14	1	5YR 5/6		包含層	11R-11
47-8	土製品	土鍾	30	30			7.5YR 6/6	瓦転用	包含層	11R-11

第17表 種ヶ谷津遺跡出土遺物総破片数 (奈良・平安時代)

遺構No.	グリッド	土 師 器										須 恵 器						陶磁 器 三彩	土器以外					合計		
		杯	皿	高杯	鉢	甕					甗	壺	杯	蓋	甕	壺	高杯		その他	灰釉	土製 品	石製 品	銅製 品		鉄製 品	
						在地	常総	武蔵	小型	台付																
SX-01	10Q-32	923	11	3	92	12374	210	1164	298	55			131	2	32					4			1	3	15303	
	10Q-33	253			55	7824	1352	930	372	56			108	2	5					2			1	2	10962	
	10R-02	293			14	18389	1188	3701	227	34			149		30					1			5		24031	
	10R-03	448			17	8899	954	695	200	24			6	251	2	8				2			1		11507	
SX-02	10R-11	111			5	3645	1116	74		7			59		2										5019	
	10R-12	116	3	1	62	2140	97	158	5	46	1	2	94										2		2727	
	10R-22					85	9	20					2												116	
SX-03	10R-13	368			5	5006	312	1191	12	26			171		1		4			1		2	2		7101	
包含層	10Q-21	3				15																			18	
	10Q-22	7				185	7	9					9		2										219	
	10Q-23	17			1	261	1	10					9												299	
	10Q-31	15				164	6	17					22		6										230	
	10R-01	36				226		58		1			19		26										366	
	10R-23	11			1	83	48	57	9	1			9												219	
	11Q-13	1			11	57				2															71	
	11Q-20					696	1	3	5				2												707	
	11Q-21	12				904	58	14					7		1										996	
	11Q-22	32			1	534	11						3		2										583	
	11Q-23	36				839	8	1					4												888	
	11Q-30	121				515	10	6					18										1		671	
	11Q-31	39				1455	120	2					8		1										1625	
	11Q-32	66			1	1092	194						7	1	2										1363	
	11Q-33	56			2	1636	88						8	2	21										1813	
	11R-0	25				285	38	24		2			11		4									1	390	
	11R-01	42	14		3	1044	97	55		3			34		6									1	1299	
	11R-02	16				395	49	4					10											2	476	
	11R-03	8				232	43						2		5										290	
	11R-10	9				79	45	26					7		7									1	174	
	11R-11	89			6	1101	215	102		5			22	2	3								2	1	1549	
	11R-12	13				129	24	6					2		1									1	176	
	11R-13	4				79	28						1		1									1	114	
	11R-20	3				29	1						1												34	
	11R-21	1				3																			4	
	12Q-10	72				688	6						1												9	776
	12Q-20	42			2	459	10						3		3									1	520	
12Q-30	12			2	228	4						1		9										256		
12R-0					20	1						1													22	
12R-02					6	1																			7	
12R-10	7				32																				39	
合計		3307	28	4	280	71833	6352	8327	1128	262	1	8	1186	11	178	0	4	0	0	2	8	4	9	11	17	92960

## 第4章 大道遺跡

### 第1節 調査の概要

検出した遺構は、古墳時代後期の竪穴住居跡10軒、土坑1基及び平安時代初頭～前期の竪穴住居跡が4軒である。古墳時代の竪穴住居跡は、ほぼ同時期で重複しているものが2軒、平安時代の住居跡に切られているものが1軒である。

これらの遺構のほとんどは、現地形の傾斜により北側が削平され、全形が確認できなかった。また、全形がわかるものも、壁の立ち上がりが浅く、覆土の堆積状況が確認できないものが多かった。

古墳時代の住居跡は、その立地を見ると3か所に散在している。平安時代の竪穴住居跡は調査区の東側に偏っており、中でも北側の赤井谷津に張り出す東端部分に3軒が集中している。1軒だけやや離れた位置から検出された13号竪穴住居跡は北側にカマドを持つ小型の住居である。この住居跡は今回調査された遺構の中では最も新しい時期のもので、ほかの3軒とは時期を異にするものである。

竪穴住居跡の広がりや時期ごとに見ると疎らであるが、これは調査区が台地の最も縁辺部である北側斜面部に位置するためと考えられる。竪穴住居跡の分布から見ると、調査区の南側部分に手の字状に広がる台地全体に集落が形成されていたことは間違いのないところである。

調査区の各遺構及び遺構外から出土した遺物は、土器、土製品、石製品、金属製品などである。これらは竪穴住居跡から出土したものであるが、今回報告するほかの2遺跡に比べ少なく、総破片数は8,196点を数えた。これは先にも述べたように、調査区が斜面部分に位置し、覆土の浅い住居が多かったことも一因と考えられる。11号住居跡からは遺存状態の良好な平安時代土器が多く出土した。各々の遺構から検出された遺物の組成については、図示できなかったものも含め、種類別の破片数を集計し掲載している。(第22表)。

なお、本遺跡出土の縄文土器は条痕文土器、黒浜式土器、加曾利E式土器が数点ずつ出土しているのみである(少量のため、第2章に併せて掲載した)。

### 第2節 古墳時代

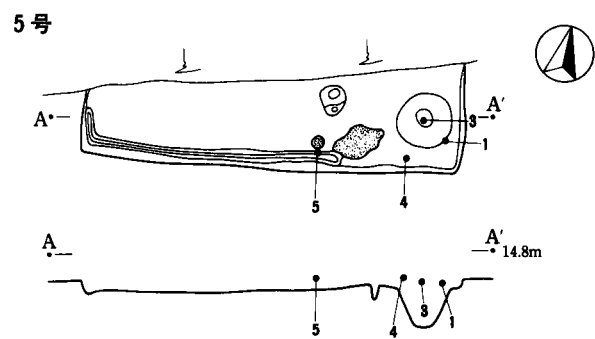
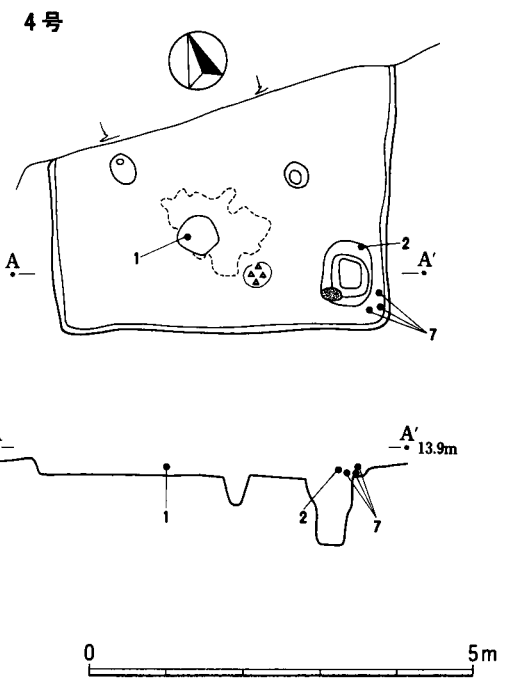
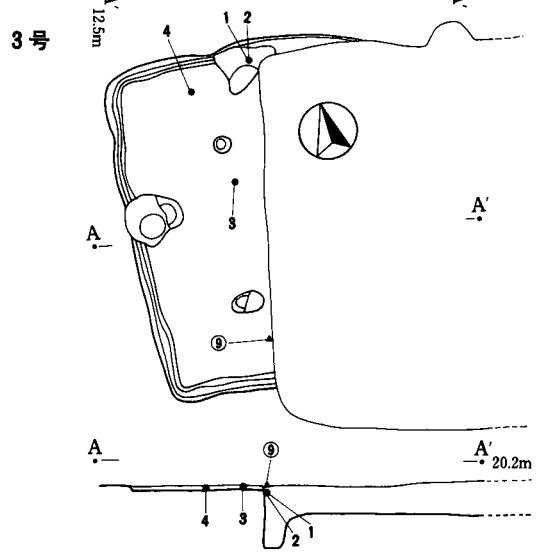
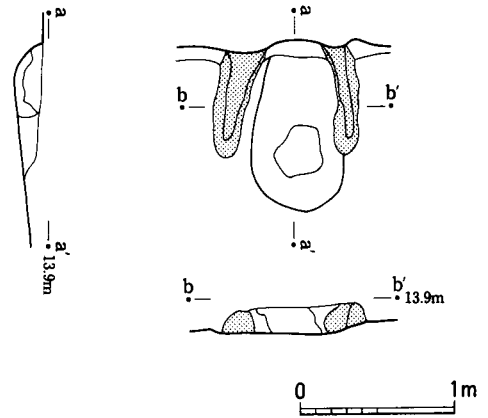
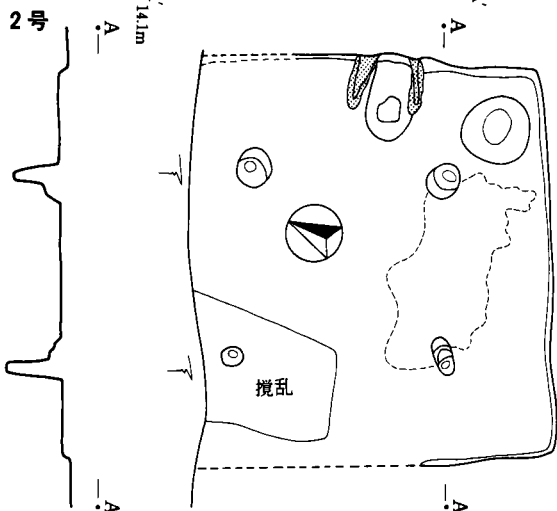
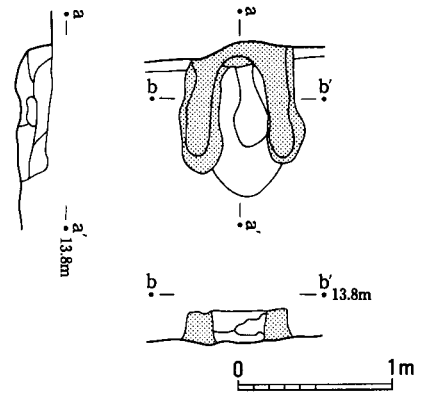
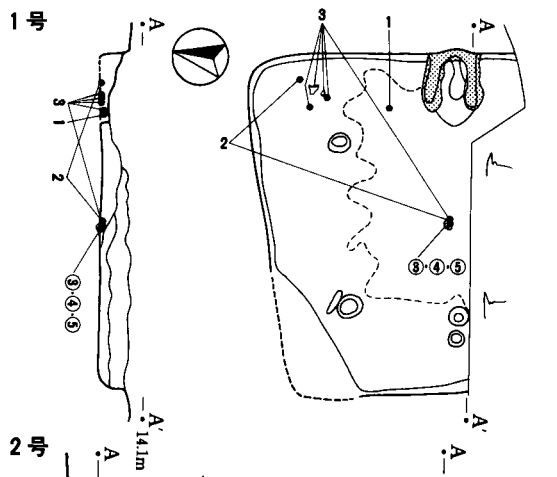
#### 1. 遺構

##### 1号竪穴住居跡(第65図、図版31)

調査区の中央部北斜面2B-56グリッドに位置し、主軸方位はN-76°-Eを示す。この場所はほかの住居跡より谷に向かって標高が一段下がった所に位置している。南側部分は現道によって削平され、北西隅部分も検出されなかったため、平面形は推定で正方形を呈すると思われる。一辺約4.5mを測る。残存壁高は50cm～56cmで、周溝、貯蔵穴は検出されなかった。支柱は北側の2本のみ検出され、柱間距離は2.2mを測る。カマドは北壁の中央部付近に位置する。カマドの対面の西壁寄りには、出入りに伴うと考えられる小柱穴が2本検出されている。

出土遺物は少なく、復元できた個体はわずかで、いずれも床面から出土している。





第65图 1·2·3·4·5号竖穴住居迹

## 2号竪穴住居跡（第65図）

調査区の中央部北斜面3B-18グリッドに位置し、主軸方位はN-63°-Eを示す。北側は地形による斜面のため、削平されている。残存壁高は約19cmで、周溝は検出されなかった。主柱は4本、柱間距離は2.5m×2.6m～2.8mとやや南北の幅がある。カマドは東壁中央部付近に位置し、南東隅に貯蔵穴設けられている。南側の主柱の間の床面だけが硬化している。

遺物の出土量は少なく、床面から若干検出されたのみである。

## 3号竪穴住居跡（第65図、図版32）

調査区の西側1C-66グリッドに位置する。平安時代の11号住居跡に半分壊されているが、主軸方位はN-03°-Eを示し、ほぼ真北を向く住居である。残存壁高は約10cmで、周溝は調査された部分では、ほぼ全周している。主柱は2本検出され、柱間距離は2.1mである。西壁中央部には土坑状のピットが検出されたが、性格は不明である。カマドの袖部の残骸と思われる山砂が北壁中央部分で検出されている。

遺物の出土量は少なく、床面とカマド付近から出土している程度である。

## 4号竪穴住居跡（第65図）

調査区の西側2C-26グリッドに位置し、北側は斜面のため削平されているが、残存する一辺は4.5mを測る。推定される主軸方向は、N-2°-Eを示す。最も残存していた部分の壁高は26cmで、周溝は検出されなかった。主柱は2本検出され、柱間距離は約2.3mを測る。残存する床面中央部には、周囲に硬化面が広がる、深さ2cmほどの皿状の窪みが検出された。少量の木炭と焼土を伴っており、炉の可能性も考えられる。南東隅には貯蔵穴が設けられ、堀込みの一角には少量の粘土が固まって検出された。

復元できた遺物は少なく、図示した遺物は主に貯蔵穴の周りの床面から検出されていたものである。

## 5号竪穴住居跡（第65図、図版31）

調査区の中央部北斜面3B-43グリッドに位置する。北側の大部分は削平され、南側のごく一部のみを調査することができた。残存する一辺は約5mを測る。残存壁高は8cm～26cmで、周溝は南・西壁部分で確認されている。貯蔵穴は南東隅に設けられ、貯蔵穴の西側の壁際では、粘土が固まった状態で検出された。遺物の出土量はわずかで、図示した遺物は床面と貯蔵穴の上面から出土している。

## 6号竪穴住居跡（第66図、図版31）

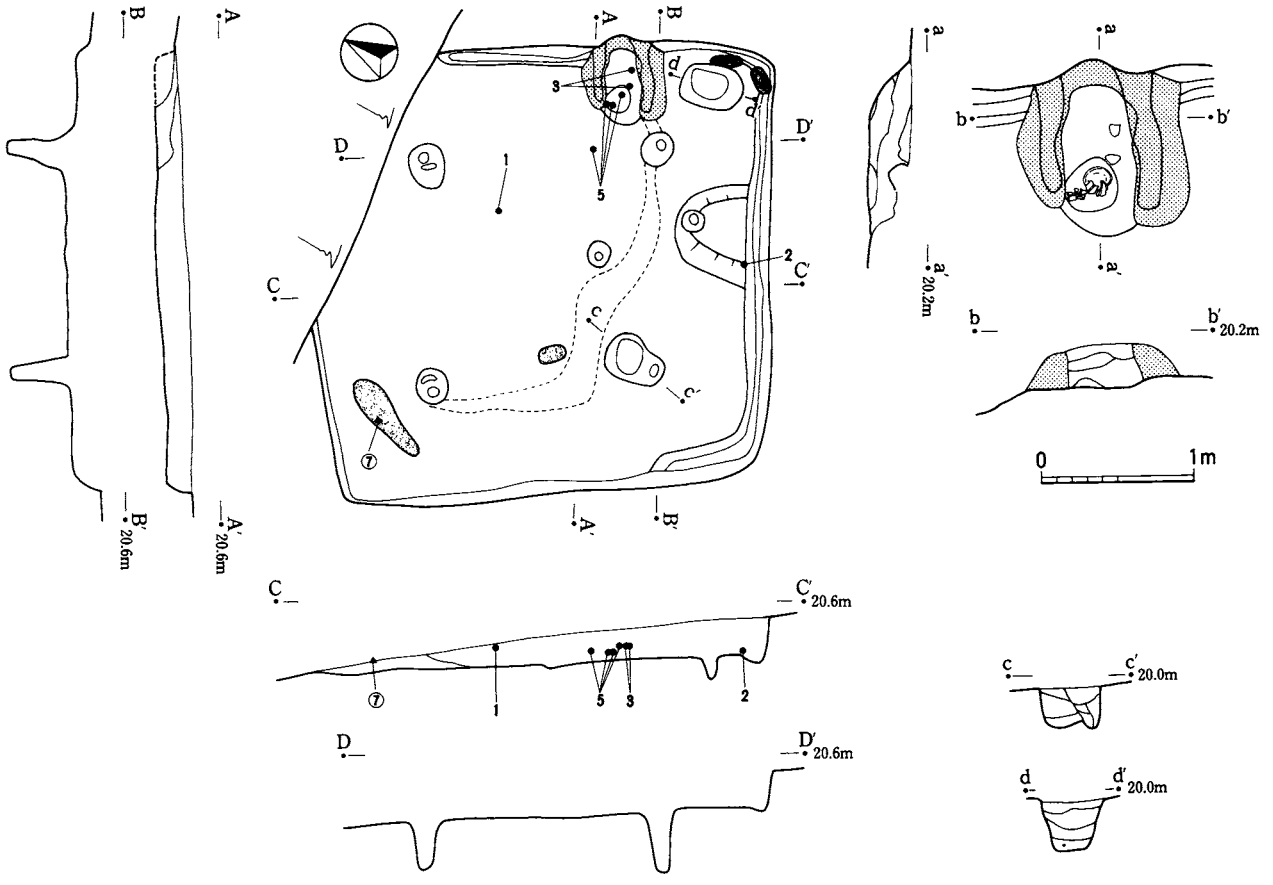
調査区の西側2C-50グリッドに位置し、主軸方位はN-67°-Eを示す。平面形はやや歪な正方形を呈し、一辺約6mを測るが、北側の一角を地形によって削平されている。残存壁高は12cm～60cmで、周溝は東・南壁部分で検出されている。主柱は4本、柱間距離は3.1m～3.0m×3mを測る。カマドは東壁の南寄りに位置し、貯蔵穴がさらに南の南東隅に設けられている。貯蔵穴脇の床面からは、粘土が少量固まって検出された。南壁中央部分の床面では、半円形の高まりを伴う硬化面が確認され、先端に小さいピットが検出されていることから、出入り口に伴う施設と考えられる。床面は、南側と西側部分が逆L字型に若干高くなっている。床面からは焼土が検出されている。

遺物は少なく、主に床面から若干量検出されたのみである。

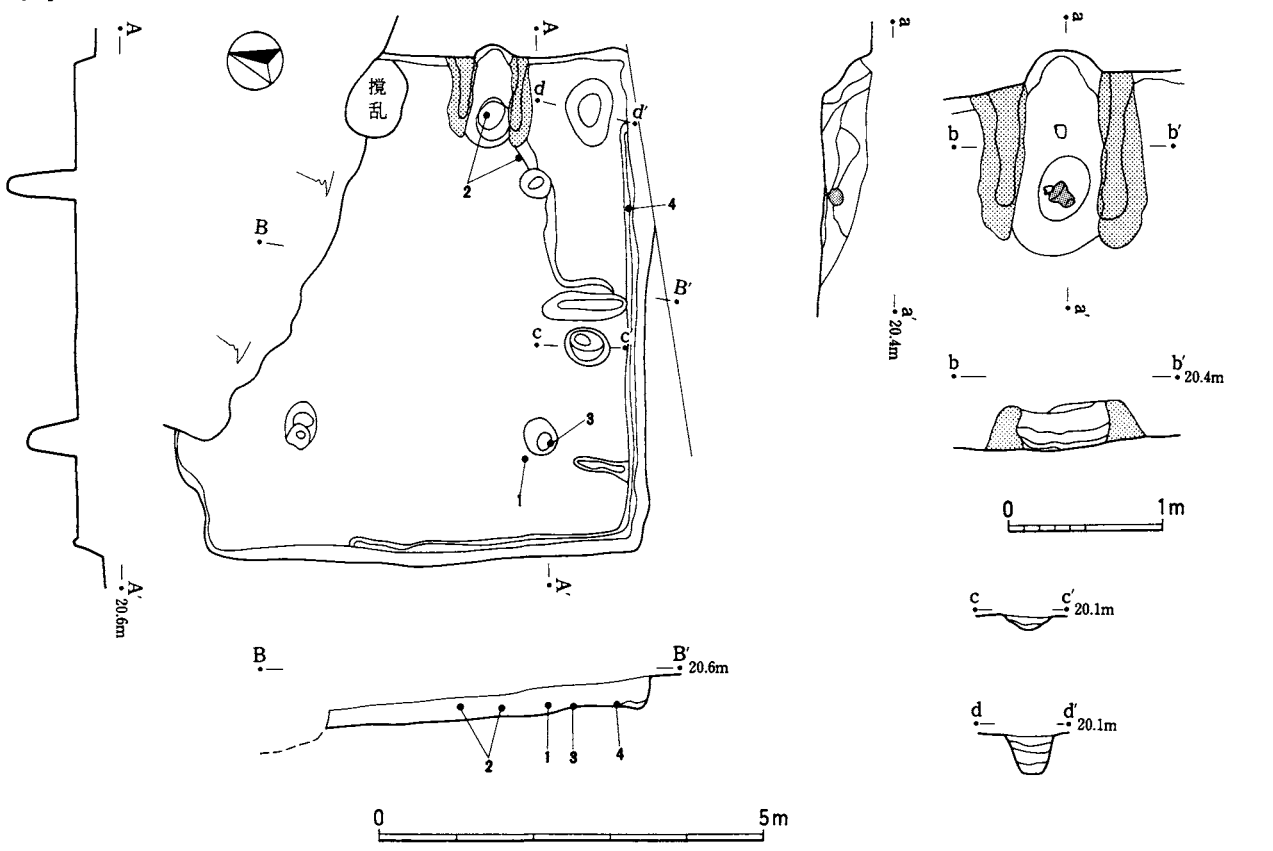
## 7号竪穴住居跡（第66図、図版32）

調査区の西側2C-53グリッドに位置し、主軸方位はN-75°-Eを示す。北東側の角を削平され、南東角が一部調査区の限界にかかるため平面形は明らかでないが、長方形を呈するものと考えられる。長軸約6.6m、短軸約5.8mを測る。残存壁高は20cm～44cmで、周溝は南・西壁の一部と南西角で検出された。主

6号

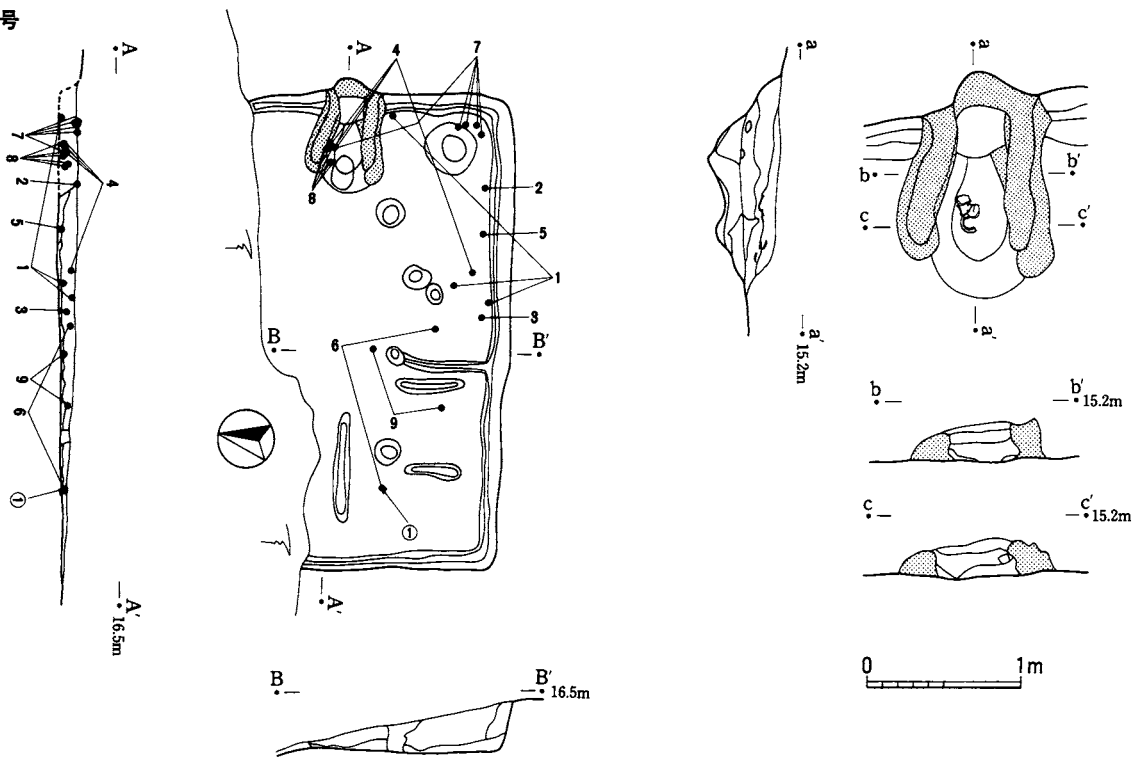


7号

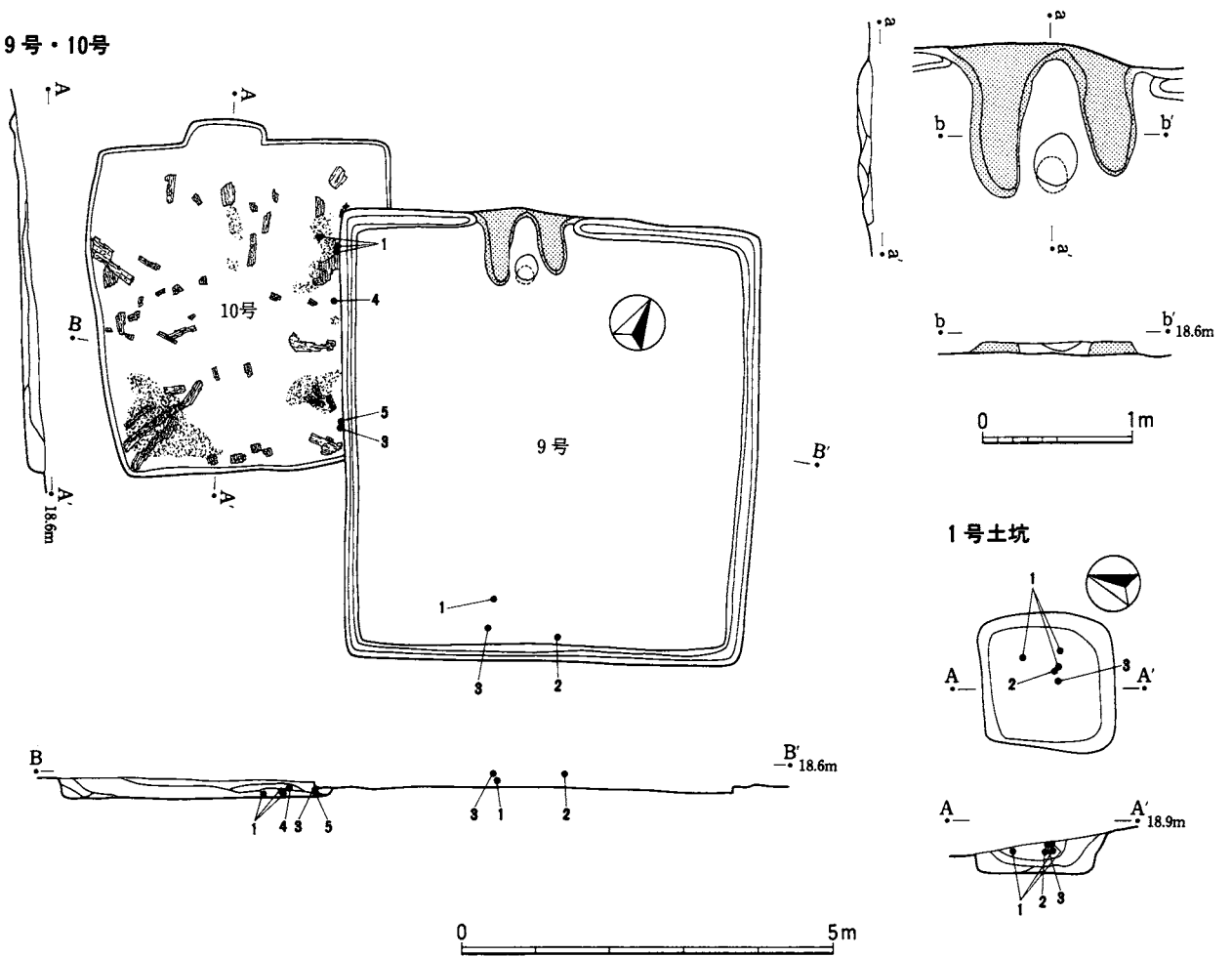


第66图 6·7号竖穴住居跡

8号



9号·10号



第67图 8·9·10号竖穴住居迹·1号土坑

柱穴は3本検出し、柱間距離は3.3m×3.2mを測る。南壁中央部と西側の床面には、短い間仕切り状の溝が2条検出されている。カマドは東壁中央部やや南寄りに位置し、貯蔵穴は南東隅に設けられている。カマドの右袖から南壁中央部の間仕切り状の溝の向けての一角は、床面がほかの部分より一段高く硬化した状況が観察された。

#### 8号竪穴住居跡（第67図）

調査区の中央部北斜面3B-45グリッドに位置し、主軸方位はN-84°-Eを示す。北側約半分を削平され残存する一辺は約6.3mである。残存壁高は6cm~67cmあり、周溝は調査された範囲で全周する。支柱は南側の2本のみが検出され、柱間距離は3.2mを測る。カマドは東壁中央部付近に位置し、貯蔵穴は南東隅に設けられている。床面南西隅の部分に区画するように、間仕切りと思われる短い溝が東西方向に1条、南北方向に3条確認されている。南北方向の短い2条は区画内の根太痕跡の可能性も考えられる。

遺物は主に、床面及びカマド内から出土している。

#### 9号竪穴住居跡（第67図）

調査区の東側5B-03グリッドに位置し、10号住居跡の一部を壊して作られている。主軸方位はN-27°-Eを示す。平面形はほぼ正方形を呈し、長軸約6m、短軸約5.6mを測る。残存壁高は6cm~18cmで、周溝は全周する。柱穴、貯蔵穴、硬化面等は検出されなかった。カマドは北壁中央部分に位置し、上面がかなり削平されているが、辛うじて袖の基部が確認されたのみである。

遺物の出土量は少なく、すべて覆土中から出土している。しかし、復元された個体は比較的多かった。

#### 10号竪穴住居跡（第67図）

調査区の東側5B-02グリッドに位置する。南東側の一部を9号住居跡によって壊されている。カマド等住居の主軸方向を示すものが検出されなかったため、主軸方向は不明である。平面形は一部が突出した長方形を呈し、長軸約4.5m×短軸約3.5mを測る。残存壁高は22cm~28cmで、周溝は検出されず、支柱、貯蔵穴も検出されなかった。床面全体から炭化材と焼土が検出され、炭化材は住居の中心部分に向かって壁から放射状に並んだ状態で出土した。

出土した遺物はわずかで、主に東側の床面から散漫な状態で検出されている。

#### 1号土坑（第67図）

調査区の東側5B-11グリッドに位置し、平面形は一辺約1.8mの方形を呈する。残存壁高は20cm~56cmを測る。9・10号住居跡北西側1mに作られた土坑である。土層の堆積状況からは、人為的な埋め戻しは認められなかった。

遺構の大きさに比して、出土遺物は多く、覆土中層からは遺存状態の比較的良い須恵器の壺・土師器の杯が出土している。このほかに正確な出土位置はわからないが、少量の炭化材と貝類が検出されている。

## 2. 遺物

### (1) 土器

#### 1号竪穴住居跡（第68図）

1の蓋は小片であるが天井部に比較的丁寧なヘラケズリが施され、肩部分には若干の稜が観察される。2も小片で赤彩が施されている。3は球胴を呈する甕で、体部外面は縦ヘラケズリによって調整されている。

## 2号竪穴住居跡（第68図、図版34）

土師器杯はいずれも赤彩され、丸底で口縁部に稜を持たないタイプである。1は鉢を小型にしたように器高が深く丸味を帯びているのに対し、2は口縁が広い杯である。3は赤彩された高杯の脚部で、杯部分も脚部端部も欠損しているため、形態は不明である。4は鉢で、小片であるが赤彩が施され、やや深い器形である。5・6はやや小型の甕である。5は底部から体部にかけての破片であるが、概ね6のような器形になると思われる。

## 3号竪穴住居跡（第68図、図版34）

1は口縁部に若干の稜を持つ赤彩の杯である。2は口縁部分がわずかに外反する杯で、鉢に近い器形を呈する。3はあまり球胴にならないタイプの小型甕である。4の甕は口縁がわずかに外反するほかは、変化のない胴部で、底部は単孔である。

## 4号竪穴住居跡（第68図）

1は内外に磨きが施された赤彩の杯である。器壁表面には化粧土がかかり、そのためか非常に明るい赤褐色を呈す。口縁部は緩く外反する。3は器台の脚部である、胎土・焼成とも比較的丁寧で、器壁も薄く作られている。4は口縁部分を屈曲させ上方に引き上げる作りで、体部は丸く平らな底を持つ鉢である。5・6は鉢及び甕の底部である。前者は底部の木葉痕をヘラケズリで調整し、後者の底部外面は木葉痕のままである。7は球胴形の甕で、随所に黒斑が見られる。

## 5号竪穴住居跡（第68図、図版34）

須恵器蓋は天井部が回転ヘラケズリ調整され、肩部分に明瞭な稜を持ち、口縁端部は内傾する。2は内面に同心円叩き目が見られる甕の小片で外面は平行叩きで整形されているようである。土師器杯は半球を呈すタイプと口縁部がやや内湾するタイプがある。3はヘラケズリの後、横斜め方向のミガキが加えられている。4は鉢で、丸い体部で立ち上がりで、赤彩されている。5は外面をヘラケズリで調整され、底部外面にはヘラ書きが見られる。

## 6号竪穴住居跡（第69図、図版34）

杯はいずれも口縁がやや内湾して立ち上がるタイプで平底のものも見られる。鉢は口縁端部が小さく外反し、体部が丸く膨らむタイプで、底部は失われている。5の甕はやや小型で、頸部が短く立ち上がる。口縁が広く端部は心持ち外傾して終わり、体部は球胴に近い。

## 7号竪穴住居跡（第69図、図版34）

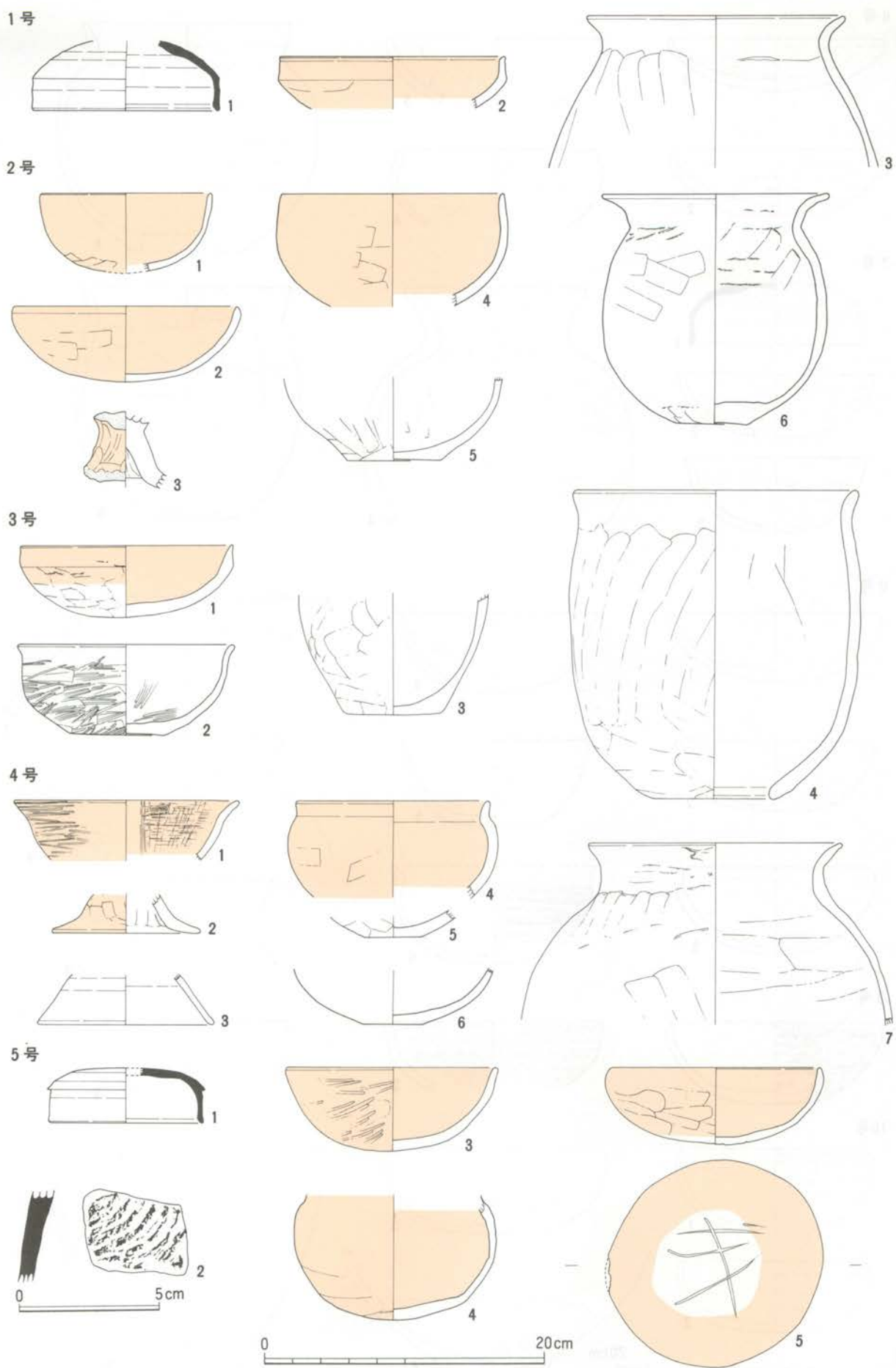
1は須恵器の杯蓋である。天井部は丁寧にヘラケズリされ、肩部は明瞭な稜を持ち、端部は内傾する。2の丸底の杯は、外面に稜を持たないタイプで内外面とも赤彩されている。3は口縁部がヨコナデされ、やや深い杯である。4は球胴で細めな頸部から口縁部が広がって立ち上がる。壺に近い器形である。5は口縁部が広く開く小型の甕である。

## 8号竪穴住居跡（第69図、図版34・35）

1～5の杯と鉢は、いずれも内外面とも赤彩されている。杯類はいずれも丸底で口縁部に屈曲を持たず自然に立ち上がるタイプである。6の鉢は外面に細かい横方向のミガキが施されている。7～9の甕は球胴を呈すると思われるが、口縁部のみの破片である。

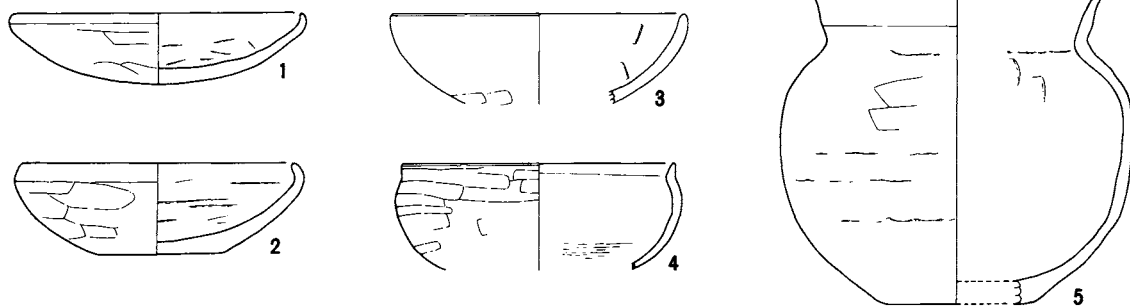
## 9号竪穴住居跡（第69図、図版35）

1・3は同じタイプの丸底の杯であるが、3は器面の磨滅が激しく、ミガキの痕跡が良く見えなかった。

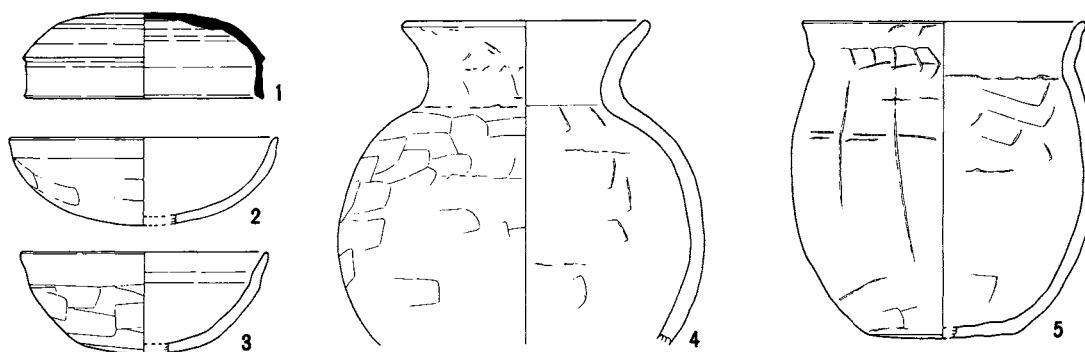


第68图 1·2·3·4·5号竖穴住居跡出土遺物

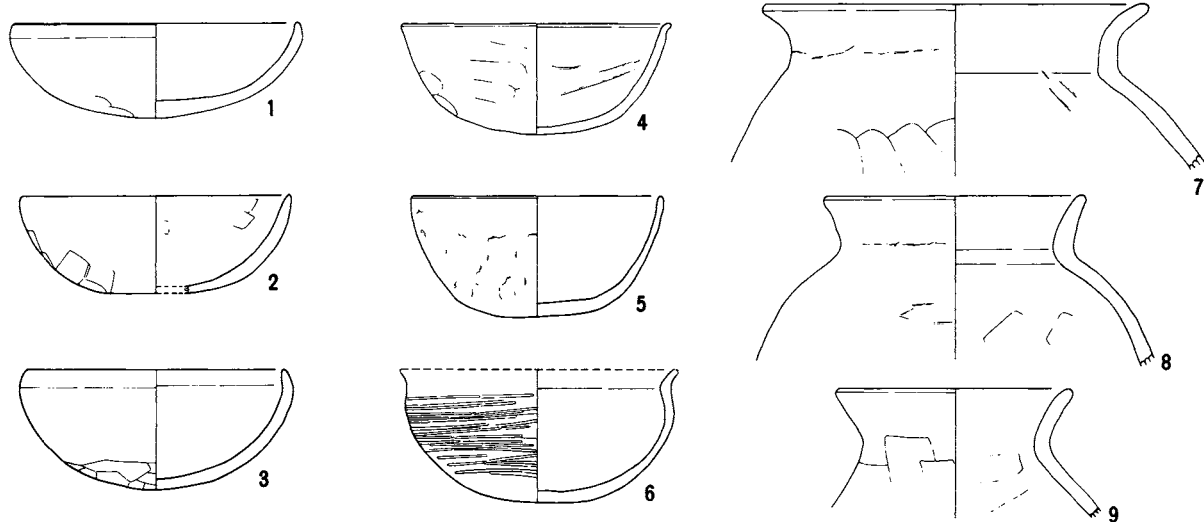
6号



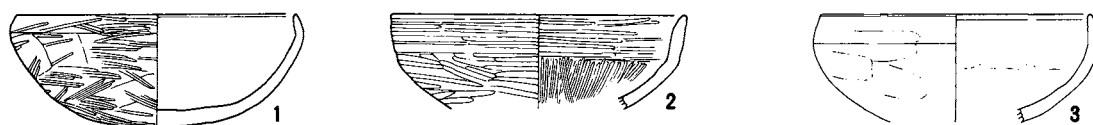
7号



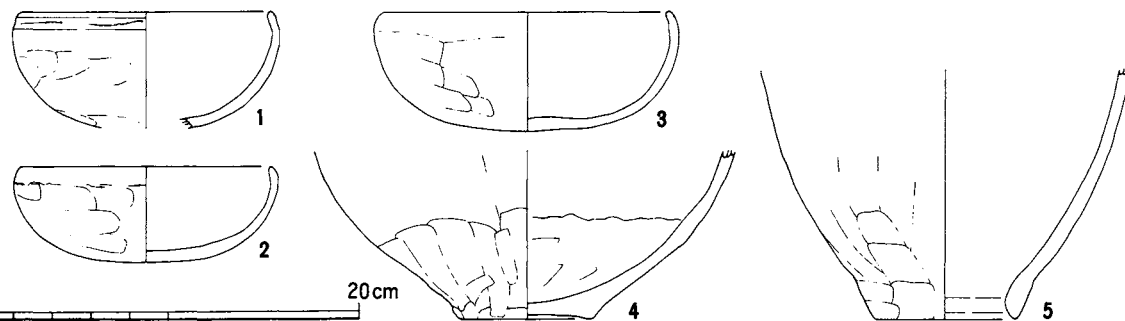
8号



9号



10号



第69图 6·7·8·9·10号竖穴住居跡出土遺物



2は体部内面に段を持つ杯で、内外面とも規則的に磨かれている。

10号竪穴住居跡（第69図、図版35）

1～3の杯はいずれも丸底で腰の部分が比較的ゆったりと立ち上がり、口縁部が僅かに内湾する特徴が見られる。4は球胴を呈する甕の底部で、想定される胴部最大径に対して小さい底部が特徴的である。5は単孔の甑でやや長胴に立ち上がるタイプである。

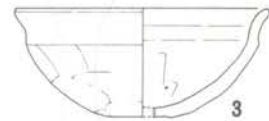
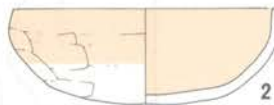
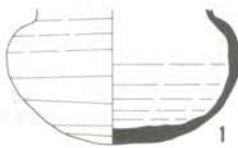
1号土坑（第70図）

1の須恵器壺は、丸底で小型の器形を呈する。体部のみしか検出されなかったので、口縁部分の形態は不明だが、おそらく短い頸部を持つ短頸壺と思われる。2は杯で、底部が平底気味の丸底を呈する。口縁端部はやや内傾しながら直立する。3の鉢は口縁部が強くヨコナデされ、端部が外反している。

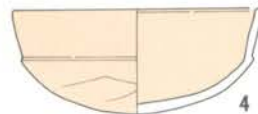
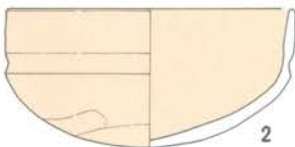
遺構外（第70図）

1の須恵器蓋は、肩部に明瞭な段を持ち口縁部端部は内傾する。天井部は丁寧に回転ヘラケズリされている。3は口縁部が屈曲しないで立ち上がる杯である。2・4は口縁部が屈曲し、真っ直ぐに立ち上がるタイプである。ここに図示した遺物は、6号住居跡の北東方向に当たる部分から比較的まとまって出土した遺物である。

1号土坑



遺構外



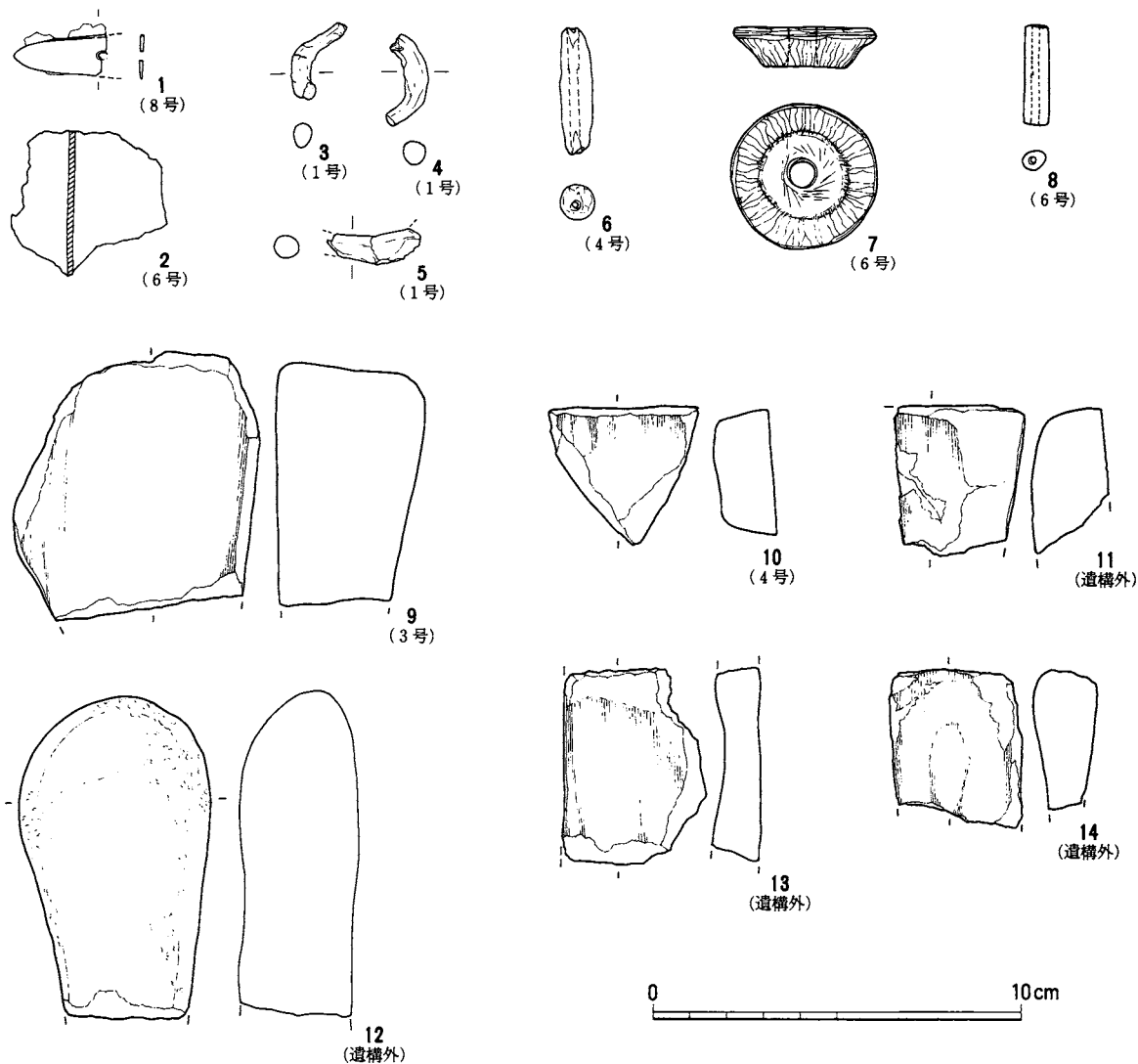
第70図 1号土坑・遺構外出土遺物

(2) 鉄製品（第71図1～2、図版36）

6号住居跡と8号住居跡からそれぞれ検出されている。遺物はいずれも不明品である。1は鏝の先のようにもみえるが大変薄く平たい形状で、中央部分に丸い穿孔がある。2は板状の鉄製品の断片である。

(3) 土製品（第71図3～6、図版36）

土製品は4点検出している。いずれも不明品である。3～5は、小さい環状を呈するようなカーブを持つ。粘土紐を細く焼いただけともみえるが、用途は不明である。接合はしなかったが、3・4の挿図で示したように耳環状を呈する可能性もある。6は土錘としたが、非常に小型で両端面に顕著な擦痕が認められる。



第71図 竪穴住居跡ほか出土鉄製品・土製品・石製品

(4) 石製品 (第71図 7~14、図版36)

砥石・管玉・紡錘車がある。7は滑石製の紡錘車で、上面の円形に対し下面部分が小さく、急激に窄まっている。下端面には斜め放射状に、多くの擦痕が認められる。外縁部には、製作時の縦方向の削り痕跡が観察される。8は緑色凝灰岩製の管玉で、表面は非常になめらかに調整されている。9~14は砥石である。12のみが自然礫の側面を利用するタイプのもので、長辺の4面に使用された痕跡が残る。10~14はやや軟質な砂岩系の石で、いずれも多方向の面が研ぎ面として使用された様子が窺える。中でも14は特に平面図表面とした面の中央部分に、一段窪みがつくほど研磨されている。

11~14は遺構外の表採遺物である。遺構に伴わないため時期は不明だが、同様な砥石が古墳時代の住居から検出されていることから、ここでは同じ図版で扱い、挿図番号の横にグリッド名を示した。

第18表 大道遺跡出土土器観察表 (古墳時代)

遺構No	挿図 No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
1号住居	68-1	須恵器	蓋	13.1	5.1 +		20	N5/0	N5/0	5B6/1		ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ
1号住居	68-2	土師器	杯	(15.9)	3.8 +		10	2.5YR5/6	10R3/6	10R3/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
1号住居	68-3	土師器	甕	(18.2)	10.8 +		10	2.5YR5/6	10YT3/2	10YT3/2		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
2号住居	68-1	土師器	杯	12	5.7 +		50	5YR6/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
2号住居	68-2	土師器	杯	15.8	5.3		40	7.5TR6/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	
2号住居	68-3	土師器	高杯		4.5 +		25	5YR6/6	10R5/8	5YR6/6	赤彩	内外面ヘラケズリ後ナデ
2号住居	68-4	土師器	鉢	15.8	8.0 +		25	10R4/8	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ・内面ナデ
2号住居	68-5	土師器	甕		5.9 +	6.6	10	10R5/8	10R5/8	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
2号住居	68-6	土師器	甕	15.8	16.5	5	60	7.5YR6/6	7.5YR4/2	7.5YR4/2	一部黒斑	内外面ヘラケズリ後ナデ
3号住居	68-1	土師器	杯	14.9	5.2		85	7.5YR6/6	7.5YR5/4	7.5YR5/4	赤彩・黒斑	外面ヘラケズリ・内面ナデ
3号住居	68-2	土師器	杯	15	6.3	6.5	65	2.5YR5/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1	内外漆?	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
3号住居	68-3	土師器	甕		8.4 +	6.8	60	10YR5/4	5YR5/6	5YR4/8		外面ヘラケズリ後ナデ・内面剥離のため不明
3号住居	68-4	土師器	甕	19.8	21.8	8.2	50	10R4/6	10R4/6	10R4/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
4号住居	68-1	土師器	高杯	(15.8)	4.35 +		10	7.5YR7/6	10R4/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ミガキ
4号住居	68-2	土師器	高杯			10.4	25	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	赤彩 (外面)	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
4号住居	68-3	土師器	器台		3.6 +	12.4	50	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10YR1.7/1	内面に漆?	ロクロ成形
4号住居	68-4	土師器	鉢	13.6	6.9 +		40	7.5YR5/6	5YR4/6	2.5YR5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
4号住居	68-5	土師器	甕		1.8 +	2.2	30	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6		外面ヘラケズリ・内面ナデ
4号住居	68-6	土師器	甕		4.1 +	4.2	40	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		外面不明・内面ナデ・底外葉痕
4号住居	68-7	土師器	甕	18	12.9 +		45	10YR6/6	10YR6/6	10YR6/4	内面に漆?	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
5号住居	68-1	須恵器	蓋	11	4 +	7	25	N6/0	N6/0	N6/0		ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ
5号住居	68-2	須恵器	甕				小片	2.5GY6/1	2.5GY6/1	2.5GY6/1		外面にタタキ目・内面同心円のあて具痕
5号住居	68-3	土師器	杯	14.9	5.9		90	2.5YR6/4	10R5/6	10R5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
5号住居	68-4	土師器	鉢		8.9 +		70	10R4/6	2.5YR5/8	2.5YR4/4	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
5号住居	68-5	土師器	杯	14.8	5.4		90	5YR6/6	10R5/8	10R5/8	赤彩・底部 外面に刻書	
6号住居	69-1	土師器	杯	14.9	3.8		25	2.5YR6/8	10R5/8	10R5/8	赤彩	
6号住居	69-2	土師器	杯	14.1	4.9	6.4	90	10YR6/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8	赤彩・黒斑	
6号住居	69-3	土師器	杯	15.4	4.8 +		30	7.5YR6/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	
6号住居	69-4	土師器	杯	14.2	5.3 +		35	2.5YR4/8	2.5YR4/8	2.5YR4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ後ミガキ
6号住居	69-5	土師器	甕	14.6	16.5 +	7	65	2.5YR6/8	5YR5/4	2.5YR6/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
7号住居	69-1	須恵器	蓋	12.5	4.4	8.2	25	N6/0	N6/0	N6/0		ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ
7号住居	69-2	土師器	杯	13.8	4.6 +		50	7.5YR6/6	10R4/6	10R4/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
7号住居	69-3	土師器	杯	12.7	5.3 +		40	7.5YR6/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	赤彩	
7号住居	69-4	土師器	壺	12.4	16.9 +		60	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/8		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
7号住居	69-5	土師器	甕	14.6	16.5	7.6	60	7.5YR6/6	2.5YR6/8	10YR1.7/1	黒変	
8号住居	69-1	土師器	杯	14.7	5		90	10YR6/4	10YR6/4	10YR6/4	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
8号住居	69-2	土師器	杯	13.8	5 +		25	2.5YR6/8	10YR5/8	10YR5/8	赤彩	
8号住居	69-3	土師器	杯	13.4	6.3		25	5YR6/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	
8号住居	69-4	土師器	杯	14	5.8		65	7.5YR6/6	7.5YR6/6	2.5YR5/6	赤彩	
8号住居	69-5	土師器	杯	13.1	6.2		60	10YR6/4	5YR5/4	5YR5/4	赤彩	
8号住居	69-6	土師器	鉢	(14.8)	6.8 +		80	10YR6/4	10YR1.7/1	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
8号住居	69-7	土師器	甕	(20.2)	8.3 +		15	10YR6/4	10YR6/4	10YR5/4		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
8号住居	69-8	土師器	壺	(13.7)	8.9 +		20	5YR6/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8	赤彩	
8号住居	69-9	土師器	甕	(11.8)	6.8 +		15	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4		
9号住居	69-1	土師器	杯	14.6	6		80	5YR6/6	10R5/8	10R4/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
9号住居	69-2	土師器	杯	(15.2)	5.0 +		20	7.5YR6/6	2.5 6/8	2.5 6/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ後ミガキ
9号住居	69-3	土師器	杯	14.1	5.7 +		30	10R5/6	10YR1.7/1	10R5/6	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
10号住居	69-1	土師器	杯	13	5.9 +		35	2.5YR5/6	10R5/8	10R5/8	赤彩	
10号住居	69-2	土師器	杯	12.9	5		90	7.5YR6/6	10R4/6	10R4/6	赤彩	
10号住居	69-3	土師器	杯	15	6.2		75	2.5YR5/8	10YR1.7/1	10YR1.7/1	赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
10号住居	69-4	土師器	甕		8.8 +	6.9	25	5YR4/3	2.5YR5/8	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
10号住居	69-5	土師器	甕		13.1 +	7.4	30	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	黒斑あり	
1号土坑	70-1	須恵器	壺		7.05 +		60	N4/0	N3/0	N3/0		ロクロ成形・外面回転ヘラケズリ
1号土坑	70-2	土師器	杯	13.6	5		60	7.5YR6/6	10		赤彩	外面ヘラケズリ後内外面ナデ
1号土坑	70-3	土師器	鉢	13	5.7		15	5YR6/6	2.5YR5/8	5YR6/6		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ

遺構No	挿図No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
遺構外	70-1	須恵器	蓋	11.9	4.4	7	48	7.5YR6/1	7.5YR6/1	7.5YR6/1		ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ
遺構外	70-2	土師器	杯	15	7.2	8	45	10YR7/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
遺構外	70-3	土師器	杯	14.6	4.4+		20	5YR7/6	10R6/8	10R6/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ミガキ・内面ナデ
遺構外	70-4	土師器	杯	12.8	5.5		40	5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8	赤彩	外面ヘラケズリ後ナデ・内面ナデ
遺構外	70-5	土師器	甕	13.4	5.5+		25	7.5YR5/6	7.5YR3/2	7.5YR3/2		

第19表 大道遺跡出土鉄製品・土製品・石製品観察表（古墳時代）

挿図No	器種	器形	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	色調	備考	遺構No
71-1	鉄製品	不明	2.5+	1.2	0.18	1.35			8号住居跡
71-2	鉄製品	板状	4.0+	4.2+	0.2	6.96			6号住居跡
71-3	土製品	不明	2.2	0.5		0.9	7.5YR7/6		1号住居跡
71-4	土製品	不明	2.6	0.6		1.2	7.5YR7/6		1号住居跡
71-5	土製品	不明	2.5	0.6		1.2	7.5YR7/6		1号住居跡
71-6	土製品	土錘	3.5	0.9		2.2	5YR5/8	中央に孔	4号住居跡
71-7	石製品	紡錘車		3.9	1.1	24.1	10G3/1	中央に孔	6号住居跡
71-8	石製品	管玉	2.1	0.6		2.2	7.5GY7/1	中央に孔	6号住居跡
71-9	石製品	砥石	6.4	6.3	4.0	330	7.5YR7/2		3号住居跡
71-10	石製品	砥石	3.5	4.0	1.5	30.5	10YR7/3		4号住居跡
71-11	石製品	砥石	4.0	3.5	2.0	48.2	2.5Y7/1		遺構外
71-12	石製品	敲石	8.6	5.1	3.0	220	2.5GY7/1		遺構外
71-13	石製品	砥石	5.0	3.8	1.3	36.9	10YR8/2		遺構外
71-14	石製品	砥石	4.0	3.5	1.7	38.3	10YR5/4		遺構外

### 第3節 平安時代

#### 1. 遺構

##### 11号竪穴住居跡（第72図、図版32）

調査区西端の北斜面1C-67グリッドに位置し、古墳後期の3号住居跡を壊して構築されている。主軸方位はN-14°-Eを示す。平面形は東西にやや広い正方形を呈し、長軸約5.3m、短軸約5mを測る。他の遺構に比べ依存状態が良く、土層の堆積状況も良好に確認できた。今回調査した住居跡の中で最も多く遺物が出土した遺構でもある。残存壁高は34cm~50cmで、周溝は全周し、周溝内には壁柱穴を数本検出した。壁柱穴は、住居跡の四隅とその間に配されているが、対称に穿たれている訳ではないようである。主柱は4本、柱間距離は2.4m×2.8m~3.0mとやや不整形である。南西方向のピット以外はいずれも立て替えた痕跡が窺える。カマドは北壁中央部に位置し、貯蔵穴は検出されなかった。カマド両袖外側の壁際には不整形な窪みが確認されているが、あるいはこれが貯蔵穴のような役割を果たした可能性も考えられる。

本住居跡からは、遺物が多く出土しており、土器以外にも鉄製品が数点確認されている。ほとんどが床面と床面からやや浮いた状態で検出されている。

##### 12号竪穴住居跡（第72図、図版33）

調査区西端部の北斜面1C-69グリッドに位置し、東隣には11号住居がある。主軸方位はN-110°-Eを示す。平面形はほぼ正方形を呈し長軸約4.3m、短軸約4.2mを測る。残存壁高は8cm~18cmで、主柱穴は4本で、柱間距離は2.2m×2.1mを測る。カマドは東壁中央部に位置する。周溝、貯蔵穴は検出されなかった。

出土した遺物は少なく、カマド周辺からまとまって検出されている。カマドの中からは遺存状態の良い須恵器の甑と土師器の杯・甕が出土した。

##### 13号竪穴住居跡（第72図、図版33）

調査区西側寄りの北斜面2B-85グリッドに位置し、主軸方位はN-11°-Eを示す。北壁部分が削平されているため正確な平面形は不明だが、基底部分のみ残存するカマドの位置から、一辺4m~4.5mほどのやや長方形の住居になると推定される。壁の立ち上がりはほとんど無く、西・南・東壁に周溝のみ残存する。カマドの対面の壁際には出入りに伴うピットが検出され、ピットからカマドにかけての床面には、細長く床の硬化した範囲が確認できた。

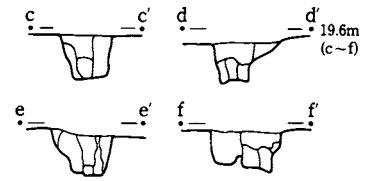
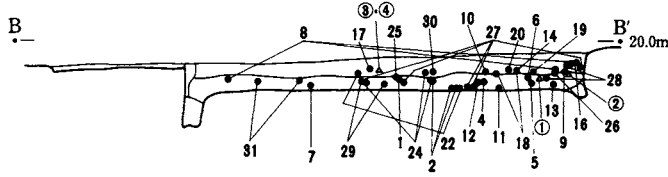
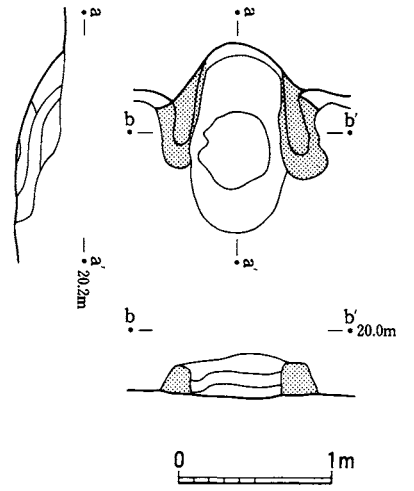
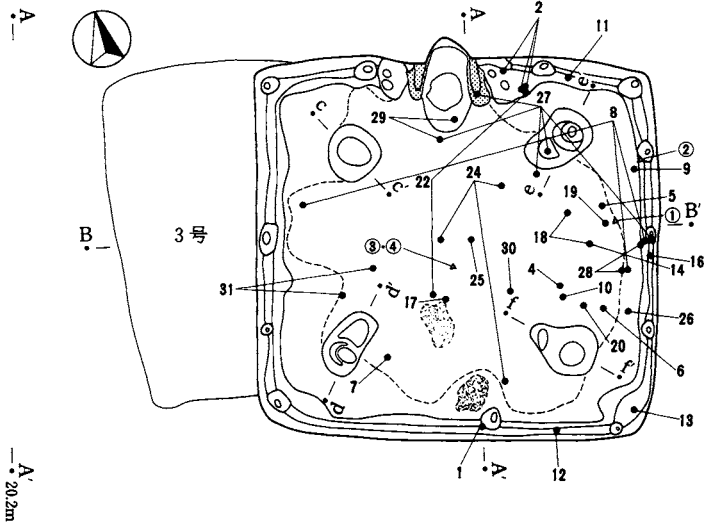
遺物は、本住居跡の範囲内からは、当該時期の土器片が多く確認されたが、器形を復元できた個体は非常に少ない。

##### 14号竪穴住居跡（第72図）

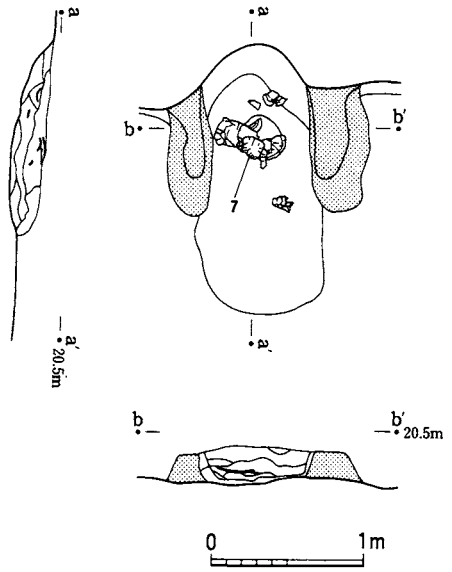
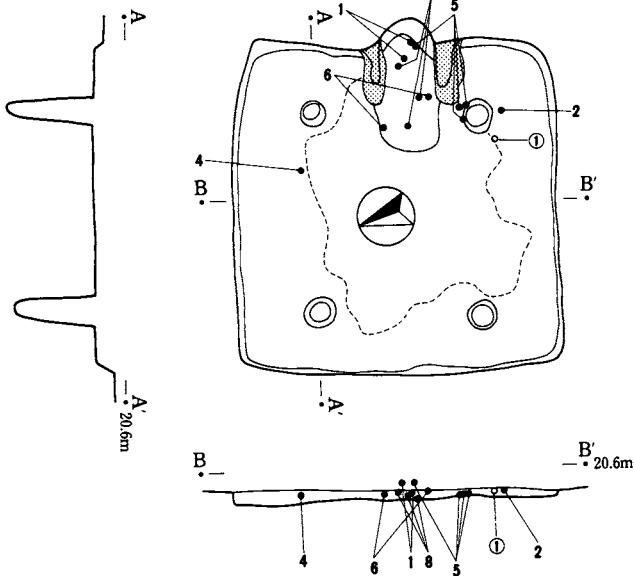
調査区の西端部1C-65グリッドに位置する。平面形は北西部を削平されており、削平を受けた部分を推定してもかなり歪な形である。残存壁高は約15cmで、周溝は南・東壁に部分的に確認される。ピットは主柱にあたると思われる部分に2本確認されるが、いずれも小さい。南東部付近にもやや大きめの浅いピットが確認され、貯蔵穴の可能性はある。

遺物はほとんど検出されず、実測できるものはなかった。

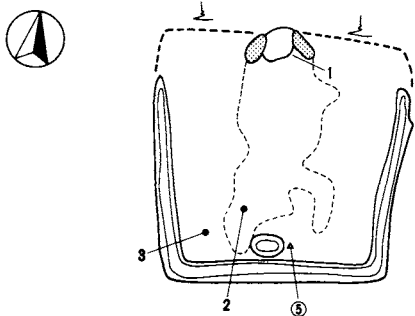
11号



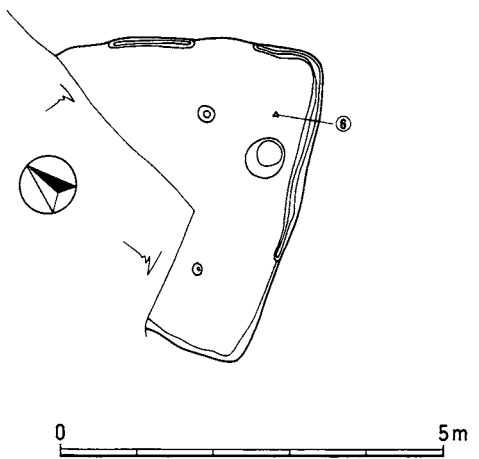
12号



13号



14号



第72图 11·12·13·14号竖穴住居跡

## 2. 遺物

### (1) 土器

#### 11号竪穴住居跡（第73図、図版35）

1～19は須恵器の杯および杯蓋である。須恵器の杯は、底径に比して器高が低く口縁部が外反しない、やや古いタイプの形態をとどめるものから、体部の轆轤成形痕が明瞭で、口縁部が外反して立ち上がるタイプがみられる。底部の調整も、切り離し後回転ヘラケズリ調整するものや、多方向の手持ちヘラケズリ調整するもの、さらに体部下端をヘラケズリするものなどが確認された。これらの須恵器のほとんどは県内で生産されたものと考えられるが、赤褐色に近い焼上がりのは、轆轤土師器との峻別が困難なものも多く見られる。20～26は土師器の杯・椀である。土師器の杯も須恵器同様に轆轤成形され、底部外面はヘラケズリされている。20の土師器杯は、内面にヘラ書きが施される。書かれた文字は1文字と考えられるが、何と書かれたかは不明である。24～26は内黒の椀で、内面をミガキ調整した後黒色処理を施している。高台の付くタイプもあり、大振りのものが目立った。24の底部は回転糸切り後ヘラ調整されている。27・28は底部は欠損しているが、須恵器の甑と考えられる口縁部から胴部の破片である。体部外面にはまばらな平行叩き目が確認できる。27は体部上方に四角い小さな把手が付く、復元実測のため片方の把手を確認しただけであるが、左右二方向につくものと思われる。29は須恵器甑の体部下端部分の破片である。外面はヘラケズリされ、底部は5孔になるタイプと思われる。30・31は土師器の甕である。体部外面をタテヘラケズリ、内面をヘラナデで調整した在地のものである。

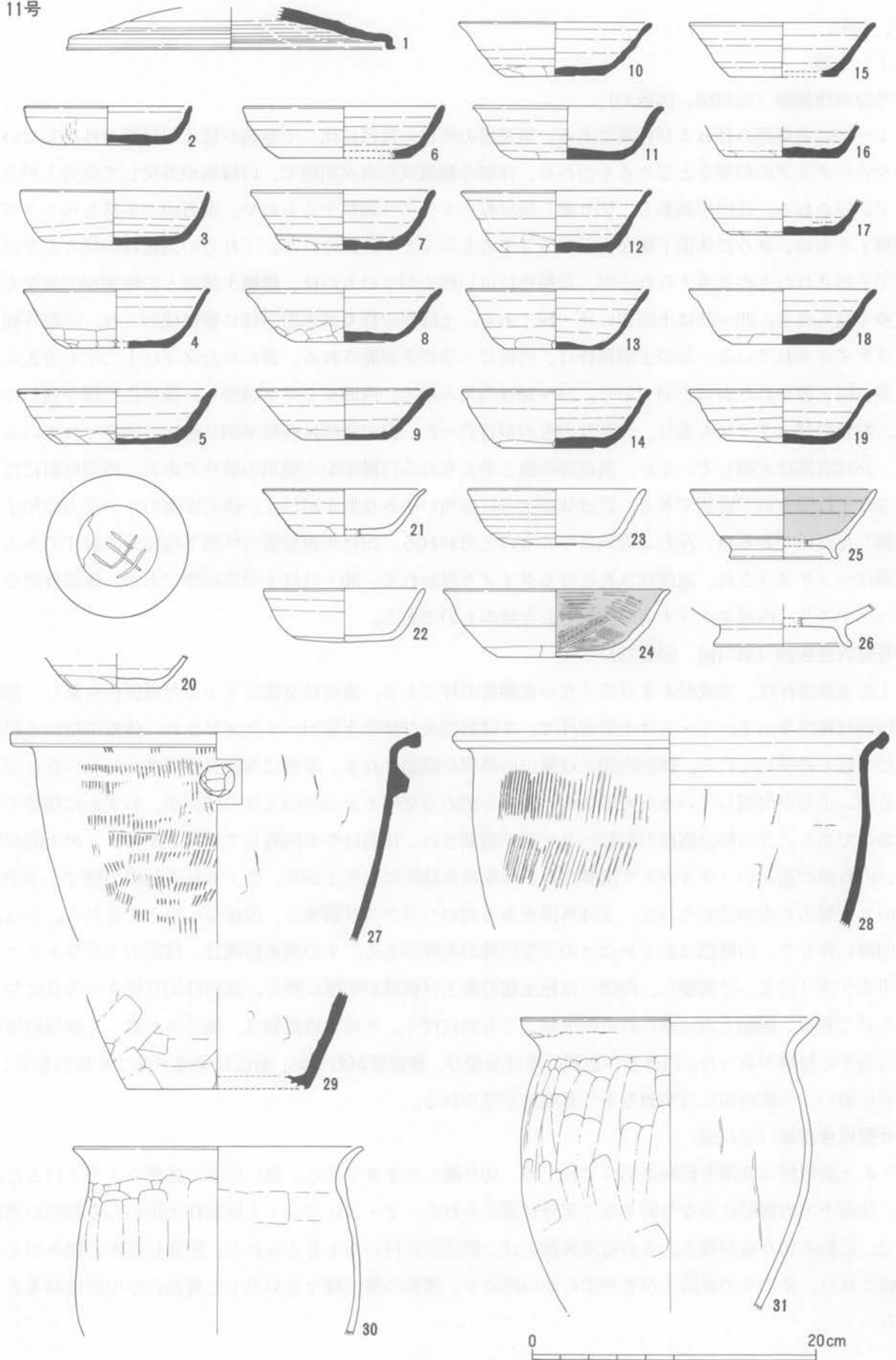
#### 12号竪穴住居跡（第74図、図版35）

1の須恵器杯は、焼成があまり良くない在地産の杯である。表面は全体にくすんだ黒灰色を呈し、器壁の内部は褐色を示す。2・3は土師器杯で、2は底部及び体部下端がヘラケズリされ、体部中位から口縁部にかけて外反している。体部内面には横位の墨書が確認される。墨書は複数文字が書かれていたと思われるが、土器が欠損しているため最後の「井」と読める文字とその前の文字の残画が、わずかに確認できるのみである。3の杯は底部が回転ヘラケズリ調整され、体部はやや内湾して立ち上がる。4の土師器杯は、内外面が細かいヘラミガキで調整され、体部は直線的に立ち上がる。5・6は土師器の甕で、小型のもの大型のものが認められた。5は外面を多方向のヘラケズリ調整し、内面はヘラナデされる。6は比較的薄い作りで、口縁部はわずかにコの字型口縁の名残がある。7の須恵器甑は、体部の上半をタタキ、下半をケズリによって調整し、内面には粘土紐の巻上げ痕跡が明瞭に残る。底部は切り抜きの多孔になるタイプである。胴部上方にみられる把手は、2方向に付く。8の須恵器甕は、焼歪みが激しく器形の復元には若干の無理があった。内外面の色調は黒味を帯び、硬質感があるが、断面は焼成不良で赤褐色を呈し、非常に脆い。体部内面には明瞭なあて具痕跡が見られる。

#### 13号竪穴住居跡（第74図）

1の土師器杯は底部を回転糸切りで仕上げ、切り離しのままである。強い回転で体部をナデしているためか、体部下方の器壁はかなり薄くなる部分が認められた。2・3は同じく土師器杯と思われる器形の底部片で、回転糸切り痕が残る。3の底部外面には、焼成前に付いたと考えられる、断面U字形の窪みが2条確認された。糸切りの後胎土がまだ柔らかい時点で、植物の茎の様なものの上に置かれた可能性が考えられる。

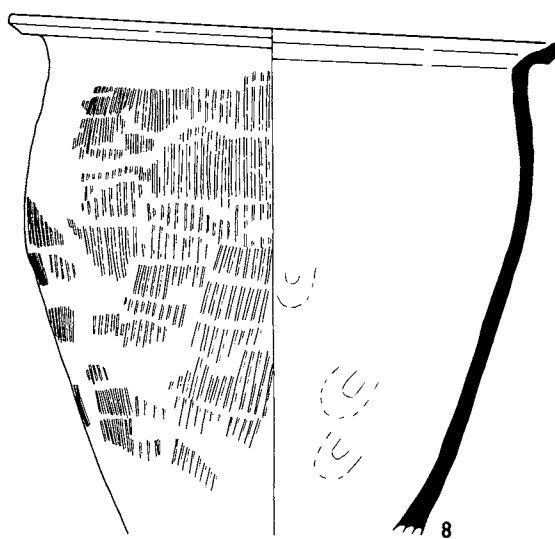
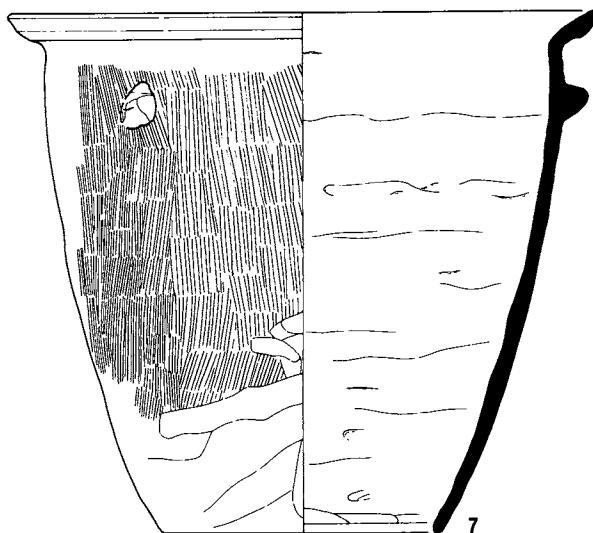
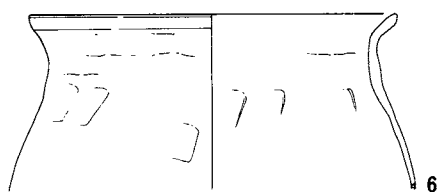
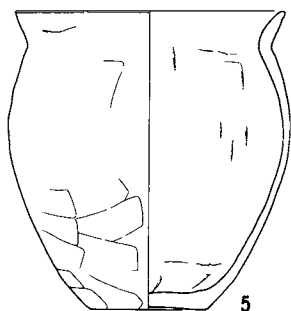
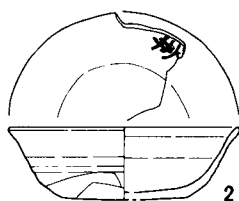
11号



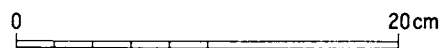
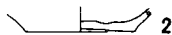
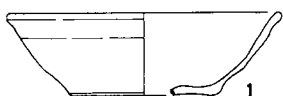
第73图 11号竖穴住居跡出土遺物



12号



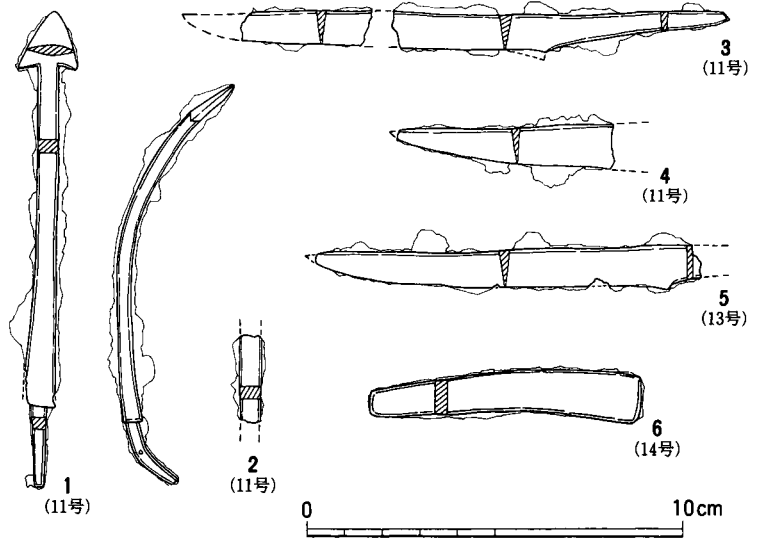
13号



第74图 12・13号竖穴住居跡出土遺物

(2) 鉄製品 (第75図・図版36)

1～4はいずれも11号住居跡から出土した鉄製品である。1は図面右側に示した側面図のように屈曲した状態で検出されたが、平面図は修正して復元実測したものを、合わせて掲載した。2は鏃の茎部と思われる破片である。3～5は刀子である。3は先端と中間を欠損する2片であるが、同一個体とみられ、茎部分は薄く片関のタイプ。4は刃部の先端のみが残存しており、非常に細身で鋭いタイプである。5は13号住居跡から出土したもので、茎部は欠損しているが刃部はほぼ完形で、片関であることが確認できる。

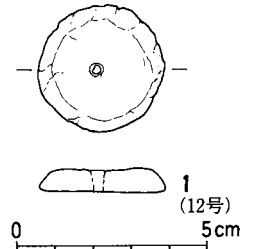


第75図 竪穴住居跡出土鉄製品

6は14号住居跡から出土した不明鉄製品である。

(3) 土製品 (第76図・図版36)

1は12号住居跡から出土した円盤状の土製品である。中心部に小さい孔が貫通する。紡錘車にはやや厚みが足りず、中央の穿孔も小さいため用途不明とした。表面に比べ外縁部はやや雑な作りで、顕著な使用痕跡は認められなかった。



第76図 竪穴住居跡出土土製品

第20表 大道遺跡出土土器観察表（平安時代）

遺構No	棟号No	器種	器形	口径	器高	底径	遺存度	色調	色調(外)	色調(内)	備考	手法の特徴
11号住居	73-1	須恵器	蓋	23	3+		40	2.5GY6/	N4/0	2.5GY6/1		ロクロ成形・天井部回転ヘラケズリ
11号住居	73-2	須恵器	杯	11.8	2.8	8.4	24	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7.5Y5/1	火纏	
11号住居	73-3	須恵器	杯	13.2	3.9	9.7	90	7.5Y5/1	7.5Y5/1	7.5Y5/1		ロクロ成形・底部回転ヘラケズリ
11号住居	73-4	須恵器	杯	12.7	4.2	7	25	10YR6/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1		
11号住居	73-5	須恵器	杯	13.6	3.8	8	20	10R5/8	10R5/8	10YR1.7/1		
11号住居	73-6	須恵器	杯	14.2	3.8	9.2	20	N5/0	N5/0	N5/0		
11号住居	73-7	須恵器	杯	12.8	4.3	7.5	50	10YR6/8	N1.5/0	N1.5/0	一部黒変	
11号住居	73-8	須恵器	杯	13.8	3.8	7	50	7.5YR6/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1		
11号住居	73-9	須恵器	杯	12.4	3	5.9	25	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		
11号住居	73-10	須恵器	杯	13.6	3.9	6.9	65	N	N3/0	7.5Y5/1		
11号住居	73-11	須恵器	杯	13.3	3.3	7.1	40	7.5YR6/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1	一部黒変	ロクロ成形・底部、体部下端ヘラケズリ
11号住居	73-12	須恵器	杯	13.1	4.3	7.7	35	10YR7/6	10YR7/6	10YR7/6		
11号住居	73-13	須恵器	杯	13.1	4.2	6.9	100	5TR5/4	5TR5/4	5TR5/4		
11号住居	73-14	須恵器	杯	13.1	4.1	7.2	90	7.5YR6/6	7.5YR5/6	7.5YR5/6		
11号住居	73-15	須恵器	杯	13	3.9	7.6	25	N6/0	N6/0	N6/0		ロクロ成形・底部ヘラケズリ
11号住居	73-16	須恵器	杯		2.3+	8	30	2.5GY6/1	2.5GY6/1	2.5GY6/1		ロクロ成形・底部、体部下端ヘラケズリ
11号住居	73-17	須恵器	杯		3.7+	7.2	40	N6/0	N6/0	N6/0		
11号住居	73-18	須恵器	杯	13.2	3.9	7.1	40	7.5YR6/6	10YR6/4	10YR6/4		
11号住居	73-19	須恵器	杯	13.1	3.7	7.5	70	5YR5/6	5YR5/6	5YR5/6		
11号住居	73-20	土師器	杯		2.3	6.2	30	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	底内ヘラ書	
11号住居	73-21	土師器	杯	11.5	3.3	6.6	35	5YR6/5	5YR6/5	5YR6/5		
11号住居	73-22	土師器	杯	11.4	3.7	6.9	40	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
11号住居	73-23	土師器	杯	12.2	3.9	6.8	50	2.5YR6/8	2.5YR6/8	2.5YR6/8		
11号住居	73-24	土師器	甕	16	4.7	8.7	40	10YR7/6	10YR7/6	10YR7/6	内面黒色処理	体部外面中段まで回転ヘラケズリ・内面ミガキ
11号住居	73-25	土師器	坏B	13	4.9	7.4	40	7.5YR6/6	5YR6/8	10YR1.7/1	内面黒色処理	ロクロ成形回転ヘラケズリ・内面ナデ
11号住居	73-26	土師器	坏B		2.9+	9.5	30	5YR6/6	10YR1.7/1	10YR1.7/1	黒色?	ロクロ成形
11号住居	73-27	須恵器	甕	28.6	14.5+		20	5YR5/4	N4/0	2.5GY5/1		外面ヘラケズリ後ナデとタタキ目・内面ヘラナデ
11号住居	73-29	須恵器	甕		6.7+	12.5	10	10YR6/6	10YR4/2	10YR5/3		外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
11号住居	73-30	土師器	甕	20.2	13.2+		20	10YR6/4	7.5YR5/4	7.5YR5/4		
11号住居	73-28	須恵器	甕?		13.7+		20	2.5YR6/8	7.5YR5/4	10YR1.7/1		外面ヘラケズリ後ナデとタタキ目・内面ヘラナデ
11号住居	73-31	土師器	甕	21	27.5+		50	5YR6/6	2.5YR5/6	5YR6/6	黒斑あり	外面ヘラケズリ・内面ヘラナデ
12号住居	74-1	須恵器	杯	13.4	4	7.3	95	5YR5/4	N3/0	N3/0		ロクロ成形・底部、体部下端ヘラケズリ
12号住居	74-2	土師器	杯	11.8	3.8	6.4	30	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4		
12号住居	74-3	土師器	杯	12.5	3.6	6.7	25	7.5YR7/6	5YR6/6	5YR6/6		
12号住居	74-4	土師器	杯	18.4	4	9.5	25	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		ロクロ成形後ミガキ・底部、体部下端ヘラケズリ
12号住居	74-5	土師器	甕	13.8	15.6	6	60	5YR5/4	5YR5/4	5YR5/4		外面ヘラケズリ後ナデ・内面ヘラナデ
12号住居	74-6	土師器	甕	18.9	9.2+		60	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6		
12号住居	74-7	須恵器	甕	30.7	27.5	14.4	70	7.5YR5/2	7.5YR5/2	7.5YR5/2		外面タタキ目、下半部ヘラケズリ・内面ナデ
12号住居	74-8	須恵器	甕?	28.5	26.4+		50	7.5YR3/1	7.5YR3/1	7.5YR3/1		外面タタキ目・内面不明瞭だが指頭圧痕あり
13号住居	74-1	土師器	杯	14	4.4	7.3	30	5YR5/6	2.5YR6/8	5YR5/6		ロクロ成形・底部回転糸切、糸切りはなし
13号住居	74-2	土師器	杯		1.2+	5.6	15	5YR6/6	5YR5/6	5YR6/6		のまま
13号住居	74-3	土師器	杯		1+	5.6	15	5YR5/4	5YR5/4	5YR5/4		

第21表 大道遺跡出土土製品・鉄製品観察表（平安時代）

挿図No	器種	器形	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大孔径 (mm)	最小孔径 (mm)	色調	備考	遺構No
76-1	土製品	円盤形		3.3	0.6	6.3	5YR6/6	中央に孔	12号住居跡
75-1	鉄製品	鉄鏃	12.5	1.5	0.4	17.65			11号住居跡
75-2	鉄製品	鉄鏃	2.3+	0.6	0.3	2.36			11号住居跡
75-3	鉄製品	刀子	12.8+	1.0	0.4	11.25			11号住居跡
75-4	鉄製品	刀子	5.7+	1.2	0.3	5.1			11号住居跡
75-5	鉄製品	刀子	10.1+	1.0	0.35	10.61			13号住居跡
75-6	鉄製品	刀子?	7.3	1.3	0.35	14.14			14号住居跡

第22表 大道遺跡出土遺物総破片数

遺構No	種類	時期	土 師 器											須 恵 器								陶磁器	その他			合計			
			杯	蓋	高杯	鉢	手捏	甕				甔	壺	不明	杯	蓋	甕	甔	壺	高杯	不明		土製品	石製品	鉄製品				
								在地	常総	武蔵	小型																台付		
1	住居	古後	23		1			46																	3			74	
2	住居	古後	37		18			96			20																		171
3	住居	古後	34			1		49				24			3		4									1		116	
4	住居	古後	91		1			260							2		3				18		2					377	
5	住居	古後	43			15		91							5		3				2					1	160		
6	住居	古後	91			1		202			4						6						2	2	2	1	309		
7	住居	古後	79					205			38				7		10				5		4	3			351		
8	住居	古後	214	1	1			409				3			7		4				2		1			1	643		
9	住居	古後	30					4																				34	
10	住居	古後	49					10				3																62	
11	住居	奈良	317		3			1999						381	10	103	13			1	2					3	2832		
12	住居	奈良	55			1		287			31	151		35	1	66	2	1			2		5				637		
13	住居	平安	38					126						36	4	28										1	233		
14	住居	平安	2					5				1		3							5						16		
1	土坑	古後	9					32										5										46	
遺構外			329		10	1		1419				2	2	112	3	152		14	2		85		3	1			2135		
合計			1441	1	34	19	0	5240	0	0	93	0	184	0	2	591	19	379	15	20	2	1	121	20	7	7	8196		

## 第5章 まとめ

今回の調査で検出した遺構は、笹目沢・種ヶ谷津・大道遺跡の3遺跡を合わせて、古墳時代の竪穴住居跡29軒、同時期の土坑2基を数えた。さらに、種ヶ谷津遺跡で奈良時代後半期の土器集積遺構を、大道遺跡では、平安時代の竪穴住居跡を4軒調査した。しかし、今回の調査は、それぞれの遺跡のわずかな部分を調査したに過ぎない。おそらく各遺跡では継続的に集落が営まれていたものと考えられる。

### (1) 古墳時代

古墳時代の住居跡は、中期後半の1軒を除いて、古墳時代後期、6世紀から7世紀前半に位置づけられる住居跡と考えられる。この時期の住居跡は、赤井谷津をはさんだ北側の榎作遺跡<sup>(1)</sup>からも多数検出されており、集落の中心的な時期にあたると思われる。生産の場としての赤井谷津を中心として、周辺の集落が展開していたことが推測できる。

調査された住居跡の中で、最も古い時期のものと考えられる遺構は、種ヶ谷津遺跡第3地点で検出された、104号住居跡である。この1軒のみが、カマドを持たない時期の住居跡と考えられ、和泉式に比定される土器がまとまって出土している。そのほかの住居跡は、いわゆる鬼高期のもので、遺跡によって若干の違いはあるものの、住居跡の主軸と出土土器から見て2期～3期に区分される。

竪穴住居跡は、東・南東壁にカマドが構築されるものと、北壁にカマドが構築されるものがある。住居跡の変遷をたどると、始めに登場するのは、南東カマドの住居で、次いで東カマドを持つもの、さらに北カマドを持つものへと続くようである。しかし、同じ東カマドの6世紀代の住居の中でも、大道遺跡で検出された住居跡は、ほかの遺跡のものより概して古手の土器様相を示している。笹目沢遺跡の3号住居跡は、カマドの対面に、張り出しの貯蔵穴が設けられた住居である。このタイプの住居跡は古墳時代の後期の限定された一時期に登場する特徴的な住居跡で、当該地域では6世紀末から7世紀初頭に認められる。

今回調査した古墳時代の住居跡からは、多くの土器が出土している。調査した各遺跡の総破片数を見ると、95%以上が土師器で、須恵器は5%に満たなかった(第10・13・22表)。この比率は須恵器がかなり少ないと思われるが、土師器に対し須恵器の出土量が少ない状況は千葉県内の6世紀代の集落で、ほぼ一般的な傾向と考えられる。

県内では、古墳時代に位置づけられる須恵器の窯跡<sup>(2)</sup>は、現在のところ1基しか確認されておらず、須恵器は主に東海地域を始めとする、他地域からの搬入品とみられている。これらの須恵器は、古くから古墳の副葬品として使用されることが多く、通常集落に食器として一定量搬入されるようになるのは、静岡県西部の湖西窯で須恵器生産が急増する、7世紀初頭以降のことと考えられる。これ以前の時期に住居から出土する須恵器の多くは、杯H<sup>(3)</sup>が主流であるが、身と蓋がセットで検出される例は古墳出土のものに比較して少ない。蓋と身という本来のセットが崩れた製品が、集落にもたらされ、それぞれが単独で杯として機能していたようである。このことは、この時期に作られる土師器の杯が、須恵器の杯身のみならず、蓋を模倣した形状を表すものがあることから明らかである。

## (2) 奈良時代

奈良時代の遺構・遺物が検出されたのは、種ヶ谷津遺跡第2地点のSX01～SX03とその周辺からである。通常の集落遺跡では見られないような、多量の土器群が認められた。これらの遺物は、おおよそ8世紀の後半に位置するものと考えている。しかし、この土器群に伴う時期の住居跡は検出されておらず、榎作遺跡でも8世紀後半代の住居跡は数件検出されているのみである。そのほかに、近隣に位置する同時期を含む集落としては、高沢遺跡や有吉遺跡などが挙げられるが、いずれも同時期の住居跡の検出数や出土遺物の量は多いとはいえない<sup>(4)</sup>。

遺物の集積が認められた地点は、北側の斜面が谷津に向かって最後の段を形成する、比較的傾斜の少ない所で、遺物も緩やかな傾斜に合わせ、南西側のSX周辺から北東方向に散乱している。第2地点西側に隣接する地域は、昭和58年度に調査され、小規模な土器集積が2か所確認されている。報告によると、土器集積地点とその周辺からは、三彩小壺、鉄製儀鏡と共に土器がまとまって出土している。さらに、出土した土器は供膳具が主体で、甑・甕などの煮炊具の出土が極端に少ないことが指摘されている。これに対し、今回の調査では三彩や儀鏡、土器は検出されたが、その様相は若干変わっている。前回の調査で、土師器杯類の60%近くを占めたロクロ成形の杯は、ほとんど認められず、今回は外面をケズリ調整するものや、浅いタイプのもが多かった。また、煮炊具では、甑がほとんど見られなかったものの、甕の出土は非常に多いことが認められた。同時に、出土した甕には、煮炊きに使用された痕跡がほとんどないことなどが特徴的である。

出土土器の内、土師器の杯類と須恵器杯の中で主体をなす無高台の杯を、先に示した分類別に口径順に並べたものが第77～79図である。この図からもわかるように、出土した土器群は幾つかの非常にまとまった特徴を示している。各遺構から出土した土器は、最もバリエーションの豊富な、SX01の分布域の中に網羅されており、器形の構成に若干の違いがあるもののほぼ同じ様相を示すことが理解できる。遺物の出土状況を見ても、それぞれが同一層中に混在しており、こうした出土状況を見る限り、あまり時期差のない同時期の土器群ととらえることが可能であろう。

須恵器は、口径が12.5cm以下でやや小型ものと、15cm以上のやや大型なものが若干見られるほかは、口径13cm～14.5cmに納まる土器群を形成している。出土した須恵器の杯の多くは、胎土や形態から常陸産と認識できる<sup>(5)</sup>。常陸産以外のもものでは、東海産と思われる高台付の杯が挙げられる。この杯は灰白色の胎土で硬い焼き上がりを呈し、外面には緑色の自然釉が付着している。同様な特徴を持つ蓋も確認されており、杯とセットでもたらされたものであろう。このほかには、無高台の杯の中に市原市永田窯産と認識できる須恵器が若干出土している。須恵器杯には、底部外面に「千葉□□」と読める墨書土器が1点見られるが、この杯は、底部がヘラ切り後中心部分を残して回転ヘラケズリされている。

須恵器の杯類は、器形上の特徴はかなり類似しているが、底部の調整方法には幾つか種類があることが確認できた。分類を行った結果それぞれの割合は第23表に示したとおりである。同一の産地と認識できる遺物は、器形や、胎土、技法ともに、共通した特徴を示している。そのなかで、I B-2タイプで、口径13cm前後に位置した4点は、ほかの杯に比べて底部が厚く、器形の特徴を異にするが、胎土・焼成から常陸産と判断できた。同じ常陸産の須恵器の中にも、幾つかの窯のものが含まれていることも当然考えられる。常陸産の須恵器は、県内のほかの遺跡からも少なからず出土しており、今後は比較検討を含め、常陸の国の中のどの地域からもたらされたものか、さらなる検討を要する。

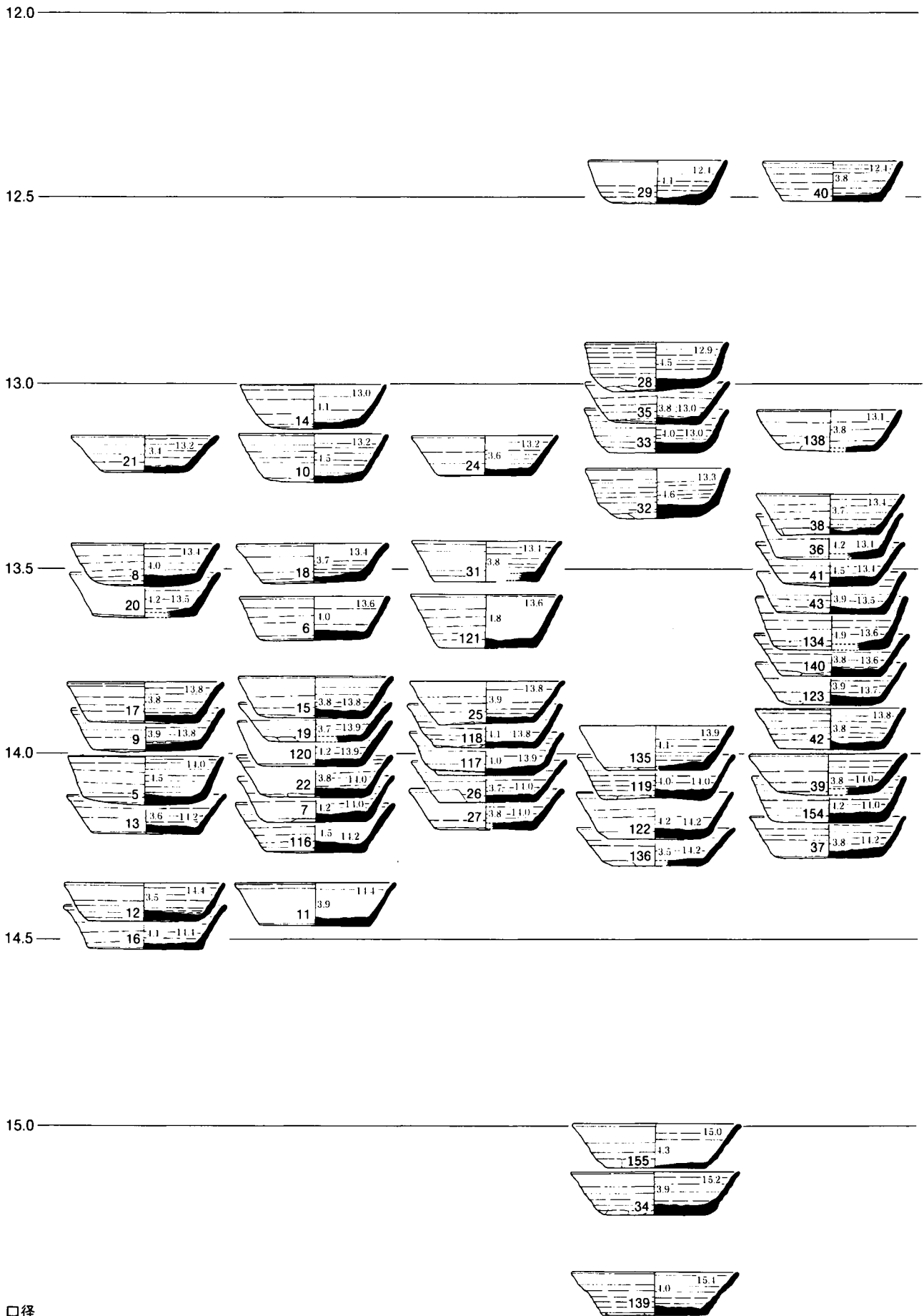
IA-a1

IA-a2

IB-a1

IB-a2

IB-b



第77図 種ヶ谷津遺跡奈良時代杯類分類図 須恵器





ID

IE

IF

IG IH

IJ II A



\* 図中の数字は挿図Noおよび口径、器高値を表す

第79図 種ヶ谷津遺跡奈良時代杯類分類図 土師器(2)

土師器は、先にも述べたように10種類に分類される。これらの土師器杯類は、A～Gがまとまった特徴を示し、複数点出土しているのに対し、そのほかの杯は少量ずつ確認されたのみである。

A類の杯は、赤彩や磨きが施されるといった点で、一見古くみられがちであるが、製作技法において、古墳時代の杯とは異なる系統と考えられる。器高が浅く、中にはほとんど皿と言っても良いような器形も認められる。県内ではこうした皿型化した杯類が出現する契機は、いまのところ明確にされておらず、祖型をどこに求めるかは今後の課題である。

B類の杯は、武蔵型の甕とよく似た胎土で、武蔵国府周辺地域で出土例が確認されている。種ヶ谷津遺跡には、武蔵型の甕も多く搬入されており、甕と共に杯が搬入された可能性を考えると、周辺地域での類例が今後増加するものと思われる。

C類の杯は、いわゆる上総型の杯と称される一群である。このようにまとめて、一括出土する例はまれで、同類の土器の中にも若干のタイプの違いを確認することができた。

E類の杯は、ほかの土器に比べ淡白褐色の良質な胎土が特徴的なグループで、赤彩する赤い土器に対して、見た目の白さが意識された可能性も考えられる。当該地域では余り見かけないタイプのため、B・Dのように他地域からの搬入品かもしれない。今後の課題として、類例を求めたい。

今回出土した杯の多くは、体部外面の最終調整をヘラケズリによって行う土器である。中でもA～Gにみられるヘラケズリは、先行する古墳時代後期の土器<sup>(6)</sup>に観察される外面ヘラケズリとは、区別して考える必要がある。古墳時代後期の杯類に用いられる体部外面のヘラケズリは、主に器形を成形する段階に関わる作業の一つと考えられ、多くの土器はその後に、内面から外面口縁部に至るナデが施されている。これに対してA～Gの土器に見られるヘラケズリは、最終的な器面調整を主目的とするケズリである。

土師器の鉢類は、胎土や成形など全般的に粗雑な作りが目立ち、同時期の集落遺跡では出土例が少ない器形である。また、土師器の台付甕も上総地域では、出土例が9世紀に至るまで確認されているが、集落遺跡での出土例は多いとは言えない。今回出土した中には体部が浅い、小型の器形が認められ、台付甕と呼ぶことを躊躇する器形が多かった。

さらに、今回4つのタイプが認められた土師器甕のそれぞれの特長について、若干の補足をしたい。この地域の在地の甕は古墳時代後期以降、球胴から長胴化が進み、外面調整は、多方向のケズリから縦方向のケズリに移行する傾向にあると考えられている。そのように見ると在地産の甕の中でも、IA類はIBに比べ、より後出的と位置づけられる可能性もある。しかし、今回出土した甕は、IB類にもタテヘラケズリが目立ち、長胴化の傾向も窺えるため、時間差と考えるよりも、地域差と考えた方が良いと思われる。

武蔵型甕の体部外面は精巧なケズリによって調整される。タテ・ヨコ・ナナメ方向に施される細かいケズリは、非常に薄い器壁を作り出している。在地の甕に比べて底部はかなり小さく、ケズリによって作りだされ、成形時の底部の状態は留めない。武蔵型に見る外面のヘラケズリも、口縁部を完全に作り出した後に行われる最終調整である。

IA-a	IA-a	IB-a	IB-a	IB-b	IIA	IIB	III	杯蓋	壺蓋	甕	総計
15	10	9	13	11	1	1	1	2	1	2	66



■ IA-a1 ■ IA-a2 □ IB-a1 □ IB-a2 ■ IB-b ■ IIA ■ IIB □ III ■ 杯蓋 ■ 壺蓋 □ 甕

第23表 須恵器種類別分類表

IA	IB	IC	ID	IE	IF	IG	IH	IJ	IIA	高杯	皿A	皿B	総計
19	6	27	14	9	5	4	3	3	4	2	1	2	99



■ IA ■ IB □ IC □ ID ■ IE ■ IF ■ IG ■ IH ■ IJ ■ IIA □ 高杯 ■ 皿A ■ 皿B

第24表 土師器杯類分類表

常総型甕は、ある程度口縁部の乾燥が進んだ段階で、土器を逆さにして、底部から体部中位までを縦方向にミガキ調整している。ミガキは手の届く範囲で支点を変えながら回転させている様子が窺え、ミガキの上端が連続してループ状になっているものもある。体部最大径の、やや上方にあたる肩部に、横方向または、斜め方向の連続した擦痕が見られ、この擦痕は場所によっては凹圧痕に近い状態で確認される。従来より、常総型甕に特徴的な痕跡と認識されながらも、この意味について、積極的に言及された例はない。今回それぞれに残る痕跡を観察した結果、土器を一方向に回転させて付いたことが確認できた。体部下半に磨きを施す際に、土器は逆位に固定されるが、その際に完全に乾燥していない口縁部を保護する目的で、なんらかの円筒状のものに伏せ置かれ、磨く作業に合わせて回転させたと思われる。この痕跡が擦痕のように残ったのではないかと考えられる<sup>(7)</sup>。

さらに、今回の調査では、8個体に上る二彩・三彩の小壺が検出されており、前回調査された隣接地区から出土している2点を合わせると都合10点の多彩釉陶器が、わずか50m四方の範囲から検出されていることになる。県内で、多彩釉陶器が出土した遺跡は、現在までに45例ほど確認されているが、1遺跡でこれほどの出土を見た遺跡はない。

出土した多彩釉陶器は、すべて小壺の破片で、蓋2点が完形で見つかったほかは、すべて小片である。このため釉薬が剥落している部分も多く、釉の色調が一色しか確認できないものが多かった。ここでは総称して多彩釉陶器としているが、第48図2の二彩の蓋を始めとして、これ以外にも二彩のものが含まれる可能性がある。胎土は、肉眼で見ても、灰黄白色に近いものとやや明るい淡黄白色を示すものが確認でき、検出した4点の高台部分の形態や調整にも差異が認められ、生産地あるいは工人の差を示すものと思われる。

多彩釉陶器の生産は、大和地域を始めとする畿内の数か所で推定されており、近年では、平安京の北郊幡枝窯跡で二彩陶器を生産した窯跡が見つかり、生産の下限は平安時代初頭にまで下ることも確認されている<sup>(8)</sup>。また時代が新しくなるに従って、多彩釉のものが単彩に移行していく傾向も認められる。多彩釉陶器の小壺は、地方では主に集落や、祭祀遺跡から出土することが指摘され、多彩釉陶器の生産の中でも、比較的新しい段階まで生産されていた器形と考えられている。今回出土した小壺は、8世紀後半以降のものと考えられる。

さらに、出土した2点の小壺蓋に確認された焼き台と思われる痕跡は、多彩釉陶器の製作に関わる問題として、今後更なる検討が必要である。こうした焼き台の可能性が考えられる資料として、前述の栗栖野21号窯から、直径1.7cmほどの鼓胴形の土製品が見つまっている。

土器以外の遺物では、銅製・鉄製の儀鏡や、銅製の垂飾品・鈴などが確認されている。なかでも佐波理製の垂飾品は、全国的にみてもわずかししか報告されていない<sup>(9)</sup>。石川県寺家遺跡や平城京跡などの出土例では、いずれも儀鏡や鈴、三彩などが共伴して認められている。これらはいずれも祭祀遺跡から出土し、祭祀に関わる遺物とされている点が興味深い。

今回調査した種ヶ谷津遺跡からは、祭祀に関係すると考えられる遺物が出土しているものの、祭祀の状況を端的に示すものは確認できなかった。

しかし、これまで見てきた土器類全体の特徴として以下のことが確認できる。

1. 土器は揃った特徴を持つ幾つかの群にわけられ、それぞれが一定量出土していること
2. これらの群は在地以外の製品が多く、様々な地域からまとまった単位で土器が供給されているとみられること

3. 一般の集落では出土例の少ない器形がまとまって見られること
4. 甕が多く出土した一方で、甗がほとんど見られなかったこと
5. 多量に検出された甕類にはほとんど使用痕跡が認められなかったこと

こうした状況は、千葉市域の集落で見られる、一般的な出土土器の様相とは明らかに異質である。また、このような状況が窺えることから、土器が通常の集落での使用形態とは異なる使われ方をし、短期間に度重なる一括廃棄が繰り返された可能性が高い。

それぞれを総合的に考えれば、今回検出した土器集積遺構は何らかの祭祀行為に伴って使用された遺物が、一定期間廃棄し続けられた結果、形成されたものと判断できる。

最後に包含層及び土器集積の時代の限界を示しておきたい。土器集積遺構周辺から検出された、一番新しい時期の遺物としては、灰釉陶器が挙げられる。今回検出された1点は、平安時代前期のものと考えられ、ほかの土器群とは時代の隔たりがある。しかし、本来この遺物に伴うべき時代の遺物は検出されていない。昭和58年の調査では、今回に比べると若干新しい様相の土器群が報告されているが、それでもこの灰釉陶器の年代まではとうてい下らない。このような在地のものではない遺物が、なぜこの場所にもたらされたのであろうか。何度も言うように、今まで調査された種ヶ谷津遺跡の範囲は、遺跡全体からみれば北端のほんの一部に過ぎない。しかし、こうした遺物の出土は、未調査区域に奈良時代から平安時代の集落が広がるか、調査区の周辺に、さらに時代の下った土器集積地点がある可能性を示唆している。

### (3) 平安時代

平安時代に属する遺構は、大道遺跡で検出された4軒の住居跡のみである。しかし、大道遺跡は、昭和56年～昭和57年に遺跡範囲の南側部分で調査を実施しており、奈良時代以降の住居跡が36軒確認され、土器や帯金具が出土している。この成果からも、南上に広がる台地上に同時期の集落が広がることが予測でき、今回の調査で検出された住居跡は集落の北辺部分に位置することが明らかとなった。

9世紀前半から中頃と考えられる2軒の住居跡からは、千葉市域産の須恵器が多く出土しており、この時期に在地産の須恵器生産が比較的安定し、集落に供給されていることが窺える<sup>(10)</sup>。在地産の須恵器の特色の一つでもあるが、青灰色・灰白色を呈し、容易に須恵器と判断できるものと、轆轤土師器との峻別が難しいものも多かった。残る2軒の住居跡のうち1軒は、出土した土器片から平安時代前半と判断されるが、図示できる遺物もなく、明確な時期を明らかにすることはできなかった。もう1軒の住居跡からは、小片ではあるが、土師器の杯が出土している。この杯の底部にみられる回転糸切りは、切り離しのままで終わっており、さらに成形の粗雑さから10世紀以降のものと考えられる。この住居跡が今回調査された遺構中で、最も新しい時期の住居である。

### (4) おわりに

今回の調査では、古墳時代や平安時代の集落の一端を垣間見たに過ぎず、それぞれの遺跡の性格や集落の実態を明らかにすることはできなかった。しかし周辺の遺跡からも、同様な時期の住居跡が多数検出されており、赤井谷津を生産の場として、古墳時代に形成されはじめた集落が、平安時代まで続いてきたことも想像に難くない。その後も近隣には生実城が造られるなど、集落の状況や立地は次第に変化しながら展開して行ったと考えられる。

調査した遺跡の中で、とりわけ笹目沢遺跡は、周知の遺跡範囲から外れた台地の一角に位置していたにもかかわらず、大きな成果を得ることができた。これで周辺遺跡を含め、赤井谷津を囲む台地上のほとんどで部分的ではあるが、調査を実施したことになる。

また、今回明らかになった種ヶ谷津遺跡の多量な土器群は、祭祀に伴う可能性が強い特異な例ではあるが、土器の組成は同時期の豊富な土器様相を表す良好な資料と考えられる。

しかし、一方でそれを使用し、廃棄した人々の生活痕跡は明確にされておらず、土器集積遺構の形成に、なぜあの場所が選ばれたのかは、今後更なる検討を要する。南側の台地上に広がると推測される遺跡の全容を明らかにすることが今後の課題である。

注1 榎作遺跡は、種ヶ谷津遺跡の北側の台地に広範囲に広がる遺跡で、昭和60～63年の調査では古墳時代後期の大集落の一端が明らかになった。

2 市原市に所在する大和田窯が挙げられる。操業は7世紀前半と言われているが、生産の実態は明らかにされていない。

3 土器の名称については奈良国立文化財研究所の用例に準じた。ここで言う須恵器杯Hは受け部を持つ杯を示す。

4 榎作遺跡編年のⅧ～Ⅸ期にあたる時期と考えられるが、この時期に属する住居跡は、5軒しか報告されていない。

5 千葉県文化財センター1993年『研究紀要14号』の中で郷堀・小林両氏は、常陸産須恵器を窯は特定せずにⅠ～Ⅳに分類し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳは千葉県内の集落で少なからず見られるとしている。

6 ここで言う古墳時代後期の土器とはいわゆる鬼高式土器をさす。飛鳥時代の土器は、県内では同様に古墳時代の土器として括られることが多いが、この場合は含んでいない。

7 現時点では、何の上に伏せ置かれたかは明確な答えを持たない。しかし、静岡県浜北地域等の東海地域では、未乾燥甕の底部を保護する目的で、胴部最大径付近に篋製の円筒状の「たが」のようなものをはめた例も確認されており、今後更なる観察が必要であろう。

8 京都市の洛北、幡枝にある栗栖野21号窯から、二彩の多口瓶が出土している。現時点では多彩釉陶器が窯から出土した唯一の例である。財団法人京都市埋蔵文化財研究所編 1993『栗栖野瓦窯跡発掘調査概要』京都文化観光局

9 未報告だが、長岡京域から同様の佐波理製垂飾品が出土している。形態は種ヶ谷津遺跡出土のものとは比べ、若干上辺が短く三角形に近い台形を呈し、内面に明瞭な轆轤水挽き痕跡が観察されている。また、この調査区からは垂飾品のほかに、銅製の鈴も出土している。

10 主に千葉市緑区南河原坂窯や若葉区中原窯の製品と考えられる。

## 参考文献

- 金子 裕之 1985「平城京と祭場」『国立歴史民俗博物館研究報告第7集』国立歴史民俗博物館
- 金子 裕之ほか 1984『平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告書』奈良国立文化財研究所
- 白井久美子ほか 1985『千葉市種ヶ谷津遺跡－県道生実本納線道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』財団法人千葉県文化財センター
- 小嶋 芳孝ほか 1988『寺家遺跡発掘調査報告書Ⅱ－能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』石川県立埋蔵文化財センター
- 相京 邦彦ほか 1989『千葉市種ヶ谷津遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』財団法人千葉県文化財センター
- 関口 達彦ほか 1990『千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－』財団法人千葉県文化財センター
- 小林 清隆 1992『千葉市榎作遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』財団法人千葉県文化財センター
- 玉田 芳英ほか 1993『西隆寺跡発掘調査報告』奈良国立文化財研究所
- 立和名明美 1994「千葉市種ヶ谷津遺跡－奈良時代の特殊遺物について－」『研究連絡誌』第41号 財団法人千葉県文化財センター

# 写 真 图 版





大道遺跡

種分谷津遺跡

笹目沢遺跡



1号竪穴住居跡



2号竪穴住居跡



3号竪穴住居跡





4号竖穴住居跡



5号竖穴住居跡



6号竖穴住居跡

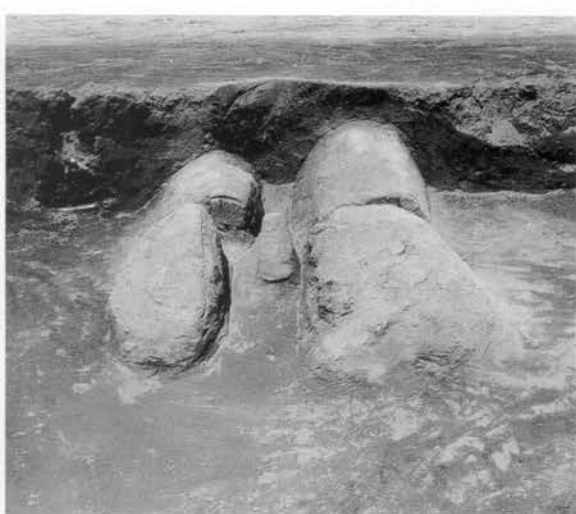




7号竖穴住居跡



8号竖穴住居跡

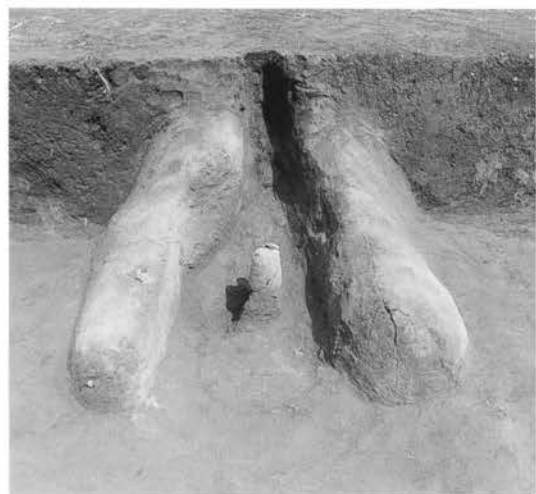
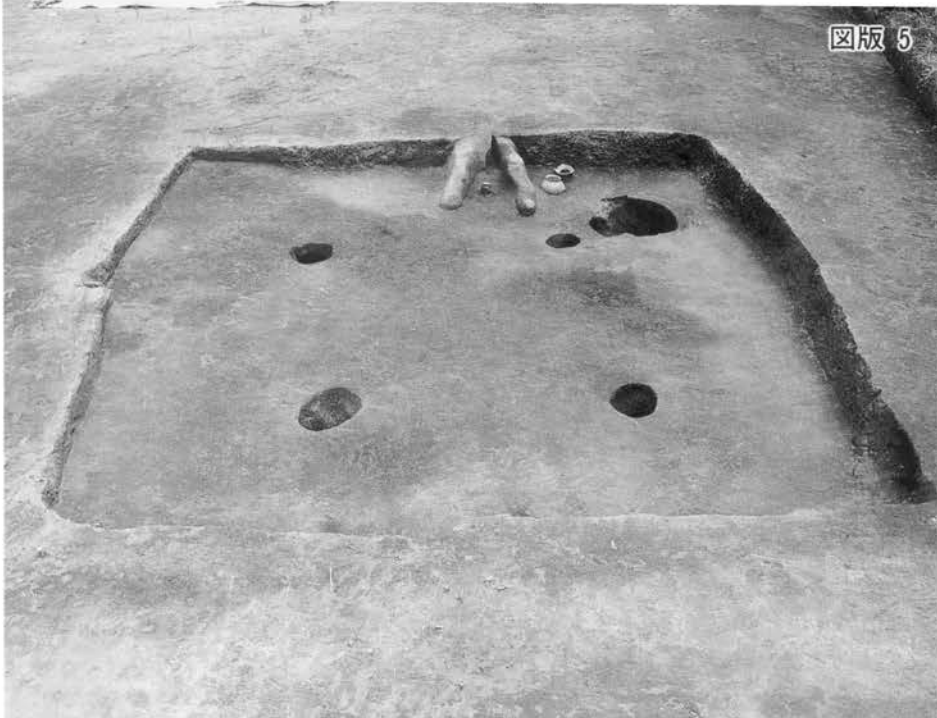


9号・10号竖穴住居跡





11号竪穴住居跡



12号カマド



12号・13号竪穴住居跡



14号竪穴住居跡





1-4



1-5



1-9



1-1



1-6



1-3



1-12



1-13



2-1



3-11



3-18



3-19



3-3



3-14



3-20



3-4



3-22



4-5



4-2



4-6



5-2



5-3



6-26



6-1



6-7



6-2



6-9



6-18



6-5



6-10



6-6



6-11



6-20



6-13



6-16



6-24



6-17



6-25



7-4



7-8



7-14



7-5



7-11



7-23



7-6



7-13



7-17



7-21



8-11



8-1



8-13



8-12



8-3



SK1-3



8-7



SK1-2



SK1-4





9-3



10-1



9-11



9-5



9-10



11-2



11-3



11-6



12-3



12-5



12-9



12-1



13-1



14-3



14-1



14-2



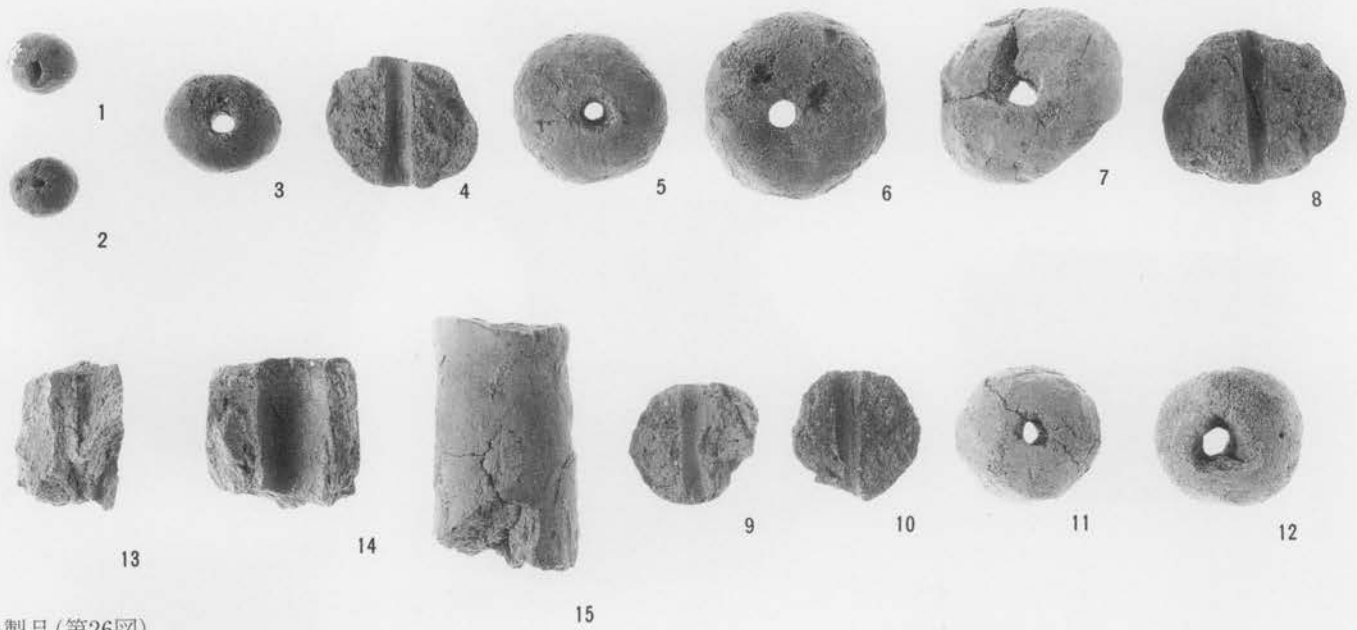
14-7



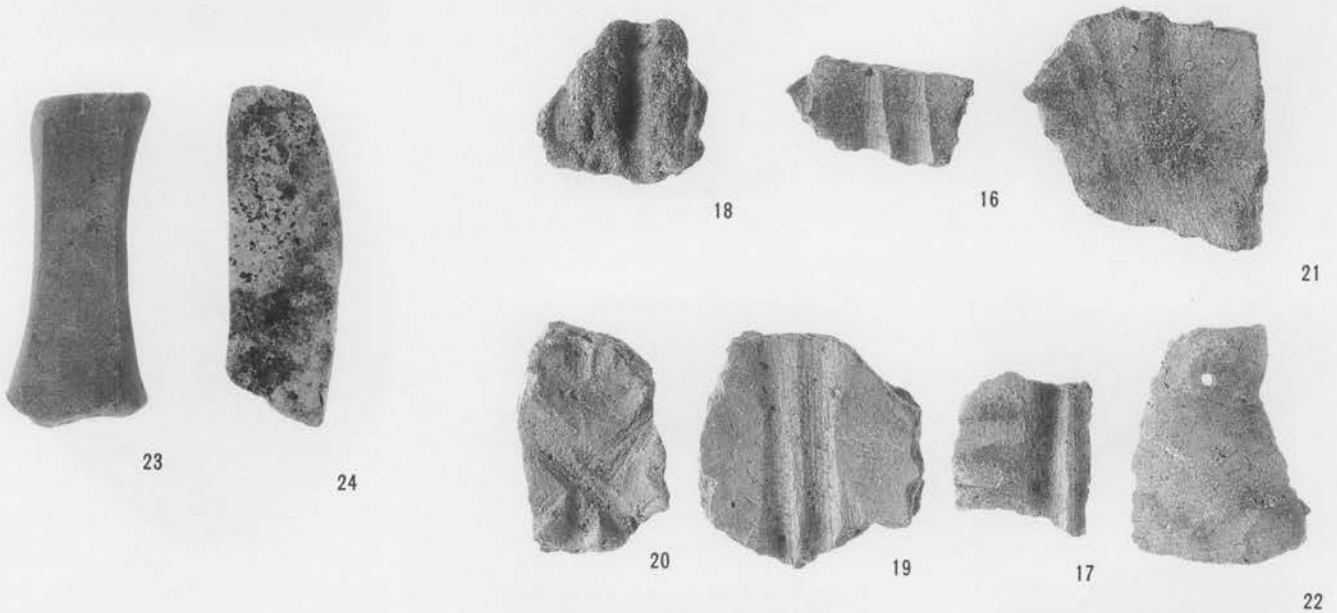
14-10



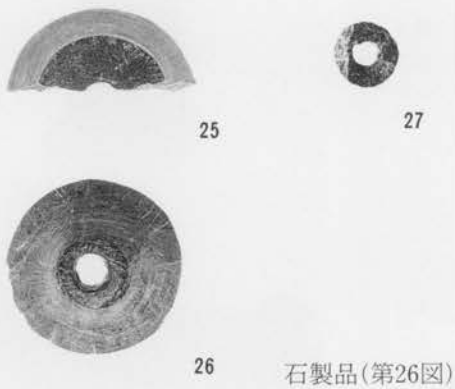
14-8



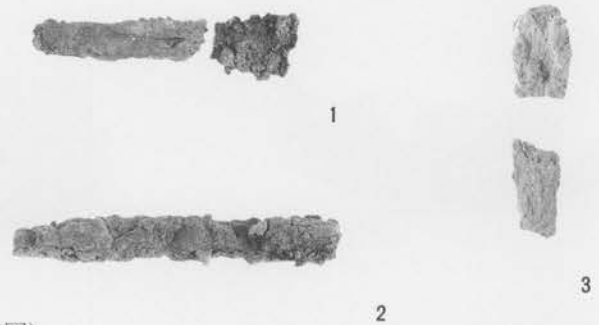
土製品(第26図)



土・石製品(第26図)



石製品(第26図)



鉄製品(第25図)





調査区遠景（西から）



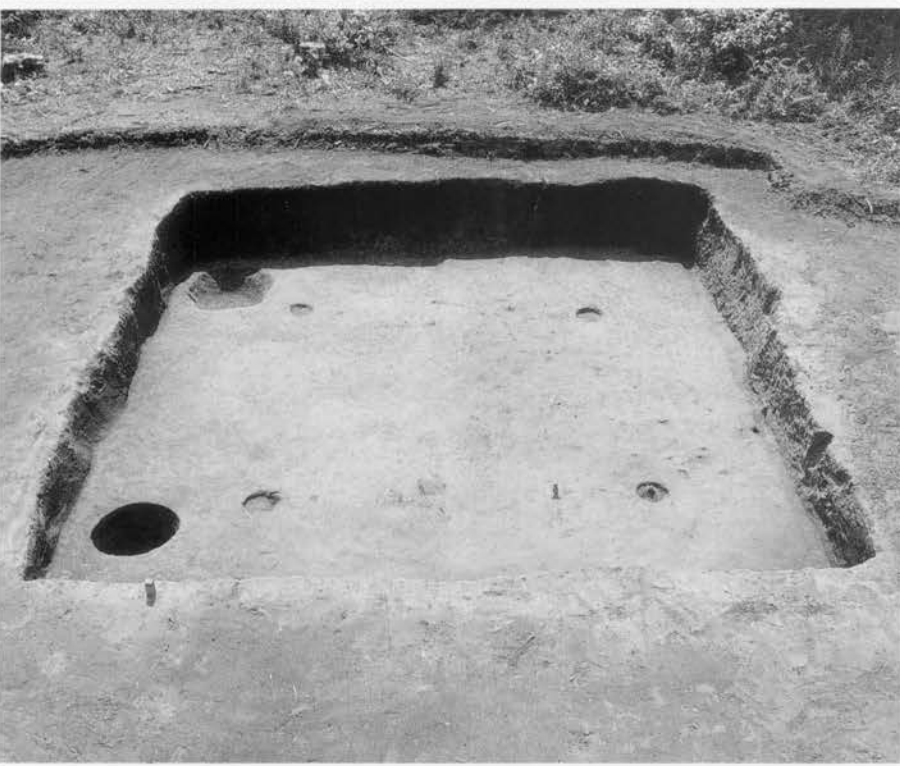
101号竪穴住居跡



102号竪穴住居跡



103号竖穴住居跡



104号竖穴住居跡

105号竖穴住居跡







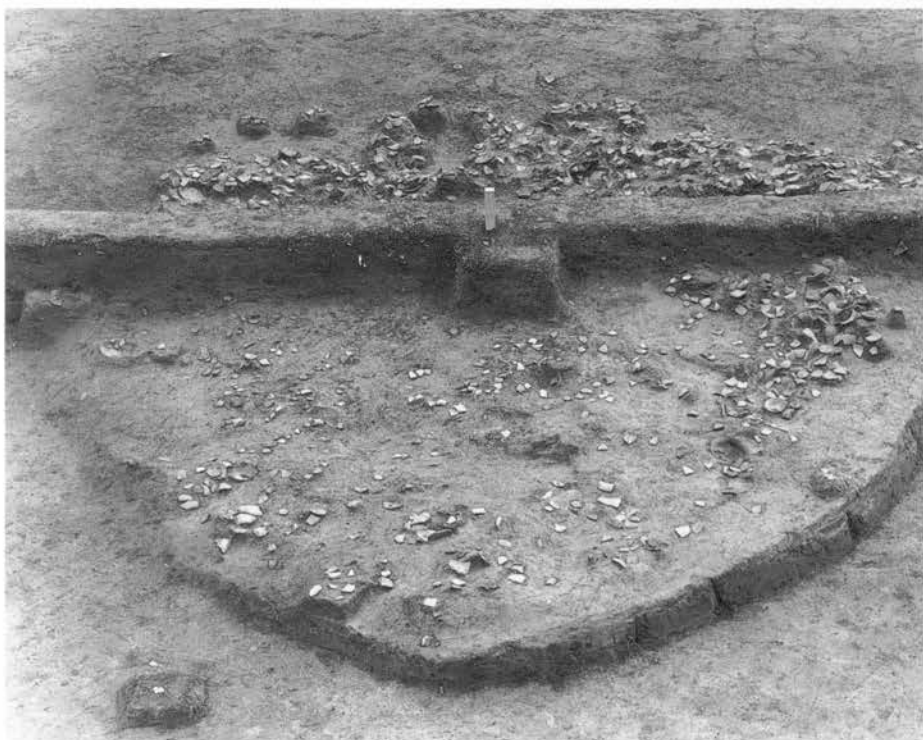
10Q-32



調査区遠景 (西から)



10Q-32



S X01 (南から)



10Q-33



S X01断面 (北から)



10R-02

S X01 (南から)



10R-02

S X01 (東から)



10R-03

ピット群





10R-12



S X02 (南西から)



10R-12



S X02 (北から)



10R-13



S X03 (北西から)



101-3



101-2



101-4



101-6



101-8



101-7



101-9



101-10



101-11



101-12



102-2



103-2



103-3



103-1



104-6



104-3



104-5



104-7



104-10



104-13



104-9



104-11



104-8



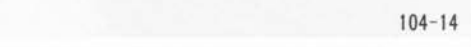
104-12



105-1



105-2



104-14



105-4



105-6



105-7



1



2



3



4



5



6



8



9



10



13



15



16



17



18



22



24



25



26



28



29



31



32



33



35



37



38



39



41



42



43





47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



62



63



64



66



68



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



81



82



83



84



85



86



87



88



90



91



92



93



95



97



98



99



100



101



103



104



108



110



112



第47図-1



第47図-4



第47図-5



第47図-3



第47図-2



第47図-6



116



117



118



119



120



121



122



123



126



125



131



132



133



135



137



138



139



140



143



144



145



146



147



148



149



152



153



154



155



157



158



159



160



165



167



168



169



171



172



174



175



177



179



181



182



185



186



187



190



194



198



199



200



201



202



205



206



212



209



211



208



215



216



225



227



228



221



224



233



234





236



237



240



239



245



248



249



252



255



256



257



258



260



261



262



265



266



274



276



277



279



281



282



288



311



312



315



316



317



330



346



352



354





293



294



298



365



377



381



382



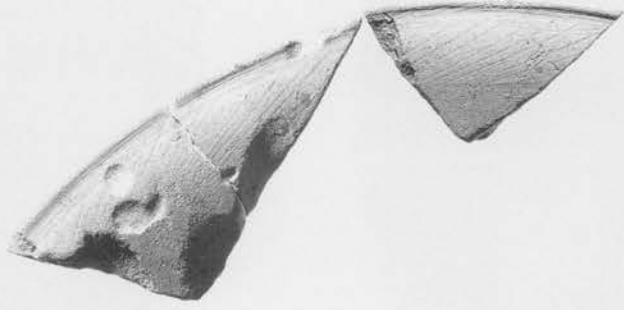
387



389



脚裾部



口縁部

暗文のつく高杯



武蔵型



武蔵型



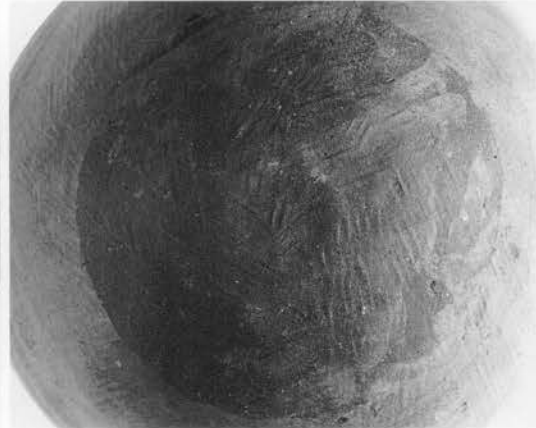
在地型 (I B)



武蔵型



在地型 (I A)



須恵器甕

種ヶ谷津遺跡出土遺物 (14) 武蔵型甕体部・底部  
在地型甕底部  
須恵器甕底部

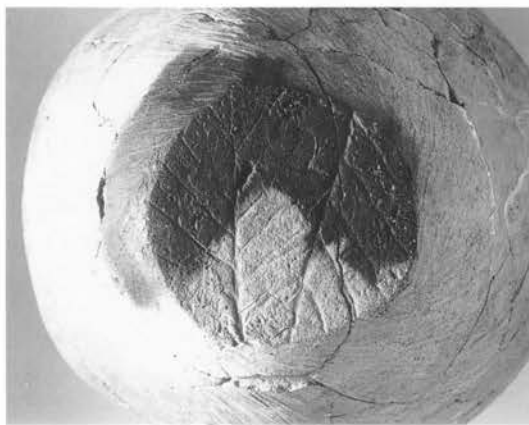
(肩部の擦痕)

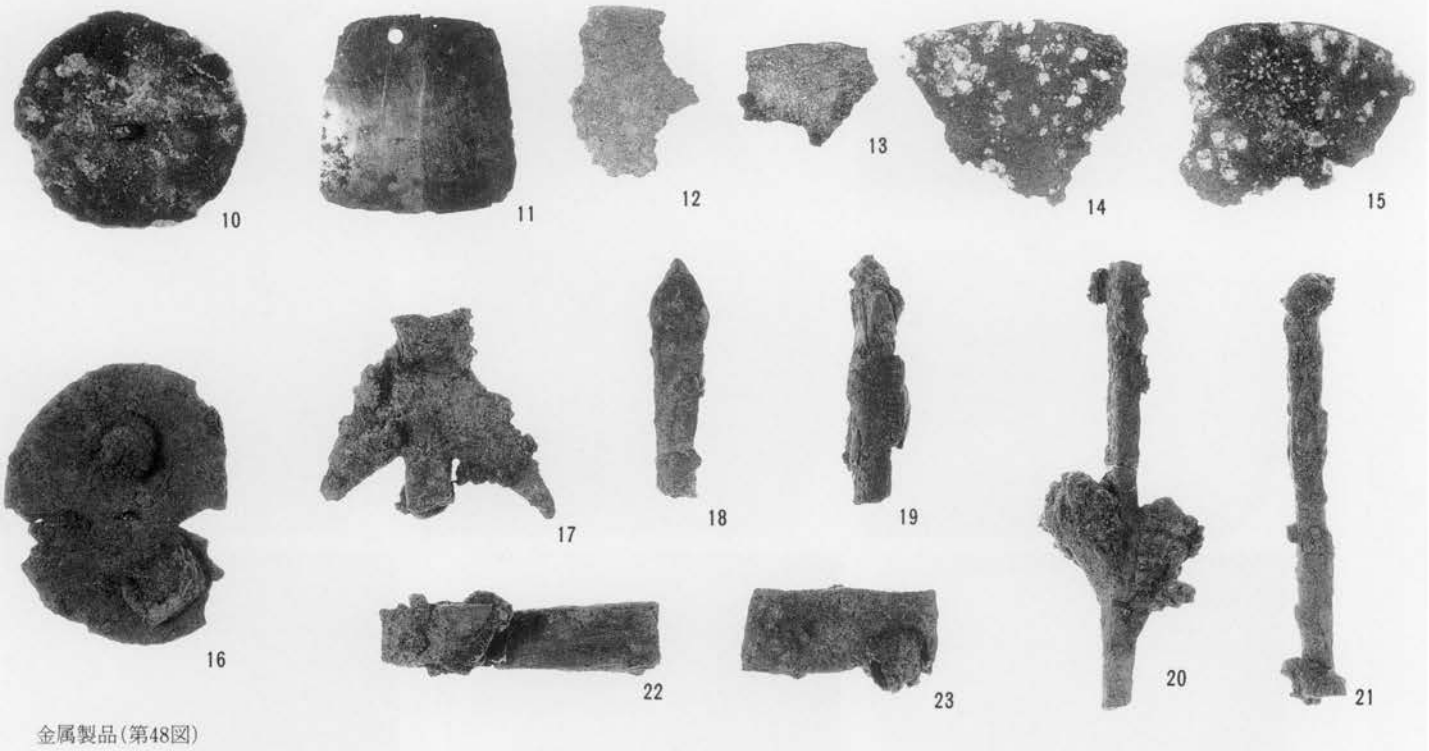


(体部下半のミガキ)



(底部外面)  
木葉痕 (左上)  
木葉痕 (左上)  
ミガキ (右上)  
ケズリ (右下)

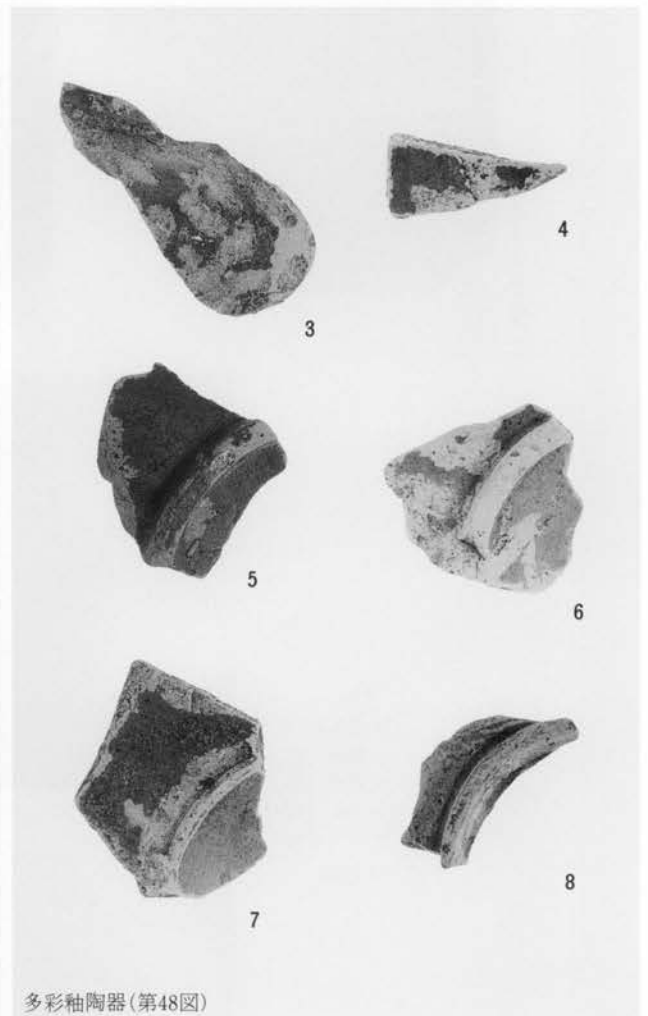




金属製品(第48図)



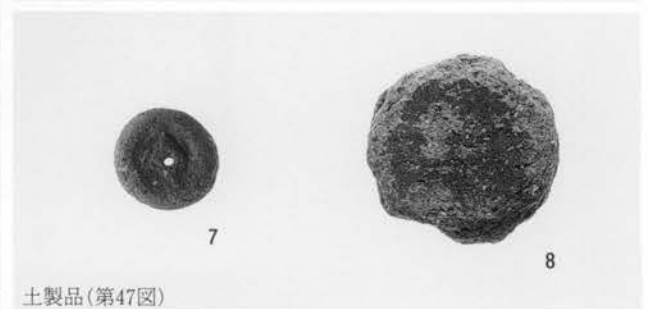
多彩釉陶器(第48図)



多彩釉陶器(第48図)



灰釉陶器(第48図)



土製品(第47図)





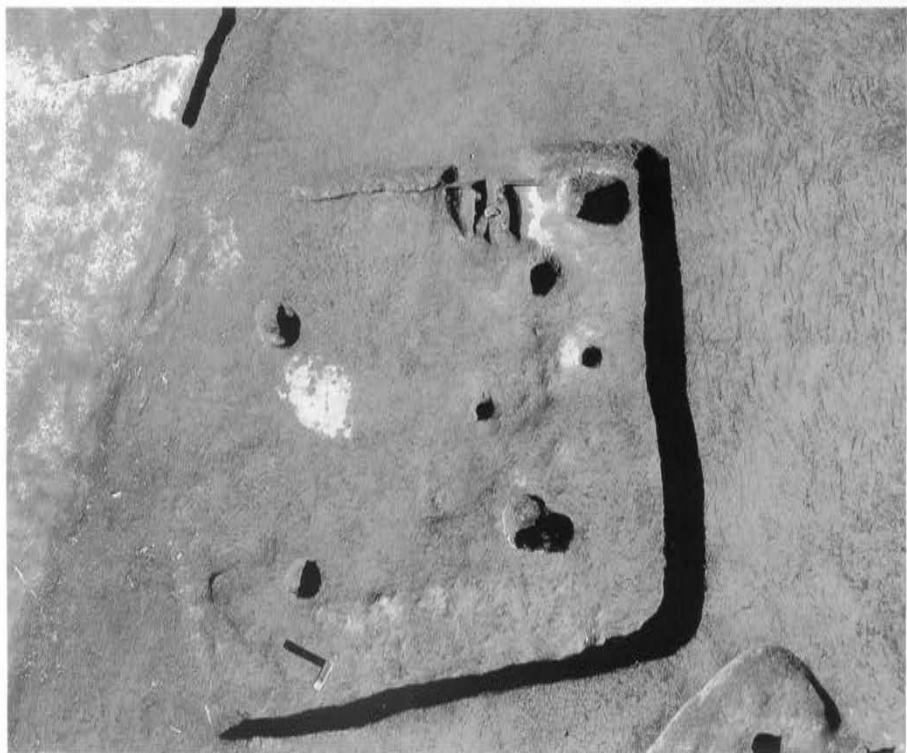
1号竖穴住居跡



5号竖穴住居跡

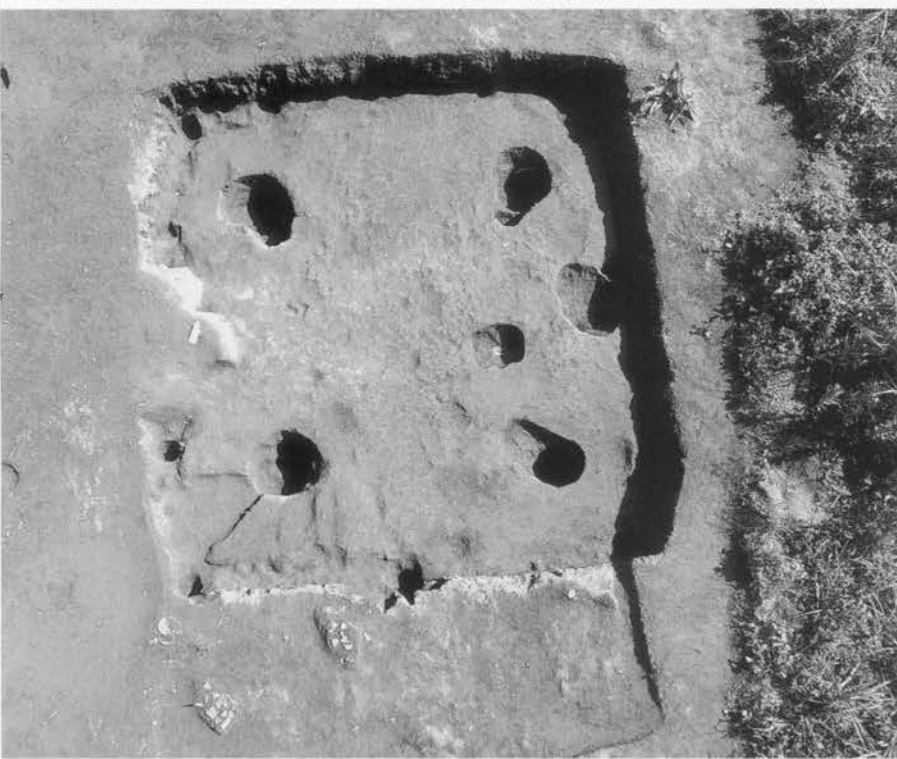


6号竖穴住居跡





7号竖穴住居跡



11号・3号竖穴住居跡

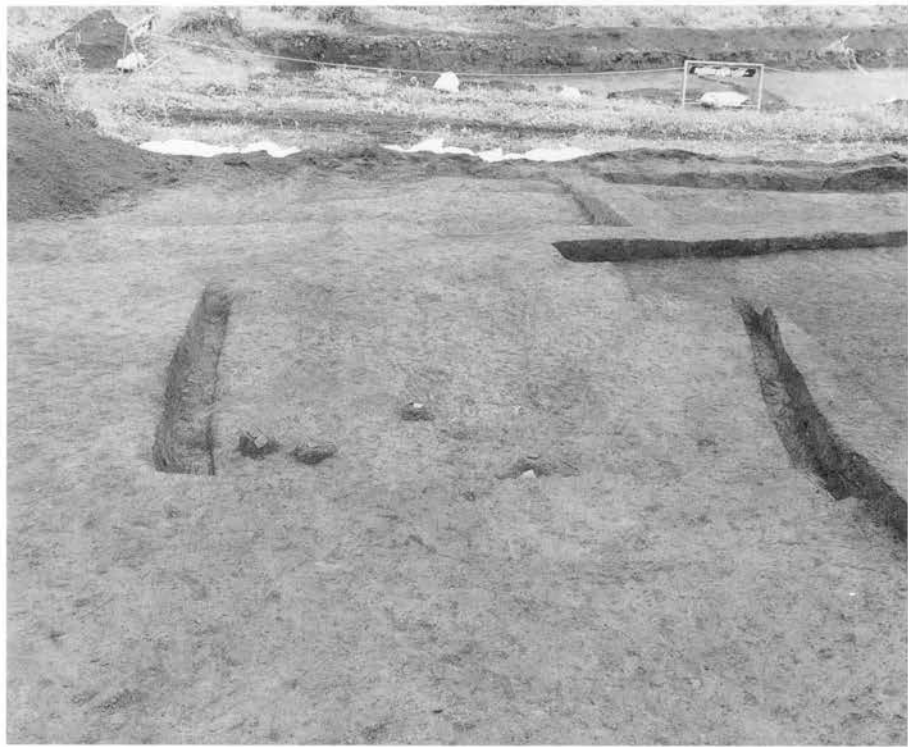


調査区遠景 (西から)





12号竪穴住居跡



13号竪穴住居跡



調査区遠景





2-1



2-2



2-6



3-1



3-2



7-1



6-2



3-4



7-2



5-5



5-4



5-3



6-5



8-4



8-1



7-5



8-6



7-4



8-3



8-5



8-8



9-1



9-3



10-5



10-2



10-3



11-1



11-3



11-31



11-8



11-10



11-14



11-19



12-5



11-7



11-24



12-1



12-2



12-6



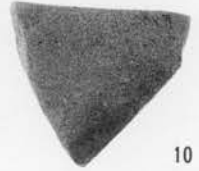
鉄製品(第71図)



鉄製品(第75図)



石製品(第71図)



土製品(第71図)



土製品(第76図)

## 報告書抄録

ふりがな	しゅうちほうどうおゆみ・ほんのうせんまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	主要地方道生実・本納線埋蔵文化財調査報告書2							
副書名	千葉県笹目沢遺跡・種ヶ谷津遺跡・大道遺跡							
巻次	2							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第317集							
編著者名	立和名明美							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2							
発行年月日	1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ささめざわいせき 笹目沢遺跡	ちばけんちばし 千葉県千葉市 ちゅうおうくおゆみちょう 中央区生実町 2657-1ほか	201	108	35度 33分 57秒	140度 9分 56秒	19940401 } 19940930	8,100	道路改良事業に伴う事前調査
たねがやついせき 種ヶ谷津遺跡	ちばけんちばし 千葉県千葉市 ちゅうおうくおゆみちょう 中央区生実町 2657-1ほか	201	108	35度 33分 55秒	140度 9分 37秒	19931112 } 19940131	2,100	道路改良事業に伴う事前調査
おおみらいせき 大道遺跡	ちばけんちばし 千葉県千葉市 ちゅうおうくおゆみちょう 中央区生実町 2657-1ほか	201	107	35度 33分 50秒	140度 9分 24秒	19930601 } 19931029	5,800	道路改良事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
笹目沢遺跡	集落	古墳時代	竪穴住居跡 土坑	14軒 1基	縄文土器、石器、土師器 須恵器、石製品（紡錘車） 鉄製品（刀子）			
種ヶ谷津遺跡	集落 散布地	古墳時代 奈良時代	竪穴住居跡 土坑 土器集積遺構	5軒 14基 3基	石器、土師器、須恵器 三彩陶器、鉄製品（儀鏡） 銅製品（儀鏡、垂飾、鈴） 土製品（支脚、管状土製品）			大規模な土器集積地点が確認され多量な土器と共に三彩や儀鏡が出土した
大道遺跡	集落	古墳時代 平安時代	竪穴住居跡 土坑	14軒 1基	縄文土器、土師器、須恵器 鉄製品（刀子、鉄鏃） 土製品（土玉、支脚） 石製品（勾玉など）			

千葉県文化財センター調査報告書第317集

主要地方道生実・本納線埋蔵文化財調査報告書 2

笹目沢遺跡・種ヶ谷津遺跡・大道遺跡

---

平成10年 3月31日

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千 葉 県 道 路 公 社  
千葉県中央区中央4-13-28

財団法人 千葉県文化財センター  
四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 正 文 社  
千葉県中央区都町2-5-5

---